

### 3. 矢加部町屋敷遺跡 1次調査

1次調査区は柳川市大字矢加部672-3・672-4・674・676-2・677・669-1・700-1・701-1・701-2・702-1・702-2・713-9番地の一部と、字橋本3・4-1・13-1番地の一部の1,730㎡で実施した。

平成16(2004)年6月15日、0.7のバックホーを搬入して掘削を開始した。整地面が何枚も見られ、調査すべき近世の整地面がわかりにくいため遺構面を検討しながら慎重に掘り下げ、炭化物を多く含む遺構が見え始めた整地面まで掘削した。この整地面から検出される遺構には明治以降の遺物が混じるものの近世の遺物も混じることから、この面から調査を始めることにした。この面の上で検出された胞衣壺や埋甕については近代に属するものと判断し、調査から除外し、写真と位置記録を残すに留めた。重機で掘削した客土から出土する陶磁器が多く、これを包含層出土分として取り上げながら掘り下げたため、表土剥ぎに多くの時間を費やした。水路の東側の調査区は戦後の産業廃棄物を入れた客土を掘削すると遺構面が検出された。6月25日に作業員を投入、遺構検出を開始した。遺構プランは鮮明なものもあったが、不鮮明なものも多く、鮮明なプランの検出された遺構の壁面と底面に切られる遺構のプランが見えるので、さらに下層の整地面があることがわかった。そのため、最初の整地面を掘り下げて下位の遺構面を検出した。県道側には大溝があることがわかり、さらに掘削しなければならない可能性があったので、トレンチを入れてみたところ、溝の規模が大きく出土遺物はほとんどないことがわかった。そこで、9月9日に重機を入れて溝を掘削した。9月15日に九州航空により空中写真を撮影した。実測終了後、10月4日に埋め戻しを完了し、調査を終了した。

#### 1) 遺構

矢加部町屋敷遺跡 1次調査は県道23号線の東と、水路を挟んで東側の低地部分に分かれている。前者は旧住宅地だが、後者は水田であった。基盤層自体の高さに大きな差はないが、宅地側は90cm程の整地層・客土層で地上げされている。上から50cm程は昭和40年代以後の客土層でその下面にはコンクリート基礎が埋設された整地面があり、そこから大きな廃棄土坑が切り込んでいた。この整地面の下に炭化物を多く含む黒色土層が広がっており、攪乱土坑とした20号土坑がこの黒色土層を埋土としており、そこからは大正時代のものが出土しているので黒色土層は大正包含層とした。この包含層が炭化物を多く含むのはこの面に鑄造遺構が存在するためだろう。この黒色土層の下に整地面があり、上下層の時期から判断して明治後半代から大正時代のものと考えられる。その上面は硬化しており、埋甕の多くはここから掘り込まれている。

その下にさらに黄灰褐色粘土層の整地層があり、その下には洪水層と思われる砂を含む灰白色土が薄く堆積していた。この時期に水害の記録はなく、意図的に敷かれたものかもしれない。その堆積層が覆っていたのは黄緑灰色粘土の整地層であり、その上面は硬化していた。これが1号大土坑の最終堆積層だったところから明治前半代の遺構面と考えられる。

その整地層の下が江戸時代の遺構面である。1号大土坑と1号溝状遺構の検出面との間に整地層があったことから、その間にも薄い数枚の整地面があったものと思われるが、明瞭に捉えることのできたのは上記の2面のみであった。

報告する遺構は、土坑37基、廃棄土坑2基、大土坑3基、溝7条、大溝4条、埋甕8基、井戸1基である。



第55図 矢加部町屋敷遺跡1次調査遺構配置図(1/200)

## a) 土坑

土坑は現場で41基まで番号をつけたが、このうち2号土坑は15号土坑の埋土の差で同一遺構とわかったため、2号を欠番とした。13号土坑もまた、8号土坑の埋土の差で同一遺構とわかったため、13号土坑を欠番とした。20号土坑は掘削してみて大正時代のものと判明したので、本来は掲載しない時期のものだが、鋳型など重要な遺物を出土し、大正包含層である黒色土の時期を判断する根拠となることから、攪乱土坑として遺物のみ掲載した。25号土坑は近代のもので遺構・遺物ともに掲載していない。結果、ここでは37基の土坑を掲載する。

### 1号土坑 (図版12、第56図)

調査区水路西側の西部中央に位置する略方形の土坑である。南西部のピットとの切り合いは不明瞭だった。1号土坑が切る方形のピットは浅い落ち込みなので、土坑として報告していない。2号埋甕は1号土坑を切っている。床面はほぼ平坦で、現存で長軸215cm、短軸で161cm、深さ16cm程度を測る。主軸方向はN-43°-Wで、にぶい暗黄灰褐色土の埋土であった。

出土遺物は少なく、見込みに菊花文の染付碗があることから18世紀中葉に属する。

### 3号土坑 (図版12、第56図)

調査区水路西側の中央に位置する略方形の土坑である。14・15・17号土坑を切っており、南側のテラスは別の遺構であった可能性もある。主軸方向はN-24°-Eで、現存長軸347cm、短軸279cmを測り、177cmと深い。底面は略方形で、ほぼ平坦である。種子や魚骨・魚鱗などが籾殻と一緒に出土した。床面近くに籾殻の堆積があるが、炭化していなかった。

出土遺物はわずかで、広東碗や外面古相の蛸唐草文と内面袈裟襷文帯の染付鉢があることから、19世紀初頭に属する。

### 4号土坑 (図版12、第56図)

調査区水路西側の中央南端に位置する黒色土層の下位から検出された不整楕円形プランの土坑である。東側に攪乱土坑である20号土坑に切られ、北に33号土坑を切り、南は調査区外に延びる。現存長軸395cm、短軸290cmで、41cmほどの深さを測る。主軸方向はN-18°-Wである。床面は平坦で、北側斜面は緩やかである。混入物の多い黄灰色粘土層を下げると6号土坑に近い黒色土層になり、木片・木材・萱のような草状の植物が見られた。

出土遺物はパンケース1箱分あり、4号土坑が切る土坑も掘り抜いてしまったので遺物が混ざった可能性もある。花唐草文染付小皿や半球形家紋文染付碗、京焼風陶器碗から18世紀前葉に属するとわかる。

### 5号土坑 (第56図)

調査区水路西側の中央南端に位置する隅円長方形プランの土坑で、北側のピットとの切り合い関係は不明である。南は調査区外に延びる。現存長軸約210cm、短軸110cmで、深さは17cmと浅い。主軸方向はN-67°20'-Wである。にぶい黄灰褐色土を埋土とする。

出土遺物はパンケース1箱あるが、摺鉢が大きいので、器種は少ない。銅緑釉の小皿や渦福の裏銘入り染付皿、皿の見込みに整った5弁花文の染付があることから、18世紀後葉に属する。

## 6号土坑 (図版12、第56図)

調査区水路西側の中央南端に位置する整った隅円長方形プランの土坑で、34号土坑を切る。現存長軸188cm、短軸72cmである。深さ29cmほどの深さで、主軸方向はN-24°20'-Eである。中に軟質の黒色土があり、その上位に黄灰色粘土が被っている。これは周囲に見られた整地層が被ったものだろう。

出土遺物はわずかで、小片ながら筒形碗や内面口縁部に袈裟襷文帯の染付碗があることから18世紀後葉に属する。

## 7号土坑 (図版12、第56図)

調査区水路西側の西部に位置する不整形の細長い土坑で、2号溝状遺構に切られている。2号溝状遺構の北側に遺構の続きの痕跡が見られたが、図化する段階ではプランが確認できなかった。そのため現存で長軸210cm、短軸70cmである。12cmほどの深さしかなく、主軸方向はN-61°20'-Wである。西側は1号溝状遺構の南北軸に切られており、1号大土坑の上面を切っている。

出土遺物はわずかで、土師質土器が数個体とコンニャク印判の桐文の入る染付碗があるが、遺構の重複範囲が大きく、遺構が浅いので本土坑の出土遺物は混入の可能性があるため確実な時期はわからない。

## 8号土坑 (図版12、第56図)

調査区水路西側の西部に位置する略方形プランの土坑で、東側はピットに切られている。現存長軸161cm、短軸121cmである。深さは17cmほどしかなく、主軸方向はN-21°10'-Eである。当初13号土坑としていたものを付け替えている。埋土中の黒色土が北側に偏っていた。

出土遺物はわずかながら、京焼風陶器碗や呉器手陶器碗の小片があることから18世紀前葉に属する。

## 9号土坑 (図版12、第56図)

調査区南西側に位置する方形プランの土坑で、ピットを切る。現存長軸141cm、短軸87cmで25cmほどしかなく、主軸方向はN-26°20'-Wである。南東部床面に木質が出土したが、9号土坑の下の1号溝状遺構の埋土内のものが露出した可能性もある。

出土遺物はなく、時期不明。

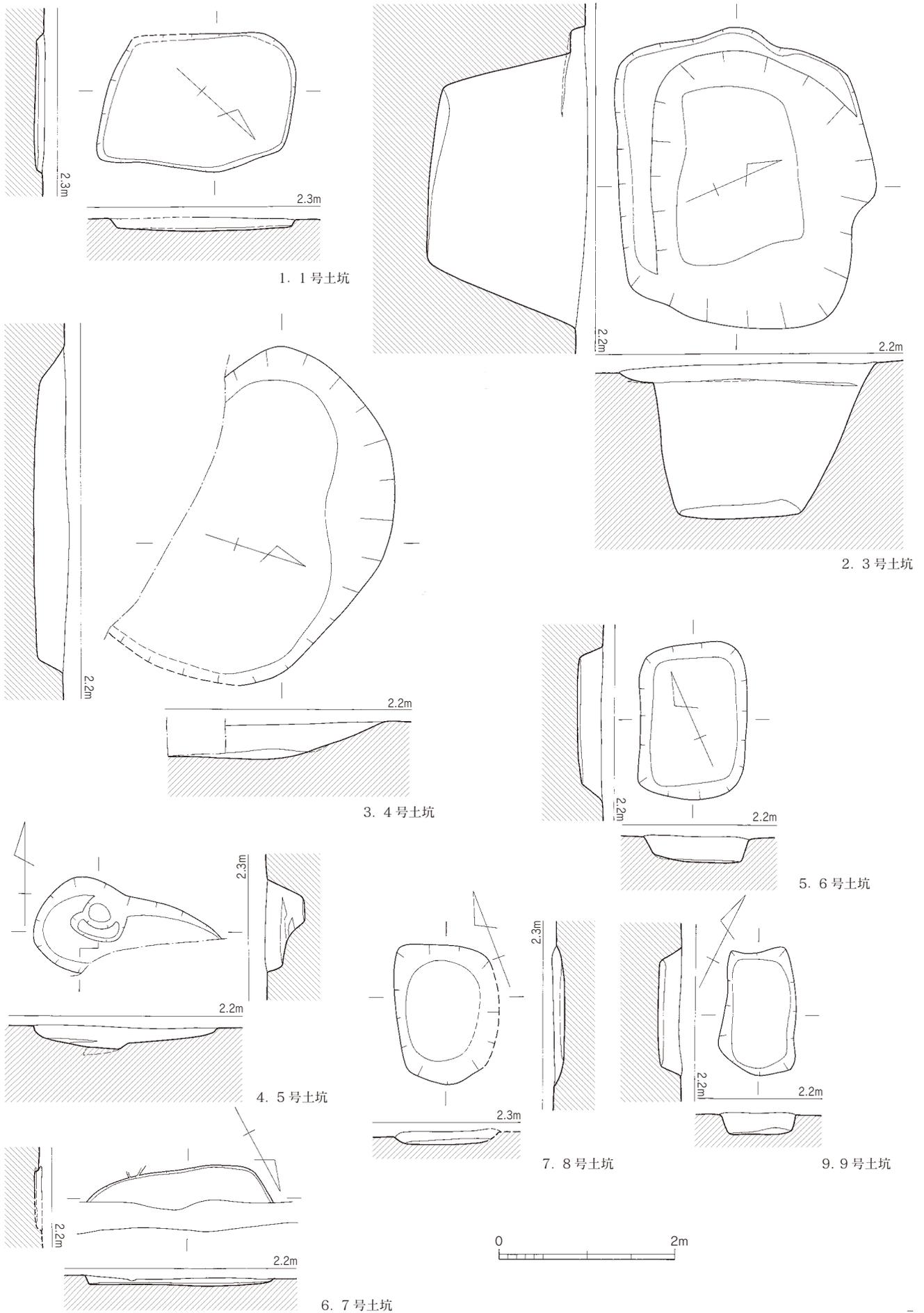
## 10号土坑 (第57図)

調査区西側に位置する不整形プランの土坑で、1号大土坑に南側を切られ、北は1号廃棄土坑に切られ、12号土坑を切る。長軸は約300cmほどに復元され、短軸296cmである。深さは20cmほどしかない。主軸方向はN-62°10'-Wである。1号大土坑との切り合いは明確に検出された。埋土上面を覆う明黄色粘土は整地層だが、炭化物を含む。

出土遺物はパンケース半分ほどで、家紋文半球形染付碗や京焼風陶器碗から18世紀前葉から中葉と考えられる。

## 11号土坑 (図版12、第57図)

調査区西側に位置する略方形の土坑で、22号土坑に北側を、南を1号大土坑に切られる。長



第56图 1次調査1・3～9号土坑实测图(1/60)

軸約190cm、短軸132cmで、主軸方向はN-9°30'-Eである。整地面で検出され、暗黒灰色粘土の埋土上層は北側に偏っていた。

出土遺物はわずかビニール1袋だが、肥前産摺鉢の形態から18世紀代に属すると推定される。

### 12号土坑 (図版12、第57図)

調査区西側に位置する不整形プランの土坑で、10号土坑に南側を切られ、西は1号廃棄土坑に切られる。現存長軸278cm、短軸164cmである。76cmほどの深さがあり、主軸方向はN-11°30'-Wである。上面整地層では鮮明には検出できず、周囲を1段下げたところで発見されたので、整地層の下位の面から掘り込まれたものだろう。底面にピットからカボチャの種が30個ほどまとまって出土した。埋土は暗灰色である。

出土遺物は少なく時期の特定しづらいものだが、17世紀後半代に属するといえる。

### 14号土坑 (第57図)

調査区水路西側の中央部に位置する。平面不整形プランの土坑で、長軸320cm、短軸約120cmである。17号土坑に北側を切られ、東は15号土坑に切られる。15号土坑との切り合いは不明確だった。西に緩やかに傾斜し、最深部でも37cmほどの深さしかない。主軸方向はN-70°-Wである。埋土は黒灰色土であった。

出土遺物はわずかで、矢羽文の染付猪口片やコンニャク印判刷りの染付碗から18世紀前葉である。

### 15号土坑 (図版13、第57図)

調査区水路西側の中央部に位置する平面長方形プランの大型土坑で、西は14号土坑を切り、南は19・41号土坑を切り、北は3号土坑に切られる。14号土坑との切り合いは不明確であった。19号土坑は当初15b号土坑としていたが、プランが15号土坑に収まらないことがわかったので、19号土坑に付け替えた。長軸は246cm、短軸で129cmを測り、主軸方向はN-58°50'-Wをとる。床面はほぼ平坦で、深さは88cm程である。

埋土上面の土層は当初別遺構としたほど西側に偏っており、中位では木質層と炭化物層が互層に入っていた下位からは自然木や木器が多く出土し、そのうち1点の倒置状態で出土した漆碗を取り上げると、その内側にウリ科のものとカボチャなどの種子、焼けた籾殻が入っていた。

出土した折松葉文染付皿、竹文の染付碗、猪口が存在することから年代は18世紀前葉であろう。

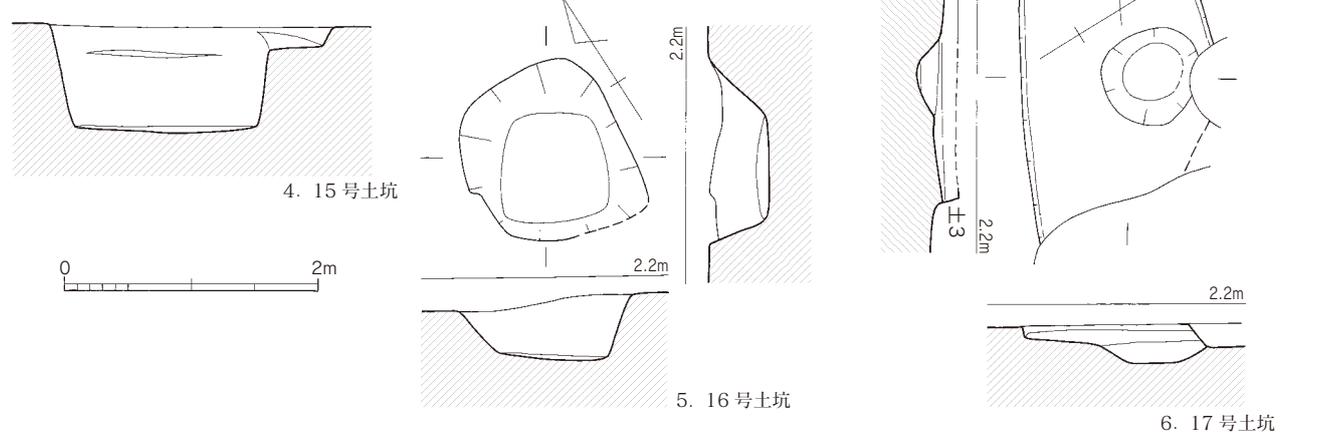
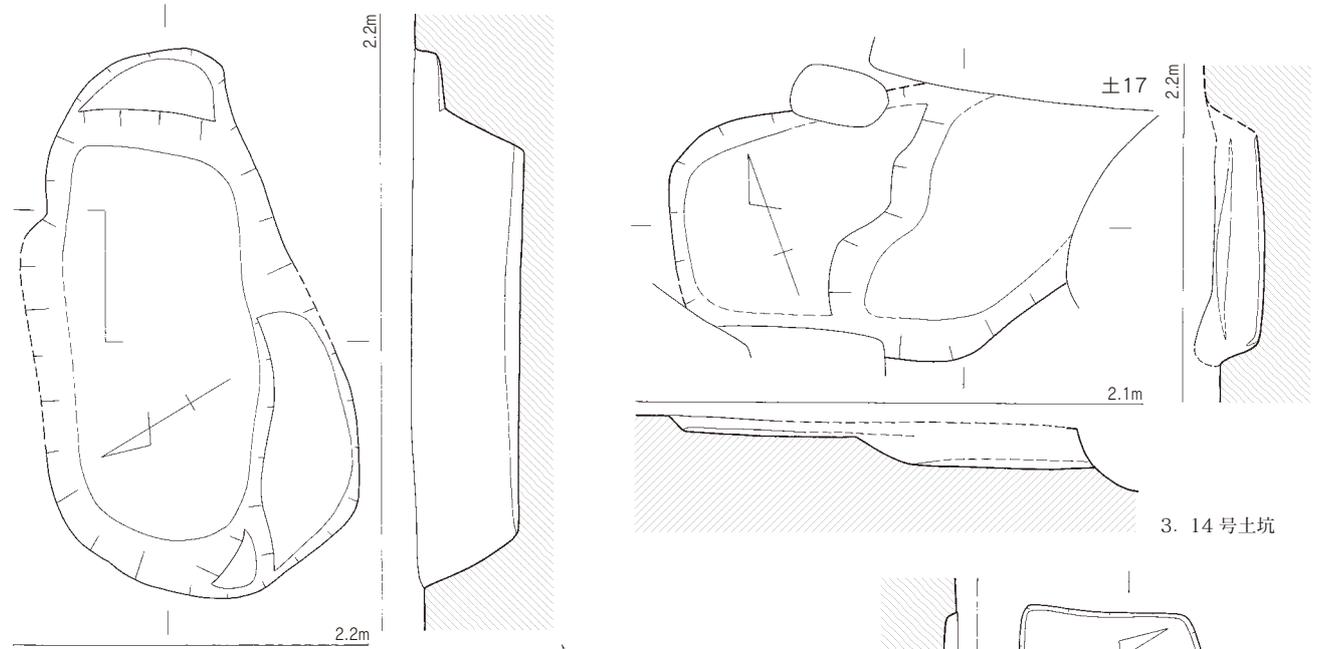
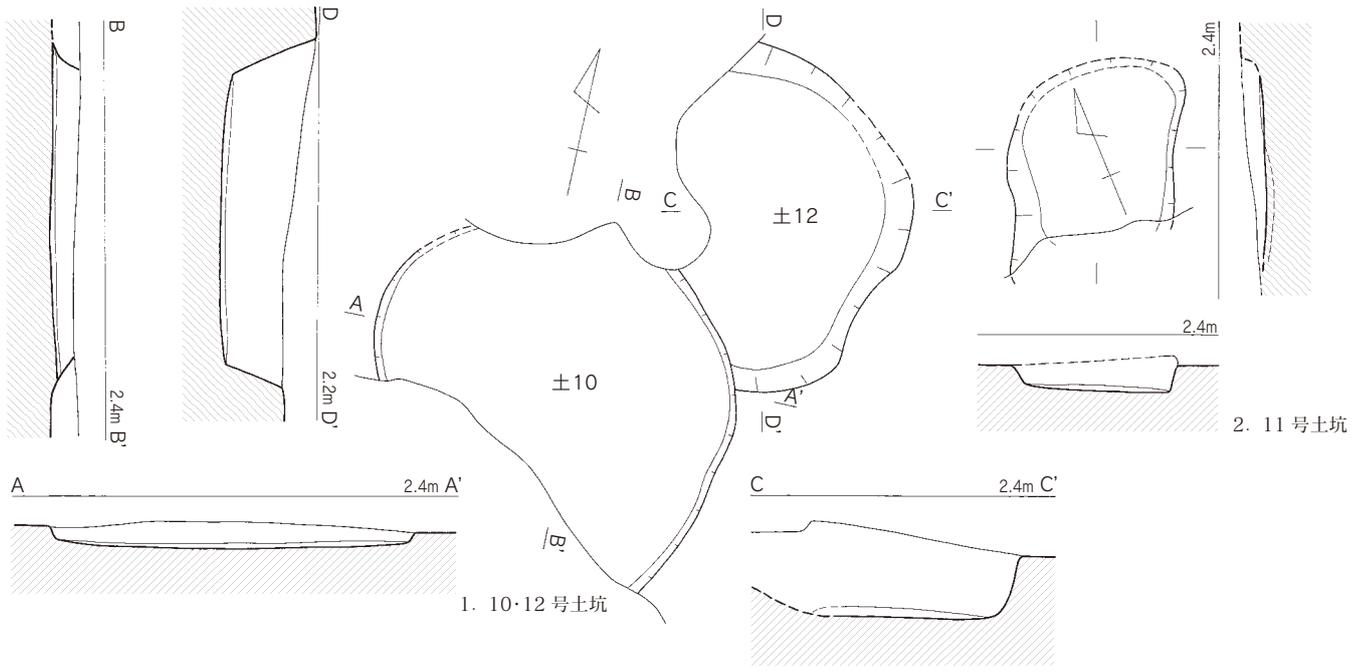
### 16号土坑 (図版13、第57図)

調査区水路西側の中央部北側に位置する隅円方形プランの土坑で、10号土坑を切る。長軸146cm、短軸132cmを測る。深さは52cmを測る。主軸方向はN-31°40'-Eをとる。

出土遺物はわずかで、時期と特定できない。倒置状態で出土した漆碗を取り上げると、その内側にウリ科のものとカボチャなどの種子、焼けた籾殻が入っていた。菊花文の半球形染付碗や花唐草文があるので、18世紀前葉に属する。

### 17号土坑 (図版13、第57図)

調査区南東部に位置する平面方形プランで、長軸が130cm以上で、短軸152cm、深さ31cm程で



第57図 1次調査10~12・14~17号土坑実測図(1/60)

床面はほぼ平坦である。南は14号土坑を切り、東は3号土坑に切られる。埋土は明黄色の整地層が被らない。主軸方向はN-32°-Eをとる。

出土遺物は二重網目文皿と内面口縁部袈裟襷文帯の筒形染付碗や、広東型の染付碗片があることから、18世紀後葉から19世紀初頭に属する。

### 18号土坑（第58図）

調査区水路西側の中央南部に位置する、径88cmの平面円形プランの土坑である。床面はやや南側に傾く。壁はほぼ直立しているが72cm程の深さしかないので、井戸とは考えにくい。19号土坑に切られる。主軸方向はN-16°10'-Eをとる。

出土遺物はわずかで不確実だが、菊花文染付の筒形碗と高台付皿から、年代は18世紀中葉から後葉であろう。

### 19号土坑（第58図）

調査区水路西側の中央部南側に位置し、15・18・41号土坑に切られる。長軸が226cm、短軸は190cm、46cm程の深さがあり、主軸方向はN-14°26'-Wをとる。碗や下駄などの木製品や紐が多く出土し、下位に貝殻が層を成していた。

出土遺物の網目文の染付碗と蛸唐草文皿から18世紀初頭から前葉だろう。

### 21号土坑（第58図）

調査区水路西側の中央部東側に位置し、6号溝状遺構を切る。隅円方形プランで、長軸が262cm、短軸は207cm、120cmと深い。主軸方向はN-23°20'-Wをとる。木製品や完形に近い貝殻が出土している。

格子目文小皿や微塵唐草文の合子があることから19世紀前葉に属する。

### 22号土坑（第58図）

調査区北西側に位置する略方形プランの小型土坑で、主軸方向はN-90°-Wをとる。現存で長軸が252cm、短軸は185cm前後で、6cm程しかない。

出土遺物はわずかで、端反染付碗から19世紀前葉に属する。

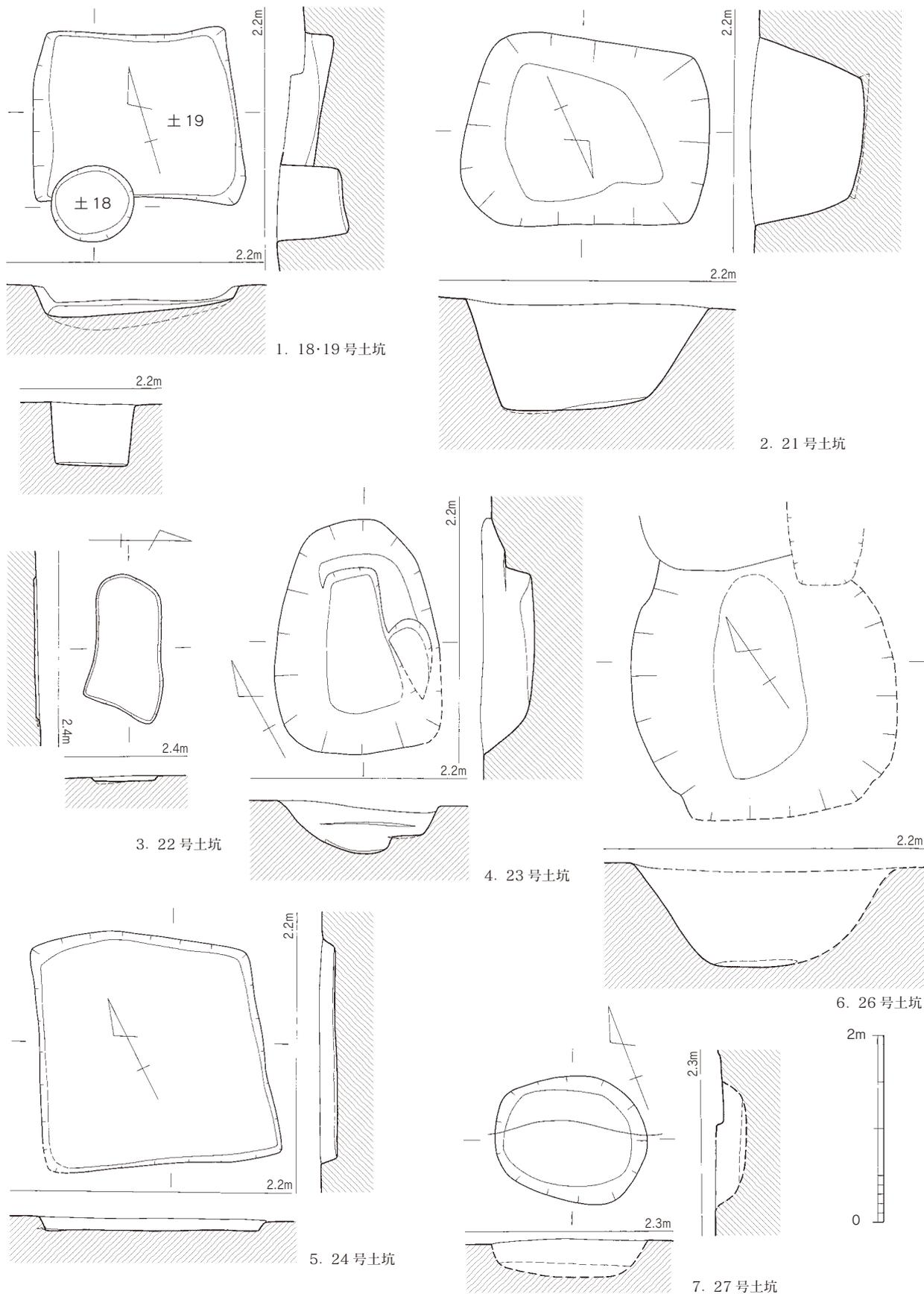
### 23号土坑（図版13、第58図）

調査区水路西側の北東側に位置する平面隅円方形プランの土坑で、壁が緩やかで床面は細長くグライ化して青灰色を呈する。長軸が252cm前後、短軸は185cm前後で、主軸方向はN-28°20'-Eである。南側は26号土坑を切る。南東隅は攪乱坑に切られている。甕や摺鉢など大型品の廃棄が目立つ。

出土遺物に唐草文皿のモチーフと摺鉢の口縁部から18世紀後葉に属する。

### 24号土坑（第58図）

調査区水路西側の中央に位置する平面正方形プランの大型土坑で、長軸が253cm前後、短軸は252cm前後で、深さは18cmほどしかない。主軸方向はN-24°40'-Wで、6号溝状遺構と一致する。床面はほぼ平坦である。



第58図 1次調査18・19・21～24・26・27号土坑実測図(1/60)

出土遺物に古相の蛸唐草文をもつ染付小皿があることから18世紀後葉である。

### 26号土坑 (第58図)

調査区水路西側の西側に位置する楕円形プランの大型土坑で、長軸が280cm前後、短軸は不明で、深さは112cm程ある。壁は緩やかで床面は細長い。主軸方向はN-34°20'-Eをとる。北側は23号土坑に切られ、北西部は攪乱土坑に切られる。埋土上位は焼土を多く含み、下位は炭化物バンドが入る。

見込みに菊花文の入る染付碗とコンニャク印判手小皿があることから18世紀中葉に属する。

### 27号土坑 (図版13、第58図)

調査区水路西側の中央部西側に位置する平面楕円形プランの小型土坑で、2号廃棄土坑に切られる。主軸方向はN-21°-Eとする。現存で長軸が161cm前後、短軸は138cm前後で、深さはレベルの記録をとり忘れていたが、50cm前後だったものと思われる。床から樹皮が数枚縦横に重なって出土した。編んだ痕跡はなかったが、意図的に敷いたものか。

出土遺物がほとんどないので時期不明。

### 28号土坑 (図版13、第59図)

調査区水路西側の中央部北側に位置する平面方形プランの小型土坑で、北側は5次調査区20号土坑と重複する。西側が1号井戸に切られ、南側は35号土坑を、東側は29号土坑を切る。主軸方向はN-15°30'-Eをとる。長軸が170cm前後、短軸は約100cm前後で、深さは58cm程ある。

出土遺物がほとんどないので時期不明。

### 29号土坑 (第59図)

調査区の水路西側の中央部北側に位置する。平面方形プランの小型土坑で、北側は5次調査区の21号土坑と重複している。東側は32号、西側は28号土坑に切られる。南東では30号土坑を切る。主軸方向はN-16°-Eをとる。長軸が188cm前後、短軸は150cm前後で、深さは80cm程ある。

出土遺物は、無文の大振りの磁器碗と直線的な唐草文の入る染付皿から17世紀末から18世紀初頭に属する。

### 30号土坑 (図版14、第59図)

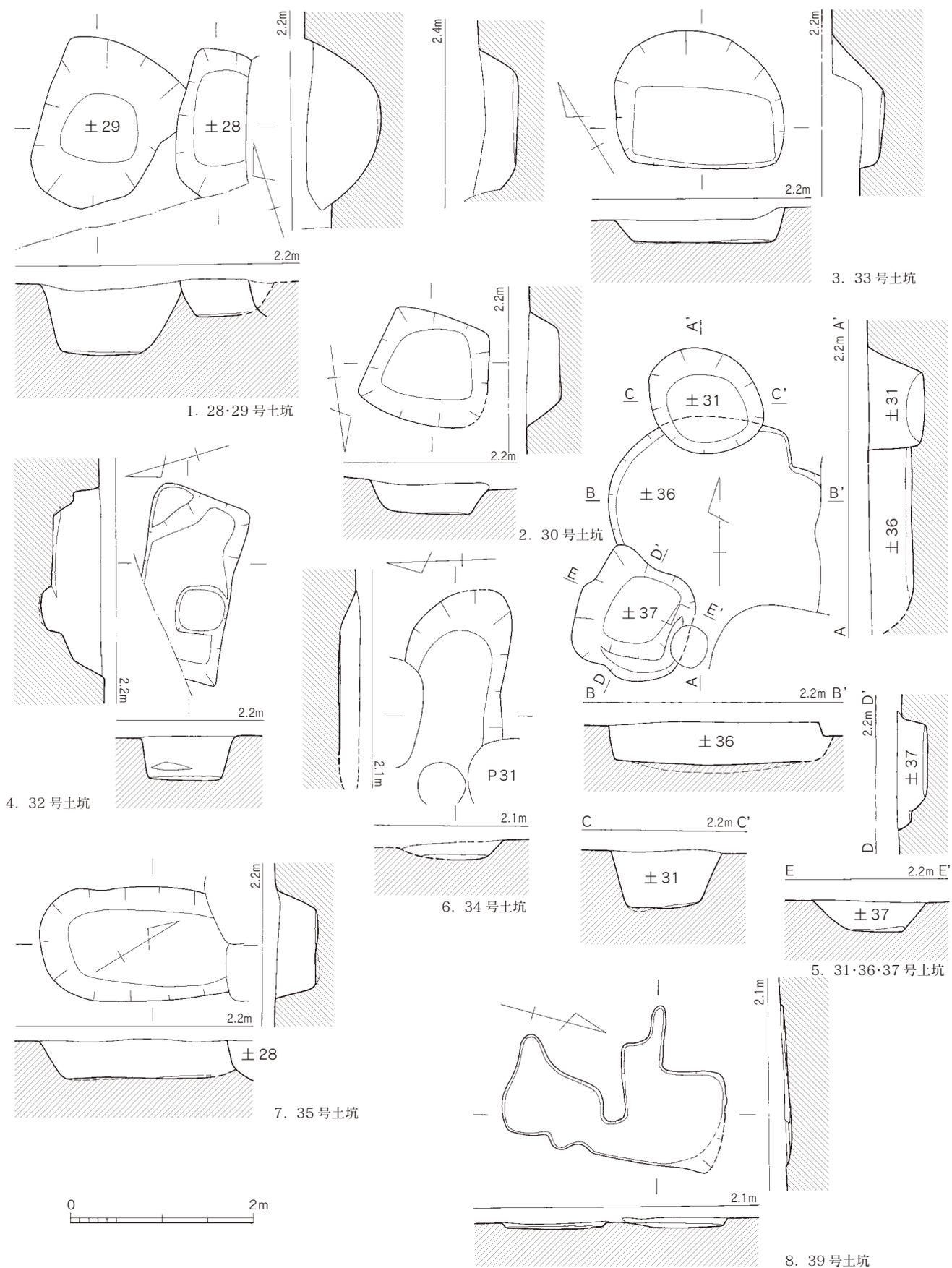
調査区水路西側の中央部北側に位置する平面正方形プランの小型土坑で、北側は29号土坑に切られる。長軸が135cm前後、短軸は122cm前後で、深さは37cm程しかない。

出土遺物がほとんどないので時期不明。

### 31号土坑 (図版14、第59図)

調査区水路西側の中央部北側に位置する平面円形プランの小型土坑で、南側は36号土坑を切る。長軸が137cm前後、短軸は112cm前後で、深さは68cm程しかなく井戸ではない。埋甕を掘り抜いたものだろうか。主軸方向はN-40°30'-Wをとる。

出土遺物がほとんどないので時期不明。



第59図 1次調査28～37・39号土坑実測図(1/60)

### 32号土坑 (図版14、第59図)

調査区水路西側の中央部北側に位置する平面方形プランの小型土坑で、北半分は5次調査区22号土坑と重複している。長軸が199cm前後、短軸は110cm前後で、深さは63cm程ある。主軸方向はN-17°50'-Wである。

出土遺物がほとんどないので時期不明。

### 33号土坑 (図版12、第59図)

調査区水路西側の中央部南側に位置する小型の土坑で、攪乱土坑の20号土坑と4号土坑に切られる。4号土坑の床面から大部分を検出したため平面形は現状で不整形だが、床面が長方形であることから、本来隅円方形だったと思われる。長軸が184cm前後、短軸は152cm前後で、深さ58cmを測る。主軸方向はN-58°50'-Wをとる。

出土遺物に内面口縁部袈裟襷文、天井部に整った5弁花文染付の蓋があることから18世紀後葉に属する。

### 34号土坑 (図版14、第59図)

調査区水路西側の中央部西側に位置する小型の土坑で、平面形は隅円方形と思われる。南を6号土坑に切られるが、3号埋甕と切り合い関係はわからなかった。長軸が220cm前後、短軸は110cm前後で、深さは22cm程しかない。主軸方向はN-87°40'-Wをとる。

出土遺物がほとんどないので時期不明。

### 35号土坑 (図版13、第59図)

調査区水路西側の中央部北側に位置する。北は28号土坑と1号井戸に切られる。平面プランは隅円方形で、主軸方向はN-31°30'-Eをとる。現存で長軸が207cm前後、短軸は123cm前後で、深さは46cm程ある。

出土遺物はほとんどないが内面に花唐草文が入る皿があることから、18世紀中葉に属する。

### 36号土坑 (図版14、第59図)

調査区水路西側の中央部北側に位置する平面不整形の大型土坑で、北は23号土坑に、南は37号土坑に切られる。長軸が270cm以上で、短軸は約220cmで深さは47cm程ある。主軸方向はN-55°40'-Wである。

出土遺物に台付皿があることから18世紀中葉に属する。

### 37号土坑 (図版14、第59図)

調査区水路西側の中央部北側に位置する平面方形の小型土坑で、北は36号土坑を切り、東は柱痕が残っている柱穴に切られる。主軸方向はN-29°40'-Eをとる。長軸が130cm前後、短軸は124cm前後で、深さは33cm程ある。

出土遺物がほとんどないが、筒型碗があることから18世紀後葉に属する。

### 38号土坑 (第60図)

調査区水路西側の中央部北側に位置する平面方形になるものと思われる大型土坑で、北は5次

調査側に延びるが5次調査側では繋がる遺構が見られなかったので平面プランは不明である。長軸が443cm前後、短軸は250cm以上だろう。深さは55cm程である。西は32号土坑に切られる。主軸方向はN-61°-Wである。

出土遺物がほとんどないので時期不明。

### 39号土坑 (図版14、第59図)

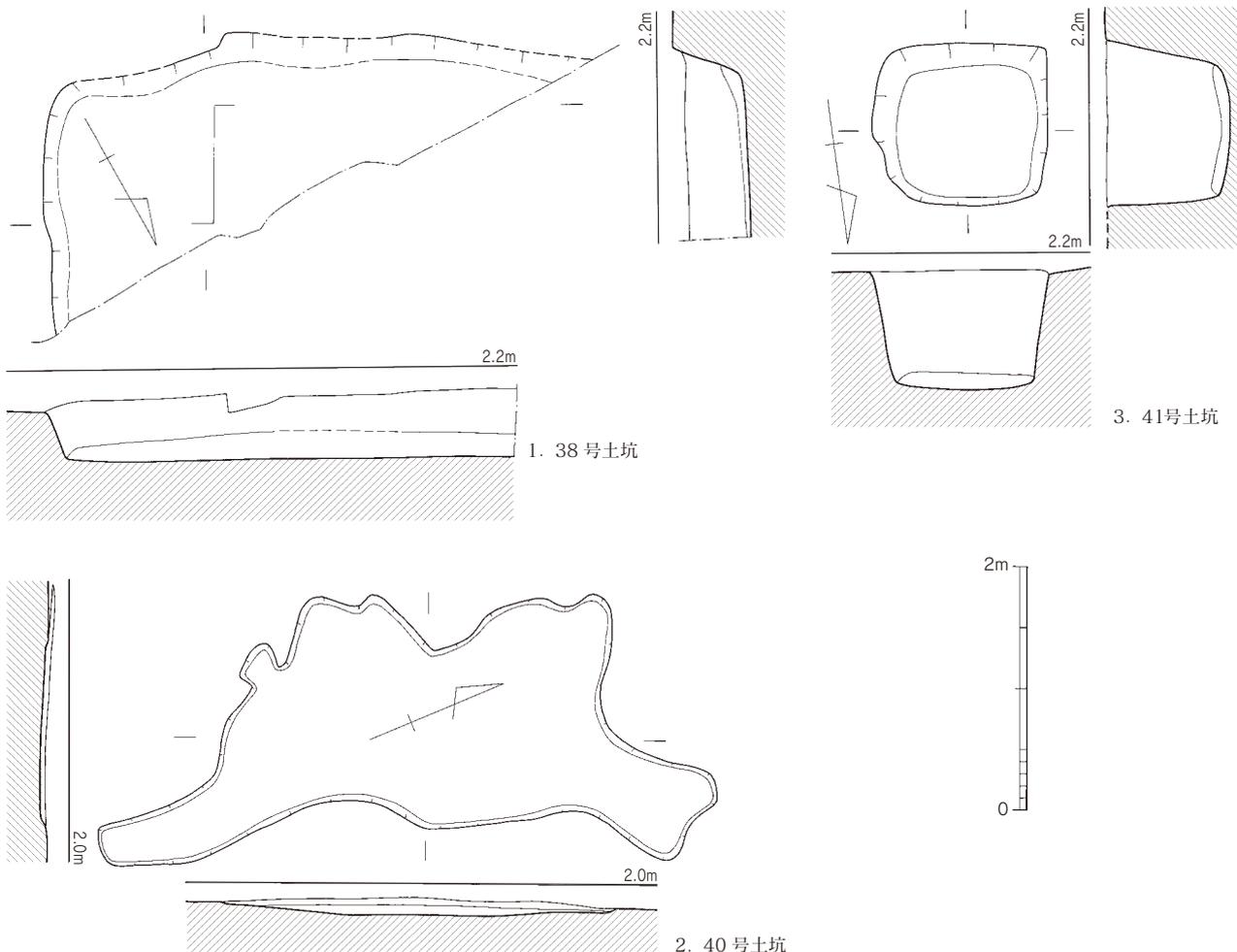
調査区水路西側の中央部東側に位置する不整形の土坑で、落ち込み状の窪みであるが、黒色土を埋土とするので、明瞭に検出された。26号遺構との切り合い関係は不明瞭だった。主軸方向はN-17°40'-Wとする。現存で長軸が224cm前後、短軸は193cm前後で、深さは12cm程しかない。

出土遺物がほとんどないので時期不明。

### 40号土坑 (第60図)

調査区水路西側の中央部東側に位置する不整形の土坑で、落ち込み状の窪みであるが、黒色土を埋土とするので、明瞭に検出された。7号溝状遺構を切る。主軸方向はN-23°40'-Eとする。現存で長軸が410cm前後、短軸は170cm前後で、深さは14cm程しかない。

出土遺物がほとんどないので時期不明。



第60図 1次調査38・40・41号土坑実測図(1/60)

#### 41号土坑 (図版13・14、第60図)

調査区水路西側の中央部南側に位置する平面正方形プランの土坑で、壁が直立する。15号土坑に切られ、19号土坑を切る。長軸が142cm、短軸は170cm、101cm程の深さがあり、主軸方向はN-6°40'-Eをとる。

### 大土坑

検出段階で大型の土坑については土坑とは別に遺構名をつけた。2号大土坑は掘り進めた過程で溝状遺構とわかったので2号大溝に名称を変更しており、2号大溝の上層部分のみを指すのではない。2号大土坑は欠番とし、3基の大土坑を掲載する。

#### 1号大土坑 (図版14、第61図)

調査区水路西側の西端に位置する隅円方形の大型土坑で、1号溝状遺構と2号廃棄土坑に切られ、10・11号土坑を切っている。長軸652cm前後、短軸は485cm前後で、深さ50cm程である。壁は緩やかである。埋土上位は黒色土が斑に入っており、その下は硬化していた。中位には木質の層がある。主軸方向はN-75°20'-Wをとる。

出土遺物の無文の磁器碗や摺鉢の口縁部形態から17世紀末から18世紀初頭に属する。

#### 3号大土坑 (図版15、第61図)

調査区水路西側の南東端に位置する不整形の大型土坑で、5号溝状遺構を切っている。長軸210cm前後、短軸は150cm前後で、深さは最深部で44cm程あるが、壁面の土層断面の掘り込み面では約340cm程になり、深さは76cmに達する。主軸方向はN-56°-Wをとる。

出土遺物のやや崩れた蛸唐草文の染付蓋と広東型染付碗から19世紀初頭に属する。

#### 4号大土坑 (図版15、第66図)

調査区水路西側の南東端に位置する不整形の大型土坑で、長軸562cm前後、短軸は355cm前後で、深さは25cm程しかない。主軸方向はN-26°40'-Wをとる。

出土遺物に花唐草文の皿片やくわんか手があるので、18世紀中葉に属する。

### 廃棄土坑

検出段階で遺物が集中して検出された土坑については廃棄土坑であることが明らかであったので、土坑とは別に遺構名をつけた。

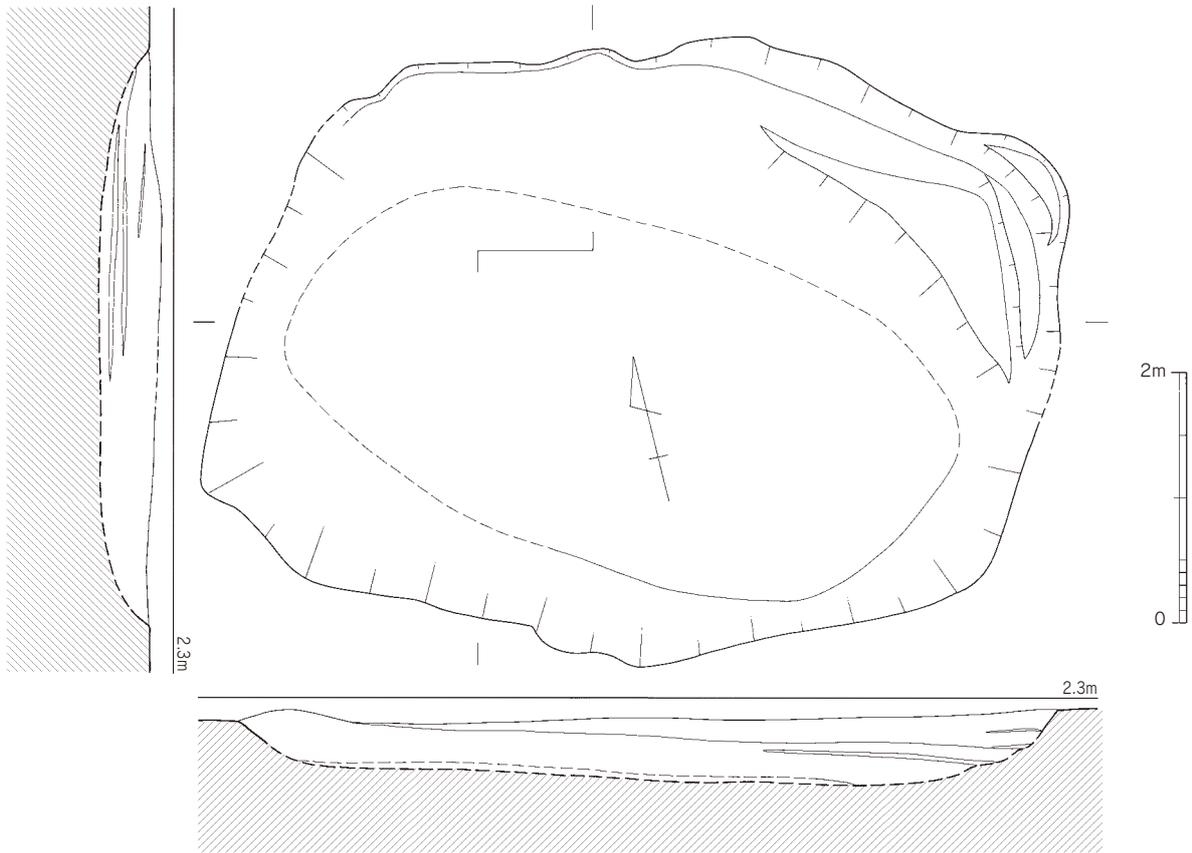
#### 1号廃棄土坑 (第62図)

調査区水路西側の北東側に位置する不整形の土坑で、10・12号土坑を切る。西側は削られておりプランが不明確主軸方向はN-34°-Eである。現存で長軸が285cm前後、短軸は183cm前後で、最深部で11cm程しかなく、床面はほぼ平坦である。埋土は黒色土で、遺物は集中していた。

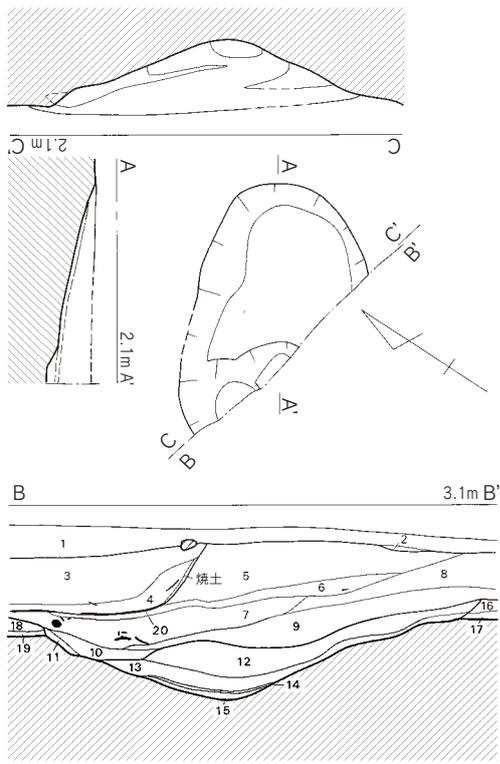
出土遺物の蛸唐草文の染付鉢と無文の磁器碗から18世紀中葉に属する。

#### 2号廃棄土坑 (図版14、第62図)

調査区水路西側の南東側に位置する長方形の土坑で、南は27号土坑を切る。主軸方向はN-69°

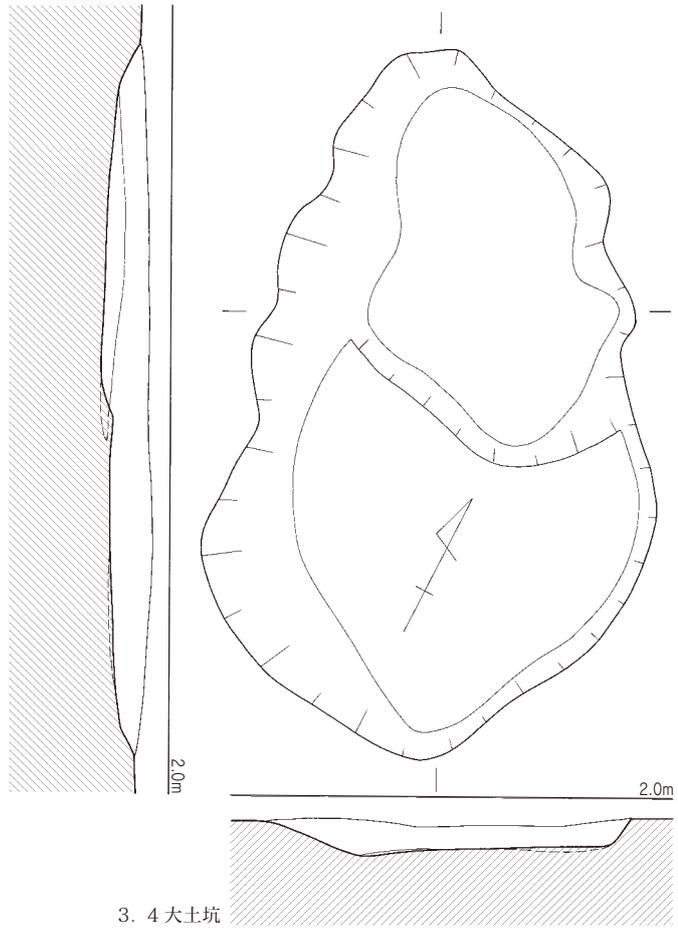


1. 1号大土坑



2. 3号大土坑

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1 表土            | 11 暗灰色粘土         |
| 2 黒色バンド層        | 12 暗橙灰色土         |
| 3 黒色土層 焼土塊を多く含む | 13 暗灰色粘土         |
| 4 暗灰色土          | 14 黒色バンド層        |
| 5 黒色褐色土         | 15 暗灰色粘土         |
| 6 淡灰褐色土         | 16 やや暗い灰色土       |
| 7 暗灰色土          | 17 やや暗い黄灰色粘土     |
| 8 橙灰褐色土         | 18 黄橙灰色粘土(客土)    |
| 9 灰色土           | 19 にぶい暗灰色粘土(整地層) |
| 10 黒青灰色土粘土      | 20 炭層バンド層        |



3. 4号大土坑

第61図 1次調査1・3・4号大土坑実測図(1/60)

-Wをとる。現存で長軸が239cm前後、短軸は112cm前後で、深さはわずか14cm程ある。瓦片が多く出土した。

出土遺物の端反染付碗と鳥居文染付皿から19世紀中葉に属する。

## 埋甕

2号埋甕の北西側に上位の整地面から掘り込まれた土師質の埋甕があったが、これは機械掘削作業中に掛かったもので番号もとらず記録なしに廃棄した。遺物の出土しなかった9号埋甕については写真記録だけ残し、8基の埋甕について報告する。

### 1号埋甕（図版15）

調査区水路西側中央に位置し、2号埋甕に切られる。埋設されていたのは陶器大甕で、重機による表土剥ぎの際に引っ掛けて斜めになったのだろう口縁部が内部に落ちていたのはそのためではない。1号埋甕の南側には胞衣壺が2点表土剥ぎ中に検出されたが、元位置がわからなくなったため、遺構としては記録に留めておらず、遺物のみ回収した。

甕の口縁形態から19世紀代であろう。

### 2号埋甕（図版15）

調査区水路西側中央に位置し、1号埋甕を切る。埋設されていたのは土師質大甕で底面だけが残っていた。底部内面の中央に寛永通宝があった。調査区水路西側中央に位置し、1号埋甕を切る。埋設されていたのは土師質大甕で、底面が半分失われていた。また、銅銭が底面に貼り付いていた。

甕が時期不明の土師質土器であり、出土遺物がほとんどないので時期不明。

### 3号埋甕（図版15）

調査区水路西側中央南に位置し、34号土坑との関係はわからない。内面には何も残っていない。内面にカルキが付くことから便壺とわかる。

甕は土師質土器であり、出土遺物がほとんどないので時期不明。

### 4号埋甕（図版15）

調査区水路西側西端に位置し、明治後半から大正時代の整地面から掘り込まれ、甕の上面は削られている。明黄色粘土の掘り方に土師質土器の大甕が埋設されていた。内面にカルキが付くことから便壺とわかる。

出土遺物がほとんどないので時期不明だが、大正時代の面から掘り込まれているので、近代に属するだろう。

### 5号埋甕（図版15）

調査区水路西側西端に位置し、明治後半から大正のものが出土しており、明治後半から大正整地層から掘り込まれていた。

甕は土師質土器であり、出土遺物がほとんどないので時期不明。

## 6号埋甕 (図版15)

調査区水路西側中央北に位置し、土師質の大甕の内面に陶器の甕片が重なっていた。

17世紀代の甕だが、出土した碗は19世紀代のものであった。出土遺物がほとんどないので時期不明。

## 7号埋甕 (図版15)

陶器の半胴甕の内面に陶器の碗と小壺が2つ並んで入っていた。単に廃棄されたものか、意図的なものかわからない。

陶器の甕から17世紀後半から18世紀前半代のものだろう。

## 8号埋甕 (図版15、第62図)

調査区水路西側の中央北西側に位置し、壁にかかった状態で検出した。土層から見て、掘り込み面で長軸70cmほどあり、80cm掘り込んだ後裏込め土を敷いて土師質の大甕が埋設されている。内部に黒色土が堆積していた。甕自体は胴部しか残っていなかったので図化していないが、丸腰碗や蛸唐草文が出土していることから19世紀前葉に属する。

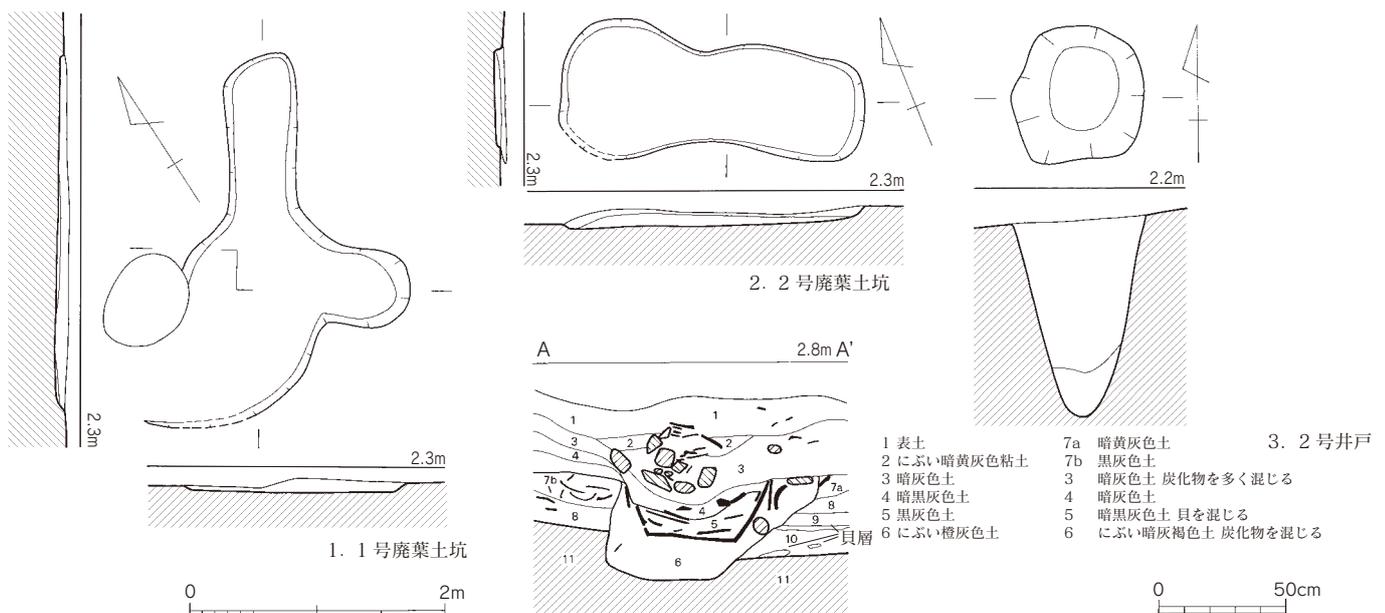
## 井戸

3基の井戸が検出されたが、このうち2号井戸以外はコンクリートの井戸枠をもつことから記録していないので、1基のみ報告する。

## 2号井戸 (第62図)

調査区水路西側の中央北側に位置する平面隅円正方形で、方形の地上部があったのだろう。長軸が106cm前後、短軸は104cm前後で、深さは156m程ある。

出土した摺鉢から18世紀後葉に属する。



第62図 1次調査1・2号廃棄土坑、2号井戸実測図、8号埋甕土層断面図(4は1/30、他は1/60)

## 溝状遺構・大溝遺構

溝状遺構は7条検出されている。大溝は溝状のなかでも特に大きいものを別遺構名にしたものだが、2号大溝は当初2号大土坑を掘り下げていく過程で溝状遺構とわかったので、遺構名をつけかえたものである。5・7号溝は規模が等しく同じ方向に一定間隔に走っていることから畑の畝跡かもしれない。

### 1号溝状遺構（図版11）

調査区の西端に位置し、北西から南東方向に走る大溝で、南東端で南に直角に折れていた。長く検出された部分を東西軸、折れた部分を南北軸と称した。さらに南北軸の南端の東角から幅の狭い2号溝状遺構が繋がっており、本来同じ遺構であったのかもしれない。3号溝状遺構を切っているが、これは掘り直し段階の埋土と切り合っていただけで、掘り直し前の段階の掘り込み面とは切り合っていなかった可能性が高い。

幅162cm、深さは検出面から約30cmで、土層断面でみる限り掘り直しがあり、最終掘り直しはコンクリートの基礎が掘り込まれた整地面から掘り込まれており、多色刷の絵皿やヤクルトの瓶などが入っていた。検出された溝状遺構はその下の明治後半から大正の整地面から掘り込まれている。

半球形碗や腰張形碗など18世紀中葉から後葉のものと鳥居文の染付小皿など19世紀中葉のものが混在しており、1号大土坑を切っていることから後者に属するだろう。

### 2号溝状遺構（図版11）

調査区の西端に位置し、1号溝状遺構南北軸南東隅から派生している。幅42cm、深さ5cm前後で、南東端は木杭が集中する落ち込みと繋がっており、床面は西に向かって下がっている。この施設の機能はわからないが、屋根の雨水の導水的な施設だろうか。

摺鉢の口縁部形態や湯飲み形の小碗から19世紀前葉に続するだろう。

### 3号溝状遺構（図版11）

調査区の西端に位置し、県道と併走して北東から南西方向に走っていた。1号溝状遺構に切られていたが、1号溝状遺構は掘り直しされていることから、掘り直される前の段階の溝は共伴していたかもしれない。上面は整地層があり、中位には黄灰色の軟質粘土が堆積していた。西壁が調査区外にかかるため幅は明らかでないが、現存で95cm、深さは約30cmあった。

遺物は摺鉢の口縁部形態から18世紀後葉に続するだろう。

### 4号溝状遺構（図版11）

調査区の西端に位置し、3号溝状遺構と垂直に走る小溝で、北西から南東方向に走る。幅40cm、深さは9cmと浅い。遺物が少なく時期を特定できない。

### 5号溝状遺構（図版11）

調査区水路西側の南東端に位置し、6・7号溝状遺構と平行に走る小溝で、3号大土坑に切られる。幅68cm、深さは5cm前後と浅い。遺物が少なく時期を特定できない。

## 6号溝状遺構（図版11）

調査区水路西側の中央に位置し、21・38号土坑に切られる小溝で、幅63cm、深さは10cm前後と浅い。遺物が少なく時期を特定できない。

## 7号溝状遺構（図版11）

調査区水路西側の南東端に位置し、5・6号溝状遺構と平行に走る小溝で、幅58cm、深さは17cmと浅い。40号土坑との切り合い関係は不明。遺物が少なく時期を特定できない。

## 1号大溝遺構（図版11）

調査区西端に位置し、県道と併走して北東から南西方向に走っていた。当初西端クレークとしていたが、掘削すると溝であることがわかったので大溝とした。埋土内に遺物がほとんどなかったため、重機で大部分を掘削し、壁と底面は人力で掘削した。壁は緩やかで、東壁は1号大土坑の下位で東に張り出していた。埋土は完全埋没後に上位が整地されており、その上位を1・3・4号溝状遺構、1号大土坑に切られていた。西壁は調査区内には検出されておらず、正確な幅はわからないが、現存で4.1mほどあり、深さは190cm前後である。

大振の磁器碗や陶器甕の口縁部形態など17世紀後半のものが出土しており、上位を切る1号大土坑が17世紀末から18世紀初頭に属するので、17世紀末には埋没していたことがわかる。

## 2号大溝遺構（図版11・15）

調査区水路西側の北東端から東に走り、南側には張り出し部があり、北側は5次調査の1号大土坑に繋がる。当初2号大土坑としていたが、水路西側の調査区の溝と繋がることがわかったので、大溝に変更した。西部の南壁には土管が埋設されており、排水されていた。南壁側には杭列があり、横木が残る部分もあった。

この杭列は5次調査の1号土坑の護岸施設と繋がるので、1号土坑の南側は2号大溝の北壁と考えるべきだろう。水路西側には護岸施設は残っていない。土管は遺構面から10cm程掘り下げると3本が露出した。溝内には土管の破片が見られなかったので、先端から残っていたといえる。土管は調査区外まで続いていたが、近代のものと想定してすべてを掘削せず、3本だけ取り上げた。基盤層を埋土としているため、掘り方がわからず、埋設の方向がわからないが、南端のトレンチにはかからず集水枡のような土管の先端部分も見られなかったので、トレンチの東を調査区外まで走っていたと思われる。

溝幅は広い所で420cm、深さは最深部で70cmほどである。最上位の埋土は万年筆や豆電球などが入る現代の層で、その下に大正包含層である黒色土層がバンドを成していた。

遺物はパンケース8箱程あり、年代幅も広い。18世紀前葉の半球形碗染付から20世紀初頭ほどの遺物を掲載している。

## 3号大溝遺構（図版11）

調査区中央水路東部に位置し、南北方向に走る。幅は約3mあり、2号大溝に繋がる。深さは80cmほどで2号大溝より浅いことから水を落としていたのだろう。4号溝状遺構とは切り合わないが、併走することから、掘り直しの可能性が高い。

遺物は少ないが、摺鉢から18世紀後葉に属する。

#### 4号大溝遺構 (図版11)

調査区中央水路東部に位置し、南北方向に走る。幅は西側の壁がコンクリート揚水ポンプの導水管の下に入るため確認できないが、現存で192cmある。2号大溝に繋がる可能性が高く、西壁は現在の水路のため検出していない。深さは45cm前後、2号大溝より浅いことから水を落としていたのだろう。3号溝状遺構とは切り合わないが、併走することから、掘り直しの可能性が高い。遺物が少なく時期を特定できない。

#### 1次調査の出土遺物

1次調査ではパンケース約40箱分の陶磁器類や8箱分の木製品が出土している。個々の遺物については観察表を掲載しているのので、追記すべき事項のある遺物についてのみ記述する。

63図1は染付碗で、見込みの菊花文にダミを施す文様構成は珍しいので、肥前産ではないかもしれない。63図2は底部の小片だが、高台径が小さく畳付の外縁に丸みがあるので呉器手の碗とみてよいだろう。63図3は磁器皿で、小片のためモチーフがわからないが、亀甲文のような区画線が入る。

64図3は磁器碗で、外面の寿字を帆に見立てた船の横に栗が3つと船の下に筆が描かれている。絵文字の「はんじ文」と考えられるが、何と読むべきものかわからない。64図5・7は陶器の小皿で、外底に胎土目跡がある。

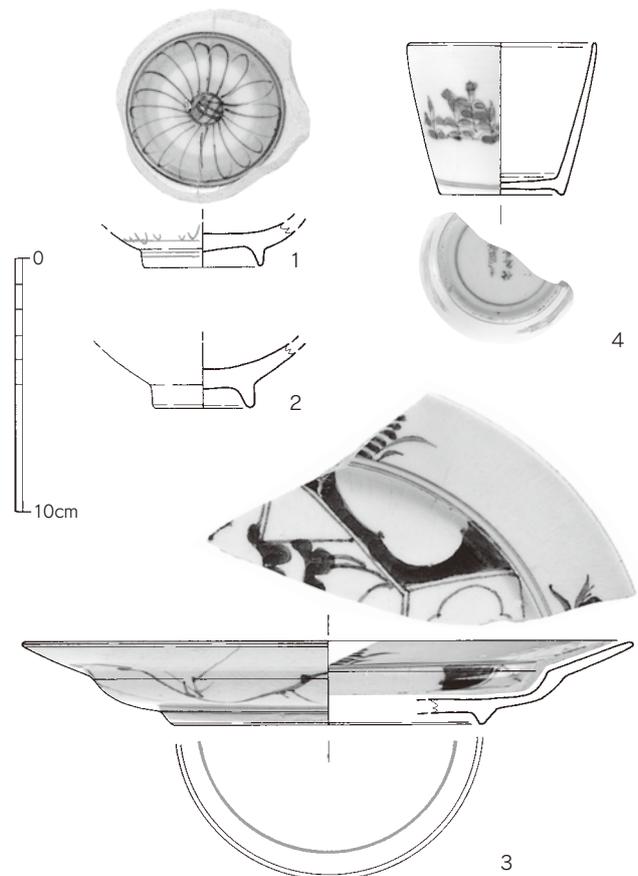
65図7は陶器の大鉢で、上掛けしている釉薬は灰釉のように見えるが、鉄釉が発色不良のために色調が異なっているものと判断した。65図12は土師質の甕で、口縁下にわずかに段があるので、口縁部が肥厚する甕の小型のものだろう。口縁部の穿孔は2つ並び、紐を結ぶためのものだろうか。

66図8は陶器の摺鉢で、外面胴部に子供の手の跡が付着している。施釉作業後に両手を置いて手の置いた部分だけ釉の掛かり方が薄くなったものである。類例がないのでモチーフとして意図的につけたものではないと思われる(巻頭図版)。

68図5は「水田庄」のスタンプの入る火鉢で、水田焼の製品とわかる。

69図14と15は絵の特徴が異なるので、同じ工房で別の絵付け工人が描いたのだろう。5次調査の42図1も同じモチーフで、やはり別の絵付け工人の手によるものだろう。

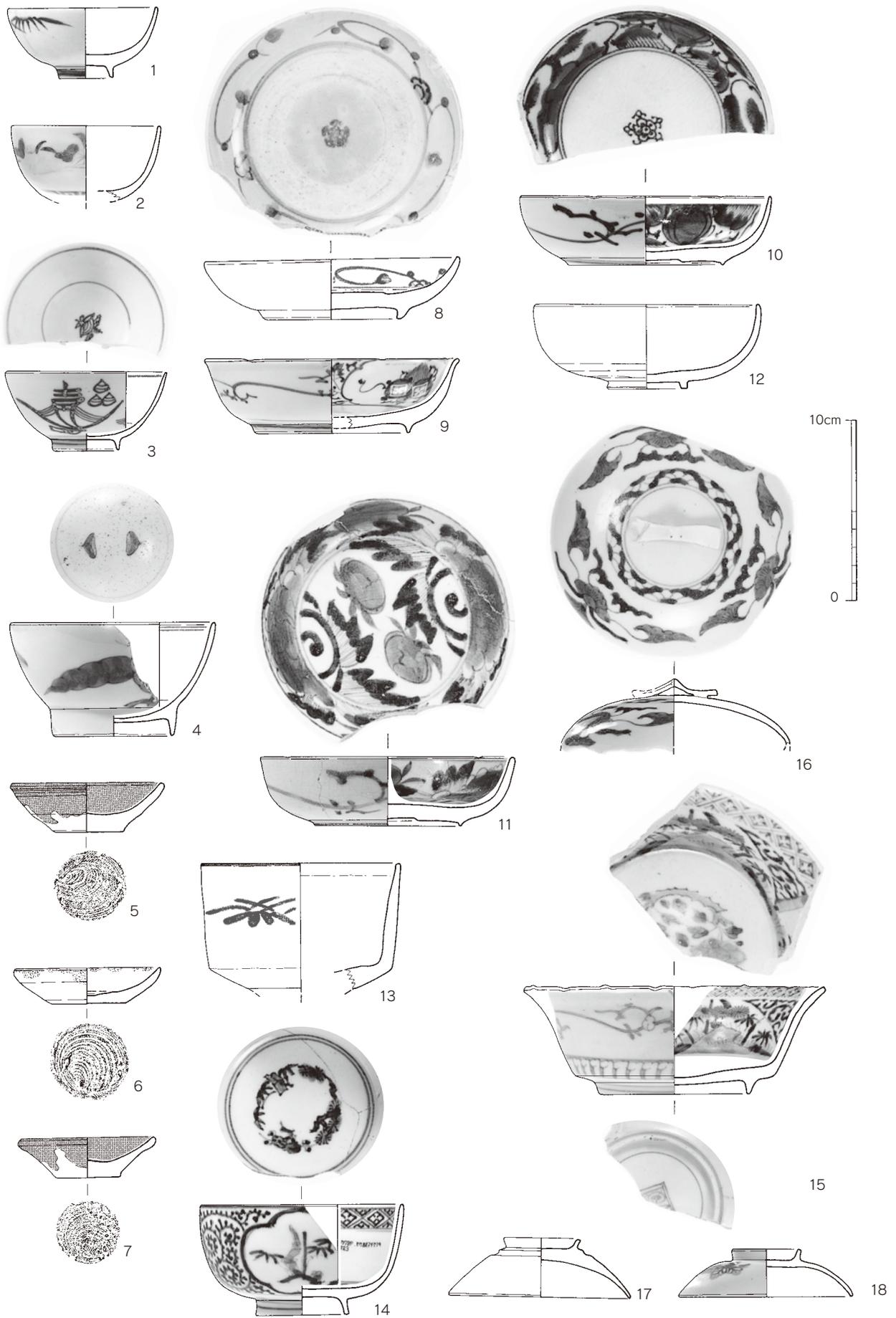
70図2は土師質土器の焜炉である。内面に付く煤は、口縁下に厚く付着し、口縁部は煤が付着していないことから、上に何か土瓶や鍋などを掛けて使用していたことがわかる。口唇部に突起があるので、口唇



第63図 1次調査1号土坑出土陶磁器実測図(1/3)

表28 1次調査出土土器・陶磁器観察表1

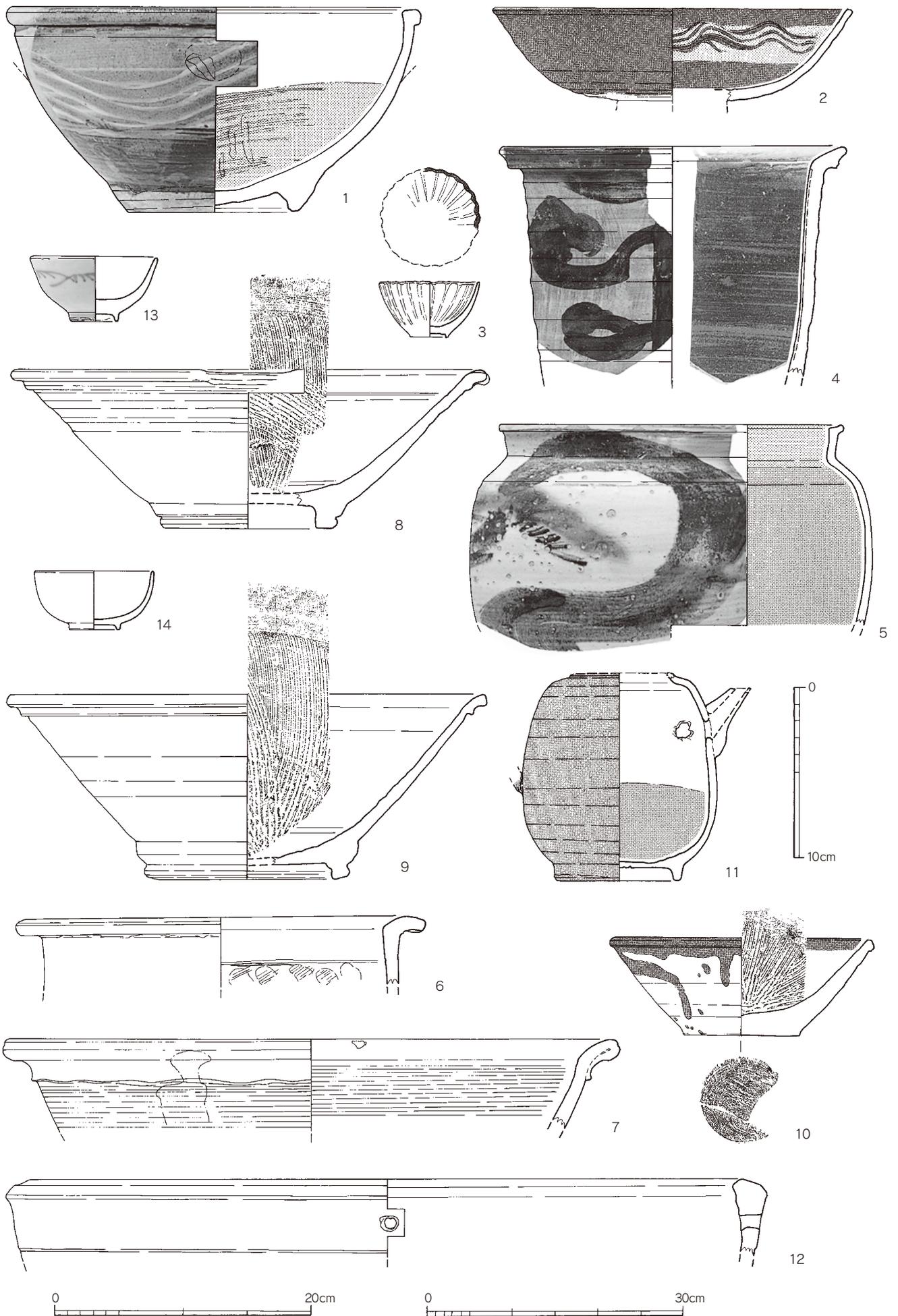
| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名  | 法量(cm)<br>( )は復元値              | 胎の種類               | 釉薬   | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法                         | 所見                                       |      |                       |
|---------------------|------------------|--------------------------------|--------------------|--|--|-------------------------------|--|------|-----------------------|
|                     |                  |                                |                    |  |  |                               | 特記事項                                     | 推定産地 | 推定年代                  |
| 土坑1<br>63図1         | 碗                | 高台径4.7                         | 磁器<br>暗灰白色         | 透明釉を全面に掛ける   | 外面網目文、見込みにはダミと網目文を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ                         |  | 肥前か  | 1750<br>S<br>1770     |
| 土坑1<br>63図2         | 碗                | 高台径4.1                         | 陶器<br>灰白色          | 透明釉全面に掛け 貫入あり  | 無文   | 畳付釉剥ぎ                         |  | 肥前   | 不明                    |
| 土坑1<br>63図3         | 皿                | 口径(24.0)<br>高台径12.3<br>器高3.3   | 磁器<br>灰白色          | 透明釉 全面掛け<br>貫入あり   | 外面は枝文、内面は口縁部に草文、見込みに幾何学文 裏銘の有無不明で界線のみあり 呉須染付                         | 畳付釉剥ぎ<br>ハリ目跡の有無は不明           |  | 肥前   | 不明                    |
| 土坑1<br>63図4         | 猪口               | 口径(7.6)<br>高台径(5.0)<br>器高6.0   | 磁器<br>灰白色          | 透明釉 全面掛け   | 外面草花文、外底「大明成化年製」を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ                         | 5割残存                                     | 肥前   | 1650<br>S<br>1780     |
| 土坑3<br>64図1         | 小碗               | 口径(8.2)<br>高台径3.0<br>器高3.9     | 磁器<br>灰白色          | 透明釉全面掛け  | 外面は竹笹文を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ                         |  | 肥前   | 不明                    |
| 土坑3<br>64図2         | 小碗               | 口径(8.2)                        | 磁器<br>灰白色          | 透明釉全面掛け  | 外面下位は変形籬歯文を呉須染付 胴部は緑・赤・金彩で草花文の上絵付け                                   | -                             |  | 肥前   | 1740<br>S<br>1780     |
| 土坑3<br>64図3         | 小碗               | 口径(8.8)<br>高台径2.8<br>器高4.4     | 磁器<br>灰白色          | 透明釉全面掛け  | 外面は波文と寿字を帆に見立てた船の横に栗が3つ宝珠と下に筆のはんじ文、内面口縁部は界線、見込みは昆虫文を呉須染付             | 畳付釉剥ぎ                         | 9割残存                                     | 肥前   | 19世紀後半<br>S<br>20世紀前半 |
| 土坑3<br>64図4         | 碗<br>広東形         | 口径(11.1)<br>高台径6.4<br>器高6.3    | 磁器<br>灰白色          | 透明釉を全面に掛ける   | 外面に栗と鳥文、見込みに栗文が対面に入る 呉須染付  | 畳付釉剥ぎ                         |  | 肥前   | 1780<br>S<br>1810     |
| 土坑3<br>64図5         | 小皿               | 口径7.6<br>底径3.5<br>器高2.3        | 陶器<br>橙褐色          | 鉄釉を内面から外面胴下位まで   | 外底糸切り  | 外底にアルミナ塗布                     |  | 肥前   | 不明                    |
| 土坑3<br>64図6         | 小皿               | 口径8.0<br>底径4.1<br>器高2.0        | 土師質土器<br>にぶい黄灰色    | -  | 外底糸切り<br>内外面ナデ   | 外底に胎土目跡あり                     | 使用により内面黒灰色、口縁部の一部が強く黒変しており灯明皿として使用したとわかる | 蒲池焼  | 不明                    |
| 土坑3<br>64図7         | 小皿               | 口径7.6<br>底径3.5<br>器高2.2        | 陶器<br>橙褐色          | 鉄釉を内面から外面胴下位まで   | 外底糸切り  | 外底に胎土目跡あり                     |  | 肥前   | 不明                    |
| 土坑3<br>64図8         | 小皿<br>5寸皿        | 口径14.0<br>高台径7.6<br>器高3.4      | 磁器<br>暗灰白色         | 暗い透明釉 全面掛け   | 外面は無文、内面は半菊唐草文、見込みは5弁花文のコンニャク印判刷りの呉須染付                               | 畳付釉剥ぎ 砂目付着 見込み蛇ノ目釉剥ぎ部に重ね焼き痕あり | ほぼ完形<br>見込みの蛇ノ目釉剥ぎ部に重ね焼き痕あり              | 波佐見  | 1680<br>S<br>1740     |
| 土坑3<br>64図9         | 小皿<br>花卉口縁       | 口径(14.0)<br>高台径8.6<br>器高4.1    | 磁器<br>灰白色<br>焼成不良  | 透明釉を全面に掛ける   | 外面唐草文 内面花唐草文と窓文内に宝文 裏銘は福だが、角福か渦福か不明 呉須染付                             | 畳付釉剥ぎ                         | 小片のため見込みの有無不明                            | 肥前   | 18世紀後半                |
| 土坑3上位<br>64図10      | 皿                | 口径13.8<br>高台径8.4<br>器高3.8      | 磁器<br>灰白色          | 透明釉 全面掛け<br>貫入あり   | 口縁部は低い山形 外面唐草文、内面胴部牡丹花文が花と蕾が対になる 見込みに蕾と葉と渦文を呉須染付                     | 蛇ノ目高台で、<br>台部釉剥ぎ              |  | 肥前   | 18世紀後半                |
| 土坑3上位<br>64図11      | 皿<br>花卉口縁        | 口径14.0<br>高台径8.0<br>器高3.8      | 磁器<br>灰白色          | 透明釉 全面掛け<br>貫入あり   | 外面唐草文、内面胴部牡丹花文が花と蕾が対になる 見込みに蕾と葉と渦文を呉須染付                              | 蛇ノ目高台で、<br>台部釉剥ぎ              | 高台がない                                    | 肥前   | 18世紀後半                |
| 土坑3<br>64図12        | 皿                | 口径(12.4)<br>高台径4.4<br>器高4.6    | 陶器<br>黄灰白色         | 透明釉を胴下位以外に掛け 貫入あり  | 無文   | 底部露胎                          |  | 肥前   | 不明                    |
| 土坑3上位<br>64図13      | 鉢                | 口径11.0                         | 陶器<br>灰色           | 白化粧土を外面胴上半から内面口縁部に掛け、透明釉を内外に掛けた後、外面に竹笹文の鉄絵と口銘                                |  | -                             |  | 肥前   | 不明                    |
| 土坑3<br>64図14        | 小鉢               | 口径11.5<br>高台径5.1<br>器高6.1      | 磁器<br>灰白色          | 透明釉を全面に掛ける   | 外面は蛸唐草文地に雲形窓文 窓文2つの中には松と竹があるので松竹梅の3つが入る 内面口縁部は袈裟摺文帯で、見込みに環状松竹梅文を呉須染付 | 畳付釉剥ぎ                         | 5割残存                                     | 肥前   | 1780<br>S<br>1810     |
| 土坑3下層<br>64図15      | 皿<br>花卉口縁<br>腰折形 | 口径(16.4)<br>高台径(8.4)<br>器高6.0  | 磁器<br>灰白色          | 透明釉 全面掛け   | 外面唐草文と不明文帯、内面口縁部四方摺文帯、内面区画内に花葉文、見込み環状花葉文、裏銘には渦福を呉須染付                 | 畳付釉剥ぎ 砂目付着                    | 呉須染付は色が薄い                                | 肥前   | 1680<br>S<br>1700     |
| 土坑3<br>64図16        | 蓋                | つまみ長軸4.6<br>つまみ短軸1.1<br>裾径12.8 | 磁器<br>灰白色          | 透明釉全面掛け  | 外面天井部半菊文帯、中位は牡丹花文を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ                         |  | 肥前   | 1690<br>S<br>1860     |
| 土坑3上位<br>64図17      | 蓋                | 裾径9.9<br>つまみ径4.2<br>器高3.2      | 磁器<br>灰白色          | 透明釉 全面<br>貫入あり   | 無文   | つまみ端部釉剥ぎ                      |  | 肥前   | 1740<br>S<br>1750     |
| 土坑3<br>64図18        | 蓋                | 裾径9.7<br>つまみ径3.8<br>器高2.6      | 磁器<br>灰白色          | 透明釉 全面   | 外面は桐文のコンニャク印判刷り 桐文は位置関係から3つあっただろう 呉須染付                               | つまみ部上端釉剥ぎ                     | 8割残存                                     | 肥前   | 1700<br>S<br>1740     |
| 土坑3<br>65図1         | 片口鉢              | 口径24.0<br>高台径9.8<br>器高12.0     | 陶器<br>紫橙色<br>精良    | 内面胴中位は白化粧土ハケ掛けし、外面胴中位は白化粧土塗布後、太い櫛状掻き取り 外面胴下位から高台内は鉄釉ハケ掛け、内面と外面胴中位までオリブ色の灰釉掛け |  | 高台剥ぎ                          | 胴中位に帯状に露胎部がある                            | 肥前   | 不明                    |
| 土坑3上位<br>65図2       | 鉢                | 口径21.0                         | 陶器<br>にぶい灰褐色<br>精良 | 外面胴下位露胎で鉄漿を掛けた後、内面胴部に白化粧土をハケ掛けし、櫛状掻き取り 透明釉を胴下位から内面に掛ける                       |  | 見込みに蛇ノ目釉剥ぎ                    |  | 肥前   | 不明                    |



第64図 1次調査3号土坑出土土器・陶磁器実測図1(1/3)

表29 1次調査出土土器・陶磁器観察表2

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値            | 胎の種類                        | 釉薬   | 調整・整形・装飾技法  | 窯詰め技法                       | 所見                     |      |                  |
|---------------------|-----------------|------------------------------|-----------------------------|--|---|-----------------------------|------------------------|------|------------------|
|                     |                 |                              |                             |  |   |                             | 特記事項                   | 推定産地 | 推定年代             |
| 土坑3<br>65図3         | 小鉢              | 口径5.8<br>高台径2.2<br>器高3.3     | 磁器<br>灰白色                   | 透明釉全面掛け  | 型打ち成型 口鋳  | 畳付釉剥ぎ                       |                        | 肥前   | 不明               |
| 土坑3<br>65図4         | 鉢<br>半胴甕        | 口径(20.0)                     | 陶器<br>暗紫灰色                  | 内面から外面口縁部は鉄釉掛け、外面は白化粧土を縦にハケ掛けし、鉄絵で松文を描く                            |   | 畳付釉剥ぎ 高台内面に砂目付着 見込みに環状の砂目付着 | 内面に縦に凹線があるか、意味不明       | 肥前か  | 18世紀後半<br>19世紀中葉 |
| 土坑3上層<br>65図5       | 鉢<br>半胴甕        | 口径(27.0)                     | 陶器<br>にぶい淡暗灰褐色              | 内面にオリブ色の灰釉をかけた後、外面から内面頸部まで白化粧土ハケ掛けし、外面に鉄絵と緑彩で松絵を上絵付けし、透明釉を全面に掛ける   |   | —                           | 白化粧土の上の透明釉が沸騰している      | 肥前   | 18世紀後半<br>19世紀中葉 |
| 土坑3<br>65図6         | 火鉢              | 口径(32.0)                     | 瓦質土器<br>にぶい灰白色が灰黒色を挟む 金雲母多い | —  | 外面口縁下は接合の工具痕あり 口唇部ミガキ 内面は口縁下に沈線の下にハケ状のオサエ列あり  | 不明                          | 外面の黒色は炭素吸着によるもの        | 在地か  | 不明               |
| 土坑3<br>65図7         | 大鉢              | 口径(48.0)                     | 陶器<br>橙褐色にぶい紫褐色             | 内外面鉄釉掛け 発色不良   | 内面カキ目 外面口縁下はカキ目、口縁部は折り返して肥厚   | 口縁部内面に胎土目跡付着                |                        | 肥前   | 1750<br>1860     |
| 土坑3下層<br>65図8       | 摺鉢              | 口径(37.3)                     | 陶器<br>橙褐色                   | 内外面鉄釉掛け  | 摺り目は17本単位 外面上半はナデ、下半はケズリ  | 畳付釉剥ぎ後砂目付着 見込みに環状重ね焼き痕あり    | 重ね焼き痕に別個体の畳付の一部が付着している | 肥前   | 1750<br>1860     |
| 土坑3<br>65図9         | 摺鉢              | 口径(37.6)                     | 陶器<br>橙褐色                   | 内外面鉄釉掛け  | 摺り目は18本単位 外面上半はナデ、下半はケズリ  | 畳付釉剥ぎ 見込みに環状重ね焼き痕あり         | 内底の窪みは胎土目跡か            | 肥前   | 1750<br>1860     |
| 土坑3下層<br>65図10      | 小摺鉢             | 口径(15.4)<br>底径6.8<br>器高5.8   | 陶器<br>橙褐色                   | 口縁部のみ鉄釉  | 内面摺り目9本単位 外底糸切り   | 底部露胎 見込み中央の窪みは胎土目跡か         |                        | 肥前   | 1650<br>1690     |
| 土坑3下層<br>65図11      | 水注              | 口径6.0<br>高台径7.5              | 陶器<br>橙褐色                   | 胎釉を外面全面、内底にオリブ色の灰釉掛け   | 把手部は欠損  | 畳付釉剥ぎ アルミナ塗布                | 内面部分的に使用変色             | 肥前   | 不明               |
| 土坑3上位<br>65図12      | 大甕              | 口径(90.0)                     | 土師質土器<br>にぶい灰色 砂粒多い         | —  | 内外ケズリ状のナデ 器面残りよい 穿孔は焼成前で、紐ずれなし  | —                           |                        | 在地   | 不明               |
| 土坑3<br>65図13        | 杯               | 口径(7.4)<br>高台径2.8<br>器高3.7   | 磁器<br>灰白色                   | 発色不良の透明釉が全面に掛かる  | 外面竹笹文の呉須染付  | 畳付釉剥ぎ 砂目付着                  | 胎の色から波佐見の可能性あり         | 波佐見  | 1680<br>1740     |
| 土坑3<br>65図14        | 杯               | 口径(7.0)<br>高台径3.0<br>器高3.5   | 磁器<br>灰白色                   | 透明釉全面掛け  | 無文  | 畳付釉剥ぎ                       |                        | 肥前   | 不明               |
| 土坑4<br>66図1         | 碗               | 口径(9.2)<br>高台径3.4<br>器高4.7   | 磁器<br>灰白色                   | 発色の悪い透明釉を外面に掛ける  | 外面は3つの花文のコンニャク印判刷り 呉須染付   | 畳付釉剥ぎ                       |                        | 肥前   | 1680<br>1700     |
| 土坑4<br>66図2         | 碗               | 口径10.0<br>高台径4.1<br>器高4.4    | 磁器<br>完形のため不明               | 透明釉全面掛け  | 外面は3つの織田木瓜文を手書き呉須染付   | 畳付釉剥ぎ                       |                        | 肥前   | 1680<br>1700     |
| 土坑4<br>66図3         | 碗               | 口径(10.7)<br>高台径4.5<br>器高5.5  | 磁器<br>灰白色                   | 透明釉全面掛け  | 外面には草花文、裏銘は「大明年製」を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ                       |                        | 波佐見  | 1680<br>1740     |
| 土坑4<br>66図4         | 碗<br>半球形        | 口径(10.2)<br>高台径5.2<br>器高4.0  | 磁器<br>灰白色                   | 透明釉全面掛け  | 外面に柴垣と牡丹文 呉須染付  | 畳付釉剥ぎ                       |                        | 肥前   | 18世紀前半           |
| 土坑4<br>66図5         | 碗<br>半球形        | 口径(11.4)<br>高台径4.2<br>器高4.1  | 陶器<br>黄灰白色                  | 透明釉を外面底部以外に全面掛ける   | 見込みに鉄絵の山水文あり  | 底部露胎                        | 京焼風陶器                  | 肥前   | 18世紀中葉<br>18世紀後葉 |
| 土坑4<br>66図6         | 小皿<br>花卉形       | 口径9.2<br>高台径5.2<br>器高2.3     | 磁器<br>灰白                    | 透明釉 全面掛け   | 型作りで、花卉形に成型、内外面は花唐草文、見込みは5弁花文、裏銘は「大明化製」を呉須染付 口鋳                                       | 畳付釉剥ぎ                       | ほぼ完形                   | 肥前   | 1680<br>1700     |
| 土坑4<br>66図7         | 片口鉢             | 口径(21.6)<br>高台径9.2<br>器高10.8 | 陶器<br>灰～黄橙色 精良              | 外面胴中位と内面は白化粧土ハケ掛けし、外面は櫛状掻き取り 外面胴下位から高台内は鉄漿ハケ掛け、内面と外面胴中位までオリブ色の灰釉掛け |   | 畳付釉剥ぎ                       | 胴中位に帯状に露胎部がある          | 肥前   | 不明               |
| 土坑4<br>66図8<br>巻頭図版 | 摺鉢              | 口径39.4<br>高台径16.7<br>器高14.0  | 陶器<br>暗紫灰～橙灰色               | 内外面鉄釉掛け  | 摺り目は16本単位 外面ナデ、高台貼り付け後、外底の接合部を丸くナデる   | 畳付釉剥ぎ 畳付と見込みに6つの目跡の窪みあり     | 外面胴部鉄釉の上に掌の跡が残る        | 肥前   | 17世紀後半           |
| 土坑4<br>66図9         | 摺鉢              | 口径32.8<br>底径13.3<br>器高13.0   | 陶器<br>橙褐色                   | 口縁部のみ鉄釉  | 内面摺り目15本単位 外底糸切り  | 底部露胎 見込みと外底に7つの胎土目跡         | ほぼ完形                   | 肥前   | 1650<br>1690     |
| 土坑5<br>67図1         | 碗<br>筒形         | 口径8.1<br>高台径4.3<br>器高6.7     | 磁器<br>灰白色                   | 透明釉を全面に掛ける   | 外面は3分割され、同じモチーフが描かれる 竹文を両端にして、中央に草花文と竹笹文らしいモチーフが入る 体部下位は宝文、内面口縁部は四方擗文帯で、見込みに5弁花文を呉須染付 | 畳付釉剥ぎ                       | 9割残存                   | 肥前   | 1780<br>1810     |
| 土坑5<br>67図2         | 中皿              | 口径20.6<br>高台径10.8<br>器高3.8   | 磁器<br>灰白色                   | 透明釉 全面   | 内面に草花文か 見込みに5弁花文を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ 見込みに蛇ノ目釉剥ぎ            | 蛇ノ目釉剥ぎ部に重ね焼き痕          | 波佐見  | 1680<br>1740     |
| 土坑5<br>67図3         | 中皿<br>花卉口縁      | 口径18.3<br>高台径11.0<br>器高2.7   | 磁器<br>灰白色                   | 透明釉全面掛け  | 外面は唐草文、内面は牡丹花文を呉須染付 口縁部は切り込みか   | 畳付釉剥ぎ                       | 9割残存                   | 肥前   | 18世紀後半           |



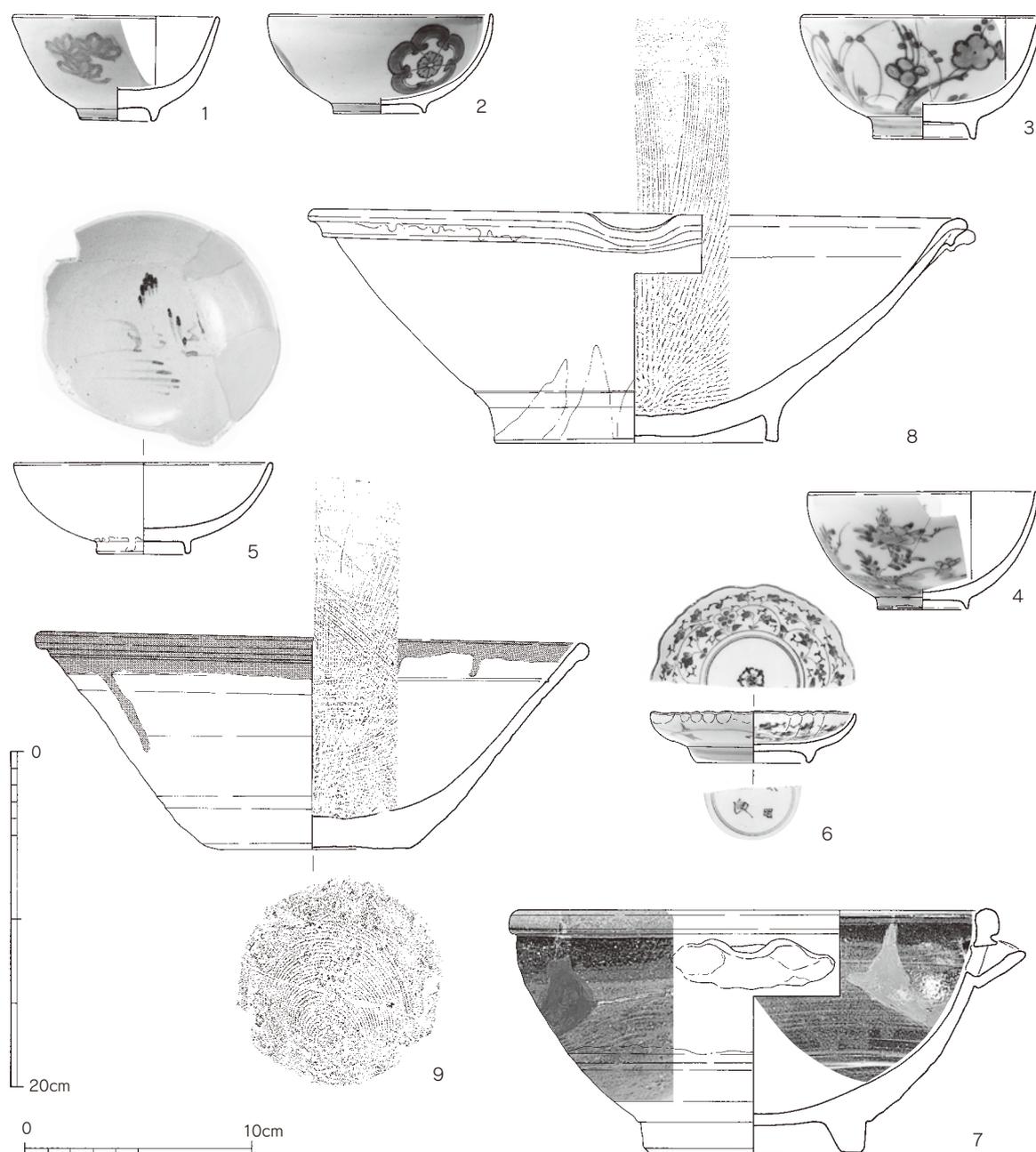
第65図 1次調査3号土坑出土土器・陶磁器実測図2 (12は1/6、6~9は1/4、他は1/3)

部に接してないと判断した。70図9は陶器の小型甕で、内面は強く火を受けているが、外面には被熱痕跡がないので、内部で火を使っているとわかる。したがって、火入れかあるいは火消し壺だろう。

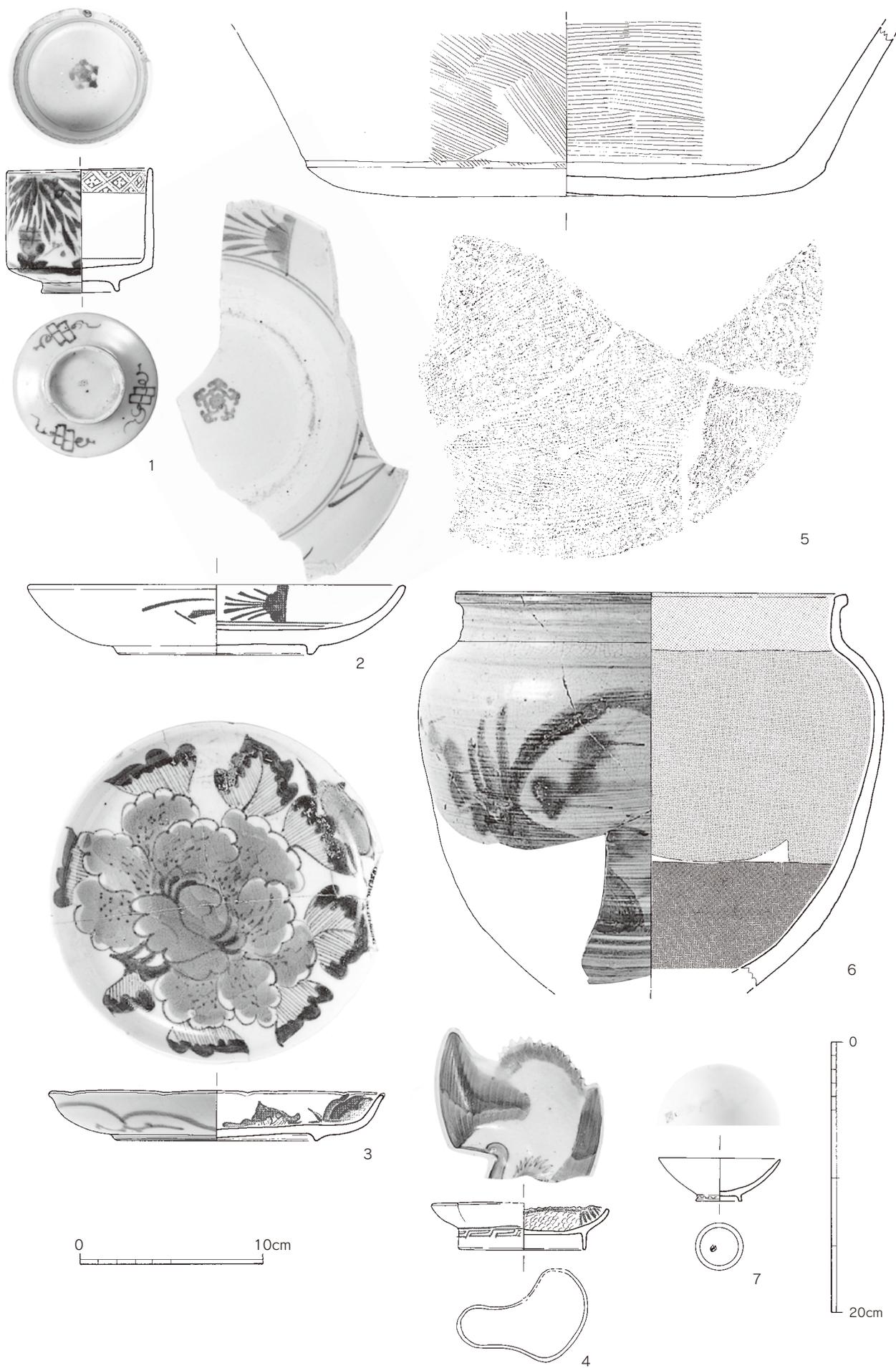
71図4は陶器の乗燭で、飴釉が内面から外面体部に掛かっているが発色不良のため鉄釉に見える。外底の穿孔は行灯の台座に固定用の釘を打って、そこに挿し込むための釘であろう。

72図6・7は土師質土器の小皿で、6は外面の煤が付着する部分に口縁部の打ち掻きがないが、灯明皿として使用しただろう。7の内面の変色は油によるものではないだろうか。

73図7は陶器の香炉か火入れに使用される小型鉢で、口唇部の釉が部分的に崩落しており、一部黒変しているのが、煙草の灰落として使用したものと思われる。73図8は美濃・瀬戸産の香炉か火入れであろう。



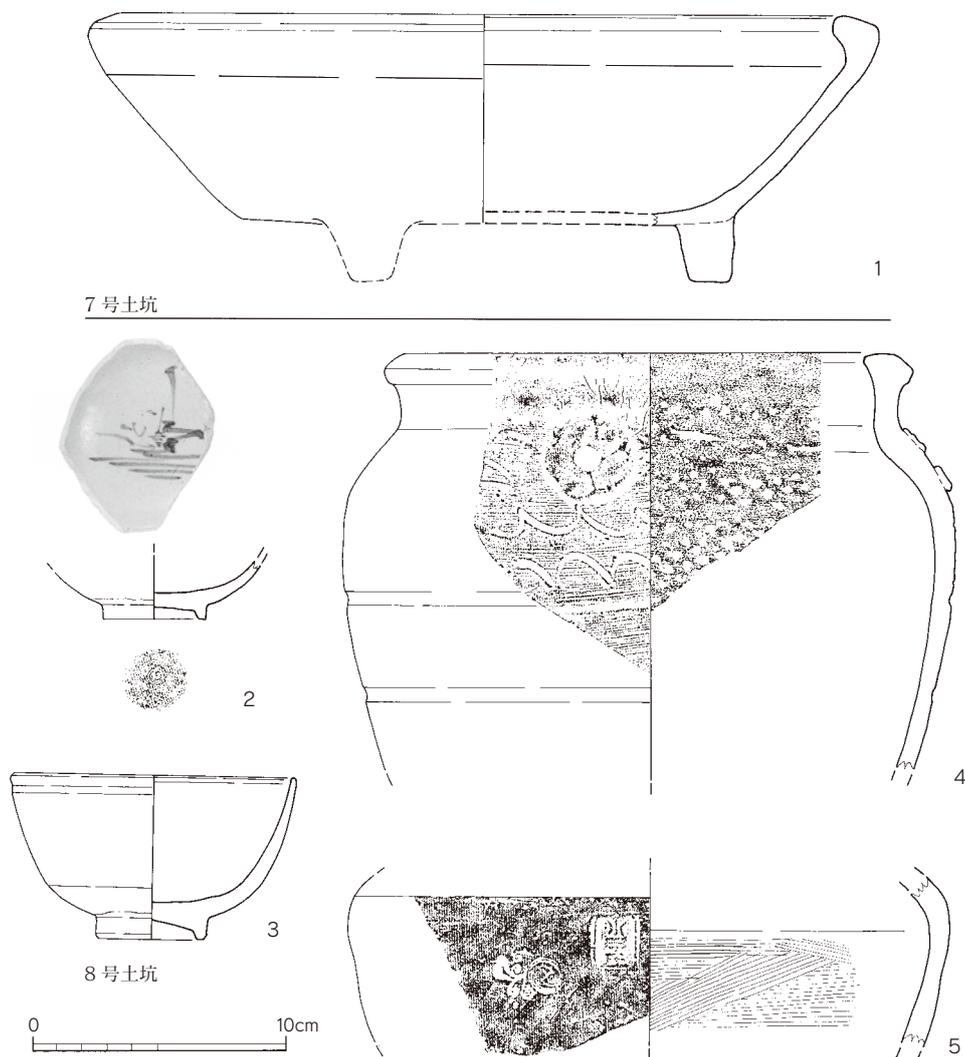
第66図 1次調査4号土坑出土陶磁器実測図(8・9は1/4、他は1/3)



第67図 1次調査5号土坑出土土器・陶磁器実測図(5・6は1/4、他は1/3)

表30 1次調査出土土器・陶磁器観察表3

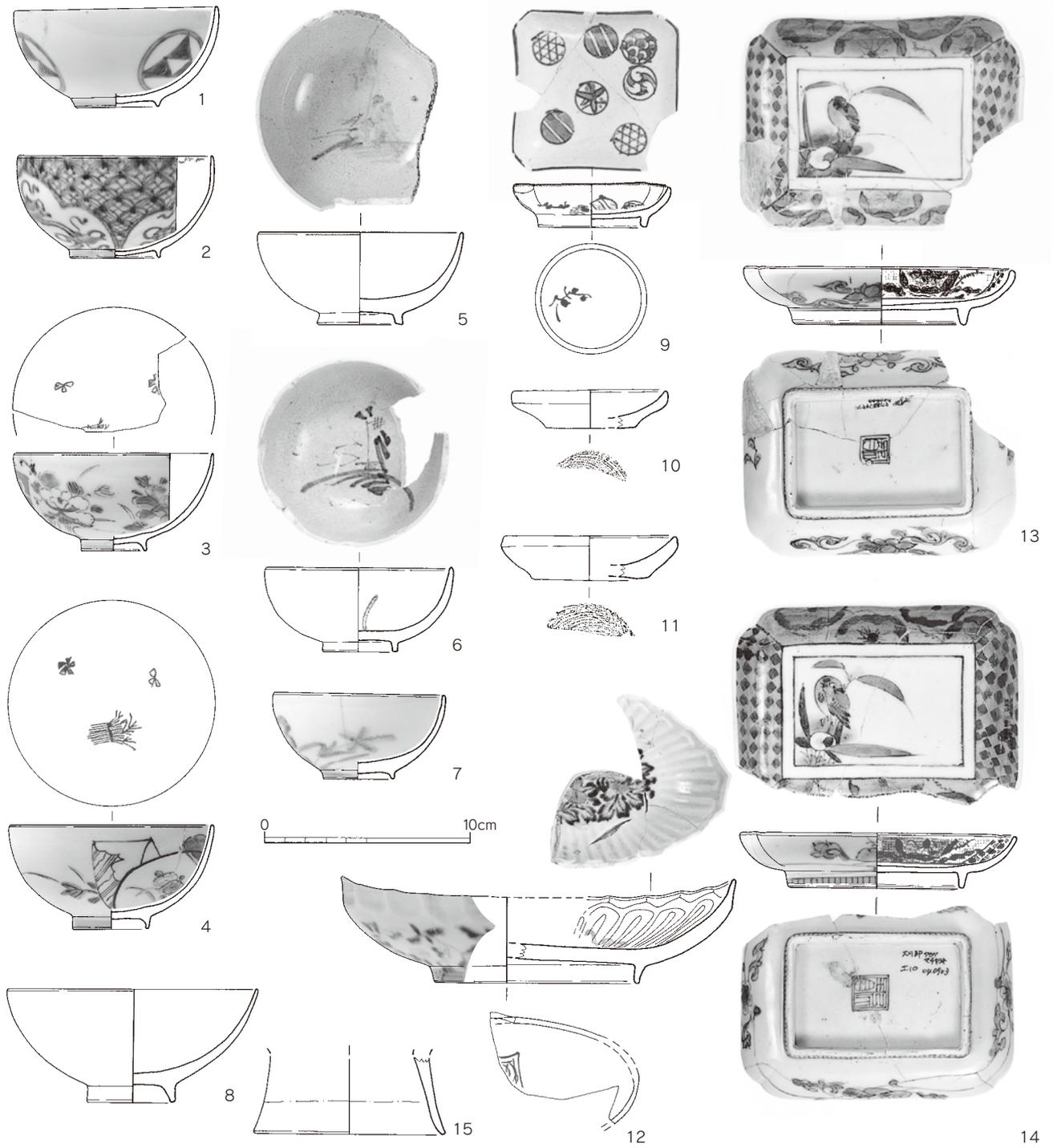
| 遺構名           | 器種               | 法量(cm)                      | 胎の種類                          | 釉薬  | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法         | 所見                                |      |                  |
|---------------|------------------|-----------------------------|-------------------------------|---|--|---------------|-----------------------------------|------|------------------|
|               |                  |                             |                               |   |  |               | 特記事項                              | 推定産地 | 推定年代             |
| 挿図番号<br>図版番号  | 形状<br>通称名        | ( )は復元値                     |                               |   |  |               |                                   |      |                  |
| 土坑5<br>67図4   | 小皿<br>変形小皿<br>鳥形 | 短軸9.5<br>器高2.4              | 磁器<br>灰白色                     | 透明釉 全面  | 糸切り細工の型押し成型後、尾羽は切り込み<br>体部の羽文は型押しによる陽刻で、それ以外<br>は線描きとダミ 高台外面は雷文を呉須染付   | 豊付釉剥ぎ         |                                   | 肥前   | 不明               |
| 土坑5<br>67図5   | 大甕               | 底径(38.0)                    | 瓦質土器<br>にぶい橙灰色 混入<br>物粒子小さく均一 | —   | 内外面丁寧なハケか底部まで入る  | 不明            | 内外面淡灰色で、変<br>色はない                 | 在地   | 不明               |
| 土坑5<br>67図6   | 鉢<br>半胴甕         | 口径(28.8)                    | 陶器<br>暗橙褐色                    | 内外胴下位は鉄釉ハケ掛け、外面胴下位には白化粧土ハケ掛けし、<br>外面下位は帯状掻き取り後、鉄絵と緑灰色の灰釉で松文を上絵付<br>けし、内面頸部以下から胴下位までオリブ色の灰釉を掛ける<br>最後に内面頸部から外面に透明釉掛け | —  |               |                                   | 肥前   | 18世紀後半<br>19世紀中葉 |
| 土坑5<br>67図7   | 杯<br>記念杯         | 口径(6.7)<br>高台径2.5<br>器高2.4  | 磁器<br>灰白色 ガラス質                | 透明釉を全面に掛<br>ける  | 見込みに金彩で「樽見商店」、その下に柿釉で<br>□にIXと描いている 商店名の右上には2文<br>字あるが、判読できない その上方に屋号の<br>山形に「タ」が入る 商店名の対面にも文字が<br>あるが、「井」だけが判読できる 高台外面の<br>凹凸文と、判読できない裏銘はコバルト染付 |               |                                   | 瀬戸か  | 20世紀前半           |
| 土坑7<br>68図1   | 火鉢               | 口径(31.0)                    | 瓦質土器<br>にぶい黄灰色                | —   | 内外ナデ   | 不明            | 内面の暗黄灰色は使<br>用変色か                 | 在地か  | 不明               |
| 土坑8<br>68図2   | 碗<br>半球形         | 高台径4.0                      | 陶器<br>黄灰白色                    | 透明釉を外底部<br>以外に全面掛ける   | 見込みに鉄絵の山水文あり 外底に不明の刻<br>印  | 底部露胎          | 京焼風陶器                             | 肥前   | 18世紀中葉<br>18世紀後葉 |
| 土坑8<br>68図3   | 碗                | 口径11.2<br>高台径4.4<br>器高6.5   | 陶器<br>灰白色                     | 透明釉に近い灰釉<br>を外底以外に掛け<br>る 貫入あり  | 高台削り出し   | 底部露胎          |                                   | 肥前   | 1690<br>1780     |
| 土坑8<br>68図4   | 小型甕              | 口径(20.8)<br>肩部(20.4)        | 陶器<br>紫灰〜にぶい灰色                | 鉄釉を全面に掛け<br>る   | 肩部外面はカキ目は、その上に波状文上下に<br>反対に施文し、その上に花卉浮文貼り付け<br>内面は格子目タタキ当て具痕   | 口唇部中央<br>のみ釉剥 |                                   | 肥前   | 17世紀後半か          |
| 土坑8<br>68図5   | 火鉢               | 最大径(23.6)                   | 土師質土器<br>にぶい橙灰色が灰<br>白色を挟む    | —   | 外面は丁寧なミガキの上に方形区画に「水田<br>庄」と花付巴文のスタンプ、内面は丁寧な<br>横ハケのちナデ   | 不明            | 胎土はだが、外面は<br>炭素を吸着させてい<br>るので瓦質土器 | 水田焼  | 不明               |
| 土坑10<br>69図1  | 碗<br>半球形         | 口径10.0<br>高台径4.1<br>器高4.9   | 磁器<br>灰白色                     | 透明釉を全面に掛<br>ける  | 外面には三角形に重ねた三角形文で北条家の<br>家紋を呉須染付  | 豊付釉剥ぎ         |                                   | 肥前   | 1710<br>1750     |
| 土坑10<br>69図2  | 碗<br>半球形         | 口径(9.4)<br>高台径4.3<br>器高5.0  | 磁器<br>灰白色                     | 透明釉を全面掛け  | 外面は七宝文地に宝珠形窓文内宝文を呉須染<br>付  | 豊付釉剥ぎ         |                                   | 肥前   | 1710<br>1750     |
| 土坑10<br>69図3  | 碗<br>半球形         | 口径(9.6)<br>高台径3.1<br>器高4.8  | 磁器<br>灰白色                     | 透明釉を全面掛け  | 外面は布文・牡丹花文を呉須染付、内面は見<br>込みに花卉文を赤・緑・紫・金彩で上絵付け   | 豊付釉剥ぎ         |                                   | 肥前   | 1710<br>1740     |
| 土坑10<br>69図4  | 碗<br>半球形         | 口径10.0<br>高台径3.8<br>器高5.1   | 磁器<br>灰白色                     | 透明釉を全面に掛<br>ける  | 外面には透明釉の上に牡丹花文を赤絵と緑彩<br>で描く 見込みに紫垣文の赤絵   | 豊付釉剥ぎ         | 完形                                | 肥前   | 1710<br>1740     |
| 土坑10<br>69図5  | 碗<br>半球形         | 口径(10.0)<br>高台径4.2<br>器高4.5 | 陶器<br>黄灰白色                    | 透明釉を胴下位以<br>外に掛け 貫入あ<br>り   | 見込みに鉄絵の山水文<br>外底に円刻  | 底部露胎          | 京焼風陶器                             | 肥前   | 1780<br>1810     |
| 土坑10<br>69図6  | 碗<br>半球形         | 口径9.1<br>高台径3.7<br>器高4.1    | 陶器<br>黄灰白色                    | 透明釉を外底部<br>以外に全面掛ける<br>貫入あり   | 見込みに鉄絵の山水文あり 外底に螺旋状に<br>円文を線刻  | 底部露胎          | 京焼風陶器                             | 肥前   | 18世紀中葉<br>18世紀後葉 |
| 土坑10<br>69図7  | 小碗<br>半球形        | 口径8.4<br>高台径3.4<br>器高4.2    | 磁器<br>灰白色                     | 透明釉を全面に掛<br>ける 貫入あり   | 外面は花草文の呉須染付 口鏝あり   | 豊付釉剥ぎ         |                                   | 肥前   | 1700<br>1750     |
| 土坑10<br>69図8  | 碗<br>半球形         | 口径(12.2)<br>高台径4.3<br>器高5.5 | 陶器<br>黄灰白色                    | 透明釉を全面掛け<br>貫入あり  | 無文   | 底部露胎          | 京焼風陶器                             | 肥前   | 1780<br>1810     |
| 土坑10<br>69図9  | 小皿<br>変形小皿<br>方形 | 一辺7.6<br>高台径5.3<br>器高2.2    | 磁器<br>灰白色                     | 発色悪く乳白色の<br>透明釉 全面掛け  | 糸切り細工の型押し成型で、見込みに丸文散<br>らしと外面胴部と外底に枝葉文を呉須染付<br>口唇部に口鏝  | 豊付釉剥ぎ         |                                   | 肥前   | 不明               |
| 土坑10<br>69図10 | 小皿               | 口径(7.4)<br>底径(4.4)<br>器高1.8 | 土師質土器<br>淡橙灰色                 | —   | 外底糸切り<br>内外面ナデ   | 不明            | 内面の黒変は使用に<br>よるものか不明              | 蒲池焼  | 不明               |
| 土坑10<br>69図11 | 小皿               | 口径(8.4)<br>底径(5.5)<br>器高2.1 | 土師質土器<br>黄灰白色                 | —   | 外底糸切り<br>内外面ナデ   | 不明            | 変色なし                              | 蒲池焼  | 不明               |
| 土坑10<br>69図12 | 鉢<br>変形          | 長軸(19.8)<br>短軸不明<br>器高5.5   | 磁器<br>灰白色                     | 青みのある透明釉<br>全面掛け  | 糸切り細工の型打ち成型 外面花唐草文、高<br>台は雷文帯、内面は胴部に花卉の陽刻、見込<br>みに牡丹花文、外底の裏銘は「福らしいコバ<br>ルト染付 内面には赤と緑彩色の上絵付け  | 豊付釉剥ぎ         |                                   | 肥前   | 不明               |
| 土坑10<br>69図13 | 小皿<br>変形小皿<br>方形 | 長軸8.6<br>短軸5.4<br>器高2.6     | 磁器<br>暗灰色                     | 透明釉 全面  | 糸切り細工の型押し成型で、内面長辺側は芙蓉<br>文、短辺側は市松文、見込みは草に鳥、外<br>面は牡丹唐草文、高台に凹凸文、裏銘は不明<br>文を呉須染付   | 豊付釉剥ぎ         |                                   | 肥前   | 不明               |
| 土坑10<br>69図14 | 小皿<br>変形小皿<br>方形 | 長軸8.6<br>短軸5.4<br>器高2.6     | 磁器<br>暗灰色                     | 透明釉 全面  | 糸切り細工の型押し成型で、内面長辺側は芙蓉<br>文、短辺側は市松文、見込みは草に鳥、外<br>面は牡丹唐草文、高台に凹凸文、裏銘は不明<br>文を呉須染付   | 豊付釉剥ぎ         |                                   | 肥前   | 不明               |
| 土坑10<br>69図15 | 台付皿              | 裾径9.2                       | 陶器<br>黄灰白色                    | 透明釉を裾以外に<br>全面掛け  | 無文   | 底部露胎          | 京焼風陶器                             | 肥前   | 1780<br>1810     |



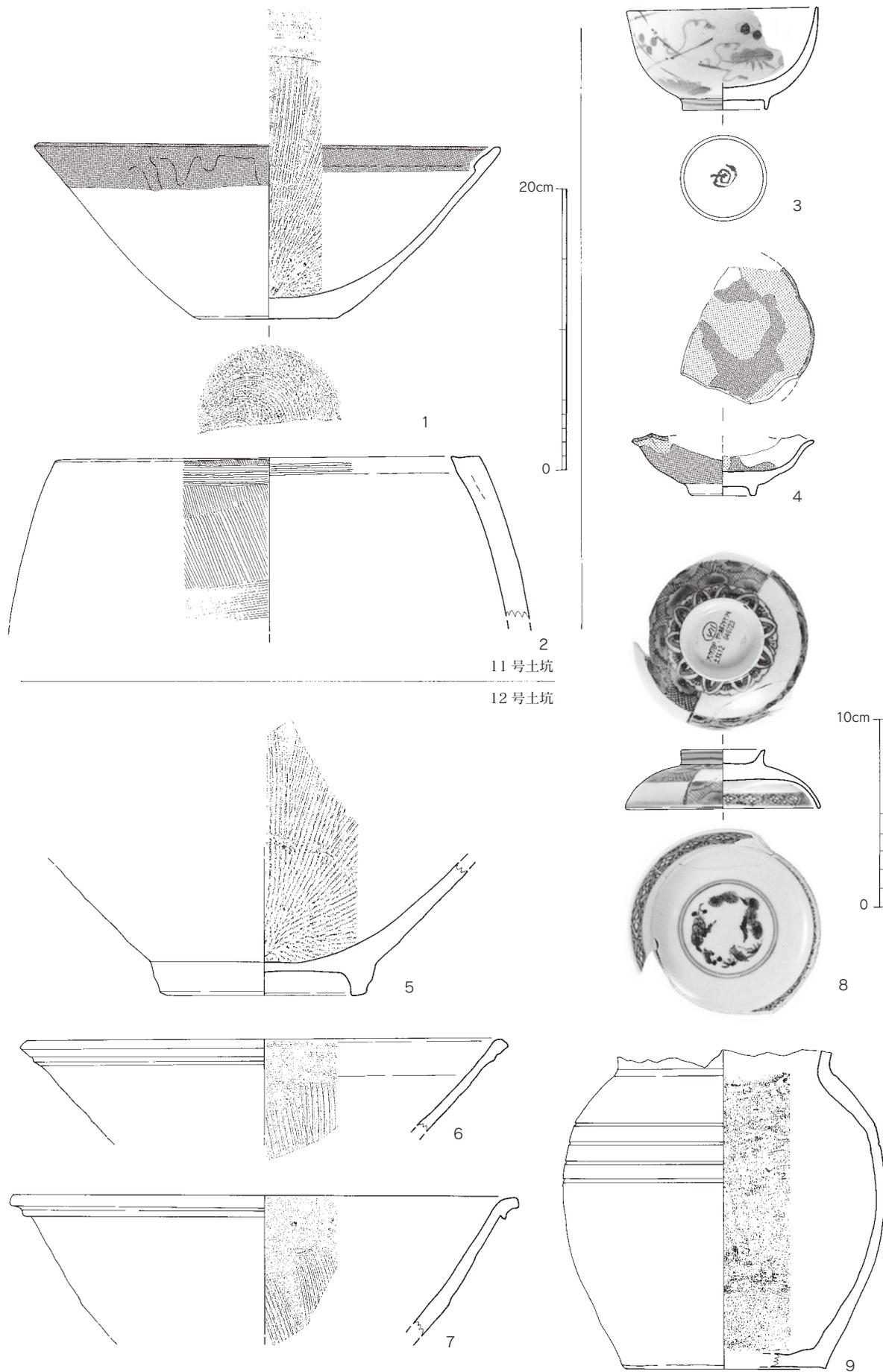
第68図 1次調査7・8号土坑出土土器・陶磁器実測図(1/3)

74図3は土師質土器の小皿で、赤変している部分があるのは焼塩壺の蓋であるからだろう。外底には胎土目跡が3ヶ所に残る。74図6の見込みには重ね焼きの痕跡が残る。74図6は陶器の摺鉢で、胎土から小石原焼と推定できる。

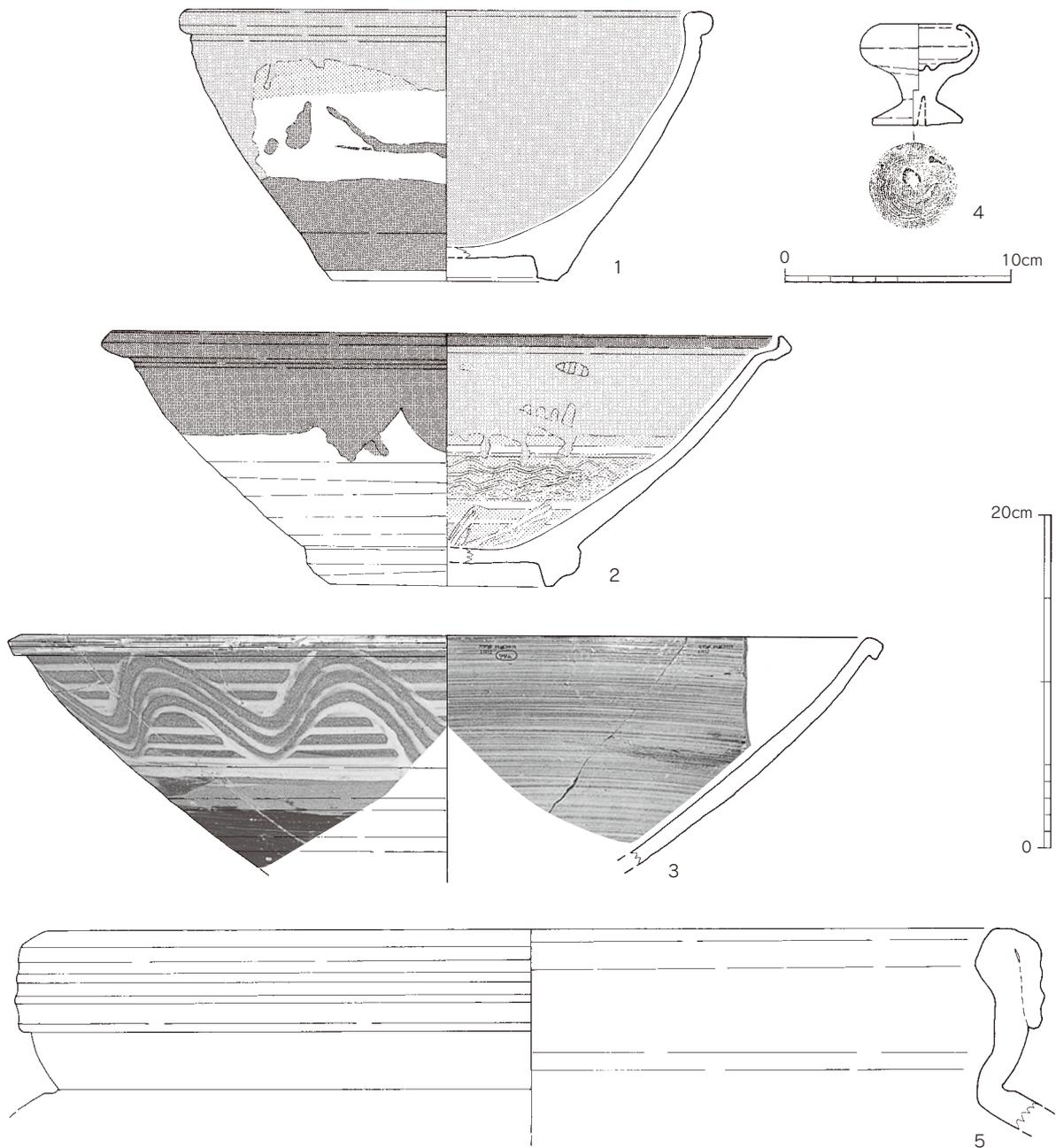
75図8は土師質土器の小皿で、内面は口縁下に煤が付着し、その下は油による変色と見られ、灯明皿として使用されたことがわかる。75図13は施釉作業の最後に通常は掛ける透明釉を掛けないので、白化粧土が剥落している。75図17は陶器の鉢で、外面口縁下に格子目タタキがわずかに残るのは、口縁の突帯の下にほとんど隠れることから、接合のために貼り付け部に施したものであろう。



第69図 1次調査10号土坑出土土器・陶磁器実測図(1/3)



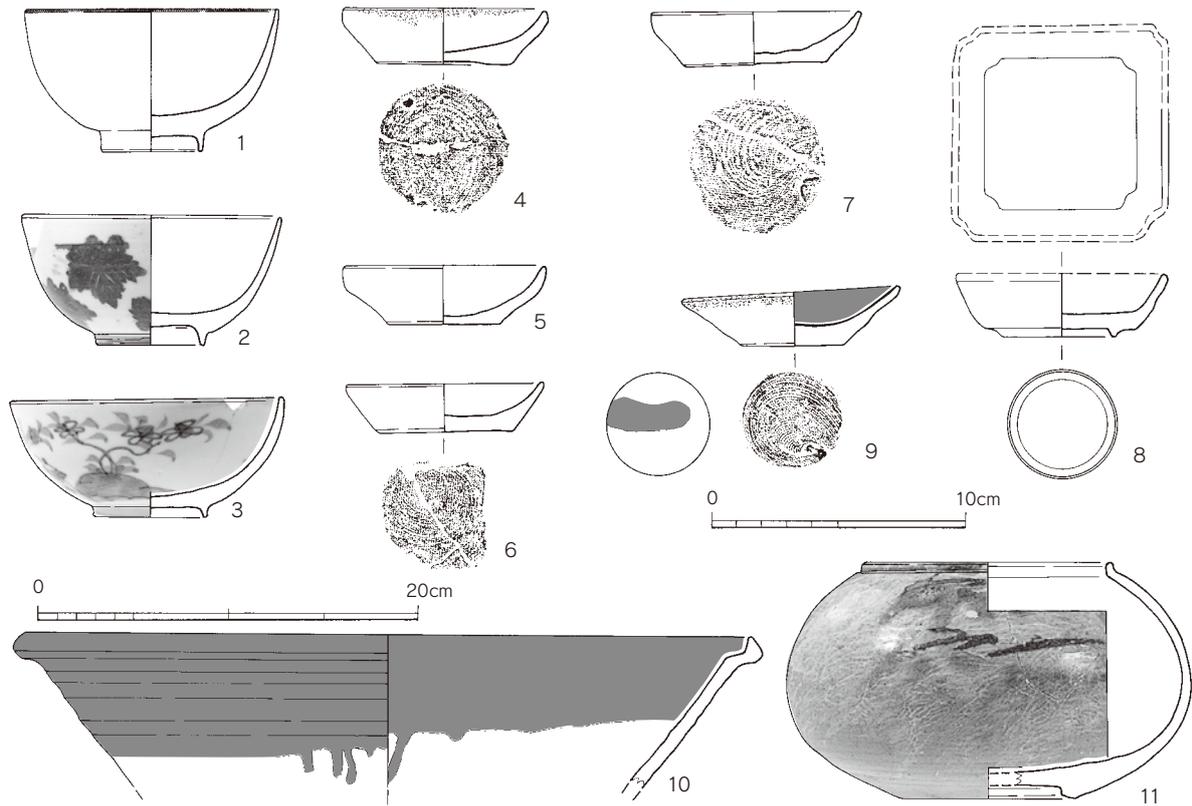
第70図 1次調査11・12号土坑出土土器・陶磁器実測図(1・2・5~7は1/4、他は1/3)



第71図 1次調査12号土坑出土陶器実測図(2・3・5は1/4、他は1/3)

表31 1次調査出土土器・陶磁器観察表4

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値           | 胎の種類       | 釉薬                          | 調整・整形・装飾技法                                 | 窯詰め技法                  | 所見                           |      |                   |
|---------------------|-----------------|-----------------------------|------------|-----------------------------|--|------------------------|------------------------------|------|-------------------|
|                     |                 |                             |            |                             |  |                        | 特記事項                         | 推定産地 | 推定年代              |
| 土坑11<br>70図1        | 摺鉢              | 口径(32.9)                    | 陶器<br>橙褐色  | 口縁部のみ鉄釉<br>発色不良             | 内面摺り目12本単位 外底糸切り                           | 底部露胎 輪トチ<br>らしい胎土目跡あり  |                              | 肥前   | 1650<br>S<br>1690 |
| 土坑11<br>70図2        | 焜炉              | 口径(30.0)                    | 土師質土器      | —                           | 外面丁寧なハケ 内面は煤が付着し、調整がほとんどわからないが、口縁部のみハケとわかる | 不明                     | 内面の煤は口縁下に厚く付着し、口縁部は煤が付着していない | 在地   | 不明                |
| 土坑12<br>70図3        | 碗               | 口径(10.1)<br>高台径4.5<br>器高5.5 | 磁器<br>灰白色  | 透明釉全面掛け 貫入あり                | 外面は花・竹・垣根文 裏銘は渦福 呉須染付                      | 畳付釉剥ぎ                  |                              | 肥前   | 1680<br>S<br>1740 |
| 土坑12<br>70図4        | 小皿<br>花卉形       | 口径(9.6)<br>高台径3.5<br>器高3.3  | 陶器<br>灰色   | 型打ち成型 鉛釉を全面に掛け、その上に藁灰釉を流し掛け |  | —                      |                              | 小石原  | 不明                |
| 土坑12<br>70図5        | 摺鉢              | 高台径14.4                     | 陶器<br>茶褐色  | 鉄釉を全面に掛ける                   | 外面ケズリ 摺り目は単位不明                             | 畳付釉剥ぎ後砂目付着 見込みに環状重ね焼き痕 |                              | 肥前か  | 1750<br>S<br>1860 |
| 土坑12<br>70図6        | 摺鉢              | 口径(34.4)                    | 陶器<br>淡茶褐色 | 鉄釉を全面に掛ける                   | 外面ナデ 摺り目は単位不明                              | —                      |                              | 肥前   | 1690<br>S<br>1750 |



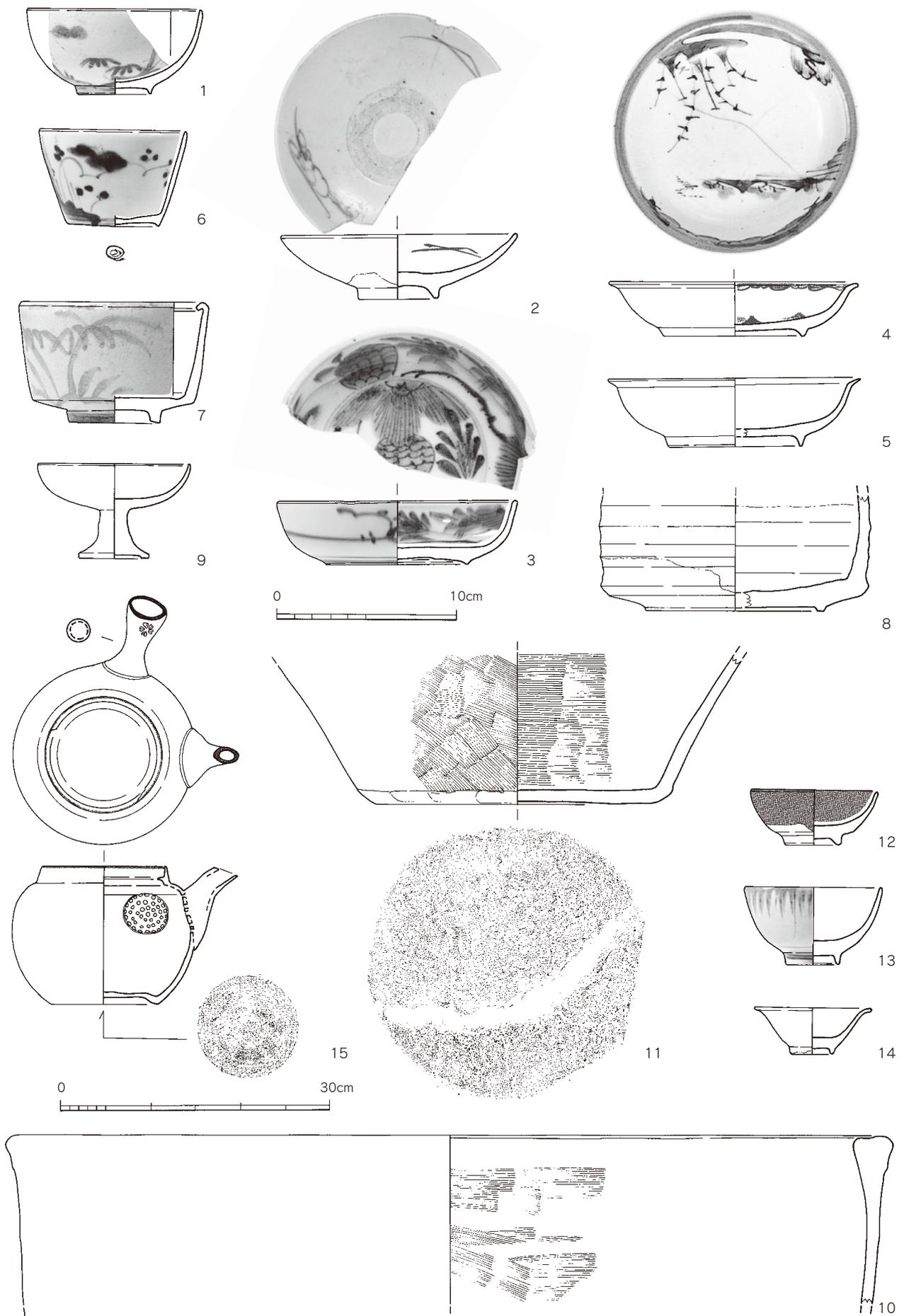
第72図 1次調査14号土坑出土土器・陶磁器実測図(14は1/4、他は1/3)

表32 1次調査出土土器・陶磁器観察表5

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号  | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値             | 胎の種類                   | 釉薬                   | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法               | 所見                                 |      |                   |
|----------------------|-----------------|-------------------------------|------------------------|----------------------|--|---------------------|------------------------------------|------|-------------------|
|                      |                 |                               |                        |                      |  |                     | 特記事項                               | 推定産地 | 推定年代              |
| 土坑12<br>70図7         | 摺鉢              | 口径(36.0)                      | 陶器<br>淡茶褐色             | 鉄釉を全面に掛ける            | 外面ナデ 摺り目は単位不明  | —                   |                                    | 肥前   | 1750<br>S<br>1860 |
| 土坑12<br>70図8         | 蓋               | 裾径(11.0)<br>つまみ径4.4<br>器高3.1  | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面<br>貫入あり       | 外面は胴下位と中位は、格子文地に半花輪文帯と白地が交互に入る 上位は花葉文帯<br>内面裾部は四方襷文帯で、内面天井部に環状梅樹文呉須染付                      | つまみ部上端釉剥ぎ           |                                    | 肥前   | 1740<br>S<br>1780 |
| 土坑12<br>70図9         | 小型甕             | 肩部(17.0)<br>底径10.8            | 陶器<br>外面は橙灰、内面はにぶい灰色   | 鉄釉を全面に掛ける            | 外面はナデ後肩部にカキ目状沈線、内面は格子目タキ当て具痕   | 外底部に胎土目跡残る          | 口縁部は鋸歯状に打ち欠いている                    | 肥前   | 17世紀後半か           |
| 土坑12<br>71図1         | 片口鉢             | 口径(23.6)                      | 陶器<br>暗紫灰～橙灰色          | 鉄釉を全面に掛ける            | 外面上位～中位は白化粧土掛けし、その後下半に鉄釉ハケ掛け、外面口縁部から内面は褐色の灰釉掛け 高台は削り出し                                     | 畳付と口唇部釉剥ぎ           |                                    | 肥前   | 不明                |
| 土坑12<br>71図2         | 鉢               | 口径(40.8)<br>高台径16.2<br>器高15.1 | 陶器<br>にぶい暗橙灰色<br>混入物あり | 鉄釉を全面に掛ける            | 外面胴部上半ナデで、鉄釉掛け、下半はケズリによる釉剥ぎ<br>内面白化粧土をハケ掛けした後、柳状と帯状の掻き取り 上半分は餡釉流し掛け                        | 底部露胎<br>高台に胎土目跡4つ付着 |                                    | 肥前   | 1690<br>S<br>1750 |
| 土坑12<br>71図3         | 大鉢              | 口径(52.0)                      | 陶器<br>橙褐色              | 鉄釉を全面に掛ける            | 外面下位に鉄釉をハケ掛けし、外面上半分に白化粧土を塗布して帯状掻き取りし、内面は白化粧土をハケ掛け 内面は緑彩と鉄絵のモチーフを上絵付けし、最後に内面から外面に発色不良の透明釉掛け | —                   |                                    | 肥前   | 1690<br>S<br>1750 |
| 土坑12<br>71図4<br>図版16 | 乗燭              | 口径3.3<br>底径4.0<br>器高4.5       | 陶器<br>完形のため不明          | 発色不良の餡釉が内面から外面体部に掛かる | 外底系切り 芯立欠損 内外面ナデ   | 底部露胎 胎土目跡あり         | 完形                                 | 小石原か | 不明                |
| 土坑12<br>71図5         | 大甕              | 口径(61.0)                      | 陶器<br>淡灰色              | 鉄釉を全面に掛ける            | 内外ナデ 口縁部は外側に折り曲げて肥厚させている   | —                   |                                    | 肥前   | 17世紀後半か           |
| 土坑14<br>72図1         | 碗               | 口径(10.0)<br>高台径4.0<br>器高5.6   | 磁器<br>灰白色              | 透明釉全面掛け              | 無文 口錯  | 畳付釉剥ぎ               |                                    | 肥前   | 1680<br>S<br>1740 |
| 土坑14<br>72図2         | 碗               | 口径(10.1)<br>高台径4.1<br>器高5.1   | 磁器<br>灰白色              | 透明釉全面掛け<br>貫入あり      | 外面は桐文のコンニャク印判刷り 呉須染付   | 畳付釉剥ぎ               |                                    | 肥前   | 1680<br>S<br>1700 |
| 土坑14<br>72図3         | 碗<br>半球形        | 口径(10.8)<br>高台径4.5<br>器高4.8   | 磁器<br>灰白色              | 透明釉全面掛け<br>貫入あり      | 外面は花樹文・祠堂文 呉須染付  | 畳付釉剥ぎ               |                                    | 肥前   | 1710<br>S<br>1750 |
| 土坑14<br>72図4         | 小皿              | 口径8.0<br>底径5.2<br>器高2.2       | 土師質土器<br>にぶい黄灰色<br>軟質  | —                    | 内外ナデ 外底系切り   | 不明                  | 内面は油による変色、外面は口縁部に煤付着しているので灯明皿として使用 | 在地   | 不明                |

表33 1次調査出土土器・陶磁器観察表6

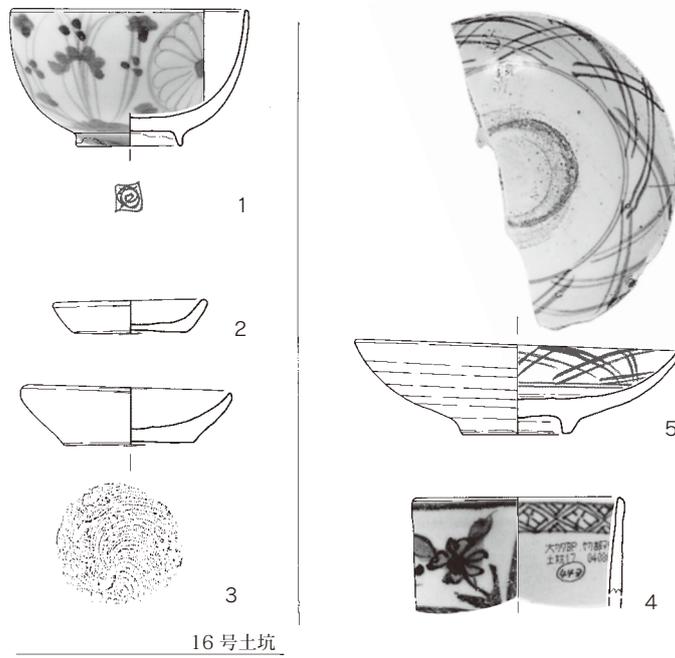
| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号   | 器種<br>形状<br>通称名  | 法量(cm)<br>( )は復元値           | 胎の種類                      | 釉薬  | 調整・整形・装飾技法                                   | 窯詰め技法                      | 所 見   |      |                   |
|-----------------------|------------------|-----------------------------|---------------------------|---|--|----------------------------|---|------|-------------------|
|                       |                  |                             |                           |   |  |                            | 特記事項  | 推定産地 | 推定年代              |
| 土坑14<br>72図5          | 小皿               | 口径8.0<br>底径4.3<br>器高2.3     | 土師質土器<br>にぶい黄灰色<br>軟質     | —   | 内外ナデ 外底糸切りの摩滅                                | 不明                         | 変色なし  | 蒲池焼  | 不明                |
| 土坑14<br>72図6          | 小皿               | 口径(7.8)<br>底径5.2<br>器高1.9   | 土師質土器<br>にぶい黄灰色<br>軟質     | —   | 内外ナデ 外底糸切り                                   | 不明                         | 内面底部と外面の<br>一部に煤付                             | 在地   | 不明                |
| 土坑14<br>72図7          | 小皿               | 口径8.3<br>底径5.4<br>器高2.0     | 土師質土器<br>にぶい黄灰色<br>軟質     | —   | 内外ナデ 外底糸切りの摩滅                                | 不明                         | 口縁部に煤が付着し、<br>内面も変色していると見られ、<br>灯明皿としての使用とわかる | 在地   | 不明                |
| 土坑14<br>72図8          | 小皿<br>変形小皿<br>方形 | 高台径4.2<br>器高(2.5)           | 陶器<br>灰白色                 | 透明釉を外底以外<br>全面に掛ける 貫入あり   | 糸切り細工の型押し成型で、<br>外底削り出し 貫入を意匠している            | 底部露胎                       |   | 瀬戸   | 19世紀後半か           |
| 土坑14<br>72図9          | 小皿               | 口径8.3<br>底径4.1<br>器高2.4     | 陶器<br>内面灰色、外面<br>橙色       | 鉄釉を内面から外面<br>中位まで   | 外底は糸切り                                       | 底部アルミナ<br>塗を厚く塗布           | 外面口縁部に煤付着<br>外底の墨書状のものは鉄釉か                    | 肥前   | 1690<br>＼<br>1750 |
| 土坑14<br>72図10         | 大鉢               | 口径(39.6)                    | 陶器<br>暗紫褐～茶褐色             | 内面に白化粧土を塗布して<br>帯状掻き取りし、内外面口縁部<br>に鉄釉を厚く掛ける   |  | —                          |   | 肥前   | 1750<br>＼<br>1860 |
| 土坑14<br>72図11         | 土瓶               | 口径(9.8)<br>底径(6.8)<br>器高9.3 | 陶器<br>にぶい暗淡黄灰色<br>精良      | 外底は削り出して基筒底状<br>白化粧土を胴中位の一部に打ち<br>ハケ目掛けし、鉄絵の竹笹文を<br>描いた後、緑灰色の灰釉で竹<br>笹文を上書きする 最後に外面<br>口縁部から胴下位に透明釉掛<br>け |  | 底部露胎 口<br>唇部と内面口<br>縁部は釉剥ぎ | 内面使用変色ほとんどなし                                  | 肥前   | 不明                |
| 土坑15<br>73図1          | 碗<br>半球形         | 口径(9.8)                     | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛<br>ける  | 外面には竹文のみ見えるが、<br>松竹梅文だろう 呉須染付                | 畳付釉剥ぎ                      |   | 肥前   | 1710<br>＼<br>1750 |
| 土坑15<br>73図2          | 小皿               | 口径13.1<br>高台径4.4<br>器高3.6   | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉 全面  | 内面に折松葉文と菊花文を<br>呉須染付                         | 胴下位露胎<br>見込みに蛇ノ<br>目釉剥ぎ    | 蛇ノ目釉剥ぎ部に<br>重ね焼き痕                             | 波佐見  | 17世紀後半            |
| 土坑15<br>73図3          | 皿                | 口径13.4<br>高台径7.4<br>器高3.5   | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉 全面掛け<br>貫入あり  | 口縁部は低い山形 外面唐草文、<br>内面は松ボックリと松の枝葉文<br>を呉須染付   | 蛇ノ目高台で、<br>台部釉剥ぎ           | 松文はアップで写<br>實的に描かれている                         | 肥前   | 18世紀後半            |
| 土坑15<br>73図4<br>図版16  | 5寸皿              | 口径13.9<br>底径7.8<br>器高3.1    | 磁器<br>完形のため不明             | 透明釉 全面 貫<br>入あり   | 外面無文、内面に山水文、<br>口唇部に口籍状の呉須染付                 | 畳付釉剥ぎ                      | 完形<br>歪みあり                                    | 不明   | 18世紀前半            |
| 土坑15<br>73図5          | 小皿<br>5寸皿        | 口径(14.0)<br>高台径7.6<br>器高3.8 | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛<br>ける 貫入あり   | 無文   | 畳付釉剥ぎ                      |   | 肥前   | 1700<br>＼<br>1740 |
| 土坑15<br>73図6          | 猪口               | 口径8.2<br>高台径5.1<br>器高5.4    | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け   | 外面竹文、裏銘渦福の呉須染付                               | 畳付釉剥ぎ<br>砂目付着              | 歪みあり  | 波佐見か | 1700<br>＼<br>1780 |
| 土坑15<br>73図7          | 香炉・火入            | 口径(10.5)<br>高台径5.1<br>器高6.7 | 陶器<br>黄灰白色                | 外面胴上半に鉄絵の竹笹文を<br>描いた後、透明釉掛け<br>外底に円の幅広い線刻   |  | 胴下半以下露胎                    | 京焼風陶器   | 肥前   | 不明                |
| 土坑15<br>73図8          | 鉢                | 高台径(9.8)                    | 陶器<br>灰白色<br>粗放           | 透明釉を外面胴中<br>位以上に掛ける<br>貫入あり   | 外底ケズリ  | 底部露胎                       | 内面変色なし  | 瀬戸   | 19世紀後半か           |
| 土坑15<br>73図9          | 仏飯器              | 口径(8.5)<br>裾径3.9<br>器高5.3   | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛<br>ける 貫入あり   | 無文   | 底面釉剥ぎ                      |   | 肥前   | 1690<br>＼<br>1780 |
| 土坑15<br>73図10         | 大甕               | 口径(100.6)                   | 土師質土器<br>灰白色 混入物<br>少ない   | —   | 外面観察不能 内面細かいハケ                               | 不明                         | 変色なし  | 在地   | 不明                |
| 土坑15<br>73図11         | 大甕               | 底径35.5                      | 土師質土器<br>淡灰色 白色粒<br>子多く含む | —   | 内外面目の細かいハケ 内<br>底面ナデ                         | 不明                         | 内外面に変色なし<br>器面の剥離もない                          | 在地   | 不明                |
| 土坑15<br>73図12         | 小碗               | 口径7.0<br>高台径3.2<br>器高3.0    | 陶器<br>完形のため不明             | 鉄釉を内面から外面<br>中位まで   | 高台削り出し                                       | 胴下半露胎                      | ほぼ完形<br>鉄釉は厚いところは<br>オリープ色を呈する                | 肥前   | 1690<br>＼<br>1780 |
| 土坑15<br>73図13         | 小碗               | 口径(7.6)<br>高台径3.0<br>器高4.3  | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け   | 外面に雨降文を呉須染付                                  | 畳付釉剥ぎ<br>砂目付着              |   | 波佐見  | 18世紀中葉            |
| 土坑15<br>73図14         | 杯                | 口径6.5<br>高台径2.4<br>器高2.6    | 磁器<br>白磁釉                 | 透明釉全面掛け   | 無文 口籍  | 畳付釉剥ぎ                      |   | 波佐見  | 1680<br>＼<br>1740 |
| 土坑15<br>73図15<br>図版16 | 急須               | 口径6.7<br>底径5.7<br>器高7.7     | 陶器<br>完形のため不明             | 無釉の焼き締め陶<br>器   | 型作りで、外底は布目痕残る<br>口唇部や注口の先端、把手の<br>先端など鉄釉が掛かる | 不明                         | ほぼ完形  | 不明   | 不明                |
| 土坑16<br>74図1          | 碗<br>半球形         | 口径(9.2)<br>高台径4.1<br>器高5.4  | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け   | 外面は花唐草文地に菊花文、<br>裏銘は渦福を呉須染付                  | 畳付釉剥ぎ                      |   | 肥前   | 1700<br>＼<br>1750 |
| 土坑16<br>74図2          | 小皿               | 口径6.0<br>底径4.4<br>器高1.3     | 土師質土器<br>にぶい黄灰色<br>軟質     | —   | 内外ナデ 外底糸切り                                   | 不明                         | 変色なし  | 在地   | 不明                |



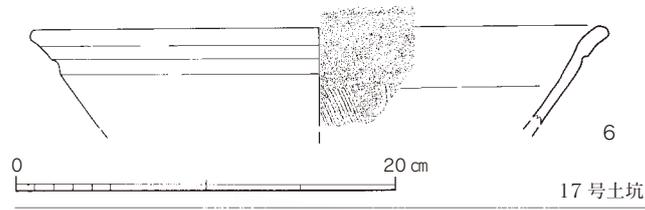
第73図 1次調査15号土坑出土土器・陶磁器実測図(10・11は1/6、他は1/3)

表34 1次調査出土土器・陶磁器観察表7

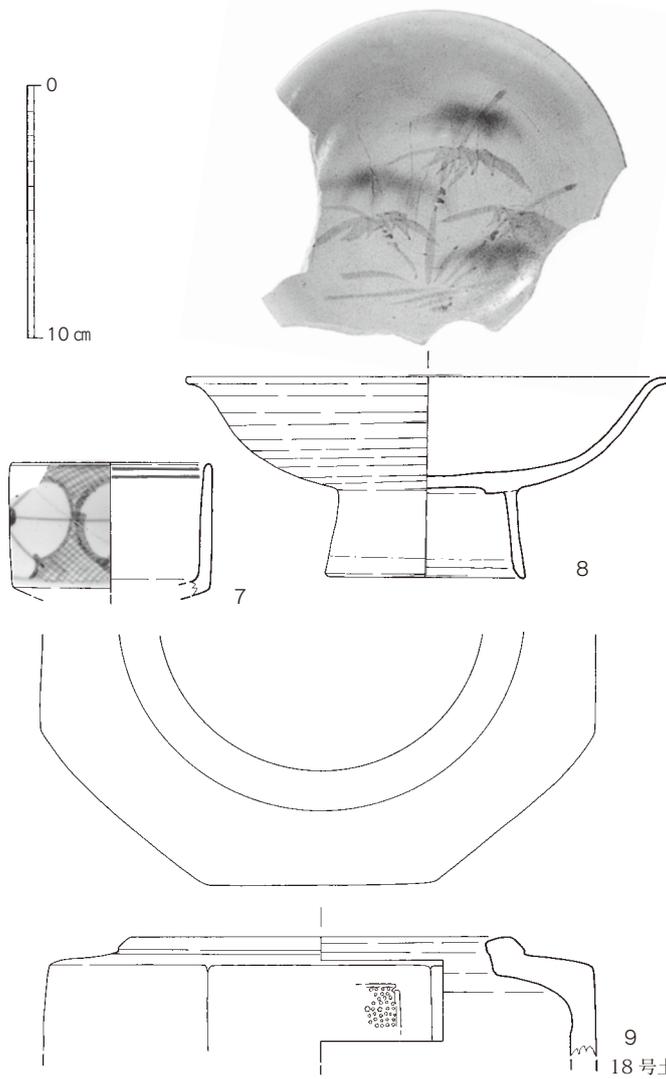
| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名   | 法量(cm)<br>( )は復元値           | 胎の種類                   | 釉薬   | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法  | 所 見                                     |      |                       |
|---------------------|-------------------|-----------------------------|------------------------|--|--|--|---|------|-----------------------|
|                     |                   |                             |                        |  |  |  | 特記事項                                    | 推定産地 | 推定年代                  |
| 土坑16<br>74図3        | 小皿                | 口径8.0<br>底径4.8<br>器高2.4     | 土師質土器<br>にぶい黄灰色<br>軟質  | —  | 内外ナデ 外底糸切り   | 不明   | 内外底部が赤変<br>している                         | 蒲池焼  | 不明                    |
| 土坑17<br>74図4        | 碗<br>筒形           | 口径(8.4)                     | 磁器<br>灰白色              | やや暗い透明釉全<br>面掛け  | 外面は草花文、内面口縁部四方襷文帯を具<br>須染付   | —  |   | 肥前   | 18世紀後半                |
| 土坑17<br>74図5        | 小皿<br>5寸皿         | 口径12.8<br>高台径4.4<br>器高3.8   | 磁器<br>暗灰白色             | 透明釉を全面に掛<br>ける   | 内面に二重網目文を具須染付に   | 曇付釉剥ぎ<br>見込みに蛇ノ目釉<br>剥ぎ                            | 蛇ノ目釉剥ぎ部<br>に重ね焼き痕と<br>融着片あり             | 波佐見  | 1750<br>～<br>1770     |
| 土坑17<br>74図6        | 摺鉢                | 口径(30.4)                    | 陶器<br>黄橙灰色<br>粗放       | 鉄釉を全面に掛け<br>る  | 外面ナデ 摺り目は単位不明  | —  |   | 小石原  | 1750<br>～<br>1860     |
| 土坑18<br>74図7        | 碗<br>筒形           | 口径(8.0)                     | 磁器<br>灰白色              | やや暗い透明釉全<br>面掛け  | 外面は格子目文地に菊花文を具須染付  | —  |   | 肥前   | 1780<br>～<br>1810     |
| 土坑18<br>74図8        | 台付皿               | 口径(19.0)<br>高台径9.8<br>器高8.0 | 陶器<br>黄灰白色             | 透明釉を全面掛け<br>貫入あり   | 見込みに鉄絵と緑灰色の灰釉の竹笹文  | 底部露胎   | 京焼風陶器                                   | 肥前   | 1780<br>～<br>1810     |
| 土坑18<br>74図9        | 火鉢                | 口径(14.8)                    | 瓦質土器<br>灰白色が黒灰<br>色を挟む | —  | 外面は型押しによる方形区画内に珠文の陽<br>刻、内面はナデ、外面区画の窓枠はミガキ<br>小片だが、8角形に復元できる                     | —  |   | 在地   | 不明                    |
| 土坑19<br>75図1        | 小碗                | 口径8.0<br>高台径3.5<br>器高4.2    | 磁器<br>灰白色              | 透明釉全面掛け  | 外面に楓文をコバルト染付   | 曇付釉剥ぎ  | 9割残存                                    | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 土坑19<br>75図2        | 碗                 | 口径(8.9)<br>高台径3.9<br>器高4.6  | 磁器<br>白磁釉              | 透明釉全面掛け  | 無文 口錆あり  | 曇付釉剥ぎ  |   | 波佐見  | 1680<br>～<br>1740     |
| 土坑19<br>75図3        | 小碗                | 口径8.6<br>高台径3.8<br>器高5.0    | 磁器<br>灰白色              | 透明釉全面掛け  | 無文 口錆あり  | 曇付釉剥ぎ  | 厚手なので波佐<br>見だろう                         | 波佐見  | 1680<br>～<br>1740     |
| 土坑19<br>75図4        | 碗<br>半球形          | 口径(10.0)<br>高台径3.9<br>器高4.4 | 陶器<br>黄灰白色             | 透明釉を外底部<br>以外に全面掛ける  | 見込みに鉄絵の山水文あり 外底に螺旋状<br>に円文を線刻  | 底部露胎   | 京焼風陶器                                   | 肥前   | 18世紀中葉<br>～<br>18世紀後葉 |
| 土坑19<br>75図5        | 碗                 | 口径9.8<br>高台径4.1<br>器高5.1    | 磁器<br>暗灰白色             | 発色の悪い透明釉<br>を全面に掛ける  | 外面二重網目文と内面網目文、見込み菊花<br>文、裏銘渦福の具須染付   | 曇付釉剥ぎ  | 釉溜まりあり                                  | 波佐見  | 1750<br>～<br>1770     |
| 土坑19<br>75図6        | 碗                 | 口径10.8<br>高台径4.1<br>器高4.0   | 陶器<br>暗紫灰色             | 発色不良のオリブ色<br>の灰釉を高台内削り出し   | 発色不良のオリブ色の灰釉を内面から外面胴中位に掛ける   | 見込みに蛇ノ目釉<br>剥ぎ 底部露胎                                |   | 肥前   | 不明                    |
| 土坑19<br>75図7        | 小皿                | 口径12.2<br>高台径4.6<br>器高3.6   | 陶器<br>暗紫灰色             | 発色不良のオリブ色<br>の灰釉を高台内削り出し   | 発色不良のオリブ色の灰釉を内面から外面胴中位に掛ける   | 見込みに蛇ノ目釉<br>剥ぎ 底部露胎                                |   | 肥前   | 不明                    |
| 土坑19<br>75図8        | 小皿                | 口径8.2<br>底径5.2<br>器高2.1     | 土師質土器<br>にぶい黄灰色<br>軟質  | —  | 内外ナデ 外底糸切り   | 不明   | 内面は口縁下に<br>煤付着、その下<br>は油変色、外面<br>は煤付着なし | 在地   | 不明                    |
| 土坑19<br>75図9        | 小皿<br>変形小皿<br>花卉形 | 口径14.0<br>高台径8.1<br>器高4.1   | 磁器<br>灰白色              | やや暗い透明釉<br>全面  | 型押し成型で、内面は蛸唐草文、外面側は<br>唐草文、見込みは菊花文、裏銘は渦福を具<br>須染付                                | 曇付釉剥ぎ  |   | 肥前   | 18世紀後半                |
| 土坑19<br>75図10       | 台付皿               | 口径(20.2)<br>高台径8.8<br>器高8.5 | 陶器<br>黄灰白色             | 透明釉を全面掛け<br>貫入あり   | 見込みに鉄絵と緑灰色の灰釉の竹笹文  | 底部露胎   | 京焼風陶器                                   | 肥前   | 1780<br>～<br>1810     |
| 土坑19<br>75図11       | 皿<br>花卉口縁         | 口径(21.6)<br>高台径7.6<br>器高7.1 | 陶器<br>暗灰褐色             | 外面胴上半と内面は白化粧土柳状掻き取り、<br>緑灰色の灰釉を掛ける 花卉は手で成型                                       | 外面胴上半と内面は白化粧土柳状掻き取り、<br>緑灰色の灰釉を掛ける   | 底部露胎 見込みに<br>環状の砂目付着<br>見込み蛇ノ目釉剥<br>ぎ部に重ね焼き痕<br>あり | 外底が上がつて<br>いるのは窯道具<br>のためか              | 肥前   | 不明                    |
| 土坑19<br>75図12       | 灰吹き               | 口径(6.4)<br>高台径4.9<br>器高9.2  | 陶器<br>淡橙色              | 外面胴下位から内面口縁部に白化粧土を<br>入れた後、透明釉を白化粧土と同じ範囲に<br>掛ける                                 | 外面胴下位から内面口縁部に白化粧土を<br>入れた後、透明釉を白化粧土と同じ範囲に<br>掛ける                                 | 胴下位屈曲部以下<br>は釉剥ぎ                                   | 京焼風陶器                                   | 肥前   | 1740<br>～<br>1780     |
| 土坑19<br>75図13       | 仏花瓶<br>変形         | 高台径7.0<br>最大径10.1           | 陶器<br>橙灰褐色             | 外面胴下位は鉄釉ハケ掛け、胴下位から<br>内面頸部まで白化粧土ハケ掛けし、柳状<br>掻き取り 最後に外面に緑彩の灰釉を流し<br>掛け 灰釉も鉄釉も発色不良 | 外面胴下位は鉄釉ハケ掛け、胴下位から<br>内面頸部まで白化粧土ハケ掛けし、柳状<br>掻き取り 最後に外面に緑彩の灰釉を流し<br>掛け 灰釉も鉄釉も発色不良 | 底部露胎   | 肩部に稜がある<br>のは17世紀後半<br>の特徴              | 肥前   | 17世紀後半<br>～<br>18世紀前半 |
| 土坑19<br>75図14       | 小碗<br>拳骨形         | 口径8.0                       | 陶器<br>淡橙白色             | 鉄釉の上に鉛釉を掛け、その上に薬<br>灰釉を流し掛け 側面はオサエによる窪<br>みあり                                    | 鉄釉の上に鉛釉を掛け、その上に薬<br>灰釉を流し掛け 側面はオサエによる窪<br>みあり                                    | —  |   | 小石原  | 不明                    |
| 土坑19<br>75図15       | 猪口                | 口径(9.4)<br>高台径5.0<br>器高6.0  | 磁器<br>灰白色              | 透明釉全面掛け  | 無文 碁笥底   | 曇付釉剥ぎ  |   | 肥前   | 17世紀中葉<br>～<br>18世紀前葉 |
| 土坑19<br>75図16       | 摺鉢                | 口径(33.6)                    | 陶器<br>灰色               | 鉄釉を口縁部に掛<br>ける   | 外面ナデ 摺り目は単位不明  | —  |   | 肥前   | 1650<br>～<br>1690     |
| 土坑19<br>75図17       | 鉢<br>こね鉢          | 口径(45.6)                    | 陶器<br>茶褐色<br>マーブル手     | 鉄釉を全面に掛け<br>る  | 外面格子目タタキ当て具痕ナデ消し、<br>内面は格子目タタキ当て具痕ナデ消し<br>しているが部分的に残る                            | 不明   | マーブル手の胎<br>だが、鉄釉の釉<br>調は肥前に近い           | 肥前か  | 不明                    |
| 土坑19<br>75図18       | 瓶<br>ミニチュア        | 高台径2.5                      | 磁器<br>灰白色<br>白磁釉       | 白磁釉を外面に掛<br>ける   | 無文 高台削り出し  | 曇付釉剥ぎ  |   | 肥前   | 17世紀代                 |



16号土坑

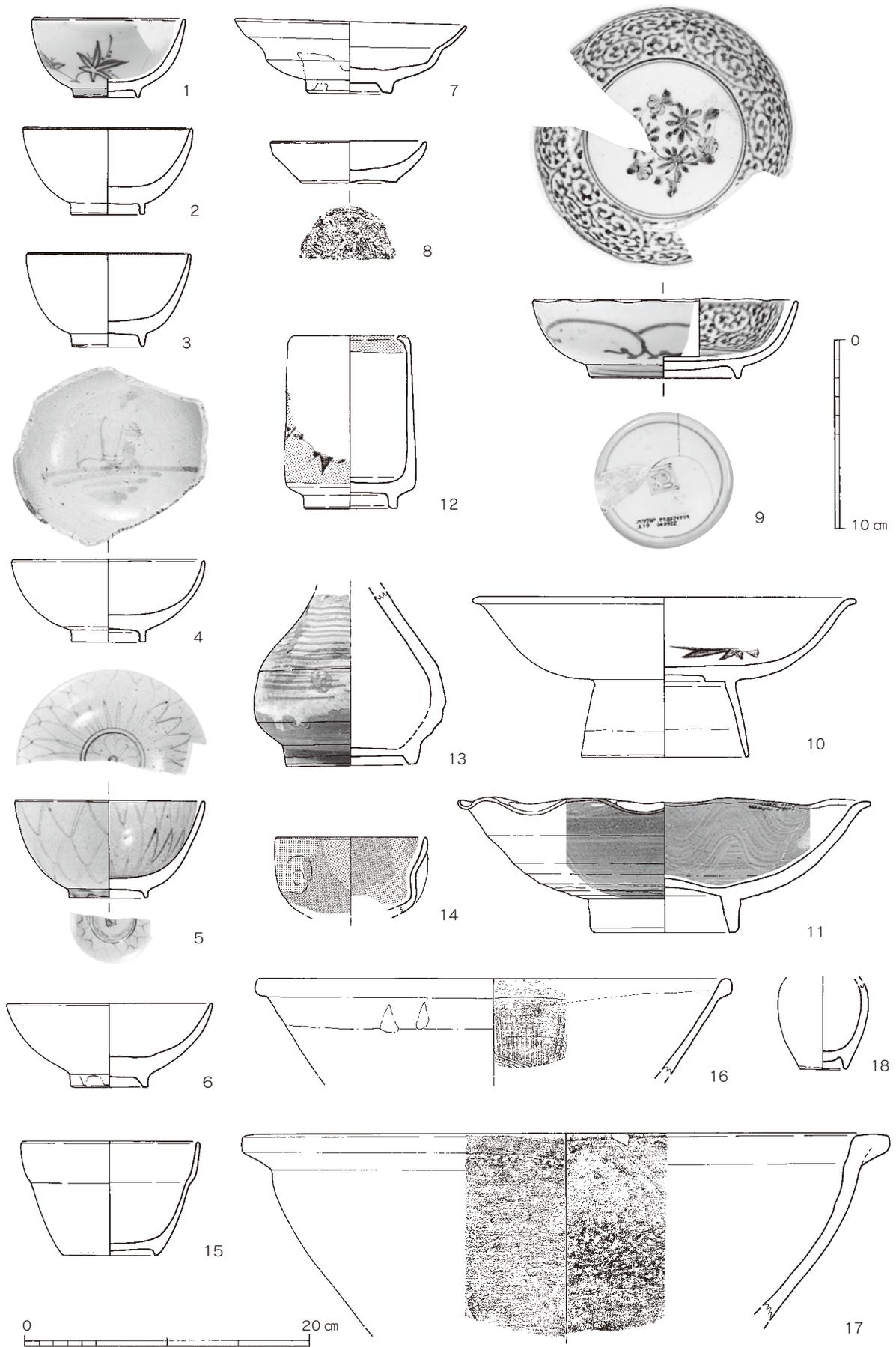


17号土坑



18号土坑

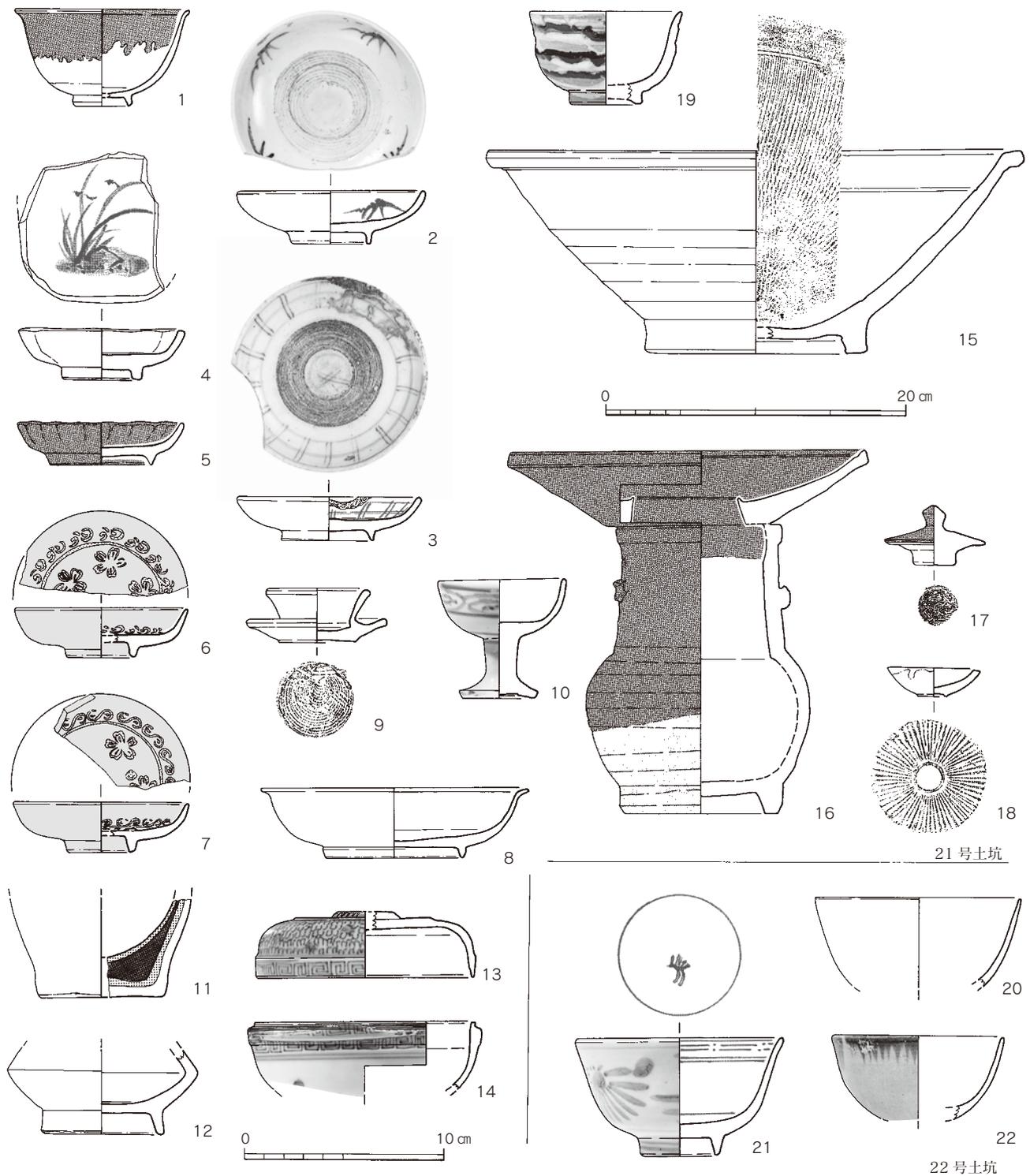
第74図 1次調査16~18号土坑出土土器・陶磁器実測図(6は1/4、他は1/3)



第75図 1次調査19号土坑出土土器・陶磁器実測図(16・17は1/4、他は1/3)

表35 1次調査出土土器・陶磁器観察表8

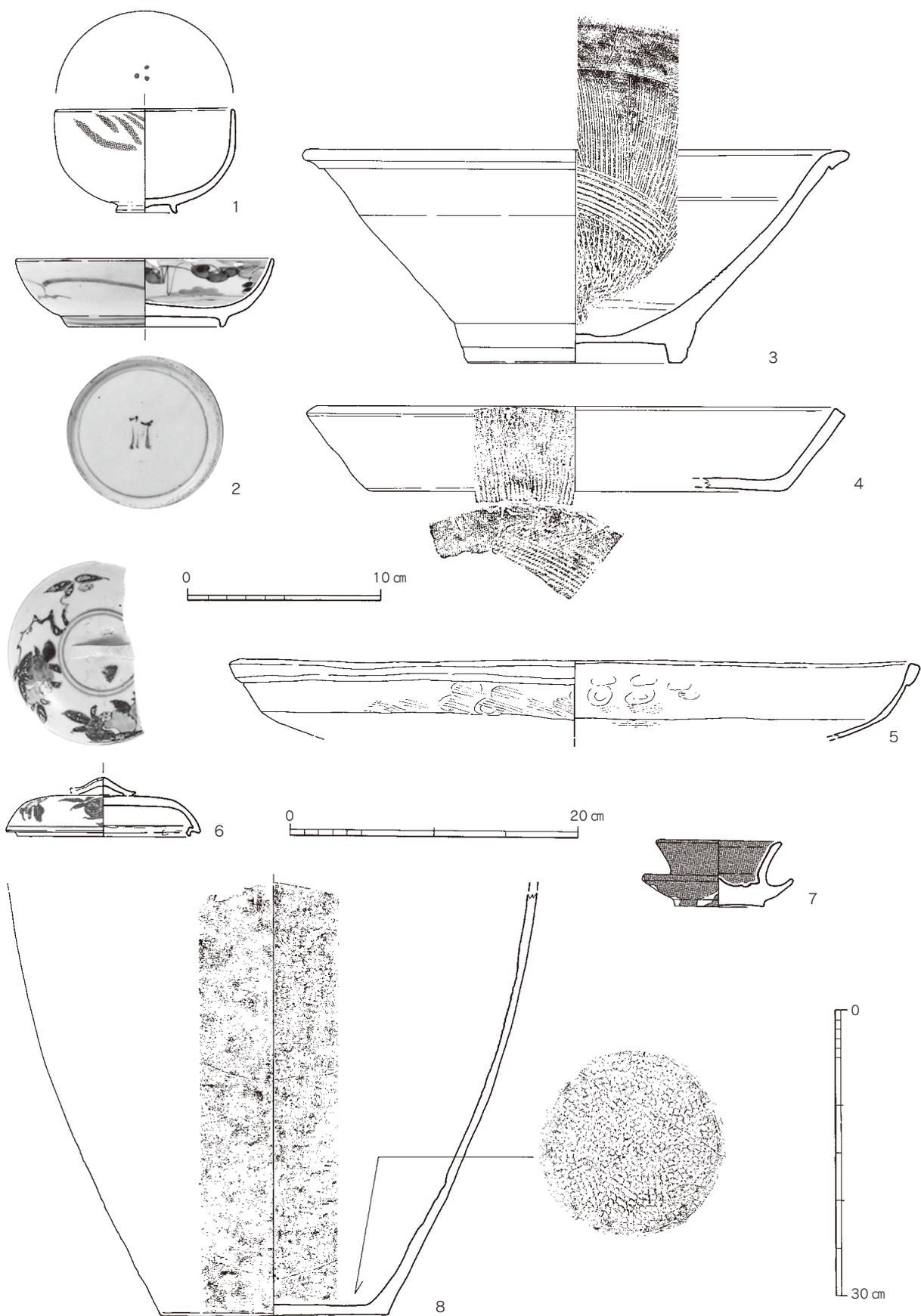
| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号   | 器種<br>形状<br>通称名    | 法量(cm)<br>( )は復元値             | 胎の種類                   | 釉薬  | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法               | 所 見                      |      |                   |
|-----------------------|--------------------|-------------------------------|------------------------|---|--|---------------------|--------------------------|------|-------------------|
|                       |                    |                               |                        |   |  |                     | 特記事項                     | 推定産地 | 推定年代              |
| 土坑21<br>76図1          | 小碗<br>端反形          | 口径(8.6)<br>高台径2.8<br>器高4.9    | 陶器<br>黄灰白色             | 内外口縁部に銅緑釉を掛けた後、透明釉を全面掛け 貫入あり  |  | 胴下位釉剥ぎ              | 透明釉が口縁部と外面胴中位で白く変色している   | 肥前   | 19世紀中葉            |
| 土坑21<br>76図2          | 小皿                 | 口径9.2<br>高台径3.8<br>器高2.7      | 磁器<br>灰白色              | 透明釉を全面に掛ける  | 内面は竹笹文の呉須染付  | 畳付釉剥ぎ<br>見込みに蛇の目釉剥ぎ | 蛇ノ目釉剥ぎ部に重ね焼き痕と融着片あり      | 肥前   | 19世紀中葉            |
| 土坑21<br>76図3          | 小皿                 | 口径9.0<br>高台径4.6<br>器高2.2      | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面  | 内面に格子文、見込みに井形文 呉須で染付                                       | 畳付釉剥ぎ<br>見込みに蛇ノ目釉剥ぎ | 蛇ノ目釉剥ぎ部に重ね焼き痕 口縁打ち欠き部に煤付 | 肥前   | 19世紀中葉            |
| 土坑21<br>76図4          | 小皿<br>変形小皿<br>方形   | 口径(8.3)<br>高台径3.9<br>器高2.6    | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面 貫入あり   | 見込みに草文の呉須染付  | 畳付釉剥ぎ               |                          | 肥前   | 不明                |
| 土坑21<br>76図5          | 小皿<br>菊花形          | 口径(8.2)<br>高台径(5.2)<br>器高2.1  | 磁器<br>灰白色              | 瑠璃釉 全面  | 型打ち成型 口錆   | 畳付釉剥ぎ               |                          | 肥前か  | 不明                |
| 土坑21<br>76図6          | 小皿                 | 口径(8.5)<br>高台径(3.5)<br>器高2.5  | 陶器<br>橙褐色              | 三鳥手のモチーフを見込みに刻印し、暗いオリーブ色の灰釉を全面掛けた後、印刻部に白化粧土を掛けて、印刻部以外を拭き取って象嵌し、透明釉全面掛け 貫入あり |  | 畳付釉剥ぎ               | 象嵌のS字文はスタンプ              | 肥前   | 不明                |
| 土坑21<br>76図7          | 小皿                 | 口径(8.7)<br>高台径(3.4)<br>器高2.5  | 陶器<br>橙褐色              | 三鳥手のモチーフを見込みに刻印し、暗いオリーブ色の灰釉を全面掛けた後、印刻部に白化粧土を掛けて、印刻部以外を拭き取って象嵌し、透明釉全面掛け 貫入あり |  | 畳付釉剥ぎ<br>見込みにハリ目あり  | 象嵌のS字文はスタンプ              | 肥前   | 不明                |
| 土坑21<br>76図8          | 小皿                 | 口径(13.2)<br>高台径7.0<br>器高3.5   | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面  | 無文   | 畳付釉剥ぎ               |                          | 肥前   | 1690<br>S<br>1780 |
| 土坑21<br>76図9          | 灯明受皿               | 口径(5.2)<br>最大径7.0<br>底径3.8    | 陶器<br>橙褐色              | 鉄釉を内面から外面裾中位まで  | 外底は糸切り   | 裾下半露胎<br>胎土目跡あり     | 鉄釉は厚いところはオリーブ色を呈する       | 肥前   | 不明                |
| 土坑21<br>76図10         | 仏飯器                | 口径(6.4)<br>裾径3.9<br>器高6.0     | 磁器<br>灰白色              | 透明釉を全面に掛ける 貫入あり   | 外面蛸唐草文呉須染付   | 畳付釉剥ぎ               |                          | 肥前   | 1780<br>S<br>1860 |
| 土坑21<br>76図11         | 焼塩壺                | 底径(6.4)                       | 土師質土器<br>にぶい黄灰白色<br>精良 | —   | 外底摩擦しているが糸切り 内外面ナデ   | —                   | 内面から断面赤変し、外面は赤変していない     | 蒲池焼  | 不明                |
| 土坑21<br>76図12         | 瓶<br>尊形            | 高台径6.2                        | 陶器<br>黄灰色              | 白化粧土を外面に掛けた後、透明釉上掛け 透明釉は発色不良  |  | 畳付釉剥ぎ               |                          | 肥前   | 不明                |
| 土坑21<br>76図13<br>図版16 | 蓋                  | 裾径11.0<br>つまみ長軸(3.4)<br>器高3.3 | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面  | 外面は微塵唐草に蝶文、天井部は雲文、口縁部は雷文帯、つまみは三つ葉の浮文貼り付け 呉須染付              | 受け部釉剥ぎ              | 75図14の身とセットになる           | 肥前   | 19世紀前半            |
| 土坑21<br>76図14<br>図版16 | 蓋物                 | 口径11.0                        | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面  | 外面は雲文と珠文、口縁部は雷文帯、呉須染付                                      | 受け部釉剥ぎ              | 口縁部に75図13の蓋の裾部片が融着している   | 肥前   | 19世紀前半            |
| 土坑21<br>76図15         | 摺鉢                 | 口径(35.4)                      | 陶器<br>橙褐色              | 発色の悪い鉄釉全面掛け   | 外面上半分はナデ、下半分はケズリ摺り目は27本単位                                  | 見込みに蛇の目焼き重ね痕 畳付釉剥ぎ  | 内面の重ね焼き以下は鉄釉が発色していない     | 肥前   | 1750<br>S<br>1860 |
| 土坑21<br>76図16         | 瓶<br>仏花瓶           | 口径18.1<br>高台径7.6<br>器高18.2    | 陶器<br>暗紫灰色             | 鉄漿を外面胴下位にハケ掛けし、鉄釉を外面胴中位から内面頸部に掛ける   | 耳部は手捏ね成形で、退化しているため本来のモチーフがわからない                            | 底部露胎 畳付から高台内部は砂目付   |                          | 肥前   | 不明                |
| 土坑21<br>76図17<br>図版16 | 小蓋                 | 裾径9.0<br>つまみ径1.0<br>器高2.0     | 陶器<br>橙褐色              | 鉄釉を上面に掛ける釉切れあり  | 底部は糸切り   | 下半釉剥ぎしているが、釉の残りあり   | 茶入れの蓋か                   | 肥前   | 不明                |
| 土坑21<br>76図18<br>図版16 | 紅猪口<br>紅皿          | 口径4.6<br>高台径1.5<br>器高1.5      | 磁器<br>完形のため不明          | 白磁釉 内面から外面口縁部   | 型打ち成型で、外面菊花文   | 底部露胎                | 完形                       | 肥前   | 不明                |
| 土坑21<br>76図19         | 小碗<br>端反形<br>ピラ掛け碗 | 口径(7.6)<br>高台径3.6<br>器高4.1    | 陶器<br>にぶい淡黄橙色          | 内面に長石釉を掛けた後、外面に長石釉を格子状にイッチン掛けし、その上に黒釉を横に3条上掛ける                              |  | 高台露胎                |                          | 萩焼   | 19世紀前半            |
| 土坑22<br>76図20         | 碗                  | 口径10.2                        | 磁器<br>灰白色              | 透明釉全面掛け   | 無文   | —                   |                          | 肥前   | 1700<br>S<br>1740 |
| 土坑22<br>76図21         | 碗<br>端反形           | 口径10.2<br>高台径3.8<br>器高6.0     | 磁器<br>灰白色              | 透明釉全面掛け 発色不良  | 外面は菊花文・草文 内面は口縁部に2重の1点破線文 見込みは崩れた波文か 呉須染付                  | 畳付釉剥ぎ<br>アルミナ付着     |                          | 肥前   | 19世紀中葉            |
| 土坑22<br>76図22         | 小碗                 | 口径(8.6)                       | 磁器<br>灰白色              | 暗い透明釉全面掛け   | 外面は雨降文の呉須染付  | 畳付釉剥ぎ               |                          | 肥前   | 18世紀後半            |
| 土坑23<br>77図1          | 碗<br>腰張形           | 口径(9.4)<br>高台径3.2<br>器高5.5    | 陶器<br>黄灰白～暗黄灰色         | 緑白灰色の灰釉を胴下位以外に掛ける   | 見込みに青彩で三ツ星文を上絵付け 外面に緑彩と赤彩の上絵付け 口縁部がやや外反する                  | 底部露胎                |                          | 京焼か  | 1780<br>S<br>1810 |
| 土坑23<br>77図2          | 小皿                 | 口径13.4<br>高台径8.0<br>器高3.5     | 磁器<br>灰白色              | 透明釉を全面に掛ける  | 外面は崩れた唐草文、裏銘は崩れた「大明年製」、内面胴部は扇形区画文内に鳥文、それ以外は葡萄文、見込みに5弁花文が入る | 畳付釉剥ぎ               |                          | 波佐見  | 1680<br>S<br>1740 |



第76図 1次調査21・22号土坑出土土器・陶磁器実測図(15は1/4、他は1/3)

表36 1次調査出土土器・陶磁器観察表9

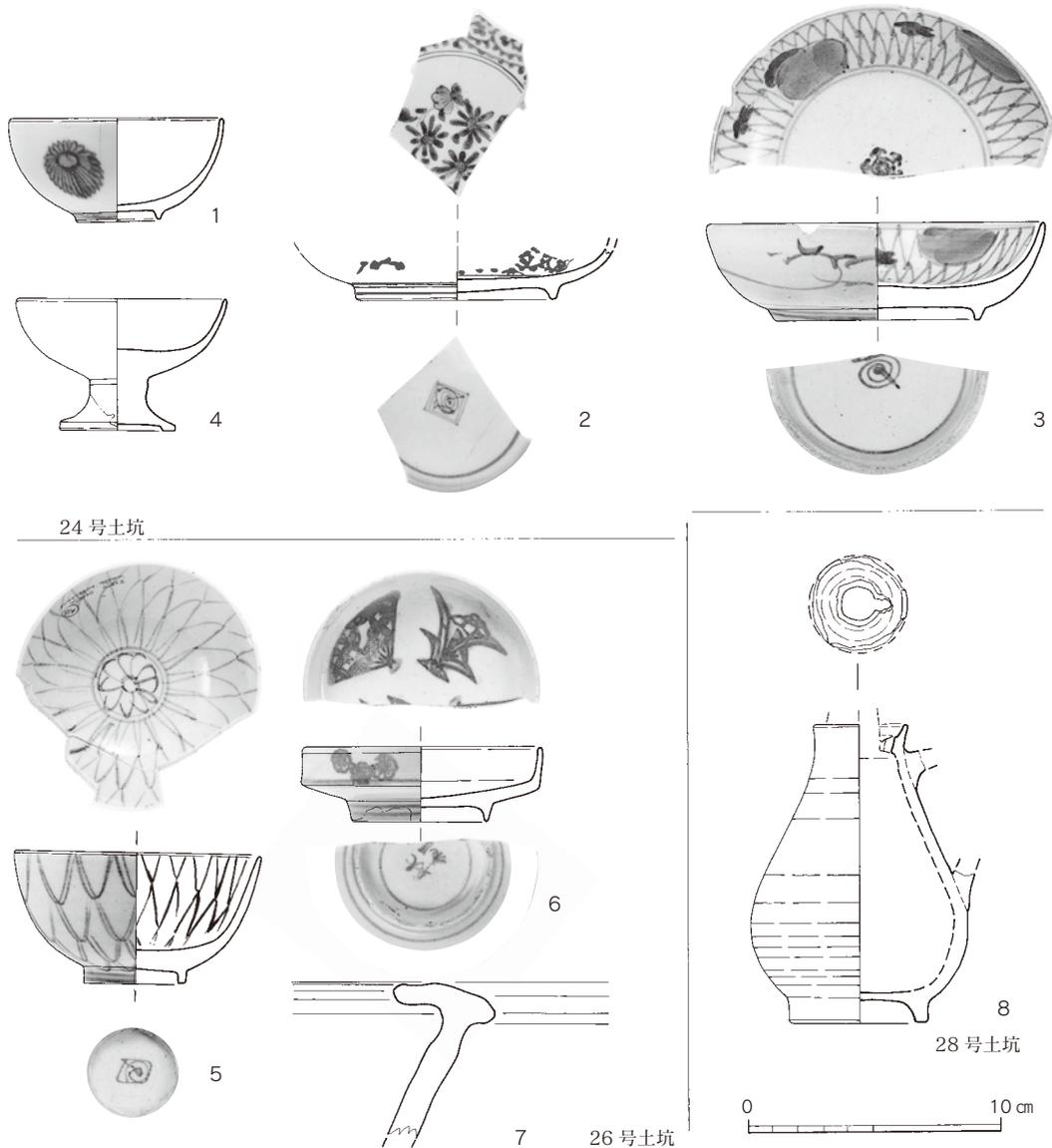
| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値               | 胎の種類                    | 釉薬             | 調整・整形・装飾技法                                | 窯詰め技法                     | 所見                         |      |                   |
|---------------------|-----------------|---------------------------------|-------------------------|----------------|---|---------------------------|----------------------------|------|-------------------|
|                     |                 |                                 |                         |                |   |                           | 特記事項                       | 推定産地 | 推定年代              |
| 土坑23<br>77図3        | 摺鉢              | 口径(37.0)<br>高台径(14.8)<br>器高14.9 | 陶器<br>橙褐色               | 鉄釉全面掛け         | 外面上半分はナデ、下半分はケズリ摺り目は15本単位                 | 見込みに蛇の目焼き重ね痕 畳付軸剥ぎ後アルミナ塗布 | アルミナは外面高台にも掛かる             | 肥前   | 1750<br>~<br>1860 |
| 土坑23<br>77図4        | 鉢               | 口径(27.0)<br>底径(22.0)<br>器高4.4   | 瓦質土器 灰白色が黒灰色を挟む 金雲母を含む  | —              | 型内面はハケ状のナデで、外面体部は縦ハケ、外底は目の太いハケと細かいハケが交差する | 不明                        | 内底が黒変、外面口縁部が煤付着しており灯明皿だろうか | 在地   | 不明                |
| 土坑23<br>77図5        | 焙烙              | 口径(46.6)                        | 土師質土器にぶい暗黄灰色            | —              | 外面口縁下はオサエ後粗いハケ、外底はナデ、内面は丁寧なナデ             | 不明                        | 内面は変色なし、外面は煤付着し、全体的に黒変     | 在地   | 不明                |
| 土坑23<br>77図6        | 蓋               | 裾径9.0<br>つまみ長軸3.3<br>器高3.0      | 磁器<br>灰白色               | 透明釉 全面         | 外面は花本文を呉須染付 つまみは板状で、上面に格子目沈線              | 受け部軸剥ぎ                    |                            | 肥前   | 18世紀後半            |
| 土坑23<br>77図7        | 灯明受皿            | 口径(6.5)<br>最大径7.8<br>底径4.7      | 陶器<br>暗橙褐色              | 鉄釉を内面から外面裾中位まで | 外底は糸切り                                    | 裾下半露胎                     |                            | 肥前   | 不明                |
| 土坑23<br>77図8        | 大甕              | 底径24.0                          | 陶器<br>暗紫灰色で灰白色がマール状に混じる | 鉄釉全面掛け         | 内外面格子目タタキで、部分的にナデ消し、外底部は調整不明              | 外底にアルミナ塗布                 |                            | 肥前   | 17世紀後半            |



第77図 1次調査23号土坑出土土器・陶磁器実測図(3・5は1/4、8は1/6、他は1/3)

表37 1次調査出土土器・陶磁器観察表10

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値            | 胎の種類      | 釉薬           | 調整・整形・装飾技法  | 窯詰め技法      | 所見                  |      |                   |
|---------------------|-----------------|------------------------------|-----------|--------------|---|------------|---------------------|------|-------------------|
|                     |                 |                              |           |              |   |            | 特記事項                | 推定産地 | 推定年代              |
| 土坑24<br>78図1        | 小碗<br>半球形       | 口径(8.4)<br>高台径(3.2)<br>器高4.0 | 磁器<br>灰白色 | 透明釉を全面に掛ける   | 外面には菊花文と胴下位に隅丸雷文帯の呉須染付                            | 畳付釉剥ぎ      |                     | 肥前   | 1710<br>~<br>1750 |
| 土坑24<br>78図2        | 小皿              | 高台径7.9                       | 磁器<br>灰白色 | 透明釉 全面掛け     | 外面は唐草文、内面は蛸唐草文、見込みに花文 裏銘は満福の呉須染付                  | 畳付釉剥ぎ      |                     | 肥前   | 18世紀中葉            |
| 土坑24<br>78図3<br>475 | 小皿<br>くらわんか手    | 口径13.4<br>高台径8.0<br>器高3.9    | 磁器<br>灰白色 | やや暗い透明釉 全面掛け | 外面は唐草文、内面は網目文と雲文、見込みは5弁花文、裏銘は満福を呉須染付              | 畳付釉剥ぎ 砂目付着 | 5割残存 外面は焼けすぎによる変色あり | 波佐見  | 1680<br>~<br>1740 |
| 土坑24<br>78図4        | 仏飯器             | 口径(8.2)<br>裾径4.6<br>器高5.2    | 磁器<br>灰白色 |              | 無文  | 底部釉剥ぎ      |                     | 肥前   | 1690<br>~<br>1780 |
| 土坑26<br>78図5        | 碗               | 口径9.7<br>高台径4.0<br>器高5.1     | 磁器<br>灰白色 | 透明釉を全面に掛ける   | 外面に二重網目文と内面網目文、見込みに菊花文、裏銘は満福の呉須染付                 | 畳付釉剥ぎ 砂目付着 |                     | 波佐見  | 1750<br>~<br>1770 |
| 土坑26<br>78図6        | 小皿              | 口径(9.5)<br>高台径5.4<br>器高3.0   | 磁器<br>灰白色 | 透明釉 全面掛け     | 外面は3つで1セットの花文、見込みは菖蒲文と扇文のコンニャク印判刷り、裏銘は「大明年製」を呉須染付 | 畳付釉剥ぎ      | 5割残存                | 肥前   | 1700<br>~<br>1740 |

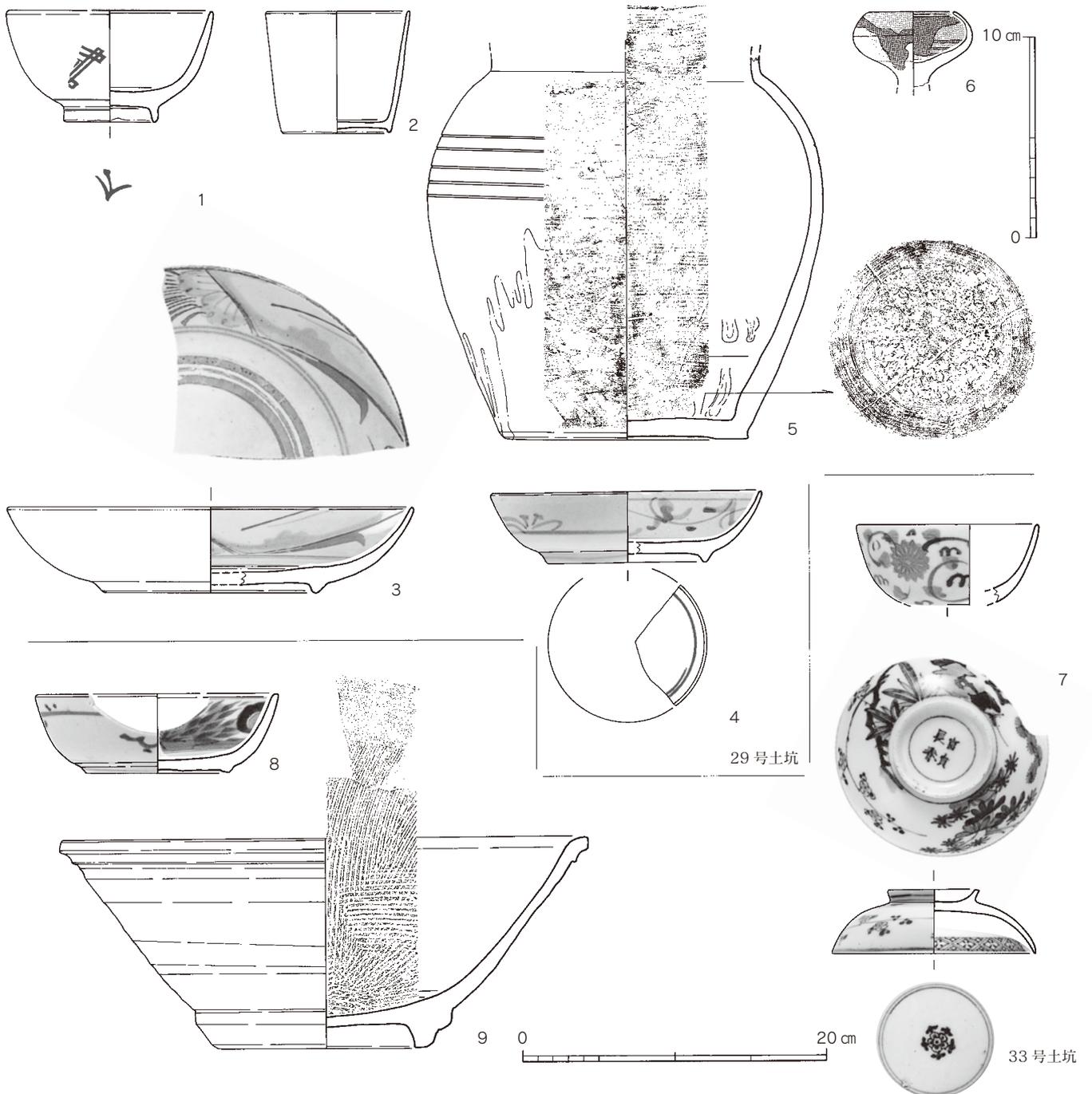


第78図 1次調査24・26・28号土坑出土土器・陶磁器実測図(1/3)

表38 1次調査出土土器・陶磁器観察表11

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名     | 法量(cm)<br>( )は復元値             | 胎の種類                           | 釉薬   | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法                                  | 所 見                            |      |                       |
|---------------------|---------------------|-------------------------------|--------------------------------|--|--|--|--------------------------------|------|-----------------------|
|                     |                     |                               |                                |  |  |  | 特記事項                           | 推定産地 | 推定年代                  |
| 土坑26<br>78図7        | 大甕                  | —                             | 陶器<br>内面灰褐色、外面<br>黒灰色          | 鉄釉全面掛け   | 内外ナデ   | —                                      | 口縁部は釉剥<br>ぎしていない               | 肥前   | 17世紀後半                |
| 土坑28<br>78図8        | 瓶<br>油壺             | 高台径5.4                        | 陶器<br>にぶい灰色                    | 黒釉を外全面に<br>掛ける 内面はど<br>こまで掛かっている<br>か不明  | 無文   | 豊付釉剥ぎ 砂目<br>付着                         | 肥前にしては<br>胎が灰色か                | 肥前か  | 不明                    |
| 土坑29<br>79図1        | 小型碗<br>半球形          | 口径(10.0)<br>高台径4.6<br>器高5.5   | 磁器<br>暗灰白色                     | 透明釉を全面に掛<br>ける   | 外面には武田菱文コン<br>ニャク印判刷り、裏<br>銘に崩れた「大明」を<br>呉須染付                                    | 豊付釉剥ぎ                                  |                                | 波佐見  | 1750<br>＼<br>1770     |
| 土坑29<br>79図2        | 猪口                  | 口径7.0<br>高台径5.4<br>器高6.1      | 磁器<br>灰白色                      | 発色不良で乳白色<br>を呈する透明釉<br>貫入あり  | 無文   | 豊付釉剥ぎ                                  |                                | 肥前   | 1700<br>＼<br>1780     |
| 土坑29<br>79図3        | 小皿<br>5寸皿<br>くらわんか手 | 口径20.0<br>高台径10.6<br>器高4.3    | 磁器<br>暗灰白色                     | やや暗い透明釉<br>全面掛け  | 外面は無文、内面は<br>花葉文と扇形窓文<br>内雲文呉須染付、そ<br>の上に赤絵を入れ、<br>口紅も入る 見込み<br>の蛇ノ目釉剥ぎ部<br>にも赤絵 | 豊付釉剥ぎ 見込<br>み蛇ノ目釉剥ぎ                    |                                | 波佐見  | 18世紀中葉<br>＼<br>19世紀前葉 |
| 土坑29<br>79図4        | 小皿<br>5寸皿<br>くらわんか手 | 口径13.4<br>高台径7.8<br>器高3.5     | 磁器<br>暗灰白色                     | 発色不良の暗い透<br>明釉 全面掛け  | 外面は直線の上に草<br>花文、内面は崩れた<br>唐草文呉須染付  | 豊付釉剥ぎ                                  |                                | 波佐見  | 1750<br>＼<br>1810     |
| 土坑29<br>79図5        | 中型甕                 | 肩部径26.0<br>底径16.0             | 陶器<br>外面側暗灰色、内<br>面側暗紫灰色       | 内外鉄釉薄掛け  | 外面カキ目、内面<br>格子目タキ当て具<br>痕の上を横ナデ、内<br>底は格子目タキ当て<br>具痕跡が円形に巡る                      | 外底アルミナ付着                               | 外底部はアル<br>ミナのため観<br>察できない      | 肥前   | 不明                    |
| 土坑29<br>79図6        | 瓶<br>乗燭             | 口径4.1                         | 陶器<br>橙黄色                      | 鉄釉内面から外面<br>口縁部掛け その上<br>に黒釉流し掛け 内<br>面に芯立での痕跡あり   |  | 底部露胎                                   |                                | 肥前   | 不明                    |
| 土坑33<br>79図7        | 碗                   | 口径(9.0)                       | 磁器<br>灰白色                      | 透明釉全面掛け  | 外面はコンニャク印<br>判刷りの菊花文を中<br>心とする唐草文の呉<br>須染付                                       | 豊付釉剥ぎ                                  |                                | 肥前   | 1700<br>＼<br>1740     |
| 土坑33<br>79図8        | 小皿                  | 口径(12.0)<br>高台径7.0<br>器高3.9   | 磁器<br>灰白色<br>焼成不良              | 透明釉を全面に掛<br>ける   | 外面唐草文、内面<br>花草文か、見込みに<br>不明モチーフを呉須<br>染付   | 蛇ノ目高台で、台<br>部釉剥ぎ                       | 小片なので口<br>縁部形態や、見込<br>み文、裏銘は不明 | 波佐見か | 1680<br>＼<br>1740     |
| 土坑33<br>79図9        | 摺鉢                  | 口径(34.8)<br>高台径14.5<br>器高14.0 | 陶器<br>橙褐色                      | 内外面鉄釉掛け  | 摺り目は16本単位<br>外面ナデ  | 豊付釉剥ぎ後砂目<br>付着 見込みに環<br>状重ね焼き痕あり       | 見込みの窪みに<br>は胎土目跡か              | 肥前   | 1750<br>＼<br>1860     |
| 土坑33<br>79図10       | 蓋                   | 裾径10.0<br>つまみ径4.4<br>器高3.2    | 磁器<br>灰白色                      | 透明釉 全面   | 外面は松竹梅文は、<br>天井部裏銘は「富貴<br>長春」、内面裾部は<br>四方摺文帯で、内<br>面天井部に5弁花文<br>を呉須染付            | つまみ部上端釉剥<br>ぎ                          |                                | 肥前   | 18世紀後半                |
| 土坑35<br>80図1        | 小皿                  | 口径(13.8)<br>高台径(9.0)<br>器高4.3 | 磁器<br>灰白色                      | 透明釉全面掛け  | 型打ち成型 内面<br>に花唐草文、外面は<br>唐草文、裏銘は「福<br>か」呉須染付                                     | 豊付釉剥ぎ                                  |                                | 肥前   | 18世紀後半                |
| 土坑36<br>80図2        | 碗<br>筒形             | 高台径3.7                        | 磁器<br>灰白色                      | 透明釉を全面に掛<br>ける 貫入あり  | 外面は上半分が失<br>われており判然とし<br>ないが建物に藤だろ<br>うか、見込みに5<br>弁花文のコンニャク<br>印判刷り呉須染付          | 豊付釉剥ぎ                                  | 胎の色から波<br>佐見の可能性あり             | 波佐見か | 1780<br>＼<br>1810     |
| 土坑36<br>80図3        | 台付皿                 | 高台径8.5                        | 陶器<br>黄灰白色                     | 透明釉全面掛け<br>貫入あり  | 見込みに鉄絵で竹<br>笹文 台部は別造り<br>によるものを貼り付<br>け  | 台下部釉剥ぎ                                 | 高台の貼り付<br>け位置がずれて<br>いる        | 肥前   | 1690<br>＼<br>1780     |
| 土坑36<br>80図4        | 小皿                  | 口径5.8<br>底径4.0<br>器高1.6       | 土師質土器<br>にぶい黄灰色<br>軟質          | —  | 内外ナデ 外底<br>糸切り   | 不明                                     | 変色なし                           | 蒲池焼  | 不明                    |
| 土坑36<br>80図5        | 小皿                  | 口径8.5<br>底径4.4<br>器高2.1       | 陶器<br>外面側にぶい橙<br>褐色、内面側灰<br>褐色 | 内面から外面胴中<br>位まで鉄釉掛け  | 外底糸切りか<br>器面はナデ  | 底部露胎で、アル<br>ミナ塗布                       |                                | 肥前   | 不明                    |
| 土坑36<br>80図6        | 鉢                   | 口径(22.3)<br>底径(15.8)<br>器高4.4 | 土師質土器<br>にぶい黄灰色 金<br>雲母を含む     | —  | 型作りで、内面は<br>ハケ状のナデで、外<br>面体部は未調整、外<br>底はハケ状のナデ                                   | 不明                                     | 内底が黒変、<br>外面口縁部が<br>煤付着        | 在地   | 不明                    |
| 土坑36<br>80図7        | 小型瓶<br>仏花瓶          | 高台径5.2                        | 磁器<br>灰白色                      | 透明釉を全面に掛<br>ける 発色不良  | 外面にモチーフ不<br>明の文様の一部を<br>呉須染付   | 豊付釉剥ぎ                                  |                                | 肥前   | 1690<br>＼<br>1750     |
| 土坑36<br>80図8        | 仏飯器                 | 口径(7.1)<br>裾径3.4<br>器高4.9     | 磁器<br>灰白色                      | 透明釉 内面から<br>外面高台下位まで   | 外面に界線を呉須<br>染付   | 底部露胎                                   |                                | 肥前   | 1690<br>＼<br>1780     |
| 土坑37<br>80図9        | 碗<br>筒形             | 口径5.8<br>高台径2.8<br>器高3.9      | 磁器<br>灰白色                      | 透明釉全面掛け  | 外面に不明文、内<br>面底は5弁花文を<br>呉須染付   | 豊付釉剥ぎ                                  |                                | 肥前   | 18世紀後半<br>＼<br>19世紀前葉 |
| 土坑41下層<br>80図10     | 小皿<br>変形小皿<br>花卉形   | 口径13.7<br>高台径8.1<br>器高4.0     | 磁器<br>灰白色                      | やや暗い透明釉<br>全面  | 型押し成型で、内<br>面は蜻蛉草文、外面<br>側は唐草文、見込<br>みは菊花文、裏銘<br>は渦福の呉須染付                        | 豊付釉剥ぎ                                  |                                | 肥前   | 18世紀後半                |
| 土坑41下層<br>80図11     | 鉢                   | 高台径13.5                       | 陶器<br>橙褐色                      | 外面胴下位に鉄<br>釉ハケ掛け、その<br>上位は白化粧土を<br>ハケ掛けて柳状掻<br>き取り、内面は白<br>化粧土をハケ掛け<br>して、暗緑灰色の<br>灰釉を流し掛け |  | 高台釉剥ぎ 見込<br>みと高台に環状に<br>巡る胎土目跡8つ<br>あり |                                | 肥前   | 1750<br>＼<br>1860     |

76図1は陶器の小碗で、透明釉が口縁部と外面胴中位で白く変色している。これは焼成時の灰被りによるためと考えられる。76図6は陶器の小皿で、三島手の象嵌のS字文には線の一部が切れる特徴があるが、どのS字文にも見られるので、同じスタンプで施文しているとわかる。76図13と14はセットになる染付の蓋物で、焼成時に14の口縁部に13の蓋の裾部片が融着していたらしく、蓋に融着した破片と接合する。したがって、焼成後に融着していた蓋と身を本体部分が割れないように外して、販売したものであろう。76図15は陶器の摺鉢で、外面胴下半と高台内面は露胎のように見えるが、鉄釉が発色していないだけで、釉は掛かっている。76図16は陶



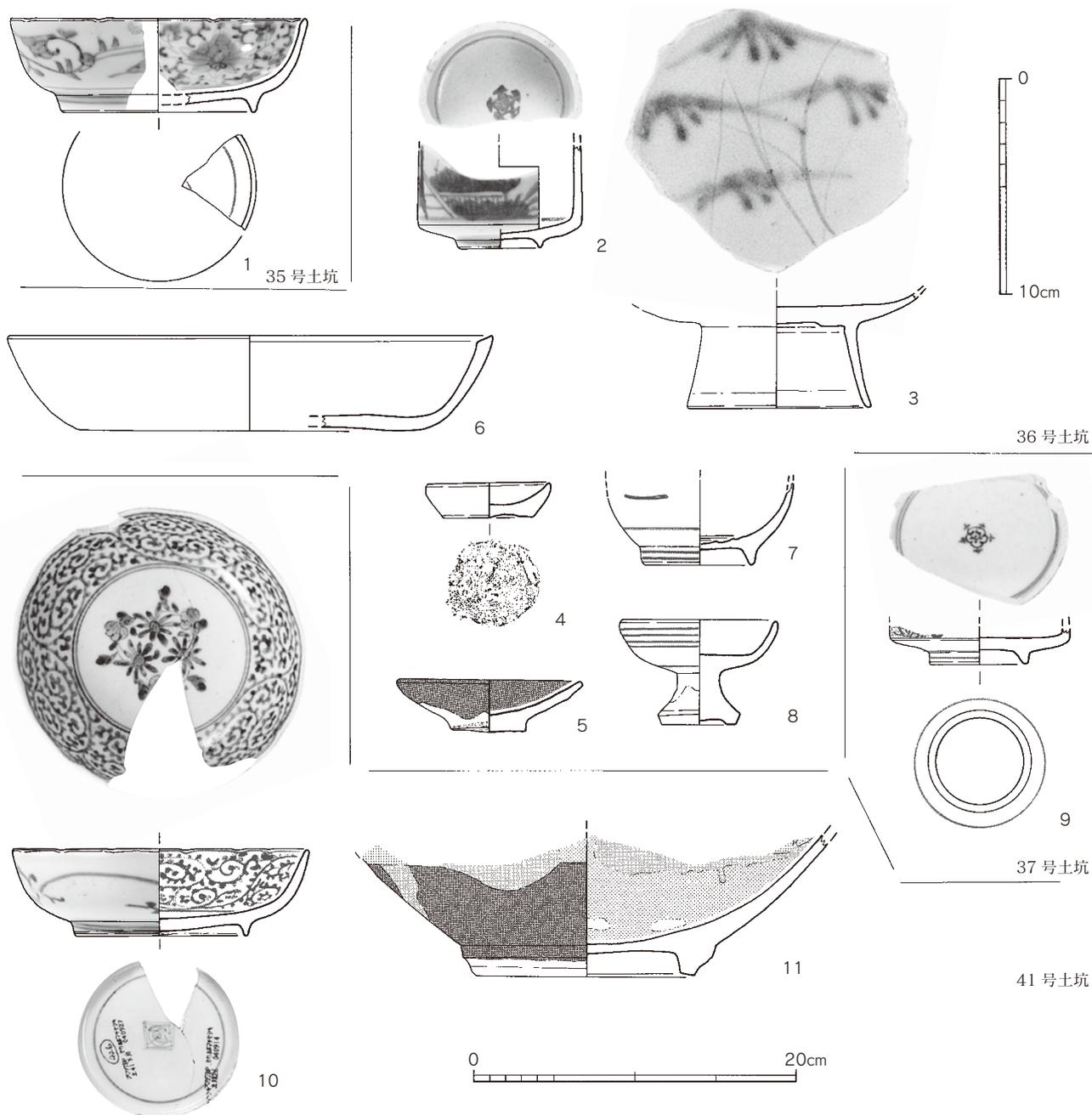
第79図 1次調査29・33号土坑出土陶磁器実測図(5・9は1/4、他は1/3)

器の仏花瓶で、耳部は何らかのモチーフになっていない。外面に異なる鉄釉が掛け分けている。外面胴下位は鉄漿をハケ掛けし、外面胴中位から内面頸部に鉄釉を掛けている。

77図1は陶器の碗で、京焼の可能性を提示したが、胎に肥前との差はないので肥前産京焼風陶器の可能性もある。77図3は陶器の摺鉢で、見込みに蛇の目状の重ね焼き痕があり、外底は畳付釉剥ぎ後に高台外面までアルミナを塗布している。

79図3は磁器の小皿で、見込みの蛇ノ目釉剥ぎ部にも赤絵が施されており、赤絵が崩れていないことから、重ね焼きはしていない。79図9は陶器摺鉢で、畳付釉剥ぎ後に砂目が付着しており、見込みに環状重ね焼き痕があり、重ね焼きの痕跡に見られる窪みは胎土目跡であろう。

80図2は染付の筒型碗で、外面は上半分が失われておりモチーフが判然としない。胎の色調から波佐見焼の可能性はある。80図10は75図2・78図2と同じモチーフだが、78図2とは描き方も同じなので、絵付け工人も同じとわかる。80図11は陶器の鉢で、見込みと高台に環状に巡



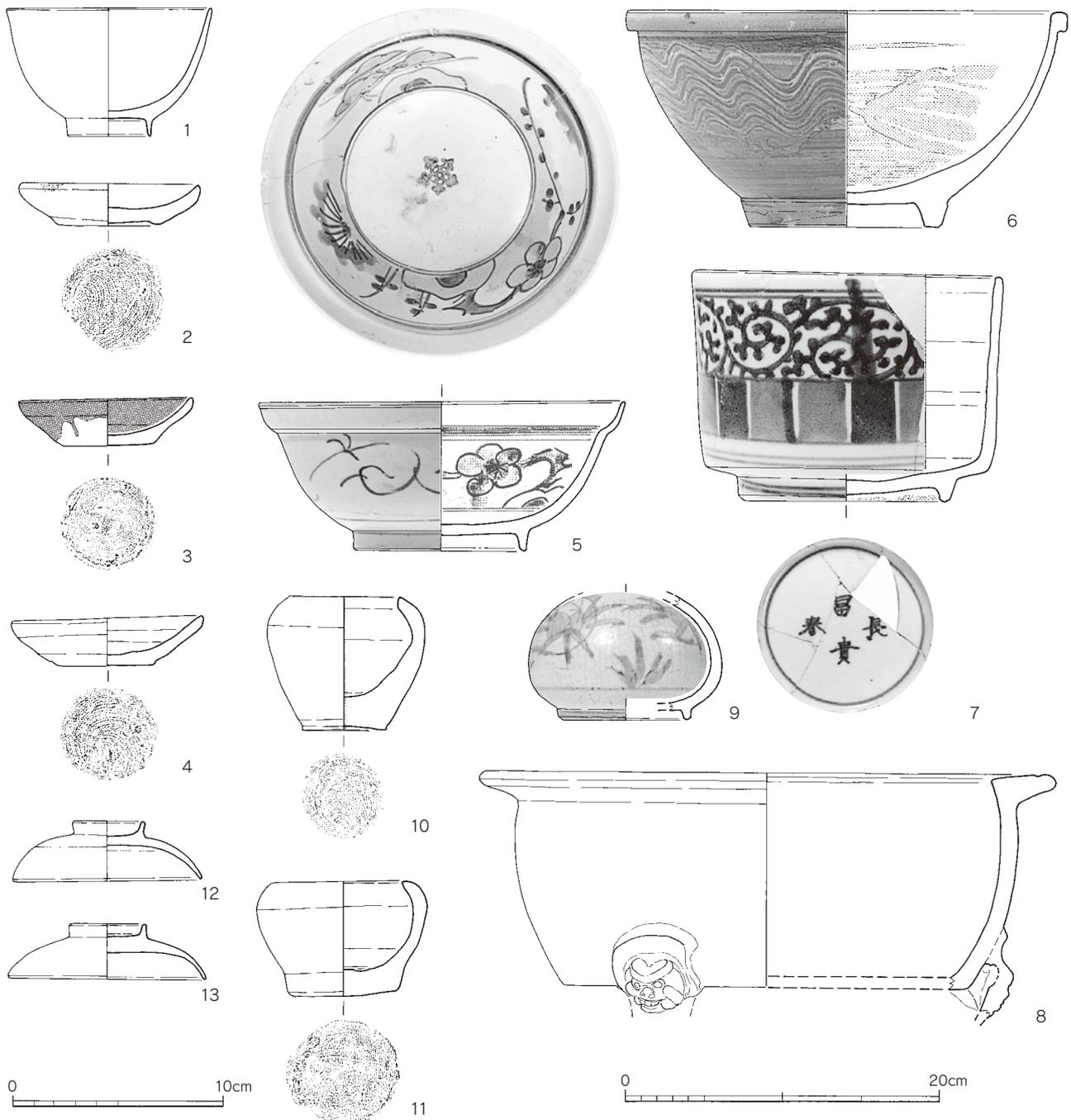
第80図 1次調査35~37・41号土坑出土土器・陶磁器実測図(11は1/4、他は1/3)

る胎土目跡が8つあり、胎土目跡が一部残っていて、砂目だけが残っている部分もある。外底には砂目もなく胎土圧痕のみが残る。

81図3は陶器の小皿で、内面の鉄釉は劣化しているが、これは灯明皿として使用されたためだろう。81図10・11は土師質土器の焼塩壺で、10の断面は赤化しておらず、全体に橙色に変色している。焼塩作業のためだろう。11はほぼ完形のため断面の胎の変色は確認できない。

82図4・5は磁器の小皿で、4は裾部が一部打ち欠いており、そこに煤が付着していたので転用して灯明皿に使用したことがわかる。5と6は若干異なるモチーフだが、絵付けの工人は同じと皿で、高台外面と暈付にカンナ痕状の段があるので、型打ち成型だろう。

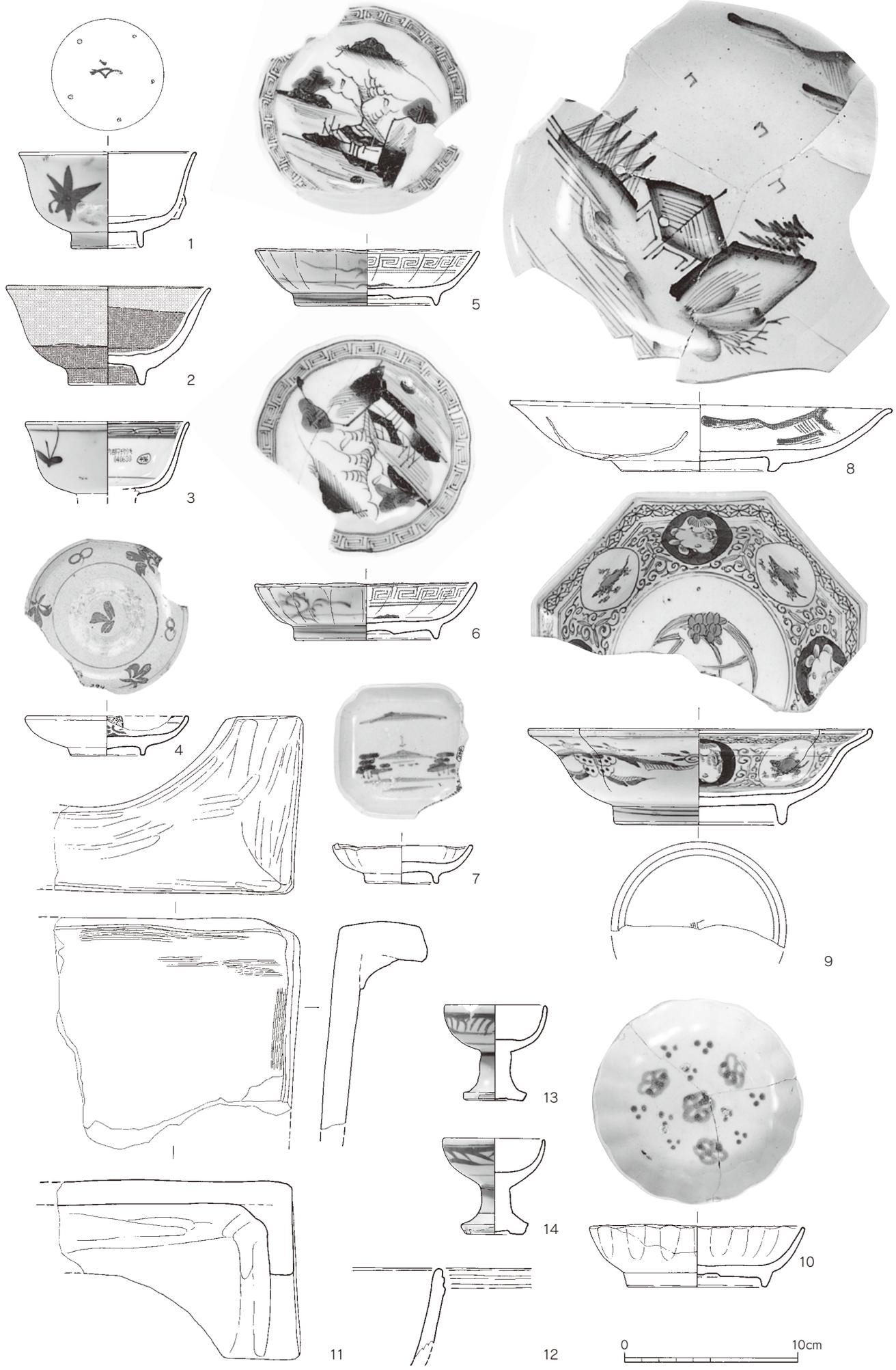
83図17は土師質土器の火鉢で、底部だけ灰黒色になっていないのは、重ね焼きのためか。83図19は口縁部が部分的に残っているので、磁器の筒状の瓶であり、欠損部は煙管を打ち付けた際の打ち掻きによるもので、灰落としとして使用したものである。



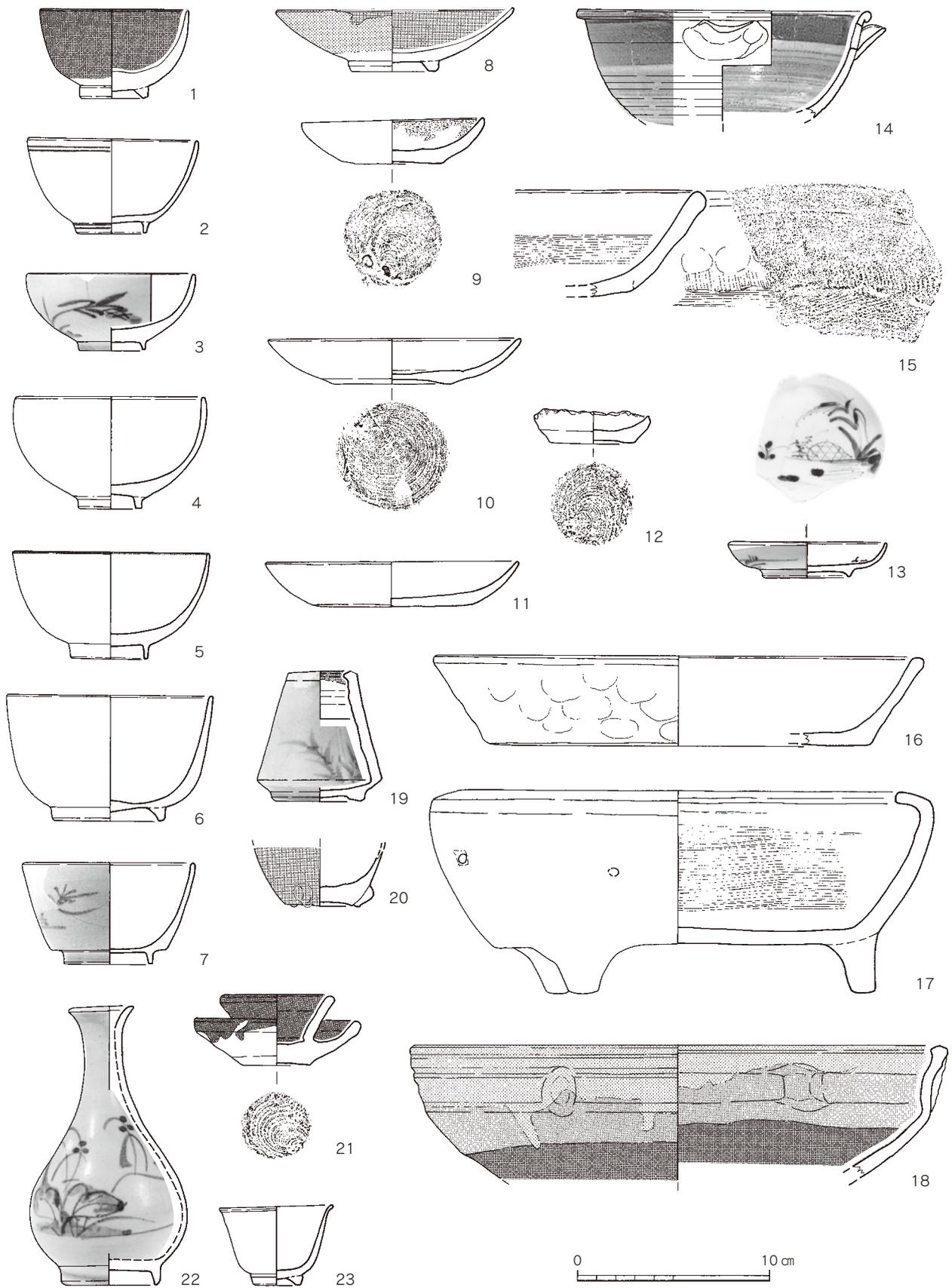
第81図 1次調査1号廃棄土坑出土土器・陶磁器実測図(8は1/4、他は1/3)

表39 1次調査出土土器・陶磁器観察表12

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号    | 器種<br>形状<br>通称名  | 法量(cm)<br>( )は復元値              | 胎の種類                    | 釉薬  | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法   | 所 見                                  |      |                       |
|------------------------|------------------|--------------------------------|-------------------------|---|--|---|--------------------------------------|------|-----------------------|
|                        |                  |                                |                         |   |  |   | 特記事項                                 | 推定産地 | 推定年代                  |
| 廃棄土坑1<br>81図1          | 碗                | 口径(9.8)<br>高台径2.0<br>器高8.1     | 磁器<br>灰白色               | 透明釉全面掛け   | 無文   | 畳付釉剥ぎ   |                                      | 肥前   | 不明                    |
| 廃棄土坑1<br>81図2<br>図版16  | 小皿               | 口径8.4<br>底径5.1<br>器高2.0        | 土師質土器<br>完形のため不明        | —   | 外底糸切り<br>内外面ナデ   | 不明  | 外面口縁部の一部に煤付着 灯明皿として使用                | 蒲池焼  | 不明                    |
| 廃棄土坑1<br>81図3          | 小皿               | 口径8.3<br>底径4.4<br>器高2.3        | 陶器<br>にぶい橙褐色            | 内面から外面胴<br>中位まで鉄釉掛け   | 外底糸切り<br>器面はナデ   | 不明  | 器壁が薄い<br>内面の釉が劣化                     | 肥前   | 不明                    |
| 廃棄土坑1<br>81図4<br>図版16  | 小皿               | 口径9.2<br>底径4.5<br>器高2.4        | 土師質土器<br>黄灰白色<br>精良     | —   | 外底糸切り<br>外面ナデ 内面螺旋ナデ   | 不明  | 外面口縁部の一部に煤付着している<br>ので灯明皿として使用       | 蒲池焼  | 不明                    |
| 廃棄土坑1<br>81図5          | 鉢                | 口径17.2<br>高台径7.9<br>器高7.2      | 磁器<br>灰白色               | 透明釉全面掛け<br>発色不良で釉切れあり   | 外面は唐草文 内面は松竹梅文 見込みは5<br>弁花文のコンニャク印判か 呉須染付                                    | 畳付釉剥ぎ   | ほぼ完形                                 | 肥前   | 17世紀後半                |
| 廃棄土坑1<br>81図6          | 片口鉢              | 口径(21.0)<br>高台径9.3<br>器高10.3   | 陶器<br>灰～橙褐色<br>精良       | 外面胴下半は鉄釉<br>ハケ掛け、外面胴上半には白化粧土ハケ<br>掛けし、帯状掻き取り後、緑灰色の灰釉を<br>掛ける 内面は胴中位以下に白化粧土ハケ<br>掛けし、透明釉掛け |  | 口縁部・底部露胎  |                                      | 肥前   | 不明                    |
| 廃棄土坑1<br>81図7          | 蓋物               | 口径14.3<br>高台径10.1<br>器高11.0    | 磁器<br>灰白色               | 透明釉 全面<br>掛け  | 外面は胴上半は蛸唐草文、下半はグミの濃<br>淡で色分けした帯文、内面は蛸唐草文 裏銘<br>「高貴長春」 呉須染付                   | 内面口縁部と畳<br>付釉剥ぎ 砂目付着                            |                                      | 肥前   | 18世紀中葉                |
| 廃棄土坑1<br>81図8          | 火鉢               | 口径36.8<br>底径(25.4)             | 瓦質土器<br>にぶい黄灰色<br>混入物あり | —   | 外面器面摩滅、胴下位に型押し獅子面の<br>貼り付け 外底の器面調製は不明、内面は<br>ナデ口縁部外縁は肥厚                      | —   |                                      | 在地   | 不明                    |
| 廃棄土坑1<br>81図9          | 瓶<br>仏花瓶         | 高台径6.2                         | 陶器<br>灰白色               | 発色の悪い透明<br>釉を外面に掛ける   | 外面は花草文を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ   |                                      | 肥前   | 18世紀前半                |
| 廃棄土坑1<br>81図10         | 焼塩壺              | 口径5.2<br>底径4.1<br>器高6.4        | 土師質土器<br>黄褐色 精良         | —   | 外底糸切り<br>内外面ナデ   | —   |                                      | 蒲池焼  | 不明                    |
| 廃棄土坑1<br>81図11<br>図版16 | 焼塩壺              | 口径6.2<br>底径5.2<br>器高5.5        | 土師質土器<br>明黄色 精良         | —   | 外底へら削り<br>内外面ナデ  | —   | ほぼ完形 器面摩<br>滅                        | 蒲池焼  | 不明                    |
| 廃棄土坑1<br>81図12<br>図版16 | 蓋                | 裾径9.0<br>つまみ径3.5<br>器高2.9      | 磁器<br>灰白色               | 透明釉 全面<br>やや発色不良  | 無文   | つまみ部上端釉<br>剥ぎ                                   | ほぼ完形                                 | 肥前   | 1700<br>S<br>1740     |
| 廃棄土坑1<br>81図13         | 蓋                | 裾径9.4<br>つまみ径3.6<br>器高2.7      | 磁器<br>灰白色               | 透明釉全面<br>掛け   | 無文   | つまみ上端釉<br>剥ぎ                                    |                                      | 肥前   | 不明                    |
| 廃棄土坑2<br>82図1          | 碗<br>端反形         | 口径10.0<br>高台径3.9<br>器高5.5      | 磁器<br>灰白色               | 透明釉全面<br>掛け   | 外面は楓文、見込みに崩れた波文をコ<br>バルト染付   | 畳付釉剥ぎ<br>見込みにハリ目5<br>つあり                        | 口縁部に歪みあり                             | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 廃棄土坑2<br>82図2          | 碗<br>端反形         | 口径11.8<br>高台径4.5<br>器高6.8      | 陶器<br>暗灰色               | 黒釉を全面に<br>掛け、内外上半に<br>薬灰釉上掛け  |  | 畳付釉剥ぎ   | 見込みにハリ目3<br>つあり                      | 小石原  | 19世紀前半                |
| 廃棄土坑2<br>82図3          | 碗<br>端反形         | 口径9.4                          | 磁器<br>灰白色               | 透明釉全面<br>掛け   | 外面は蝶・牡丹文、内面口縁部は崩れた雷<br>文をコバルト染付  | 畳付釉剥ぎ   |                                      | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 廃棄土坑2<br>82図4          | 小皿               | 口径9.4<br>高台径4.3<br>器高2.3       | 磁器<br>青灰色               | 発色不良の透明<br>釉 全面   | 内面に花文を連結丸文 コバルトで染付   | 畳付釉剥ぎ<br>見込みに蛇ノ目<br>剥ぎ                          | ほぼ完形<br>裾部が一部打ち<br>欠いており、そこ<br>に煤付あり | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 廃棄土坑2<br>82図5          | 小皿<br>菊花形        | 口径12.8<br>高台径8.0<br>器高3.2      | 磁器<br>灰白色               | 透明釉を全面<br>に掛ける  | 型打ち成型 外面は唐草文、内面は口縁部<br>雷文帯、見込みに山水文をコバルト染付                                    | 蛇ノ目高台で、<br>台部釉剥ぎ                                | 9割残存                                 | 肥前   | 19世紀後半                |
| 廃棄土坑2<br>82図6          | 小皿<br>菊花形        | 口径12.7<br>高台径8.0<br>器高3.3      | 磁器<br>灰白色               | 透明釉を全面<br>に掛ける  | 型打ち成型 外面は唐草文、内面は口縁部<br>雷文帯、見込みに山水文をコバルト染付                                    | 蛇ノ目高台で、<br>台部釉剥ぎ                                | 9割残存                                 | 肥前   | 19世紀後半                |
| 廃棄土坑2<br>82図7          | 小皿<br>変形小皿<br>方形 | 一辺8.0<br>高台径4.2<br>器高2.2       | 磁器<br>灰白色               | やや暗い透明<br>釉全面掛け   | 糸切り細工の型<br>押し成型で、見込<br>みに山水文呉須<br>染付   | 畳付釉剥ぎ   |                                      | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 廃棄土坑2<br>82図8          | 中皿               | 口径(22.0)<br>高台径8.9<br>器高4.1    | 磁器<br>灰白色               | やや暗い透明<br>釉全面掛け   | 外面は無文、内面は山水文の<br>コバルト染付  | 畳付釉剥ぎ 見<br>込みにハリ目跡5<br>つと見込みと外<br>面胴部に融着痕<br>あり | 歪みあり                                 | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 廃棄土坑2<br>82図9          | 鉢<br>8角形         | 口径(19.8)<br>高台径(10.0)<br>器高5.6 | 磁器<br>灰白色               | 透明釉 全面<br>掛け  | 型打ち成型 蝶文、内面は口縁部に七宝<br>文帯、内面は唐草文地に亀と金魚が交<br>互に入る 見込みに水仙文 裏銘「福」<br>の<br>コバルト染付 | 畳付釉剥ぎ   | 漆接ぎの痕跡あり<br>畳付の釉剥ぎ部が<br>丸みをもつ        | 肥前   | 19世紀後半<br>S<br>20世紀前半 |
| 廃棄土坑2<br>82図10<br>図版16 | 5寸皿              | 口径12.4<br>底径8.2<br>器高3.5       | 磁器<br>灰白色<br>やや粗放       | 透明釉全面<br>掛け<br>焼成不良で白濁  | 外面無文、内面に花文と三つ星<br>呉須染付   | 畳付釉剥ぎ 高<br>台内蛇ノ目<br>剥ぎ                          | ほぼ完形<br>見込みにハリ目3<br>つ付着              | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 廃棄土坑2<br>82図11         | 炬燵底か             | —                              | 瓦質土器<br>灰白色             | —   | 板造りで接合部は柳状沈線<br>を施し、接合後はナデ 内底には<br>目の粗いハケ入り、丸みがある<br>面が前面で、ここだけミガキが<br>入る    | 不明  | 銀化<br>前面には2つひ<br>びあり                 | 不明   | 不明                    |
| 廃棄土坑2<br>82図12         | 鉢                | —                              | 土師質土器<br>黄灰白色<br>混入物なし  | —   | 外面口縁部に沈線2条<br>器面はナデ  | 不明  | 変色なし                                 | 蒲池焼  | 不明                    |



第82図 1次調査2号廃棄土坑出土土器・陶磁器実測図(1/3)



第83図 1次調査1号大土坑出土土器・陶磁器実測図1(1/3)

表40 1次調査出土土器・陶磁器観察表13

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号   | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値             | 胎の種類                      | 釉薬  | 調整・整形・装飾技法                                    | 窯詰め技法         | 所見                       |      |                   |
|-----------------------|-----------------|-------------------------------|---------------------------|---|---|---------------|--------------------------|------|-------------------|
|                       |                 |                               |                           |   |   |               | 特記事項                     | 推定産地 | 推定年代              |
| 廃棄土坑2<br>82図13        | 仏飯器             | 口径5.9<br>裾径3.6<br>器高5.5       | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛ける  | 外面半菊文赤絵上絵付け                                   | 畳付釉剥ぎ         |                          | 肥前   | 1690<br>～<br>1780 |
| 廃棄土坑2<br>82図14        | 仏飯器             | 口径4.9<br>裾径3.5<br>器高5.5       | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛ける  | 外面竹篋文赤絵上絵付け                                   | 畳付釉剥ぎ         |                          | 肥前   | 1690<br>～<br>1780 |
| 大土坑1<br>83図1          | 小碗              | 口径7.8<br>高台径3.6<br>器高3.7      | 陶器<br>灰白色                 | 鉄釉を内面から外面中位まで   | 高台削り出し  | 胴下半露胎         | ほぼ完形                     | 肥前   | 1690<br>～<br>1780 |
| 大土坑1<br>83図2          | 小碗              | 口径8.7<br>高台径3.6<br>器高4.9      | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛ける  | 外面に口縁部と高台部に界線の染付                              | 畳付釉剥ぎ         |                          | 肥前   | 1650<br>～<br>1670 |
| 大土坑1<br>83図3          | 小碗              | 口径8.8<br>高台径3.5<br>器高4.0      | 磁器<br>灰白色                 | 発色の悪い透明釉を全面に掛ける   | 外面蒲文か 呉須染付                                    | 畳付釉剥ぎ         |                          | 肥前   | 1700<br>～<br>1740 |
| 大土坑1<br>83図4          | 碗<br>半球形        | 口径9.7<br>高台径3.4<br>器高5.9      | 陶器<br>暗黄灰白色               | 透明釉を高台以外全面に掛ける 貫入あり                                     | 高台削り出し  | 高台部露胎         |                          | 肥前   | 1780<br>～<br>1810 |
| 大土坑1<br>83図5          | 小型碗             | 口径(10.3)<br>高台径4.0<br>器高5.6   | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け   | 無文 口鏝   | 畳付釉剥ぎ         |                          | 肥前   | 1680<br>～<br>1740 |
| 大土坑1<br>83図6          | 碗               | 口径(10.6)<br>高台径(5.6)<br>器高6.6 | 陶器<br>暗黄灰白色<br>粗放         | 透明釉を全面に掛ける 貫入あり   |   | 高台部露胎         |                          | 肥前か  | 不明                |
| 大土坑1<br>83図7<br>図版16  | 碗<br>小杉形        | 口径9.0<br>高台径4.6<br>器高5.4      | 陶器<br>黄灰白色                | 透明釉を全面に掛ける  | 外面に鉄絵のモチーフ                                    | 畳付釉剥ぎ         | ほぼ完形                     | 肥前   | 1710<br>～<br>1740 |
| 大土坑1<br>83図8          | 小皿              | 口径12.2<br>底径4.7<br>器高3.3      | 陶器<br>黄灰白色<br>精良だが粗放      | 内面から外面中位まで緑灰色の灰釉が掛かり、その上に銅緑釉が内面から外面口縁部に掛かる 外面胴下位にカンナ痕あり |   | 外面下半露胎        | 5割残存                     | 肥前   | 1650<br>～<br>1690 |
| 大土坑1<br>83図9          | 小皿              | 口径9.4<br>底径5.0<br>器高2.4       | 土師質土器<br>外面側黄灰色、内面側黄橙色    | —   | 外底糸切り<br>内外面ナデ                                | —             | 口縁部に煤付着するが、内面は煤付と被熱を受け変色 | 蒲池焼  | 不明                |
| 大土坑1<br>83図10         | 小皿              | 口径13.1<br>底径5.8<br>器高3.3      | 土師質土器<br>灰白色              | —   | 外底糸切り<br>内外面ナデ                                | —             | 内外とも黒変、外面はタール状の炭化物が付着    | 蒲池焼  | 不明                |
| 大土坑1<br>83図11         | 小皿              | 口径(13.2)<br>底径(8.2)<br>器高2.3  | 土師質土器<br>灰白色              | —   | ヘラケズリ<br>内外面ナデ                                | —             | 変色なし                     | 蒲池焼  | 不明                |
| 大土坑1<br>83図12<br>図版16 | 小皿              | 口径6.1<br>底径4.3<br>器高2.7       | 土師質土器<br>黄橙灰白色<br>精良      | —   | 外底糸切り<br>外面ナデ 内面螺旋ナデ                          | 不明            | 外面口縁部に煤付着 内外面ともに変色       | 蒲池焼  | 不明                |
| 大土坑1<br>83図13         | 小皿              | 口径8.2<br>高台径4.4<br>器高1.8      | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛ける 貫入あり   | 内面草文・籠文、外面不明モチーフの呉須染付                         | 畳付釉剥ぎ         | 歪みあり                     | 肥前   | 不明                |
| 大土坑1<br>83図14         | 片口鉢             | 口径15.2                        | 陶器<br>黄灰色                 | 内外面口縁部は鉄釉、胴中位は白化粧土ハケ掛けで最後に全面透明釉掛け                       |   | 見込みに環状のアルミナ付着 |                          | 肥前   | 不明                |
| 大土坑1<br>83図15         | 焙烙              | —                             | 土師質土器<br>にぶい暗黄灰色<br>金雲母あり | —   | 外面口縁部は横ナデ、屈曲部はオサエ、接合部は横ハケ、内面は接合部が細かい横ハケで、他はナデ | 不明            | 内面は淡灰色、外面は煤付着            | 在地   | 不明                |
| 大土坑1<br>83図16         | 焙烙              | 口径25.0<br>器高4.7<br>底径20.2     | 土師質土器<br>にぶい暗黄灰色<br>金雲母あり | —   | 外面はオサエ、底部はハケ、内面はナデ                            | 不明            | 内面は変色少ない、外面は煤付着          | 在地   | 不明                |
| 大土坑1<br>83図17         | 火鉢              | 口径26.4<br>器高10.6<br>底径17.3    | 土師質土器<br>にぶい黄灰色           | —   | 外面はナデ 外底と内面はハケ 脚3つ貼り付け                        | 不明            | 胴部の穿孔は補修孔だろう             | 在地   | 不明                |
| 大土坑1<br>83図18         | 鉢               | 口径(28.0)                      | 陶器<br>にぶい黄灰色              | 内外鉄釉掛け、口縁部餉釉2度掛け  | 外面胴下位ケズリ、口縁部にオサエによる窪み1つあり                     | —             |                          | 肥前か  | 不明                |
| 大土坑1<br>83図19         | 灰吹き             | 口径3.5<br>高台径5.0<br>器高5.8      | 磁器<br>灰白色                 | 青磁釉外面から内面口縁部に掛ける 貫入あり 高台内の灰白色は発色不良だろう                   | 外面は呉須で花文を染付け                                  | 畳付釉剥ぎ         | 口縁部に打ち欠きが全周する            | 肥前   | 不明                |
| 大土坑1<br>83図20         | 小鉢<br>香炉か       | 底径3.6                         | 磁器<br>灰白色                 | 暗緑色の緑釉を胴下位まで掛ける   | 無文 脚は4つのうち2つが残存 上底                            | 外底に鉄漿掛け       |                          | 肥前   | 不明                |
| 大土坑1<br>83図21         | 灯明受皿            | 口径(5.6)<br>最大径8.8<br>底径3.5    | 陶器<br>灰黒色                 | 鉄釉を内面から外面裾中位まで  | 外底は糸切り  | 裾下半露胎         | 裾下半露胎 胎土目跡あり             | 肥前   | 不明                |
| 大土坑1<br>83図22         | 仏花瓶             | 口径3.3<br>高台径7.4<br>器高14.7     | 磁器<br>完形のため不明             | 透明釉全面掛け 発色不良  | 外面花葉文を呉須染付                                    | 畳付釉剥ぎ         | 完形                       | 肥前   | 1690<br>～<br>1750 |
| 大土坑1<br>83図23         | 杯               | 口径6.0<br>高台径2.5<br>器高4.2      | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け 貫入あり  | 無文  | 畳付釉剥ぎ         | ほぼ完形                     | 肥前   | 1650<br>～<br>1680 |
| 大土坑1<br>84図1          | 小鉢              | 口径(22.0)                      | 陶器<br>にぶい黄灰白色             | 内外鉄釉掛け、口縁部オリブ色の灰釉上掛け                                    | 口縁部に跳ね上げ                                      | —             |                          | 小石原  | 不明                |
| 大土坑1<br>84図2          | 摺鉢              | 口径(31.0)                      | 陶器<br>橙褐色                 | 口縁部のみ鉄釉   | 内面摺り目12本単位                                    | 不明            |                          | 肥前   | 1650<br>～<br>1690 |

83図16は土師質の鉢で、外面の調整はオサエのみ。83図20は瑠璃釉の小鉢で豆状の脚が3つ付く。

84図5は土師質の焜炉片で、窓の大きさと下部の湾曲ラインは推定である。

85図7は陶器の摺鉢で、内面下半に釉がないのは、発色不良で定着していないため摩耗したためだろう。11は土師質土器の焼塩壺の蓋で形態から18世紀中葉の大阪難波産の焼塩壺である。12は磁器仏飯器で、モチーフが崩れているので新しい。

86図1は土師質小皿で、口縁部の一部が黒変しているので灯明皿として使用している。

87図1は1号埋甕本体の陶器大甕で、内面はカルキが付着しているため白色に変色している。付着物はないので、小便壺と考えられる。裏底の墨書の屋号の記号に下にある「七平」とあるが、生産・販売に関わる人物の名前であろう。

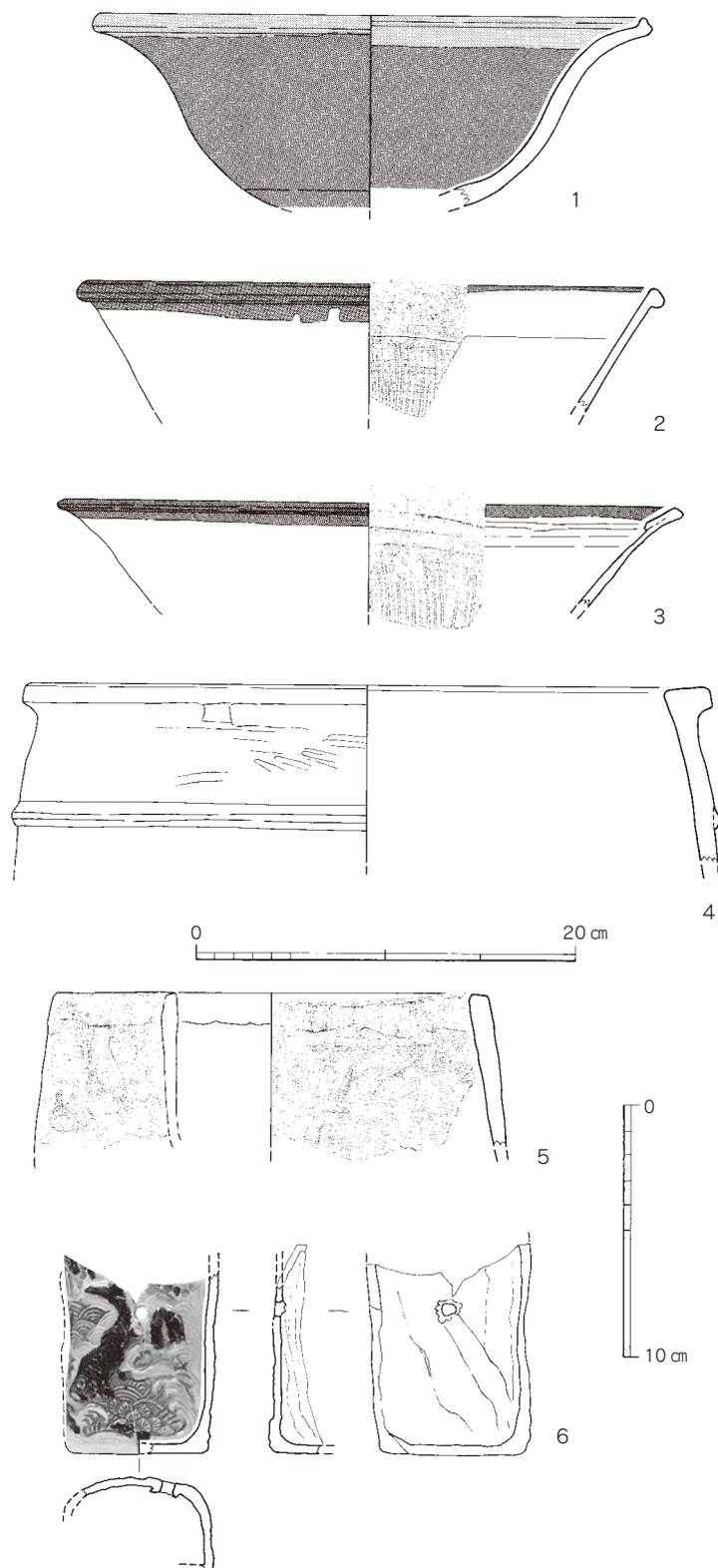
88図4は3号埋甕本体で、内面はカルキが付着しているため便壺として使用していたとわかる。内面はカルキ付着のため調整の観察ができなかった。

91図2は6号埋甕本体の土師質土器の大甕で、内面に変色がないので水甕か穀物を入れた甕ではないだろうか。5は土師質の蓋であろうが、これを蓋にする身になるものがない。

92図4は7号埋甕の本体で、小甕なので便槽ではない。内部に2の碗と3の壺が入っていたが、意図的なものかわからない。

93図5は土師質土器の大甕で、内面はカルキのため白色に変色しているが、付着物はないので、小便壺ではないだろうか。

96図19・20は磁器の小皿で、モチーフの構成が同じで描き方が異なっているので、同じ窯で絵付け工



第84図 1次調査1号大土坑出土土器・陶磁器実測図2(2~4は1/4、他は1/3)

表41 1次調査出土土器・陶磁器観察表14

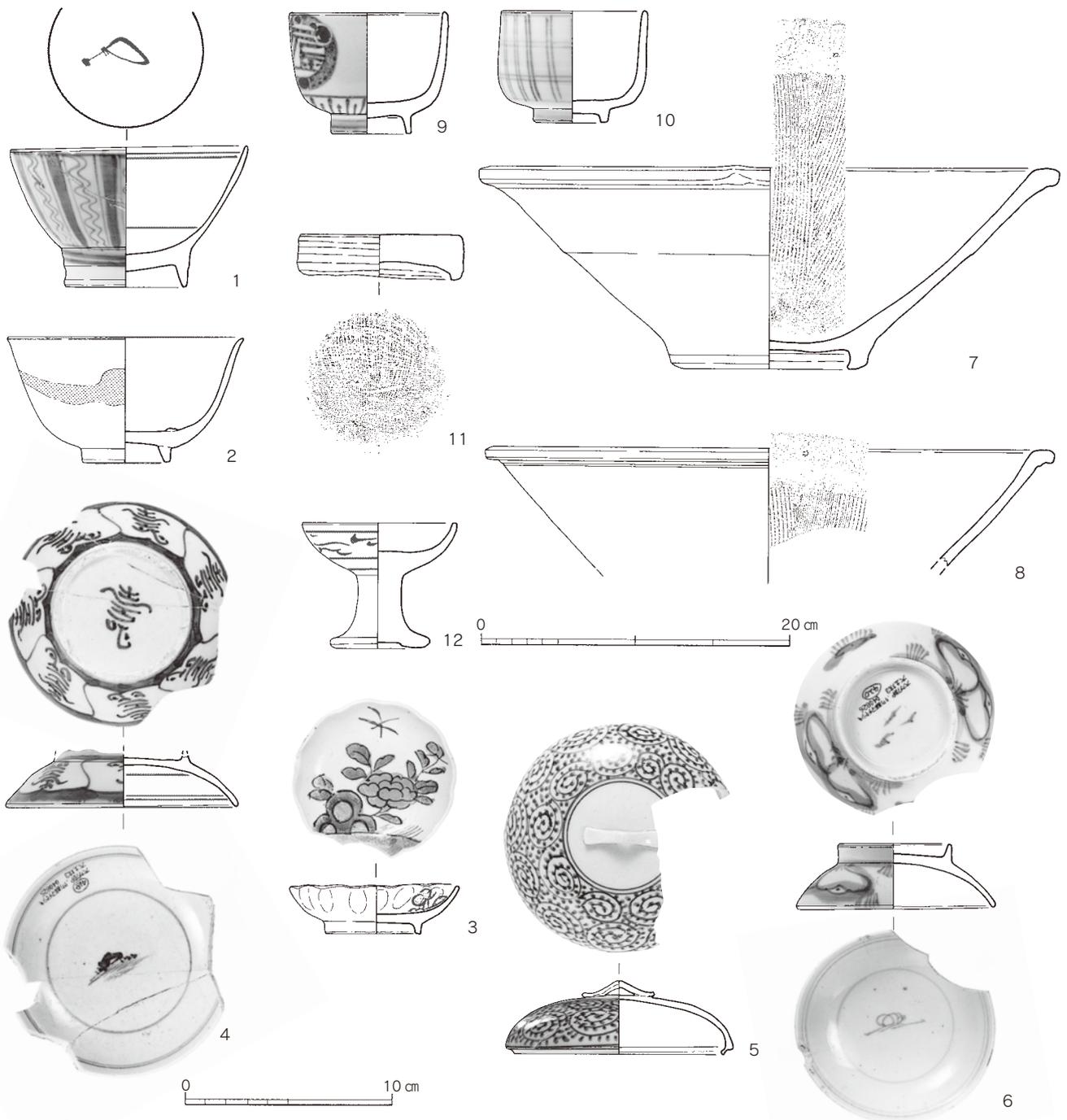
| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号      | 器種<br>形状<br>通称名  | 法量(cm)<br>( )は復元値            | 胎の種類                   | 釉薬                                  | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法  | 所見                                       |      |                   |
|--------------------------|------------------|------------------------------|------------------------|-------------------------------------|--|--|--|------|-------------------|
|                          |                  |                              |                        |                                     |  |  | 特記事項                                     | 推定産地 | 推定年代              |
| 大土坑1<br>84図3             | 摺鉢               | 口径(32.2)                     | 陶器<br>橙褐色              | 口縁部のみ鉄釉                             | 内面摺り目12本単位   | 不明   | 器壁薄く、大きく<br>反るのが特徴的                      | 肥前   | 1650<br>＼<br>1690 |
| 大土坑1<br>84図4             | 火鉢               | 口径(36.0)                     | 瓦質土器<br>灰白色が灰黒色<br>を挟む | —                                   | 外面から口唇部ミガキ 内面はナデ   | 不明   | 外面の黒色は炭素<br>吸着によるもの                      | 在地か  | 不明                |
| 大土坑1<br>84図5             | 焜炉               | 口径(30.0)                     | 土師質土器                  | —                                   | 外面丁寧なハケ 内面は煤が付着し、<br>調整がほとんどわからないが、口縁<br>部のみハケとわかる                   | 不明   | 内面の煤は口縁下<br>に厚く付着し、口<br>縁部は煤が付着し<br>ていない | 在地   | 不明                |
| 大土坑1<br>84図6             | 水滴               | 短軸(6.0)                      | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面掛け                            | 糸切り細工の型押し成型流水文・青<br>海波文と鯉文の型押しによる陽刻で、<br>呉須の濃淡で色分けしている染付<br>上面に上から穿孔 | 下端面露胎  |  | 肥前   | 不明                |
| 大土坑3<br>85図1             | 碗<br>広東形         | 口径11.5<br>高台径6.0<br>器高6.7    | 磁器<br>灰白色              | 透明釉を全面に掛<br>ける 発色やや不<br>良           | 外面によるけ縞文と縦帯文が交互に<br>入る、見込みに寿文を呉須染付                                   | 畳付釉剥ぎ  | 高台中位に段がつ<br>くのはへたれ 見<br>込みにひつつき多<br>い    | 波佐見  | 1780<br>＼<br>1810 |
| 大土坑3<br>85図2             | 碗<br>端反形         | 口径11.3<br>高台径4.3<br>器高6.1    | 陶器<br>暗灰色              | オリープ色の灰釉を全面に掛け、<br>外面中位に藁灰釉流し<br>掛け |  | 畳付釉剥ぎ  | 見込みにハリ目3<br>つあり                          | 小石原  | 19世紀前半            |
| 大土坑3<br>85図3             | 小皿<br>5寸皿<br>菊花形 | 口径8.2<br>高台径4.6<br>器高2.4     | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面                              | 型打ち成型 牡丹文と蝶文、呉須染<br>付  | 畳付釉剥ぎ  |  | 肥前   | 19世紀中葉            |
| 大土坑3<br>85図4             | 蓋                | 裾径11.0                       | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面                              | 外面はデザイン化した寿文、外面天<br>井部も寿文、内面天井部は波と岩文<br>を呉須染付                        | —  |  | 肥前   | 1780<br>＼<br>1810 |
| 大土坑3<br>85図5             | 蓋                | 裾径10.2<br>最大径11.0<br>器高3.5   | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面                              | 外面天井部蛸唐草文を呉須染付   | 受け部釉剥ぎ   |  | 肥前   | 1690<br>＼<br>1780 |
| 大土坑3<br>85図6             | 蓋                | 裾径9.5<br>つまみ径5.4<br>器高3.2    | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面                              | 外面は草文、外面天井部は鳥文、内<br>面天井部は崩れた波と岩文 呉須染<br>付                            | つまみ部上端釉<br>剥ぎ                                    | 9割残存                                     | 肥前   | 1780<br>＼<br>1810 |
| 大土坑3<br>85図7             | 摺鉢               | 口径(39.6)                     | 陶器<br>橙褐色              | 内外面鉄釉掛け<br>発色不良                     | 摺り目は26本単位  | 畳付釉剥ぎ 見<br>込み環状に重ね<br>焼き痕あり                      |  | 肥前   | 1750<br>＼<br>1860 |
| 大土坑3 7層<br>85図8          | 摺鉢               | 口径(37.0)                     | 陶器<br>橙褐色              | 内外面鉄釉掛け                             | 摺り目は23本単位  | 不明   |  | 肥前   | 1750<br>＼<br>1860 |
| 大土坑3<br>85図9             | 小型碗<br>湯飲み       | 口径(7.7)<br>高台径3.9<br>器高5.9   | 磁器<br>灰白色              | 透明釉全面掛け<br>釉の沸騰あり                   | 外面に帯丸に直線のみでデザインさ<br>れた「福」字、胴下位に変形」歯文<br>帯を呉須染付                       | 畳付釉剥ぎ  |  | 肥前   | 19世紀中葉            |
| 大土坑3<br>85図10            | 小型碗<br>湯飲み       | 口径6.8<br>高台径3.7<br>器高5.5     | 磁器<br>灰白色              | 透明釉全面掛け                             | 外面に二重格子文を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ  |  | 肥前   | 19世紀中葉            |
| 大土坑3 上層<br>85図11<br>図版16 | 焼塩壺蓋             | 裾径8.6<br>つまみ径1.9<br>器高3.9    | 土師質土器<br>完形のため不明       | —                                   | 外底胴部ナデによる凹凸ある<br>内面天井部布目痕あり、型押し成型<br>外面天井部はナデのみ                      | 不明   | 完形                                       | 堺    | 不明                |
| 大土坑3 7層<br>85図12         | 仏飯器              | 口径(7.5)<br>裾径4.8<br>器高6.1    | 磁器<br>灰白色              | 透明釉を全面に掛<br>ける 貫入あり                 | 外面胴部に崩れた鳳凰文コバルト染<br>付  | 畳付釉剥ぎ  | 裾部に丸みがあり、<br>モチーフが崩れて<br>いるので新しい         | 肥前   | 19世紀後半か           |
| 大土坑4<br>86図1             | 小皿               | 口径(6.2)<br>底径4.6<br>器高1.7    | 土師質土器<br>黄灰色           | —                                   | 外底糸切り<br>内外面ナデ   | 不明   | 内外とも口縁部の<br>一部に黒変                        | 在地   | 不明                |
| 大土坑4<br>86図2             | 小皿               | 口径8.9<br>底径3.4<br>器高2.6      | 陶器<br>橙褐色              | 鉄釉を内面から外<br>面胴下位まで                  | 外底糸切り  | 底部露胎   |  | 肥前   | 不明                |
| 大土坑4<br>86図3             | 小皿<br>5寸皿        | 口径13.4<br>高台径7.8<br>器高3.3    | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面掛け                            | 外面は唐草文、内面は半菊唐草文、<br>見込みは5弁花文のコンニャク印判<br>刷りの呉須染付                      | 畳付釉剥ぎ 砂<br>目付着 見込み<br>蛇ノ目釉剥ぎ                     | ほぼ完形                                     | 波佐見  | 1680<br>＼<br>1740 |
| 大土坑4<br>86図4             | 中皿<br>花卉口縁       | 口径21.0<br>高台径12.0<br>器高2.5   | 磁器<br>暗灰白色             | やや暗い透明釉<br>全面掛け                     | 型打ち成型 外面は唐草文、内面は<br>半花輪文散らしの扇文に唐草文、見<br>込みに5弁花文、外底の裏路は渦福<br>を呉須染付    | 畳付釉剥ぎ<br>砂目付着ハリ目<br>跡3つ外底にあ<br>り 位置関係か<br>ら本来5つか |  | 肥前   | 1740<br>＼<br>1780 |
| 大土坑4<br>86図5             | 中皿               | 口径(22.3)<br>高台径12.0<br>器高4.2 | 磁器<br>灰白色              | 青みのある透明釉<br>全面掛け                    | 外面は対面に草文、内面は流水文と<br>草文、牡丹文を呉須染付                                      | 畳付釉剥ぎ 外<br>底にハリ目跡                                | 5割残存<br>見込みにひつつき<br>あり                   | 肥前   | 1680<br>＼<br>1740 |
| 大土坑4<br>86図6             | 灯明受皿             | 口径(5.9)<br>最大径8.9<br>底径4.0   | 陶器<br>暗橙褐色             | 鉄釉を内面から外<br>面裾中位まで                  | 外底は糸切り   | 裾下半露胎  |  | 肥前   | 不明                |
| 大土坑4<br>86図7             | 瓶                | 口径5.8<br>高台径6.7<br>器高27.3    | 磁器<br>灰白色 黒色粒<br>子を含む  | 透明釉を内面肩部<br>から外面に掛ける                | 外面胴部に花葉文の呉須染付<br>底部は碁笥底  | 畳付釉剥ぎ  |  | 波佐見  | 1650<br>＼<br>1690 |
| 大土坑4<br>86図8             | 瓶                | 最大径16.0<br>高台径8.8            | 磁器<br>灰白色              | 外面に透明釉掛け                            | 外面花文を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ  |  | 肥前   | 1650<br>＼<br>1690 |

人が違うのではないか。

99図4は陶器の鉢で、肥前産としたが胎の密度が高く、外面の一部に白化粧土・鉄釉・透明釉のすべてが縮れて剥がれている焼成不良さから二川焼の可能性もある。

100図1・2は陶器大鉢で、1はの内面が白いのは白化粧土を塗布したのではなく、胎が白い上に透明釉が掛かっているためである。胎に特徴があるので、肥前産でないかもしれない。2は畳付に胎土目が外されないまま付着している。100図5は陶器の摺鉢で底部だけ胎の表面が橙色なのは発色不良のためで、釉が剥がれているのもそのためである。

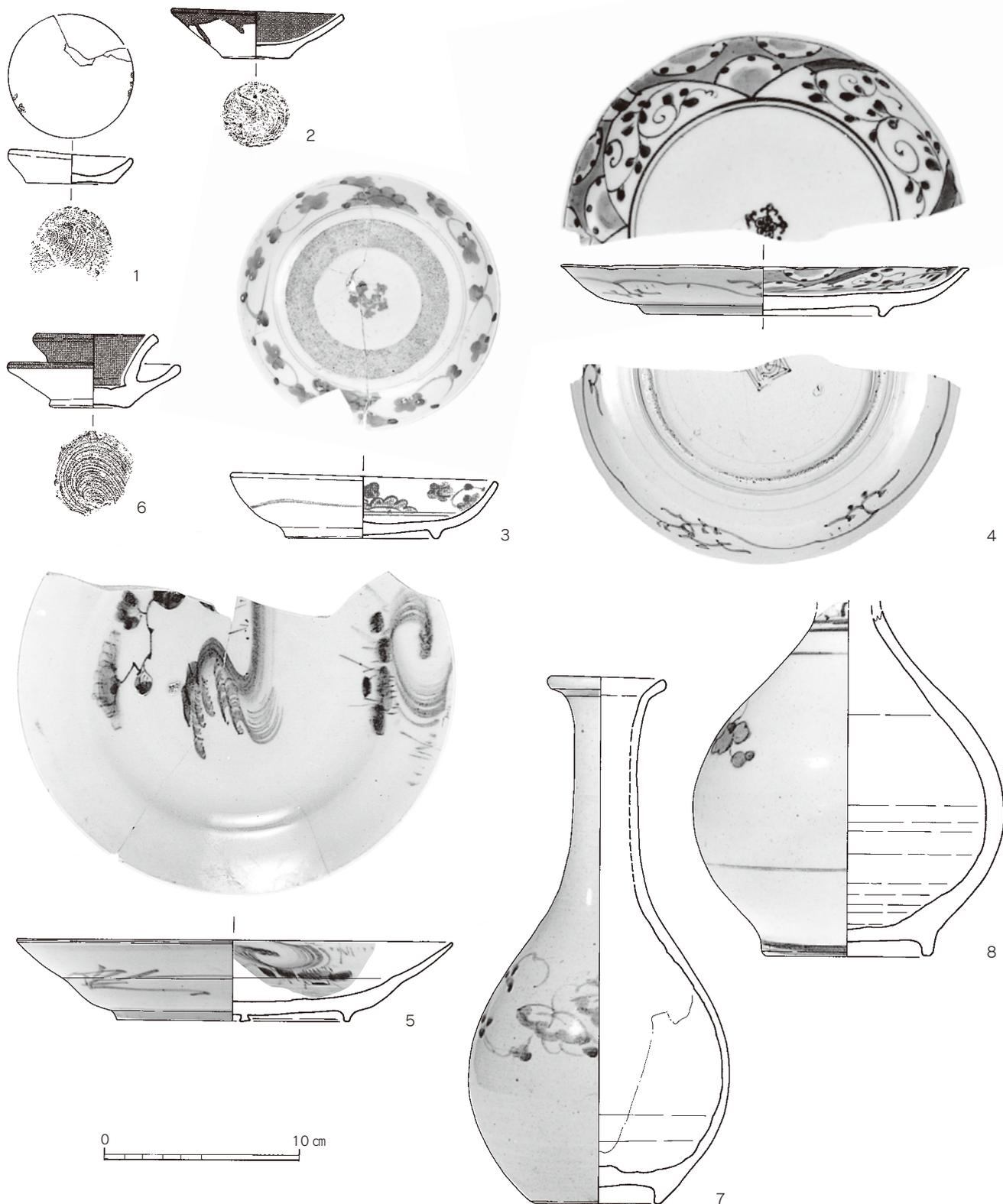
102図1は磁器鉢で、器形や文様から朝鮮半島向けに作られた製品とわかる。102図5は小型



第85図 1次調査3号大土坑出土土器・陶磁器実測図(7・8は1/4、他は1/3)

の半胴甕だが、内面にカルキが付着しているので尿瓶として使用したものである。

103図1は土師質の火鉢で、口縁部の炭化物を吸着させた範囲は丁寧に磨かれており、光沢を持っている。

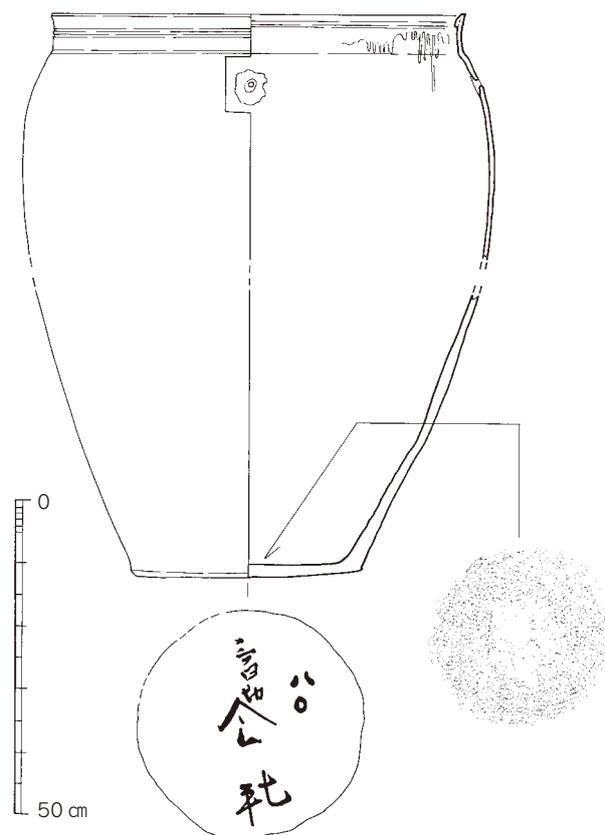


第86図 1次調査4号大土坑出土土器・陶磁器実測図(1/3)

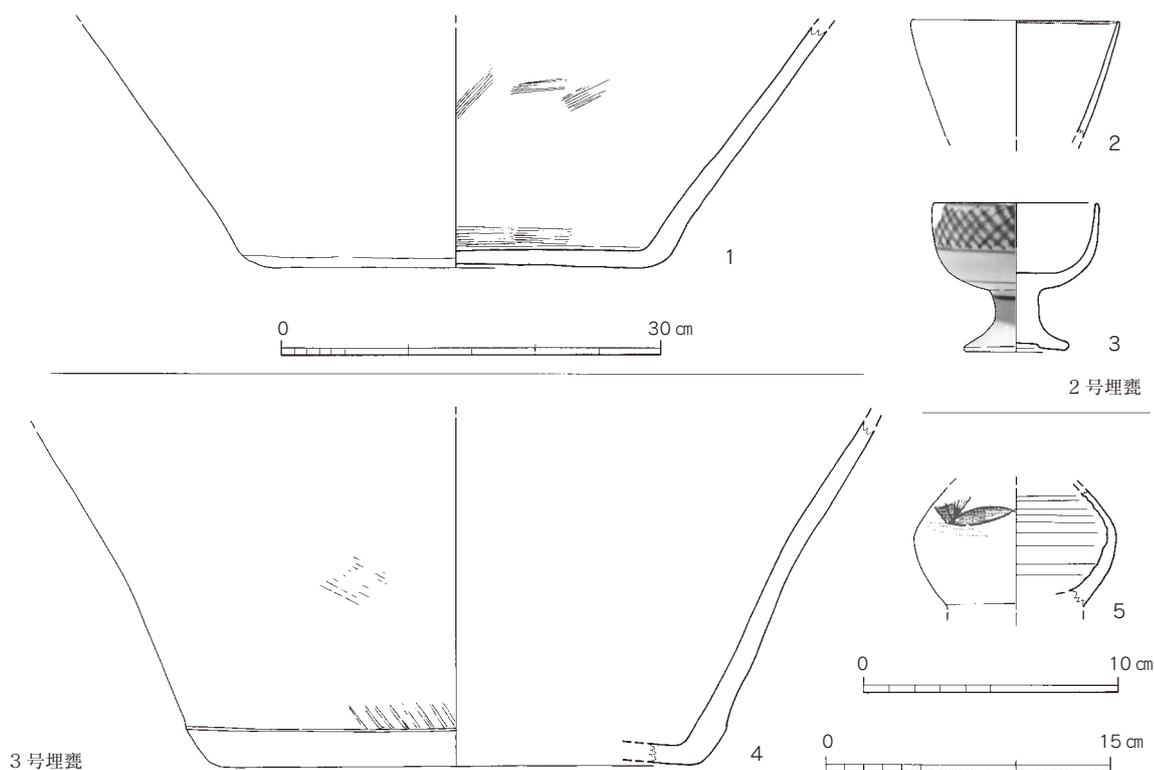
103図65の半胴甕は白化粧土の上には透明釉を掛けていないので、飴釉が褪色している。103図7は陶器の仏花瓶で、頸部の中位の上下で色調が異なるのは、透明釉の有無であり、胴下位の屈曲部の上下で混入物に差があるのは下地の灰釉の有無の差であろう。

104図2は磁器の貧乏徳利で、與田商店の貸し酒瓶であろう。「ㄣ長」は屋号で「七平」「丑」の下は欠損のため読めない。104図6・7は土師質の焼塩壺で、6は胎土と底部形態がやや蒲池産のものと異なるので、別の地域の産ではないだろうか。7は内面の赤変した範囲白色の斑点が見られるが、塩の影響ではないだろうか。

105図1は土師質の七輪で、扇形の窓内に「勸業課御□」「筑前博多産□」「更荘」というスタンプが残っており、博多七厘の類例から「勸業課御試験済」「筑前博多産物」である。同じ形態で同じスタンプをもつものが北九州市木屋瀬宿本陣跡でも出土している。



第87図 1次調査1号埋甕実測図(1/12)



第88図 1次調査2・3号埋甕出土土器・陶磁器実測図(1は1/6、4は1/4、他は1/3)

表42 1次調査出土土器・陶磁器観察表15

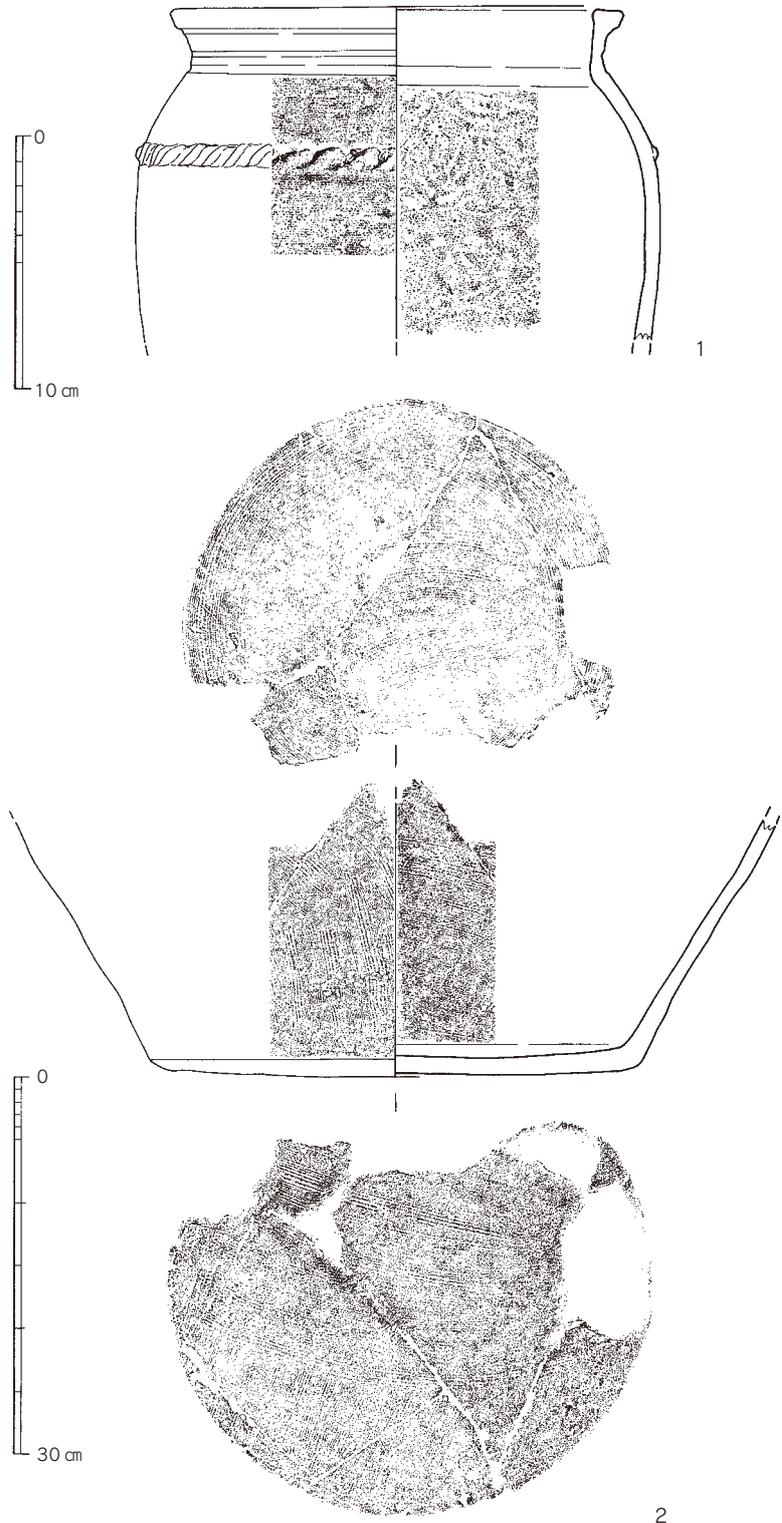
| 遺構名            | 器種         | 法量(cm)                        | 胎の種類                 | 釉薬   | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法                   | 所見                                  |     |                       |
|----------------|------------|-------------------------------|----------------------|--|--|-------------------------|-------------------------------------|-----|-----------------------|
|                |            |                               |                      |  |  |                         | 挿図番号                                | 形状  | ( )は復元値               |
| 図版番号           | 通称名        |                               |                      |  |  |                         |                                     |     |                       |
| 埋甕1<br>87図1    | 大甕         | 底径36.8                        | 陶器 橙褐色に灰白色がマーブル状に混じる | 鉄釉全面掛け   | 内外面格子目タタキ痕ナデ消して、内底部は同心円状に格子目タタキ痕が残る 外底に墨書                        | 不明                      |                                     | 肥前  | 17世紀後半                |
| 埋甕2<br>88図1    | 大甕         | 底径34.0                        | 瓦質土器 灰色 混入物少ない       | —  | 外面器面剥落のため不明 内面目の細かいハケ  | 不明                      |                                     | 在地  | 不明                    |
| 埋甕2<br>88図2    | 猪口         | 口径(8.0)                       | 磁器 灰白色               | 透明釉を全面に掛ける 貫入あり  | 口箱あり   | —                       |                                     | 肥前  | 1700<br>～<br>1780     |
| 埋甕2<br>88図3    | 仏飯器        | 口径(6.6)<br>裾径4.2<br>器高5.9     | 磁器 灰白色               | 透明釉を全面に掛ける 貫入あり  | 外面格子文を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ                   |                                     | 肥前  | 1690<br>～<br>1780     |
| 埋甕3<br>88図4    | 大甕         | 底径(26.0)                      | 土師質土器 にぶい橙褐色 混入物多い   | —  | 外面は器面剥落のため調整を観察できない 内面カルキ付着のため調整観察不能 外底器面摩滅                      | 不明                      | 内面はカルキのため変色している                     | 在地  | 不明                    |
| 埋甕3<br>88図5    | 髪油壺<br>胴丸形 | 最大径(8.0)                      | 磁器 灰白色               | 透明釉 全面   | 外面は花草文を呉須染付  | —                       |                                     | 肥前  | 1650<br>～<br>1690     |
| 埋甕4<br>89図1    | 小甕         | 口径(17.8)                      | 陶器 橙褐色 やや軟質          | 鉄釉全面掛け 焼成不良  | 内面は同心円タタキ痕を、外面は格子目タタキ痕ナデ消し、頸部は凹線                                 | 口唇部釉剥ぎで貝目跡あり            |                                     | 肥前  | 17世紀中葉                |
| 埋甕4<br>89図2    | 大甕         | 底径39.2                        | 瓦質土器 にぶい黄灰色 白色粒子多く含む | —  | 内外面目の細かいハケ   | 不明                      | 内外面に変色なし                            | 在地  | 不明                    |
| 埋甕5<br>90図1    | 大甕         | 底径34.0                        | 土師質土器 にぶい暗黄白色        | —  | 内外面目の細かいハケ   | 不明                      | 外面に変色・摩滅なし 内面は黒灰色に変色し、部分的に鉄分が付着している | 在地  | 不明                    |
| 埋甕5<br>90図2    | 小型鉢<br>香炉か | 口径(7.0)                       | 磁器 灰白色               | 緑釉を全面に掛ける 貫入あり   | 無文   | 不明                      |                                     | 肥前  | 不明                    |
| 埋甕6<br>91図1    | 大甕         | 口径58.0                        | 陶器 暗紫灰色              | 内外鉄釉   | 外面はタタキ痕をナデやハケで消し、内面も同様だが格子目タタキ目が残る                               | 口唇部の釉剥ぎや貝目跡なし           |                                     | 肥前  | 17世紀中葉                |
| 埋甕6<br>91図2    | 大甕         | 底径33.2                        | 土師質土器 にぶい暗黄白色        | —  | 外面ナデ 内面・内底細かいハケ  | 不明                      | 変色・付着物はない                           | 在地  | 不明                    |
| 埋甕6<br>91図3    | 碗          | 口径11.0<br>高台径4.0<br>器高5.5     | 磁器 灰白色               | 透明釉を全面に掛ける   | 外面は崩れた源氏香文と水鳥文と墨引きの渦文、高台外面は櫛歯文、内面口縁部は菱形縞文帯、見込みは崩れた環状松竹梅文のコバルト染付  | 畳付釉剥ぎ                   | 内面口縁部の文様帯は目の錯覚で雷文帯に見える              | 肥前  | 19世紀後半                |
| 埋甕6<br>91図4    | 碗<br>半球形   | 口径(10.4)<br>高台径4.2<br>器高5.0   | 磁器 灰白色               | 透明釉を全面に掛ける   | 外面には菖蒲文と蝶文を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ                   |                                     | 肥前  | 1710<br>～<br>1750     |
| 埋甕6<br>91図5    | 蓋          | 最大径(4.4)<br>裾径3.0<br>器高2.6    | 土師質土器 褐色パミス入る        | —  | 手捏ね成型 裾内部はケズリ  | 不明                      |                                     | 在地  | 不明                    |
| 埋甕7<br>92図1    | 碗<br>半球形   | 口径(10.8)                      | 磁器 灰白色               | 透明釉を全面に掛ける 貫入あり  | 外面に梅樹文を呉須染付  | —                       |                                     | 肥前  | 1710<br>～<br>1740     |
| 埋甕7<br>92図2    | 碗          | 口径10.7<br>高台径4.5<br>器高6.8     | 陶器 灰白色               | 淡緑灰色の灰釉を外面口縁部から胴下位まで掛け、その上に濃い緑灰色の銅緑釉を2度掛け、内面は透明釉掛け         | 外面胴下位はカンナ痕   | 底部露胎 見込み蛇の目釉剥ぎ部に胎土目4つあり |                                     | 肥前  | 1690<br>～<br>1780     |
| 埋甕7<br>92図3    | 小甕         | 肩径12.0<br>底径6.8               | 陶器 にぶい橙褐色            | 内面に鉄釉を掛けた後、外面の胴下半は鉄釉をハケ掛け、外面肩部まで白化粧土を掛け、その上に肩部から胴中に銅緑釉を掛ける |  | 畳付釉剥ぎ                   |                                     | 肥前  | 17世紀後半                |
| 埋甕7<br>92図4    | 中甕         | 口径27.9<br>底径19.7<br>器高36.8    | 陶器 内面暗灰色で外面橙褐色       | 鉄釉全面掛け   | 肩部に円形浮文 内外面格子目タタキで、部分的にナデ消し、内底部はタタキが放射状に入る 外底部は調整不明 白化粧土を肩部に掛け流し | 外底は未調整                  | 内底の変色はカルキが沈着してものか                   | 肥前  | 18世紀                  |
| 埋甕8 2層<br>93図1 | 小碗<br>筒形   | 高台径3.8                        | 磁器 灰白色               | 透明釉を全面に掛ける 外底に釉切れあり  | 外面に楓文と格子区画文が入る 体部下位は崩れた鳳凰文、内面見込みに5弁花文のコンニャク印判刷り呉須染付              | 畳付釉剥ぎ                   |                                     | 肥前  | 1740<br>～<br>1780     |
| 埋甕8<br>93図2    | 碗<br>腰張形   | 口径(8.0)<br>高台径(3.2)<br>器高5.5  | 磁器 灰白色               | 透明釉を全面に掛ける   | 外面は松文、見込みに波千鳥文を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ                   |                                     | 肥前  | 19世紀前半                |
| 埋甕8 2層<br>93図3 | 小皿<br>腰張形  | 口径14.6<br>高台径10.4<br>器高4.2    | 磁器 暗黄灰～橙白色           | 発色不良の透明釉 全面掛け  | 外面は簡略化した蛸唐草文、内面は亀甲文と草文、見込みに花文を呉須染付                               | 蛇ノ目高台で全部釉剥ぎ             | 内底がへたれている                           | 波佐見 | 1820<br>～<br>1860     |
| 埋甕8<br>93図4    | 鉢<br>蓋物    | 口径(13.4)<br>高台径(8.0)<br>器高6.4 | 磁器 灰白色               | 透明釉を全面に掛ける   | 外面は蛸唐草に雲形の窓文を描き、その中に宝文を呉須染付                                      | 畳付釉剥ぎ 内面口縁部釉剥ぎ          |                                     | 肥前  | 18世紀後半<br>～<br>19世紀前半 |
| 埋甕9<br>93図5    | 大甕         | 底径36.2                        | 土師質土器 橙褐色 混入物少ない     | —  | 外面細かいハケ 内面観察不能 外底粗いハケ目   | 不明                      | 内面はカルキのため白色に変色しているが、付着物はない          | 在地  | 不明                    |

105図3は土師質の七輪で、四角の中に「喜八」のスタンプがある。3の形態のものは広い範囲に出土するので、産地を特定できない、スタンプの位置は復元である。

106図2は陶器の中型甕で、外底に陶器片を胎土目に利用することは珍しい。胎は肥前に近く、内底の放射状のタタキ痕も乱れているので、肥前産ではなく二川焼だろう。106図9は磁器の蓋だが、裾部が一部打ち欠いており、そこに煤付が見られるので、転用して灯明皿にしている。

107図12は従軍記念杯で、金彩の「四連隊」が残っているので、久留米歩兵第四八連隊のことだろう(注1)。107図14は磁器杯で、「野田新平」の金彩が書かれている(注2)。107図17は土師質の急須で、胎の色調から見て博多瓦町焼だろう。107図19から21は土師質の土管で、土師質瓦の胎や調整に近く、製作地が近いのだろう。107図22は陶器の摺鉢で、見込みに胎土目跡と環状の砂目跡の両方が見られる。焼成技法の過渡期ではなかろうか。

108図2は京焼風陶器碗だが、高台が小さく、胴の張りが大きい。胎のざらつきもあるので肥前産でないかもしれない。108図3は陶器碗で、外面胴中位の沈線と下位のカンナ痕は成型時のものである。108図6は磁器小皿でアルミナが釉剥ぎ部からはみ出している。108図7は土師質土器の小皿で、内外の色調は黄灰白色だが、見込みに螺旋ナデがあるので、蒲池焼だろう。108図9は陶器の香炉で、オリーブ色の灰釉は緑釉のようである。108図12は陶器の小甕で、胎がややにぶいが肥前産だろう。108図14は水滴の内面に墨書が見られるもので、最も上



第89図 1次調査4号埋甕出土土器・磁器実測図(1は1/3、2は1/6)

のものは屋号だろうか。「千之」と読むべきか。板作り成型なので成型してしまうと墨書を書けない上に、人目に触れることもなくなるので、工人が書いたものだろう。何の意図なのかわからない。

109図1は陶器の摺鉢で、鉄釉が薄く掛かっていることから二川焼の可能性を残す。109図5は陶器の嗽茶碗で、胎が灰色なのが特徴的である。109図7は土師質の焙烙で肩部の接合部にハケ調整が入る。金雲母が入らない胎土の異なるもの。内面の井桁沈線文は112図10にも見られるが、戦国時代のもので久留米市城島町北ノ屋敷遺跡(引用文献1)の鉢にも見ることができる。焼成前に施文されたものである。

110図2は瓦質土器の火鉢で、外面・口唇部にはミガキがあるが、単位がわからないほど入念に磨かれている。口唇部内面側が白化しているのは被熱のためである。112図10・11は土師質土器の焙烙で、反転復元できない大型品の破片である。

113図6は瓦質土器の火鉢で、口縁部下に突帯がつくのは珍しい。

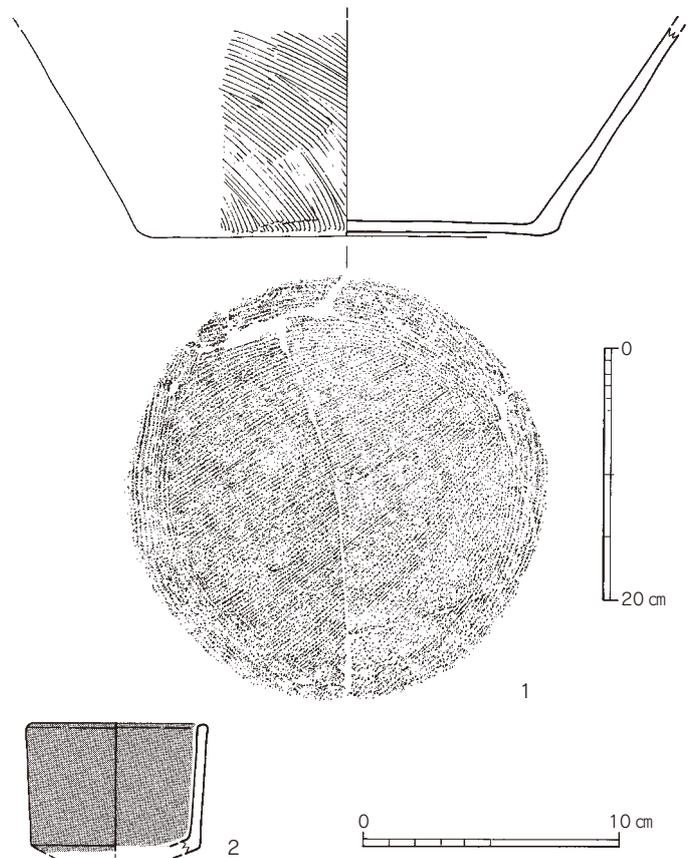
114図1は磁器蓋物の鉢で、焼成時のひびが入っており、ひびの入ったものを購入したのだろう。114図7は瓦質土器の火鉢で、胎が瓦質らしくなくミガキがない。114図5・6は土師質の焼塩壺で、断面に赤色の変色がある。114図8は瓦質の火鉢で、胴下位には型押しによる鋸歯文帯、亀甲文帯などの陽刻がある。突出部の接合部には沈線がある。窓にはミガキが入る。

115図・116図は土師質瓦で、116図1は同一個体の両側端の破片で、接合しないため、図上復元している。117図3は玉縁状の突帯部の上面を面取りしている部分があるので、側端部の破片とわかる。

118図1から3は瓦質の丸瓦で、1は蓆と模骨痕が明瞭に残る。模骨は幅から竹製と見られ、円柱の模骨の上に蓆を掛けて成型したものである。118図2・3は蓆よりも目が細かいので、麻布のようなものではなかろうか。4・5は屋根の棟の先端につく「堤瓦」である。

119図6は磁器の唐人人形の芯押さえで、型合わせの痕跡がなく、裏面は型で成形されたものがないことから、表面を型押しするのみで、裏面は手捏ねとナデのみで仕上げていると見られる。頭部を失っているが、頭頂部に鉄釉を掛ける唐人人形であろう。7は兵隊人形で、前面にのみ着色しているので、子供の玩具ではなく、置物として飾るためのものだろう。4次調査で出土した着せ替え人形(『矢加部町屋敷遺跡Ⅲ 4』55図13・1)とつくりが似ている。

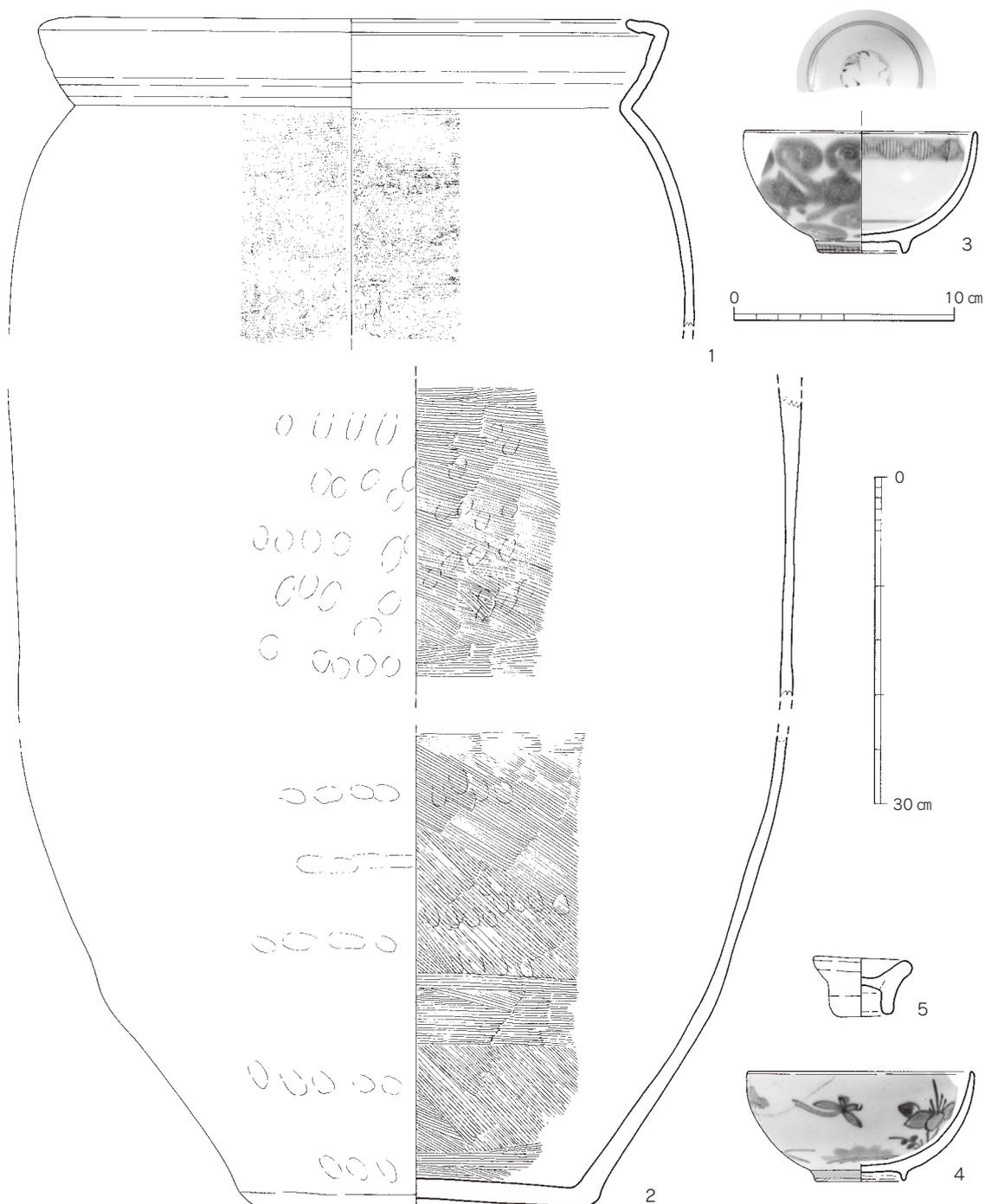
119図12は土師質の鳩笛で、胎が土師質の赤瓦に近いことから、水田焼の可能性が高い。基部は細い方形の穿孔があるのみなので、吹き口がつくのだろう。119図14は極小形の土鈴で、手捏ね成型である。119図20は窯道具で、被熱



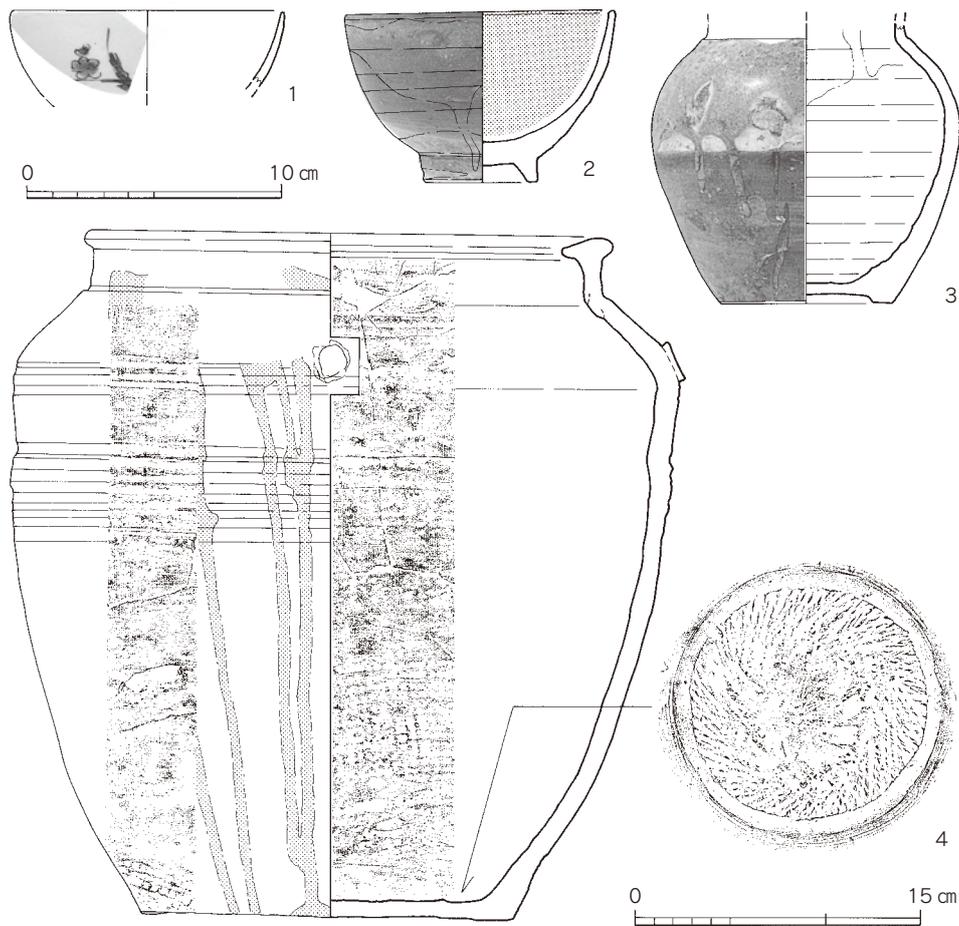
第90図 1次調査5号埋壙出土土器・磁器実測図(1は1/6、2は1/3)

をあまり受けていない面に黒い円形の痕跡がある。119図20は窯道具で、被熱をあまり受けていない面に黒い円形の痕跡がある。119図21・22はサナ状土製品で、21は歪みが大きく破片が小さいため、径を復元できない。22は外縁部の作りが荒いことから、七輪にセットされないものかもしれない。

120図1から5は大型の土人形で、鎧を着けた武者人形と、袴を履いた人形の少なくとも2種類があるようだ。胎土は大黒天人形の底部に抉りの入らないものに近く、在地産である。節句人形と思われ、彩色はなく、つくりと胎は大型土人形のいずれも同じである。120図9は灰落としの際打ち付ける部分に鉄版を貼って強化したもので、管の縦じ目に板を被せている。120図18は非常に薄い金輪であるので、それ単体で使用するものではなく、何かの部品の1つであろう。



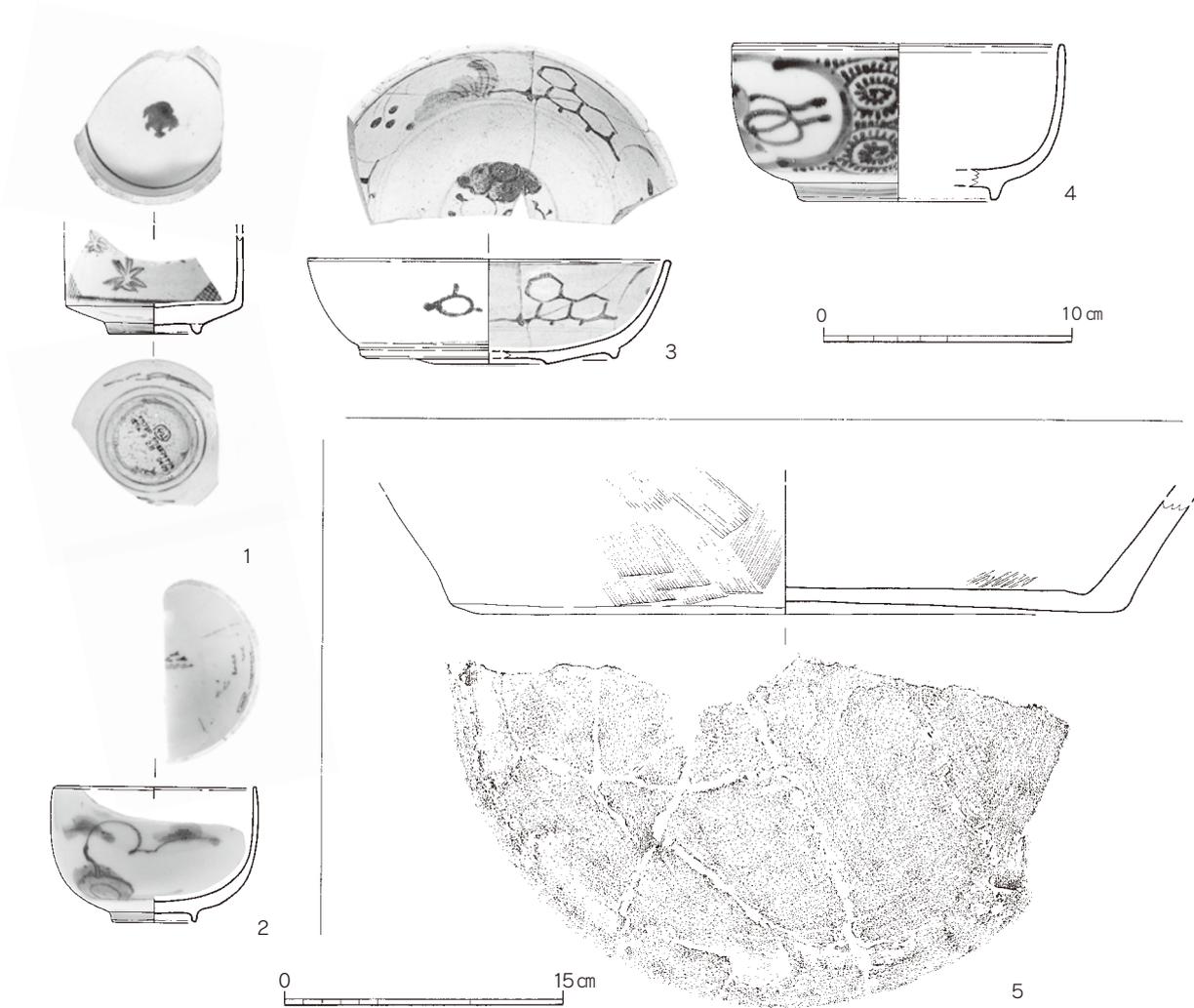
第91図 1次調査6号埋甕出土土器・陶磁器実測図(1・2は1/6、他は1/3)



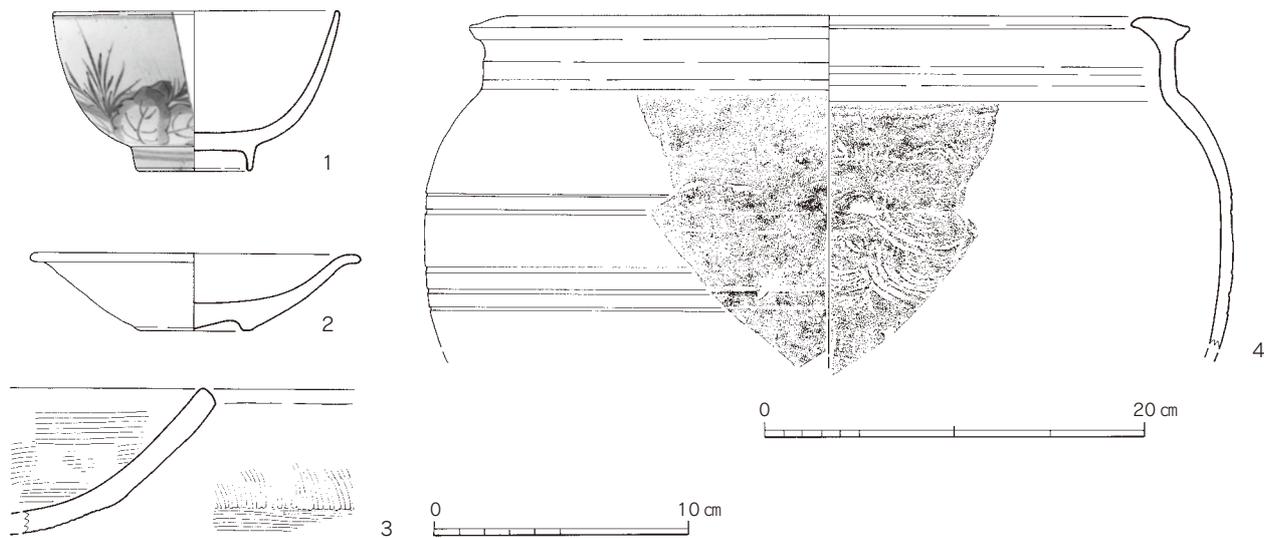
第92図 1次調査7号埋甕出土陶・磁器実測図(4は1/4、他は1/3)

121図はるつぼで、すべて被熱を強く受けており、融着物が著しいため、本来の器面や胎は観察できない。ほとんどの個体の内面には銅の粒が付着していたが、1・12・16は溶解鉄が、3は銅が流れた痕跡が残る。

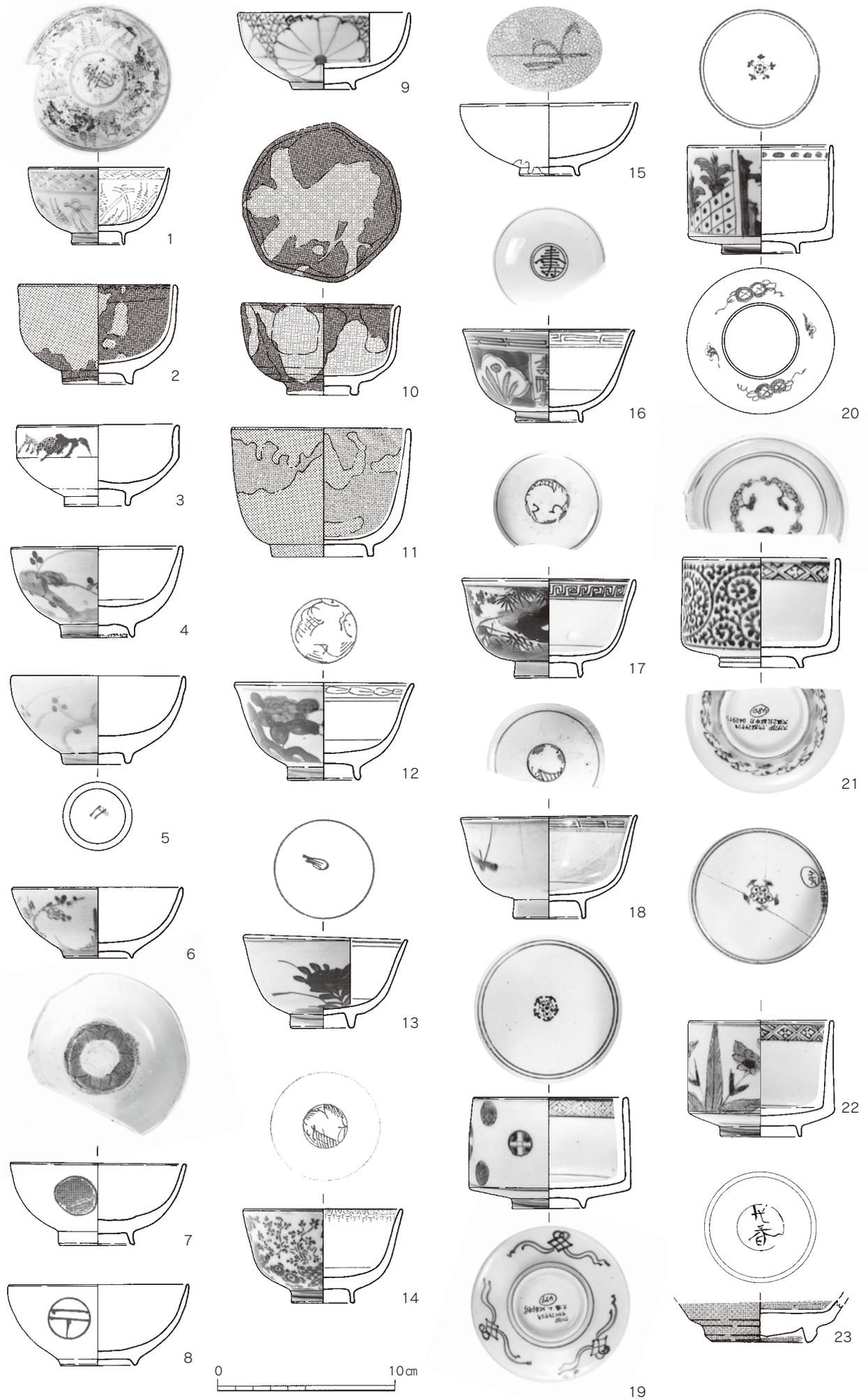
図版20-1～5は近代の攪乱土坑である20号土坑出土であったため、写真のみ掲載していた鋳型で、1は円盤形の上下の鋳型のうちの上型である。湯釜の鋳型であり、内部には製品が残ったまま廃棄されている。X線CTでスキャンしたところ、製品が確認されたがその鉄には素が多く入っており、取り出したとしても製品にならないことがわかった。これほど質の悪い鉄を使用したとは考えられないので、鋳型に問題があったのではなく、鑄造炉の不具合が鋳型に流し込んだ段階で発見されたのではないだろうか。また、X線CTによると鋳型の上部の断面が2層になっていた。これは粘土が異なっていることを示しており、別の粘土を貼り付けたものと思われる。湯口に近いことから使用に欠損を補修した痕跡であろう。このことから1度鋳型として使用しており、それを再利用しようとしているので前回はこの鋳型で鋳出すことができたと見てよく、やはり炉に問題があったのだろう。また、外面の一部に鉄部が露出しており、X線CTスキャンでは製品部分から棒状の鉄部が伸びているように見えた。湯釜に取り付けるものとも考えられず、上面の釜口縁部に湯口があるので、ガス抜きにしては近すぎる。現段階ではこの小さな管状の鉄部の機能はわからない。



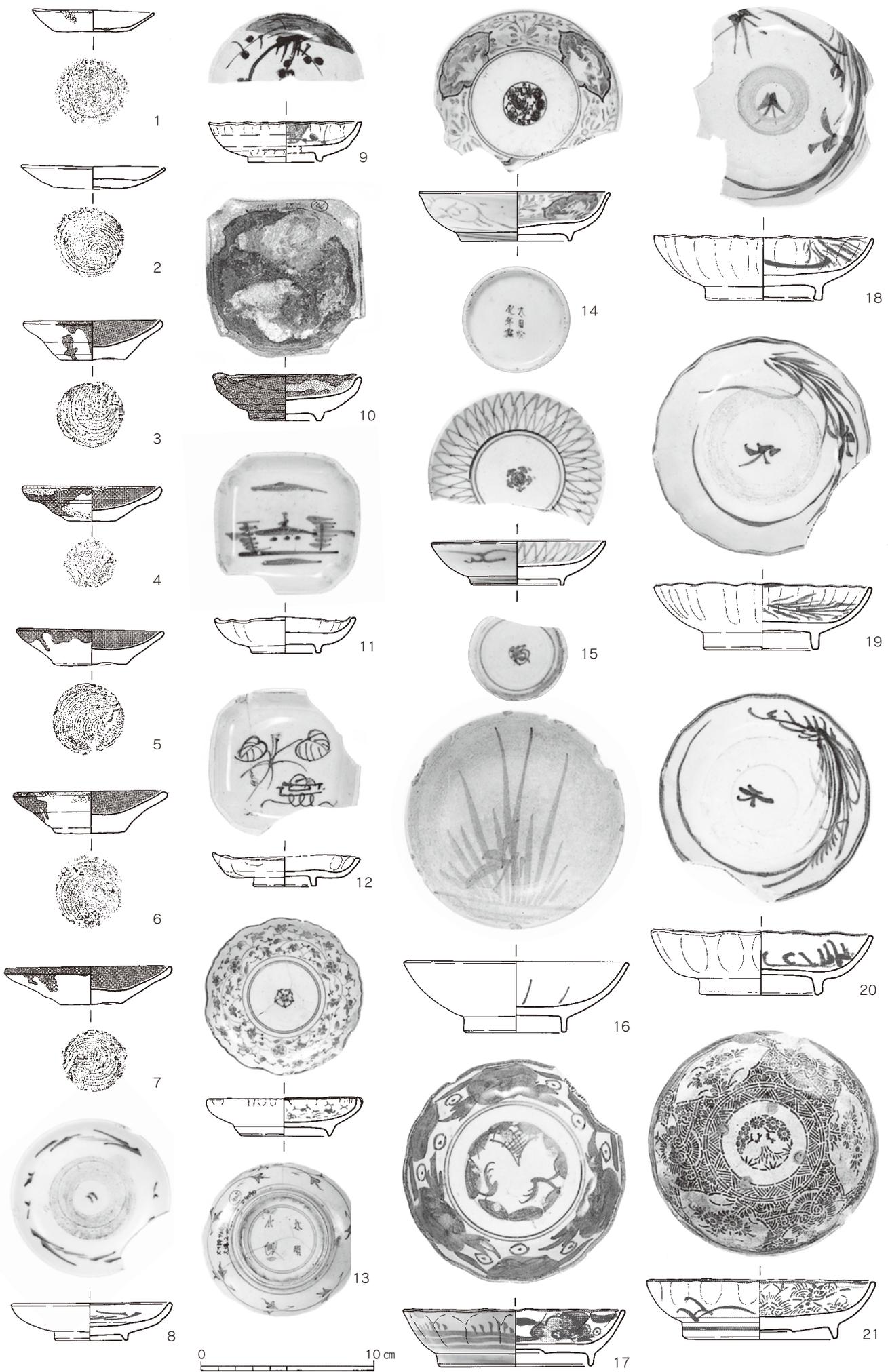
第93図 1次調査8・9号埋甕出土土器・磁器実測図(5は1/4、他は1/3)



第94図 1次調査1号大溝出土土器・陶磁器実測図(4は1/4、他は1/3)



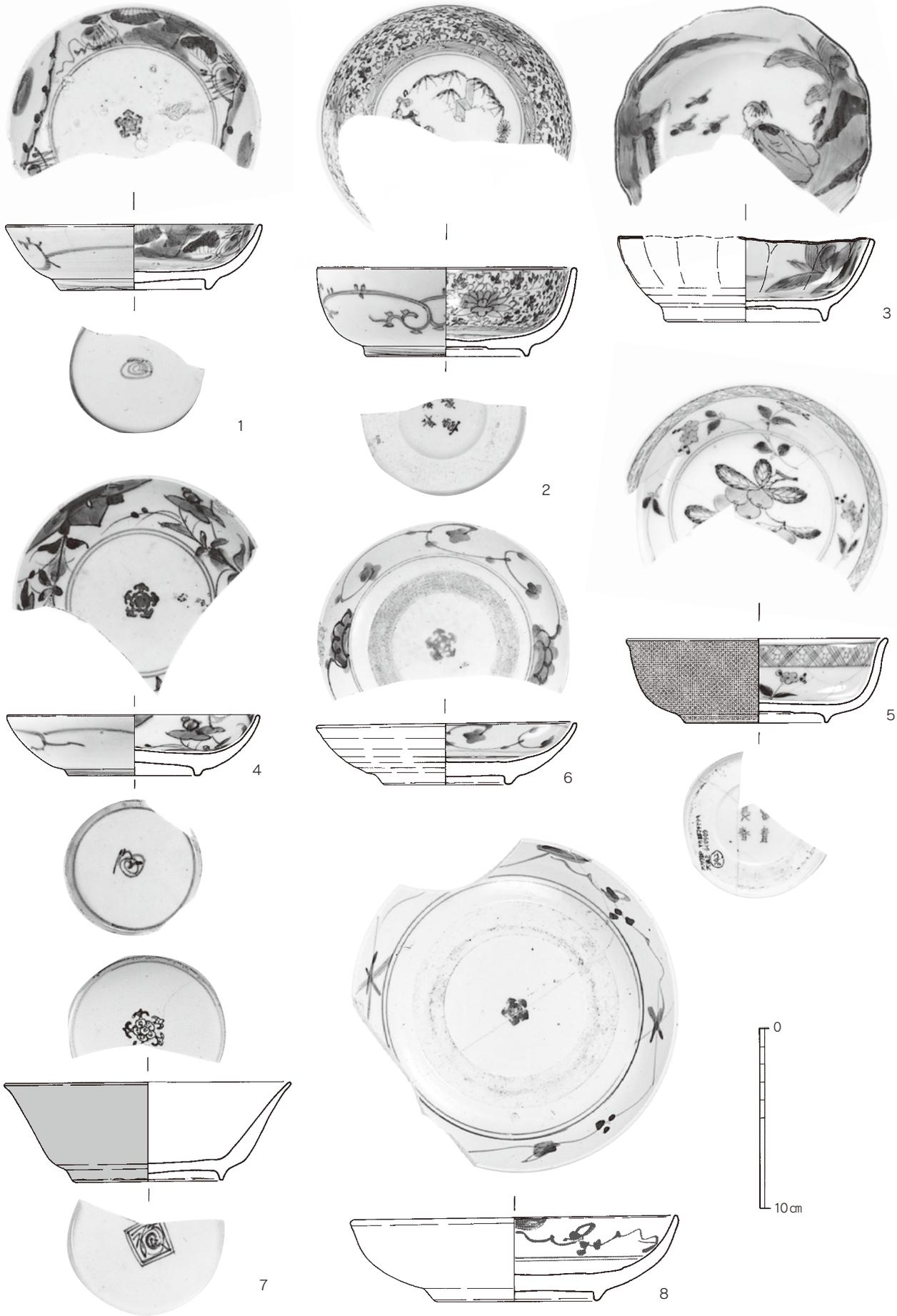
第95図 1次調査2号大溝出土陶磁器実測図1 (1/3)



第96図 1次調査2号大溝出土陶磁器実測図2(1/3)

表43 1次調査出土土器・陶磁器観察表16

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号      | 器種<br>形状<br>通称名    | 法量(cm)<br>( )は復元値            | 胎の種類                      | 釉薬  | 調整・整形・装飾技法  | 窯詰め技法     | 所 見       |      |                       |
|--------------------------|--------------------|------------------------------|---------------------------|---|---|-----------|-----------|------|-----------------------|
|                          |                    |                              |                           |   |   |           | 特記事項      | 推定産地 | 推定年代                  |
| 大溝1<br>94図1              | 碗                  | 口径11.3<br>高台径4.6<br>器高6.4    | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛ける 貫入あり                           | 外面に草葉文を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ     |           | 肥前   | 1690<br>S<br>1720     |
| 大溝1上層<br>94図2            | 小皿                 | 口径(12.9)<br>底径4.4<br>器高3.1   | 陶器<br>橙灰色                 | 長石釉が内面から外面口縁部に掛かる 外底削り出しで碁笥底状             |   | 底部露胎      | 見込みに胎土目付着 | 不明   | 不明                    |
| 大溝1<br>94図3              | 焙烙                 | —                            | 土師質土器<br>灰色<br>軟質         | —   | 内面ハケ状の横ナデ、外面体部は縦ハケ、底部は斜めハケ  | 不明        | 外面煤付著しい   | 在地   | 不明                    |
| 大溝1<br>94図4              | 鉢<br>半胴甕           | 口径(38.0)                     | 陶器<br>外面側暗紫灰褐色<br>～内面側橙灰色 | 内外面鉄釉掛け<br>内面側は発色不良                       | 外面カキ目と格子タタキ痕、内面同心円文痕  | 口唇部に貝目跡   |           | 肥前   | 17世紀後半                |
| 大溝2北部上層<br>95図1          | 小碗                 | 口径7.9<br>高台径2.8<br>器高4.4     | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け                                   | 外面口縁部は変形四方襷文帯、内面口縁部は変化格子目文帯、内外変形露草文の呉須染付  | 畳付釉剥ぎ     | 9割残存      | 肥前   | 19世紀後半<br>S<br>20世紀前半 |
| 大溝2<br>95図2              | 碗                  | 口径(10.2)<br>高台径4.0<br>器高5.6  | 陶器<br>明黄灰色                | 黄褐色の灰釉全面の上に外面のみ灰白色の灰釉上掛け                  |   | 畳付釉剥ぎ     |           | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部<br>95図3            | 碗<br>腰折形           | 口径(9.2)<br>高台径3.8<br>器高4.6   | 陶器<br>にぶい黄灰色              | 外面は鉄絵と緑灰色の灰釉で竹笹文、最後に外面胴下位以下を除いて透明釉掛け 貫入あり |   | 底部露胎      |           | 肥前   | 18世紀後半                |
| 大溝2<br>95図4              | 碗<br>くらわんか手        | 口径9.5<br>高台径3.9<br>器高5.1     | 磁器<br>灰白色                 | 暗い透明釉全面掛け                                 | 外面は花輪文、裏銘は「大明」を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ     |           | 波佐見  | 1680<br>S<br>1700     |
| 大溝2北部中層<br>95図5          | 碗<br>くらわんか手<br>半球形 | 口径(9.9)<br>高台径(3.9)<br>器高5.0 | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け                                   | 外面は花輪文、裏銘は「大明」を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ     |           | 波佐見  | 1680<br>S<br>1740     |
| 大溝2北部中層<br>95図6          | 碗<br>半球形           | 口径9.4<br>高台径3.8<br>器高4.0     | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け<br>貫入あり                           | 外面は梅樹文・竹文を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ     |           | 肥前   | 1710<br>S<br>1750     |
| 大溝2<br>95図7              | 小型碗                | 口径(9.9)<br>高台径4.3<br>器高4.7   | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛ける                                | 外面に赤絵の丸文、見込みは蛇ノ目釉剥ぎして緑彩を塗布した上に黒彩で花卉を描く花卉の周囲に赤彩の界線 口紅の上絵付け                         | 高台内面に砂目付着 |           | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2<br>95図8              | 碗<br>半球形           | 口径10.2<br>高台径4.4<br>器高4.6    | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛ける 貫入あり                           | 外面は郵便局の記号状の家紋文を手書き呉須染付  | —         |           | 肥前   | 1710<br>S<br>1740     |
| 大溝2北部中層<br>95図9          | 碗<br>半球形           | 口径9.7<br>高台径3.6<br>器高4.4     | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け                                   | 外面は氷裂文地に菊花文を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ     |           | 肥前   | 1710<br>S<br>1750     |
| 大溝2<br>95図10             | 碗<br>拳骨形           | 口径8.4<br>高台径4.0<br>器高5.1     | 陶器<br>にぶい黄灰色              | 鉄釉を全面に掛け、その上に薬灰釉を流し掛け 側面はオサエによる窪みあり       |   | 畳付釉剥ぎ     | ほぼ完形      | 小石原  | 不明                    |
| 大溝2北部<br>95図11           | 碗<br>腰張形           | 口径(10.2)<br>高台径5.8<br>器高7.3  | 陶器<br>にぶい灰色               | 鉄釉を全面に掛け、その上に薬灰釉を流し掛け                     |   | 畳付釉剥ぎ     |           | 小石原  | 不明                    |
| 大溝2北部中層<br>95図12         | 碗<br>端反形           | 口径10.1<br>高台径4.1<br>器高5.5    | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け<br>貫入あり                           | 外面は蝶・牡丹文 内面口縁部鎮文、見込みに崩れた環状松竹梅文をコバルト染付   | 畳付釉剥ぎ     |           | 須恵焼か | 19世紀中葉                |
| 大溝2北部上層<br>95図13         | 碗<br>端反形           | 口径9.2<br>高台径3.6<br>器高5.3     | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け<br>貫入あり                           | 外面は花文・蝶文をコバルト染付   | 畳付釉剥ぎ     |           | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 大溝2北部上層<br>95図14<br>図版16 | 小型碗<br>端反形         | 口径9.0<br>高台径3.6<br>器高5.3     | 磁器<br>完形のため不明             | 透明釉全面掛け                                   | 外面壺に生けられた菊花と花木文、内面口縁部は環状文が型紙刷り、見込みは崩れた環状松竹梅文をコバルト染付                               | 畳付釉剥ぎ     | 完形        | 不明   | 19世紀後半                |
| 大溝2北部中層<br>95図15         | 碗<br>半球形           | 口径9.9<br>高台径3.4<br>器高4.2     | 陶器<br>黄灰白色                | 透明釉を外底部以外に全面掛ける 貫入あり                      | 見込みに鉄絵の山水文あり  | 底部露胎      | 京焼風陶器     | 肥前   | 18世紀中葉<br>S<br>18世紀後葉 |
| 大溝2北部中層<br>95図16         | 碗<br>端反形           | 口径9.5<br>高台径3.6<br>器高5.3     | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛ける                                | 口縁部は内外間延びした雷文帯、外面はダミの中に花卉形の窓文内花文とその間に「寿福寿」と「福寿福」が交互に入る、見込みに寿文をコバルト染付              | 畳付釉剥ぎ     |           | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 大溝2北部<br>95図17           | 碗<br>端反形           | 口径9.8<br>高台径3.8<br>器高5.6     | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛ける                                | 外面は樹文と花樹文、内面口縁部は雷文帯、見込みは崩れた環状松竹梅文をコバルト染付、外面は金彩の上絵付け                               | 畳付釉剥ぎ     | 7割残存      | 肥前   | 19世紀後半                |
| 大溝2北部上層<br>95図18         | 碗<br>端反形           | 口径10.0<br>高台径4.1<br>器高5.9    | 磁器<br>灰白色                 | やや暗い透明釉を全面に掛ける                            | 外面は蝶か虫文と樹文、内面口縁部はダミの上に崩れた雷文帯う、見込みに崩れた環状松竹梅文をコバルト染付                                | 畳付釉剥ぎ     | 5割残存      | 肥前   | 19世紀後半                |
| 大溝2北部中層<br>95図19         | 碗<br>筒形            | 口径8.7<br>高台径4.2<br>器高6.4     | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛ける                                | 外面は丸の中に斜格子・亀甲などのモチーフが描かれる丸文散らし 体部下位は宝文、内面口縁部は袈裟文帯で、見込みに5弁花文を呉須染付                  | 畳付釉剥ぎ     | 7割残存      | 肥前   | 1780<br>S<br>1810     |
| 大溝2北部中層<br>95図20<br>図版16 | 碗<br>筒形            | 口径8.2<br>高台径4.3<br>器高6.1     | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛ける                                | 外面は2分割され、同じモチーフが描かれる 竹文を左端にして、山を遠景に入れて右端は幾何学文に草花 体部下位は宝文、内面口縁部は珠文帯で、見込みに5弁花文を呉須染付 | 畳付釉剥ぎ     | ほぼ完形      | 肥前   | 1780<br>S<br>1810     |



第97図 1次調査2号大溝出土磁器実測図1 (1/3)

表44 1次調査出土土器・陶磁器観察表17

| 遺構名        | 器種            | 法量(cm)                                 | 胎の種類                  | 釉薬                    | 調整・整形・装飾技法  | 窯詰め技法                            | 所見                  |      |                       |
|------------|---------------|--|-----------------------|-----------------------|---|----------------------------------|---------------------|------|-----------------------|
|            |               |  |                       |                       |   |                                  | 挿図番号                | 形状   | ( )は復元値               |
| 図版番号       | 通称名           |  |                       |                       |   |                                  |                     |      |                       |
| 大溝2北部      | 95図21         | 碗<br>口径8.9<br>高台径4.7<br>器高6.3          | 磁器<br>灰白色             | 透明釉を全面に掛ける            | 外面は蛸唐草文 体部下位は不明モチーフ、内面口縁部は四方禪文帯で、見込みに環状梅樹文を呉須染付   | 豊付釉剥ぎ                            | 5割残存                | 肥前   | 1780<br>～<br>1810     |
| 大溝2北部北西部中層 | 95図22         | 碗<br>口径8.2<br>高台径4.6<br>器高6.5          | 磁器<br>灰白色             | やや暗い透明釉を全面に掛ける        | 外面は4分割され、3つ葉の花文と丸い実のつく草文が同じモチーフが対面に描かれ、内面は口縁部は袈裟帯で、見込みに5弁花文を呉須染付                            | 豊付釉剥ぎ                            | 5割残存                | 肥前   | 1780<br>～<br>1810     |
| 大溝2北部中層    | 95図23         | 碗<br>高台径5.8                            | 磁器<br>灰色              | 青磁釉                   | 高台内へう割り 見込みに片切り彫の円の中に、毛彫りで丸の中に「大春」  | 豊付釉剥ぎ                            |                     | 龍泉窯  | 不明                    |
| 大溝2北部上層    | 96図1          | 小皿<br>口径7.1<br>底径4.2<br>器高1.3          | 土師質土器<br>完形のため不明      | —                     | 外底糸切り<br>外面ナデ 内面螺旋ナデ  | 内面底部と胴部の境界が焼成不良なのは重ね焼きのため        | 外面口縁部に煤付着<br>内面変色   | 蒲池焼  | 不明                    |
| 大溝2北部中層    | 96図2          | 小皿<br>口径8.4<br>底径3.9<br>器高1.3          | 土師質土器<br>黄白～黄橙色<br>軟質 | —                     | 内外螺旋ナデ 外底糸切り  | 不明                               | 赤変は焼成が強い            | 蒲池焼  | 不明                    |
| 大溝2北部中層    | 96図3          | 小皿<br>口径8.1<br>底径3.8<br>器高2.3          | 陶器<br>橙褐色             | 鉄釉を内面から外面裾縁まで         | 外底糸切り   | 内面に同じ器種の底部の大ききの重ね焼き痕             |                     | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2        | 96図4          | 小皿<br>口径8.2<br>底径2.9<br>器高2.1          | 陶器<br>にぶい橙灰色          | 発色の悪い鉄釉が内面から外面口縁部に掛かる | 外底糸切り<br>内外面ナデ  | 底部露胎                             | 口縁部の一部に煤付着          | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部中層    | 96図5          | 小皿<br>口径8.6<br>底径4.0<br>器高2.2          | 陶器<br>橙褐色             | 鉄釉を内面から外面裾縁まで         | 外底糸切り   | 不明                               |                     | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部上層    | 96図6<br>図版16  | 小皿<br>口径8.5<br>底径4.2<br>器高2.5          | 陶器<br>橙褐色             | 鉄釉が内面から外面口縁部に掛かる      | 外底糸切り<br>内外面ナデ  | 底部露胎 胎土目跡あり                      | 口縁部の打ち欠き部に煤付着       | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部中層    | 96図7          | 小皿<br>口径9.7<br>底径3.6<br>器高2.3          | 陶器<br>橙褐色             | 鉄釉を内面から外面裾縁まで         | 外底糸切り   | 内面に同じ器種の底部の大ききの砂目付<br>外底にもわずかに付着 |                     | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部上層    | 96図8          | 小皿<br>口径9.2<br>高台径3.8<br>器高2.7         | 磁器<br>灰白色             | 透明釉を全面に掛ける            | 内面は植物文、見込みに葉文か 呉須染付   | 豊付釉剥ぎ 見込みに蛇ノ目釉剥ぎ                 | 蛇ノ目釉剥ぎ部に重ね焼き痕と融着片あり | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 大溝2北部中層    | 96図9          | 小皿<br>口径(8.9)<br>高台径4.3<br>器高2.3       | 磁器<br>灰白色             | 発色不良の透明釉 全面           | 型打ち成型 見込みに梅樹文のコバルト染付  | 豊付釉剥ぎ                            |                     | 肥前か  | 19世紀中葉                |
| 大溝2        | 96図10<br>図版16 | 小皿<br>変形小皿<br>口径8.6<br>高台径3.9<br>器高2.7 | 陶器<br>暗灰色             | 鉄釉を全面掛けた              | 上に、内面灰白色の薬灰釉流し掛け  | 豊付釉剥ぎ                            |                     | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部中層    | 96図11         | 小皿<br>変形小皿<br>口径8.2<br>高台径4.0<br>器高2.1 | 磁器<br>灰白色             | やや暗い透明釉 全面掛け          | 糸切り細工の型押し成型で、見込みに山水文を呉須染付   | 豊付釉剥ぎ                            |                     | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 大溝2北部上層    | 96図12         | 小皿<br>変形小皿<br>口径8.5<br>高台径3.7<br>器高1.9 | 磁器<br>灰白色             | やや暗い透明釉 全面掛け          | 糸切り細工の型押し成型で、見込みに山芋葉文と宝文をコバルト染付   | 豊付釉剥ぎ<br>見込みにハリ目跡3つ              | へたれている              | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 大溝2        | 96図13         | 小皿<br>口径8.8<br>高台径4.4<br>器高2.1         | 磁器<br>灰白色             | 透明釉 全面掛け              | 型作りで、花卉形に成型、内外面は花唐草文、見込みに5弁花文、裏銘は「大明化製」を呉須染付 口緒あり   | 豊付釉剥ぎ                            | ほぼ完形                | 肥前   | 1680<br>～<br>1700     |
| 大溝2北部      | 96図14         | 小皿<br>口径(11.5)<br>高台径6.5<br>器高2.9      | 磁器<br>灰白色             | 透明釉 全面掛け              | 外面楓葉唐草文、内面は胴部に染付の雲形窓文内の赤と金彩の花文、その間には黒と赤と緑彩の花葉文、見込みに赤彩の蕨手文帯と中心に染付の松竹梅と鳥文、外底の裏銘は「大明成化年製」を呉須染付 | 豊付釉剥ぎ 砂目付着                       |                     | 肥前   | 18世紀後半<br>～<br>19世紀前半 |
| 大溝2北部      | 96図15         | 小皿<br>口径10.1<br>高台径7.3<br>器高2.6        | 磁器<br>灰白色             | やや暗い透明釉 全面掛け          | 外面は唐草文、内面は網目文、見込みに5弁花文、裏銘は渦福を呉須染付   | 豊付釉剥ぎ 砂目付着                       | 7割残存                | 肥前   | 1680<br>～<br>1740     |
| 大溝2北部上層    | 96図16<br>図版17 | 5寸皿<br>口径13.1<br>底径6.0<br>器高4.1        | 磁器<br>灰白色<br>やや粗放     | 透明釉全面掛け<br>焼成不良で白濁    | 外面鳥文、見込みに水草文をコバルト染付   | 豊付釉剥ぎ                            |                     | 不明   | 19世紀後半                |
| 大溝2北部上層    | 96図17         | 小皿<br>口径12.7<br>高台径8.7<br>器高3.3        | 磁器<br>灰白色             | 透明釉を全面に掛ける            | 型打ち成型 外面水面文か 内面花文、見込みに環状の不明文 口緒状にコバルト染付   | 蛇ノ目高台で、台部釉剥ぎ 見込みにハリ目跡5つあり        |                     | 肥前   | 19世紀後半                |
| 大溝2北部      | 96図18         | 小皿<br>5寸皿<br>口径12.7<br>高台径6.8<br>器高3.8 | 磁器<br>暗い灰白色           | 透明釉 全面                | 型打ち成型 菖蒲文と見込みに蝶文、口緒状にコバルト染付   | 豊付釉剥ぎ<br>見込みに蛇ノ目釉剥ぎ              |                     | 肥前か  | 19世紀中葉                |
| 大溝2北部      | 96図19         | 小皿<br>5寸皿<br>口径12.6<br>高台径6.7<br>器高3.8 | 磁器<br>灰白色             | 透明釉 全面                | 型打ち成型 水草文と見込みに蝶文、口緒状にコバルト染付   | 豊付釉剥ぎ<br>見込みに蛇ノ目釉剥ぎ              |                     | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 大溝2北部      | 96図20         | 小皿<br>5寸皿<br>口径12.8<br>高台径7.1<br>器高3.7 | 磁器<br>灰白色             | 透明釉 全面                | 型打ち成型 水草文と見込みに蝶文、口緒状にコバルト染付   | 豊付釉剥ぎ<br>見込みに蛇ノ目釉剥ぎ              |                     | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 大溝2北部上層    | 96図21         | 5寸皿<br>口径13.1<br>底径9.0<br>器高3.5        | 磁器<br>灰白色<br>やや粗放     | 透明釉全面掛け<br>焼成不良       | 型打ち成型 外面草文、内面型紙刷で、牡丹文地に窓内菊花文、見込みに環状松竹梅文で、口緒状に呉須染付   | 高台内蛇ノ目釉剥ぎ<br>見込みにハリ目跡4つあり        |                     | 波佐見か | 19世紀後半                |



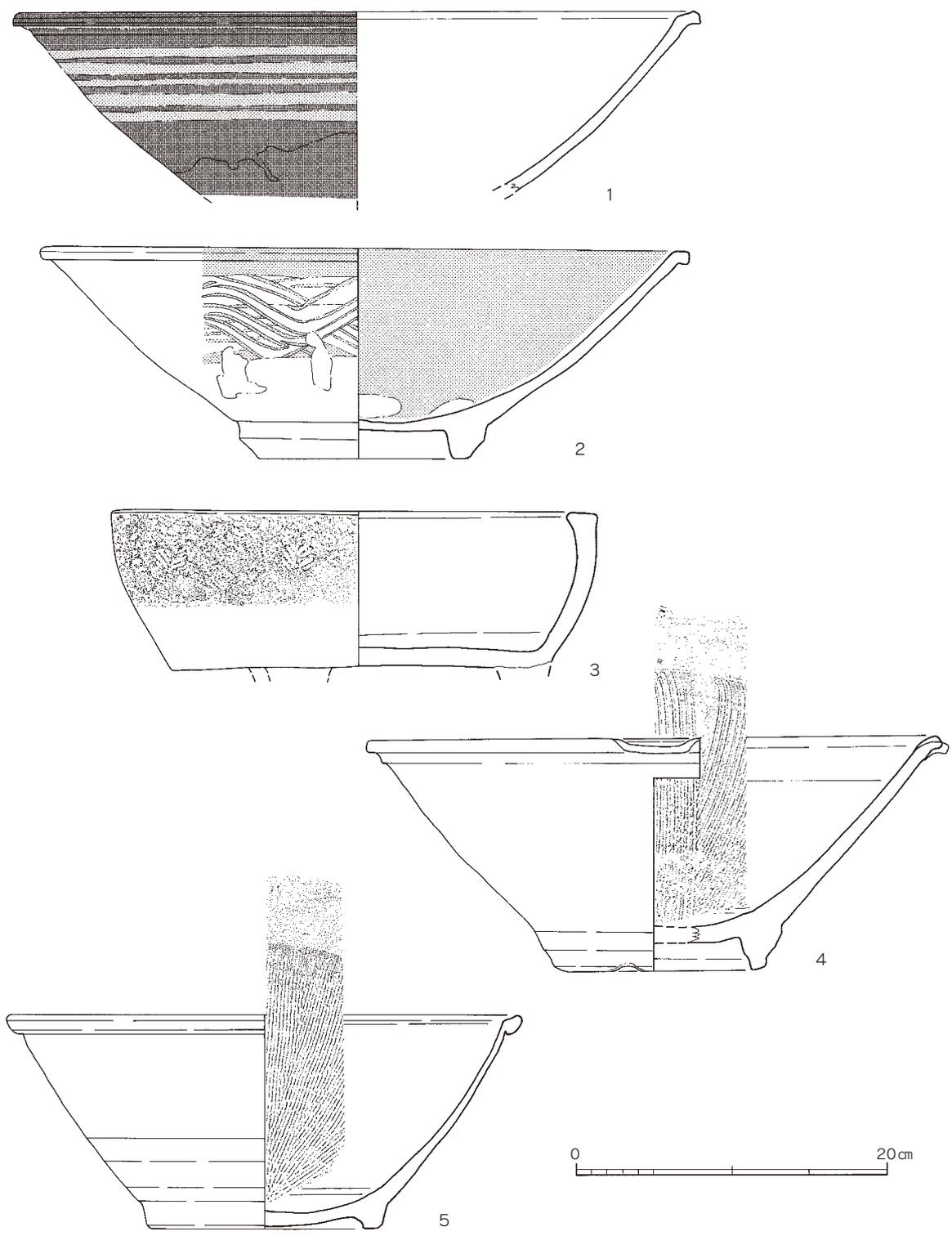
第98図 1次調査2号大溝出土磁器実測図2 (1/3)

表45 1次調査出土土器・陶磁器観察表18

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名     | 法量(cm)<br>( )は復元値               | 胎の種類                                    | 釉薬   | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法   | 所見  |           |           |        |
|---------------------|---------------------|---------------------------------|---|--|--|---|---|-----------|-----------|--------|
|                     |                     |                                 |   |  |  |   | 特記事項  | 推定産地      | 推定年代      |        |
| 大溝2北部<br>97図1       | 小皿<br>くらわんか手        | 口径14.1<br>高台径8.4<br>器高3.6       | 磁器<br>灰白色                               | 暗い透明釉 全面<br>掛け   | 外面は唐草文、内面は半花輪文と葉文、<br>見込みは5弁花文、裏銘は渦福を呉須染<br>付                                  | 畳付釉剥ぎ   | 5割残存<br>見込みにひつつ<br>きあり                          | 波佐見       | 1680<br>\ | 1740   |
| 大溝2北部<br>97図2       | 皿                   | 口径14.2<br>高台径9.0<br>器高4.9       | 磁器<br>灰白色                               | 透明釉 全面掛け   | 外面は唐草文、内面は花唐草文、見込み<br>は環状松竹梅文、裏銘「富貴長春」を呉須<br>染付 墨書あり                           | 外底は蛇ノ目高<br>台状で、台部は<br>露胎  |   | 肥前        | 1740<br>\ | 1780   |
| 大溝2<br>97図3         | 小皿<br>菊花形           | 口径14.0<br>高台径9.0<br>器高4.7       | 磁器<br>灰白色                               | 透明釉 全面掛け   | 型打ち成型 内面に山水文と鳥・人物文<br>を呉須染付 口錆あり   | 蛇ノ目高台で台<br>部釉剥ぎ   |   | 肥前        | 1810<br>\ | 1860   |
| 大溝2北部<br>97図4       | 小皿<br>くらわんか手<br>5寸皿 | 口径(13.8)<br>高台径7.2<br>器高3.4     | 磁器<br>灰白色                               | やや暗い透明釉<br>全面掛け  | 外面は唐草文、内面は桔梗文、見込みの<br>5弁花文はコンニャク印判刷り 裏銘に<br>渦福を呉須染付                            | 畳付釉剥ぎ 砂<br>目付着  | 口縁部は斜めに平<br>坦面をもつ花卉<br>で、長いものと短<br>いものがある       | 波佐見       |           | 18世紀中葉 |
| 大溝2<br>97図5         | 皿                   | 口径14.3<br>高台径7.8<br>器高4.6       | 磁器<br>灰白色                               | 外面は青磁釉、外<br>底と内面は透明釉<br>を掛ける   | 内面口縁部変形四方禰文、胴部は花文、<br>見込みは枇杷文、裏銘は「富貴長春」を呉<br>須染付                               | 蛇ノ目高台で、<br>台部釉剥ぎ  |   | 肥前        |           | 18世紀前半 |
| 大溝2北部中層<br>97図6     | 小皿<br>5寸皿<br>くらわんか手 | 口径14.3<br>高台径7.2<br>器高3.5       | 磁器<br>灰白色                               | 透明釉 全面掛け   | 外面は無文、内面は半菊唐草文、見込み<br>は5弁花文のコンニャク印判刷りの呉須<br>染付                                 | 畳付釉剥ぎ 見<br>込み蛇ノ目釉剥<br>ぎ   |   | 波佐見       | 1680<br>\ | 1740   |
| 大溝2北部<br>97図7       | 皿                   | 口径15.8<br>高台径8.3<br>器高5.5       | 磁器<br>灰白色                               | 内面透明釉、外面<br>青磁釉 貫入あり   | 見込みは5弁花文、裏銘渦福を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ   |   | 肥前        |           | 18世紀後半 |
| 大溝2北部中層<br>97図8     | 中皿                  | 口径18.0<br>高台径9.1<br>器高4.7       | 磁器<br>灰白色                               | 透明釉 全面   | 内面に花文と唐草文 見込みに5弁花文<br>を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ 見<br>込みに蛇ノ目<br>釉剥ぎ  | 蛇ノ目釉剥ぎ部<br>に重ね焼き痕                               | 波佐見       | 1680<br>\ | 1740   |
| 大溝2<br>98図1         | 中皿                  | 口径21.8<br>高台径11.8<br>器高3.6      | 磁器<br>灰白色                               | 透明釉 全面   | 口縁部は切り抜きによる透かして、外面<br>剣状葉文帯で、内面口縁部は連続丸文、<br>見込みに墨引きの螺旋文と山水文 裏銘<br>は「立仁」をコバルト染付 | 畳付釉剥ぎ 砂<br>目付着  | 「立仁」は立林仁<br>蔵の略                                 | 有田<br>立林窯 |           | 19世紀末  |
| 大溝2北部中層<br>98図2     | 中皿<br>花卉口縁          | 口径20.7<br>高台径14.5<br>器高2.9      | 磁器<br>暗灰白色                              | 発色不良の透明釉<br>全面掛け   | 型打ち成型 外面は唐草文、内面は花唐<br>草文、見込みに環状牡丹花文、外底の裏<br>銘は渦福を呉須染付                          | 畳付釉剥ぎ 砂<br>目付着 ハリ目<br>跡2つ外底にあ<br>り 位置関係から<br>本来3つか              |   | 肥前        | 1680<br>\ | 1700   |
| 大溝2<br>98図3         | 中皿                  | 口径25.6<br>高台径15.0<br>器高3.7      | 磁器<br>灰白色                               | 透明釉 全面   | 外面側は唐草文、内面は蛸唐草文と葉文、<br>雲文が幾何学的に配置されている 裏銘<br>は「富貴長春」を呉須染付                      | 畳付釉剥ぎ ハ<br>リ目跡5つあり  |   | 肥前        |           | 18世紀前半 |
| 大溝2北部<br>98図4       | 皿<br>花卉形            | 口径(22.7)<br>高台径(12.6)<br>器高4.5  | 磁器<br>灰白色                               | 透明釉 全面掛け<br>発色不良で乳白<br>色を呈する   | 型打ち成型 外面は蔓を延ばさない七宝<br>文の花唐草文、内面は口縁部に雲形窓文、<br>見込みに型紙刷りの花文を呉須染付                  | 畳付釉剥ぎ ハ<br>リ目跡の有無は<br>不明  |   | 肥前        | 1680<br>\ | 1740   |
| 大溝2北部上層<br>99図1     | 中皿<br>花卉口縁          | 口径20.4<br>高台径12.4<br>器高3.2      | 磁器<br>灰白色                               | 透明釉 全面掛け   | 型打ち成型 外面は唐草文、内面は松竹<br>梅文、見込みに5弁花文、外底の裏銘は<br>「大明成化年製」を呉須染付                      | 畳付釉剥ぎ ハ<br>リ目跡5つ外底<br>にあり                                       |   | 肥前        | 1740<br>\ | 1780   |
| 大溝2北部上層<br>99図2     | 大皿                  | 口径40.0<br>底径21.1<br>器高8.5       | 磁器<br>灰白色                               | 透明釉全面掛け<br>貫入あり  | 内面に花唐草文、見込みに山水文、外面<br>は唐草文、裏銘は「福」を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ ハ<br>リ目跡5つあり  |   | 肥前        | 1740<br>\ | 1780   |
| 大溝2北部中層<br>99図3     | 鉢                   | 口径(21.7)<br>高台径10.0<br>器高7.0    | 磁器<br>灰白色                               | 透明釉 全面掛け<br>貫入あり   | 外面は唐草文、内面は蝶と牡丹花文、裏<br>銘渦福を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ 砂<br>目付着  |   | 肥前        | 1700<br>\ | 1740   |
| 大溝2北部上層<br>99図4     | 鉢                   | 口径31.6<br>高台径12.4<br>器高12.0     | 陶器<br>暗紫灰色                              | 内外白化粧土を掛けた後、外面上半は藤<br>釉剥ぎ、下半は鉄釉<br>ハケ掛け、内面から外面上半に透明釉を<br>掛ける                   |  | 畳付釉剥ぎ<br>見込みに砂目跡<br>付着  | 外面の一部に白<br>化粧土・鉄釉・<br>透明釉のすべて<br>が縮れて剥がれ<br>ている | 肥前か       |           | 19世紀代か |
| 大溝2北部中層<br>100図1    | 大鉢                  | 口径(44.2)                        | 陶器<br>外面上位以下は暗紫<br>灰色、外面上位から<br>内面は黄白灰色 | 外面上位以下に鉄漿をハケ掛けした後、<br>外面上半分に白化粧<br>土を塗布して帯状掻き取りし、最後に透<br>明釉を内面から外面<br>胴中位まで掛ける |  | —   |   | 不明        | 1690<br>\ | 1750   |
| 大溝2<br>100図2        | 大鉢                  | 口径(41.8)<br>高台径15.8<br>器高13.7   | 陶器<br>橙褐色                               | 内外に鉄漿をハケ掛けした後、外面上半<br>分に白化粧土を塗布して帯状掻き取りし、<br>内面から外面口縁部に白化粧土をハケ<br>掛けする         |  | 見込みに胎土目跡<br>が7つあり、畳<br>付に胎土目が4つ<br>残っている<br>痕跡が3つあり<br>本来は7つだった |   | 肥前か       | 1690<br>\ | 1750   |
| 大溝2北部中層<br>100図3    | 火鉢                  | 口径31.3<br>底径24.4<br>器高10.5      | 瓦質土器<br>にぶい淡橙灰白色が<br>灰白色を挟む             | —  | 内外とも器面の剥落著しい 外面は葉文<br>のスタンプ 内面はナデ 外底に脚の剥<br>離痕が3つある 外底はハケ状のナデ                  | 不明  | 内面黒変、口唇<br>部に煤付着                                | 在地か       |           | 不明     |
| 大溝2北部中層<br>100図4    | 摺鉢                  | 口径37.6<br>底径13.8<br>器高15.5      | 陶器<br>橙褐色                               | 内外面鉄釉掛け  | 摺り目は10本単位 外面上半ナデ、下<br>半ケズリ   | 見込みに蛇の目<br>焼き重ね痕 畳<br>付釉剥ぎ後高台<br>に砂目塗布                          |   | 肥前        | 1750<br>\ | 1860   |
| 大溝2北部上層<br>100図5    | 摺鉢                  | 口径(33.2)<br>高台径(15.2)<br>器高13.8 | 陶器<br>暗紫灰色 底部だけ<br>表面橙褐色                | 鉄釉を全面に掛ける  | 底部糸切り<br>摺り目は20本単位   | 底部露胎 見込<br>みに環状の砂目<br>付着  | 上半の器壁が非<br>常に薄い 底部<br>は重ね焼きのため<br>発色不良          | 肥前        |           | 19世紀後半 |
| 大溝2北部中層<br>101図1    | 摺鉢                  | 口径34.0<br>高台径14.4<br>器高14.8     | 陶器<br>橙褐色                               | 鉄釉は外面下半に<br>ハケ掛けした後、<br>外面上半に厚掛け   | 外面上半分はナデ、下半分はケズリ 摺<br>り目は11本単位   | 見込みに蛇の目<br>焼き重ね痕 畳<br>付釉剥ぎ                                      |   | 肥前        | 1750<br>\ | 1860   |
| 大溝2北部中層<br>101図2    | 摺鉢                  | 口径37.2<br>高台径13.6<br>器高15.2     | 陶器<br>橙褐色                               | 鉄釉全面掛け   | 外面上半分はナデ、下半分はケズリ 摺<br>り目は13本単位   | 見込みに蛇の目<br>焼き重ね痕 畳<br>付釉剥ぎ後高台<br>に砂目塗布                          |   | 肥前        | 1750<br>\ | 1860   |
| 大溝2北部<br>101図3      | 摺鉢                  | 口径(27.0)<br>高台径13.6<br>器高14.3   | 陶器<br>橙褐色                               | 内外面鉄釉掛け  | 摺り目は15本単位 中位に横に入る<br>外面上半ナデ、下半ケズリ  | 畳付釉剥ぎ 見<br>込みに環状重ね<br>焼き痕あり                                     | 外底が橙褐色な<br>ため                                   | 肥前        | 1750<br>\ | 1860   |
| 大溝2北部上層<br>101図4    | 摺鉢                  | 口径(38.6)<br>高台径8.3<br>器高15.0    | 陶器<br>暗紫灰色                              | 鉄釉を全面に掛ける  | 底部糸切り<br>摺り目は18本単位以上   | 底部露胎 見込<br>みに環状の砂目<br>付着  | 上半の器壁が非<br>常に薄い                                 | 肥前        |           | 19世紀後半 |

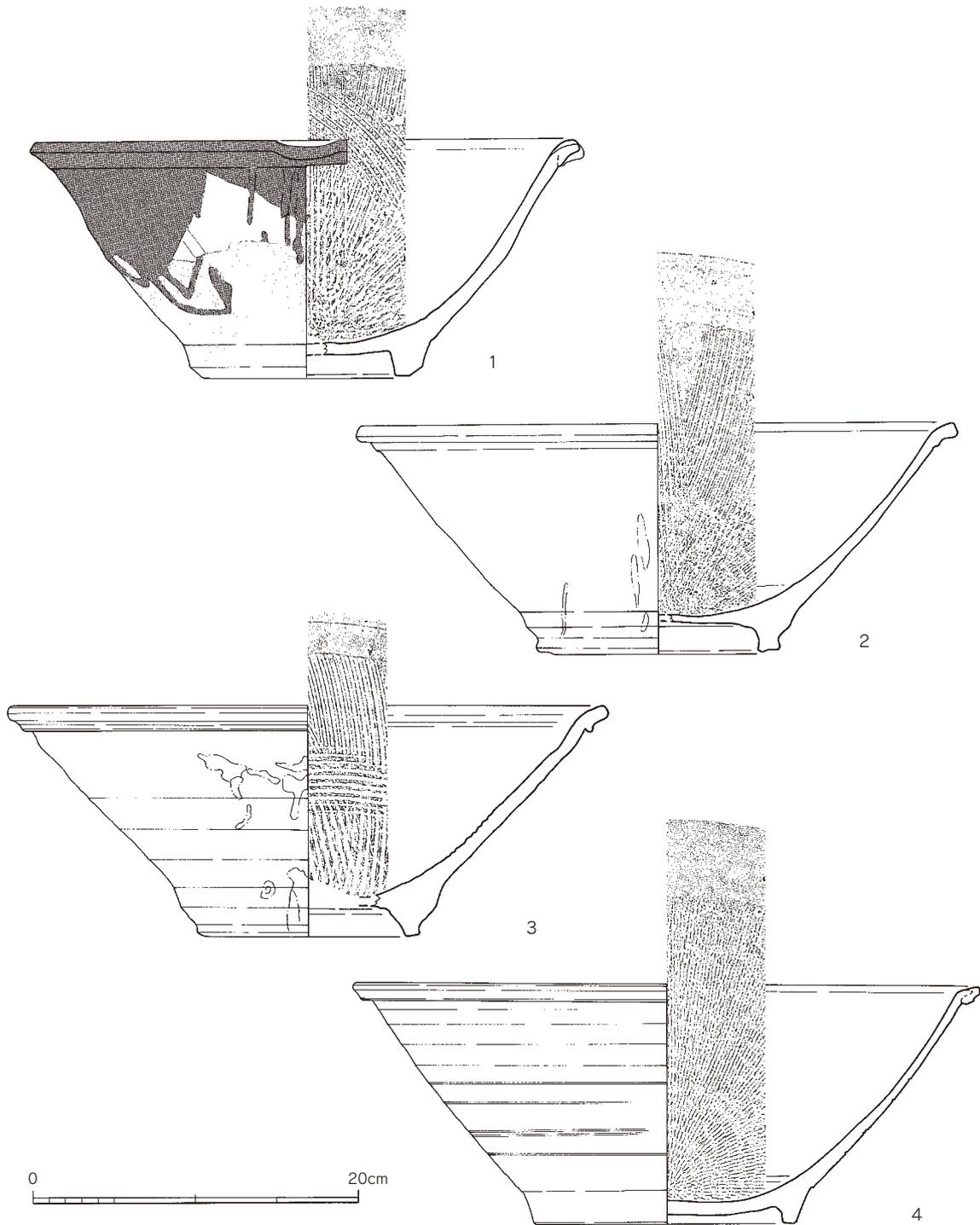


第99図 1次調査2号大溝出土陶磁器実測図3(1/3)

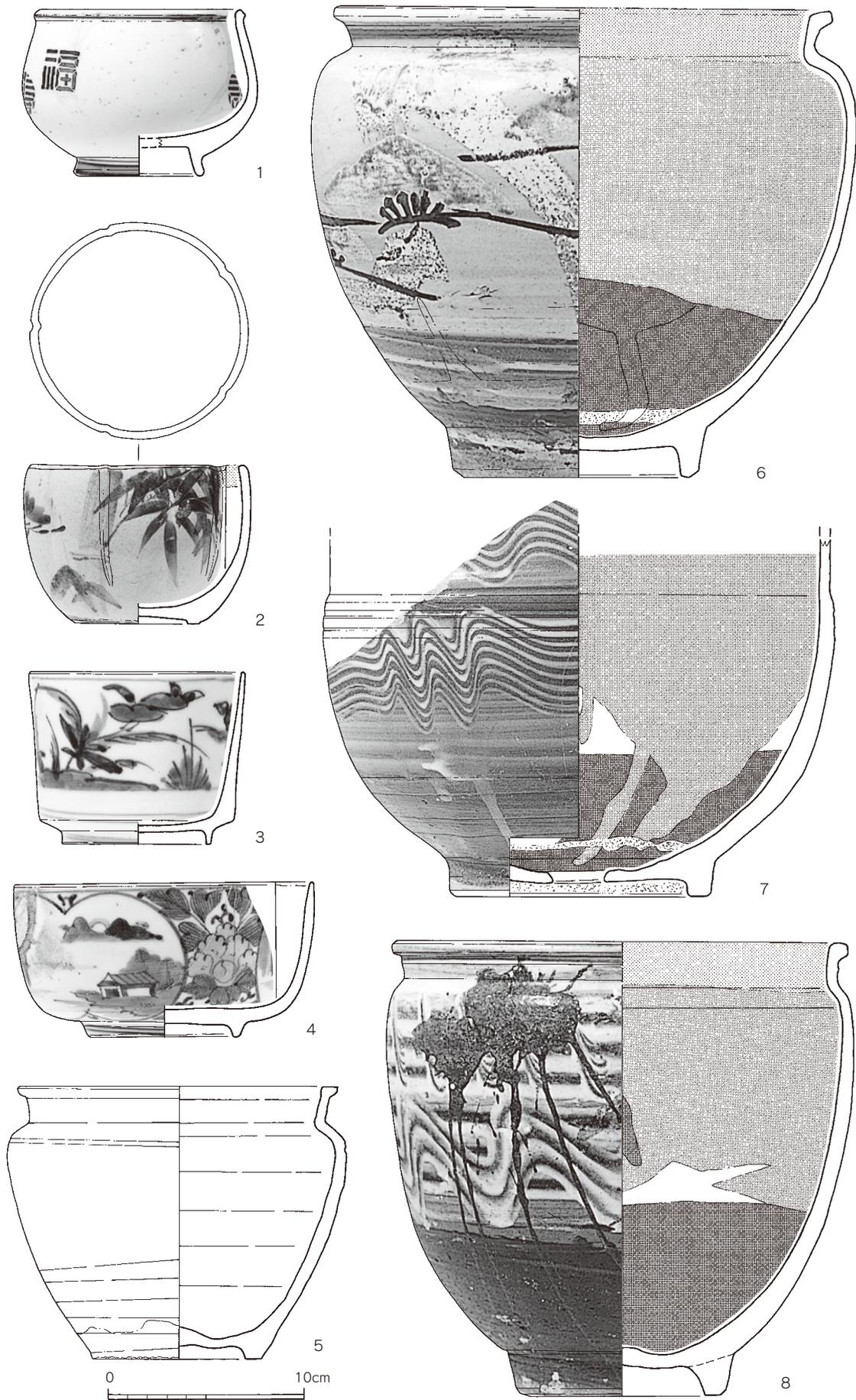


第100図 1次調査2号大溝出土土器・陶磁器実測図1 (1/4)

欠損して剥がれた部分から、製品の表面らしい鉄錆の広がりが見られ、剥がれた部分の中子と  
 鋳型表面の間には炭化物が存在し、製品の離脱を促す素材であったものと思われる。『大川市の民  
 俗』の榎津地区の調査報告によると、鋳物屋では中子を外れ易くするため、白で搗いて粉にした  
 炭の粉を水で溶いて、刷毛で中子の表面に塗り、炭火で乾燥させ、この作業を繰り返して器表面

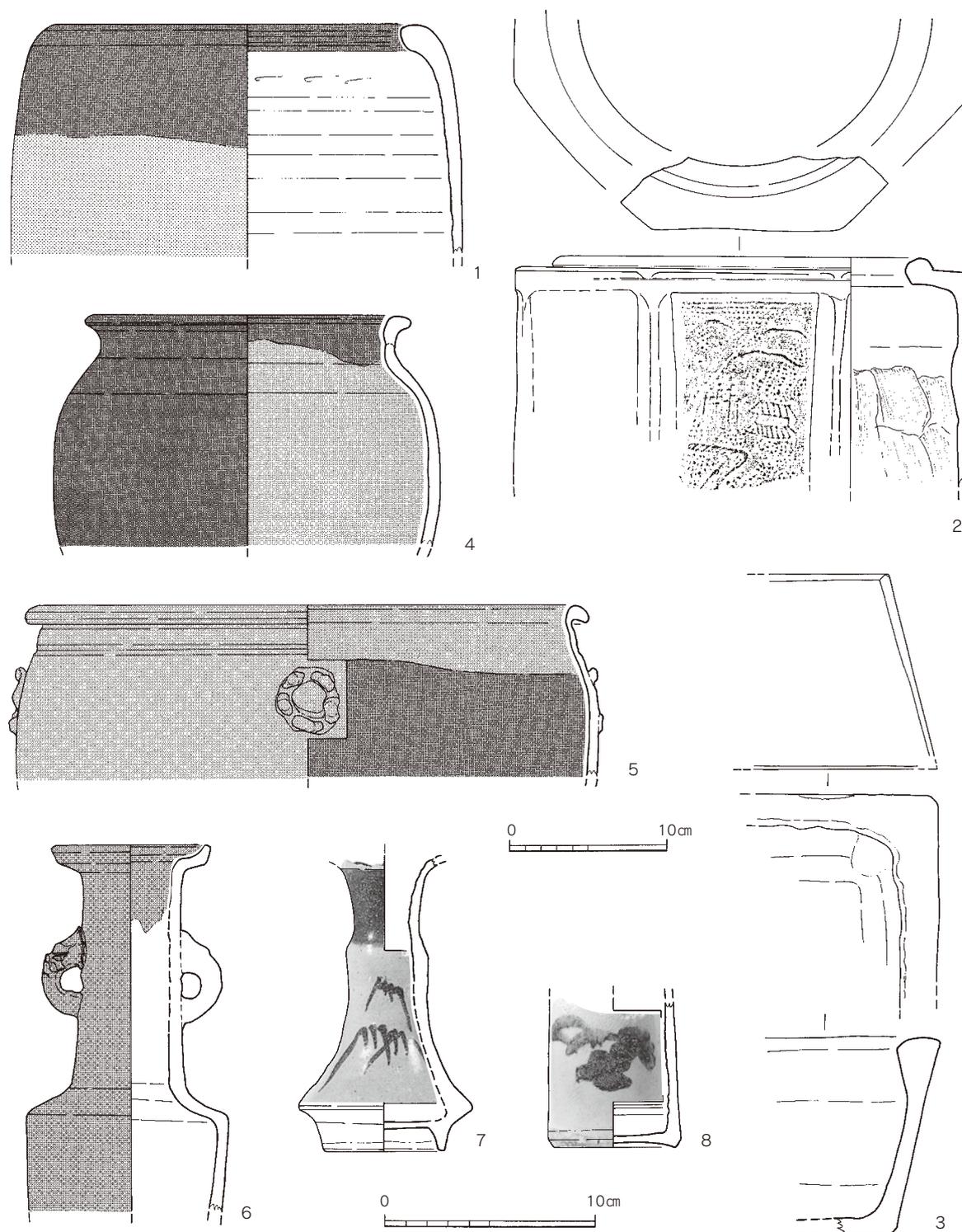


第101図 1次調査2号大溝出土陶器実測図(1/4)



第102図 1次調査2号大溝出土陶磁器実測図4(1/3)

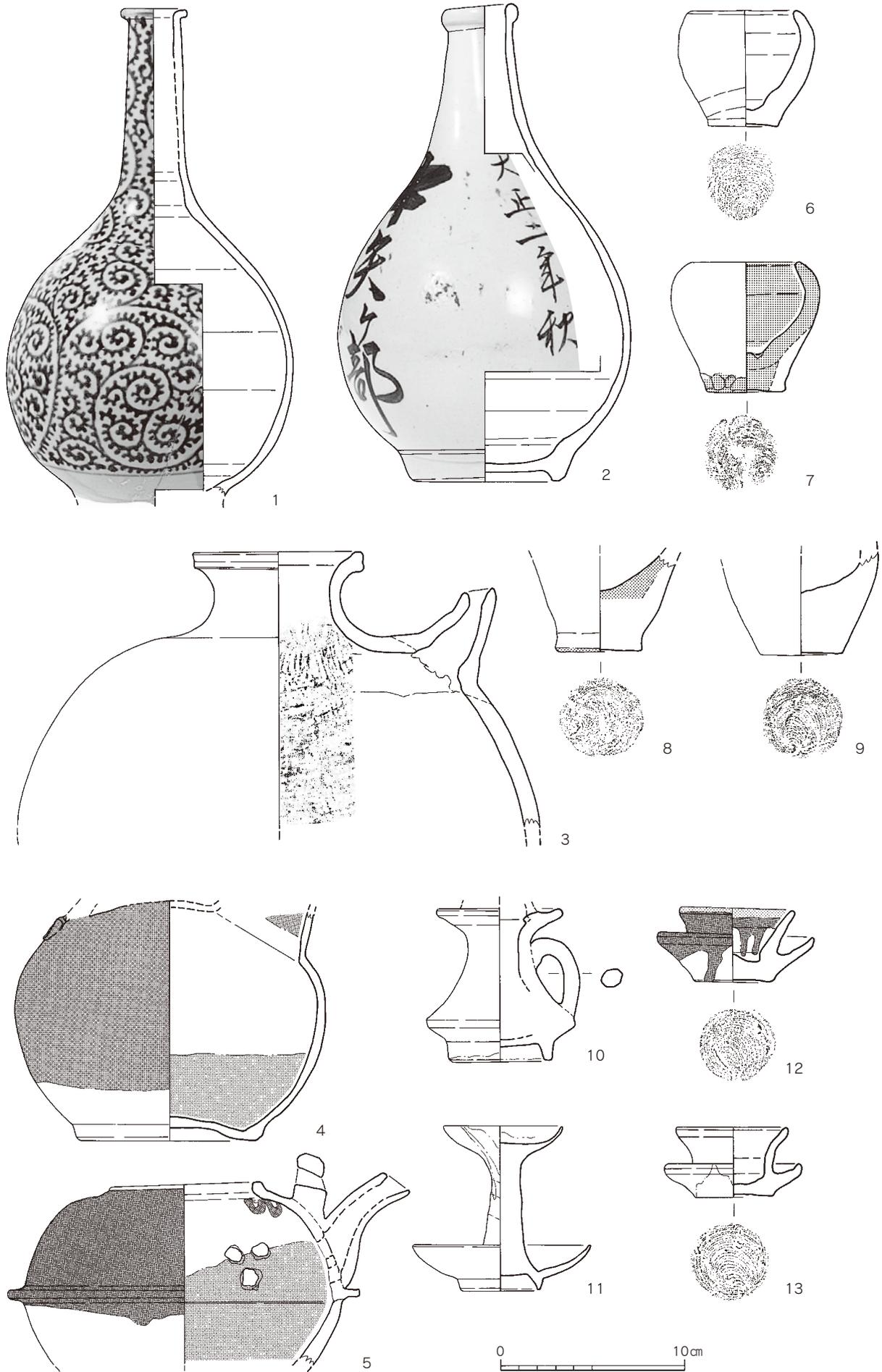
をなめらかに仕上げたとある(引用文献2)。図版20-3の鑄型内面の×形沈線は中子を外しやすくするための加工ではなく、鑄出されて陽刻になる文様だろう。この鑄型によって鑄出された製品と思われるものに3次調査1号溝出土の湯釜がある(『矢加部町屋敷遺跡I』72図2)。



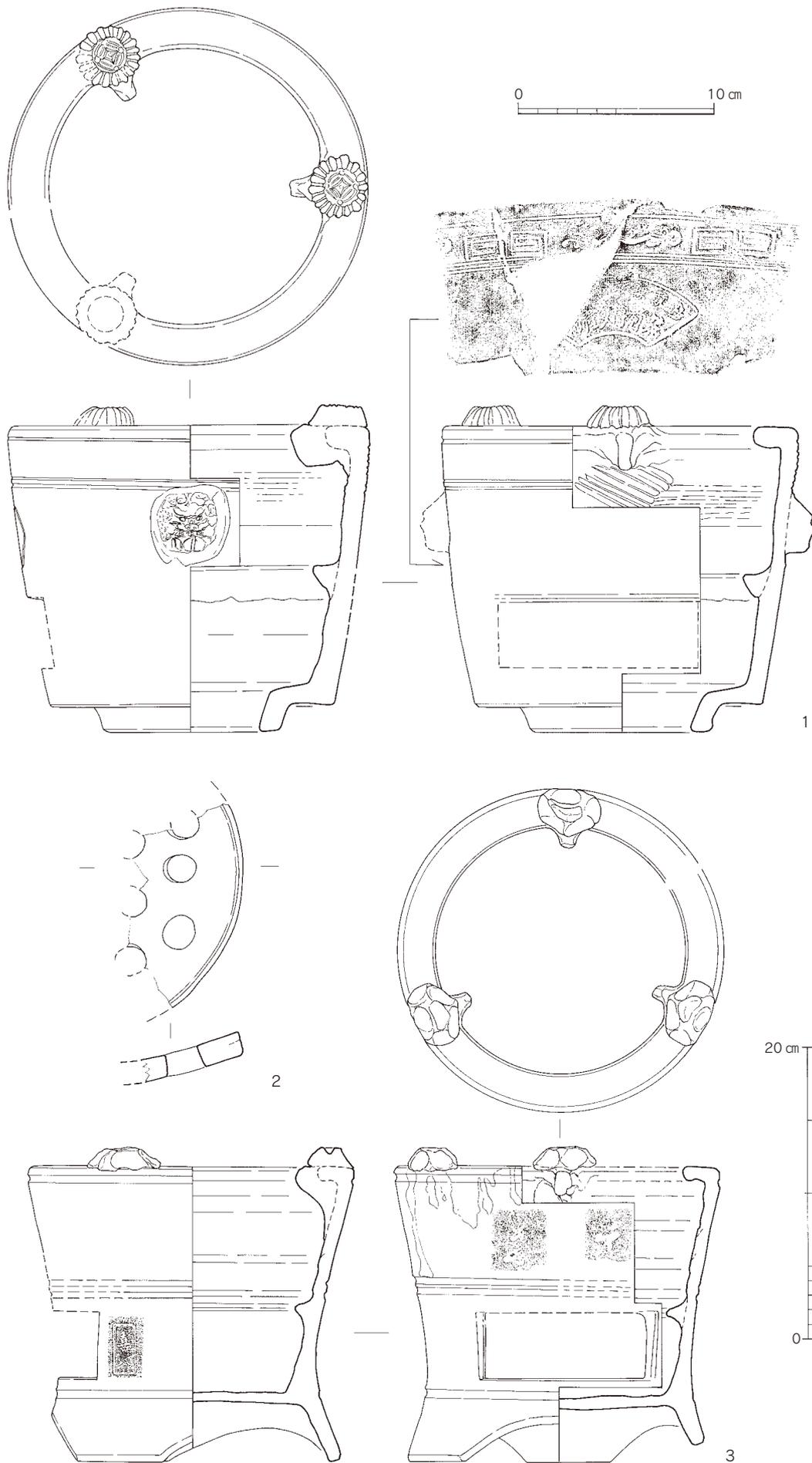
第103図 1次調査2号大溝出土土器・陶磁器実測図2(5は1/4、他は1/3)

表46 1次調査出土土器・陶磁器観察表19

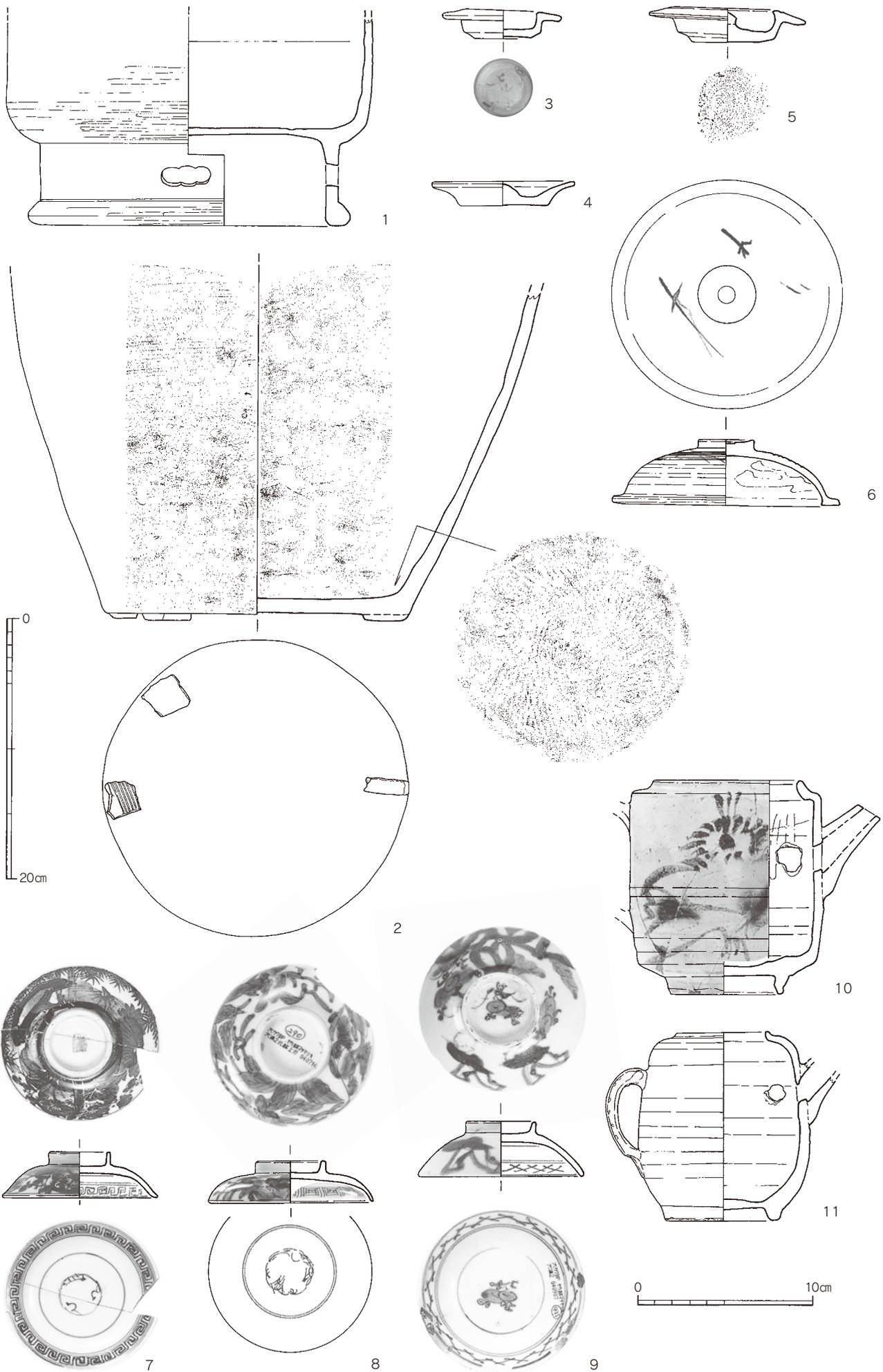
| 遺構名               | 器種         | 法量(cm)                        | 胎の種類                   | 釉薬  | 調整・整形・装飾技法  | 窯詰め技法                       | 所見                       |     |         |                  |
|-------------------|------------|-------------------------------|------------------------|---|---|-----------------------------|--------------------------|-----|---------|------------------|
|                   |            |                               |                        |   |   |                             | 挿図番号                     | 形状  | ( )は復元値 | 特記事項             |
| 図版番号              | 通称名        |                               |                        |   |   |                             |                          |     |         |                  |
| 大溝2上層包含層<br>102図1 | 鉢          | 口径(10.8)<br>高台径(6.6)<br>器高8.6 | 磁器<br>灰白色              | 透明釉を全面に掛ける<br>貫入あり  | 外面コバルトの界線を施した後、透明釉を全面掛け、最後に外面に型紙刷りで茶彩で「福」、緑彩で「寿」を上絵付け           | 豊付釉剥ぎ                       |                          | 肥前  |         | 20世紀前半           |
| 大溝2北部中層<br>102図2  | 鉢<br>花弁形   | 口径(11.2)<br>底径6.2<br>器高8.1    | 陶器<br>にぶい黄灰色<br>混入物多い  | 型打ち成型で、外面は白化粧土の上に鉄絵の竹笹文をいれ、内面胴上位から外面に透明釉を掛ける<br>外面はその上に緑・紺色で松文を上絵付け<br>透明釉には貫入あり        |   | 底部露胎                        | 外底の胎にざらつきあり<br>内面変色なし    | 京焼か |         | 不明               |
| 大溝2北部<br>102図3    | 鉢<br>蓋物    | 口径(11.0)<br>高台径(7.4)<br>器高8.8 | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面  | 外面は花草文 呉須染付   | 口縁部内面釉剥ぎ                    |                          | 肥前  |         | 18世紀前半           |
| 大溝2北部中層<br>102図4  | 蓋物         | 口径(15.2)<br>高台径7.5<br>器高7.9   | 磁器<br>灰白色              | 透明釉 全面掛け  | 外面は胴上半は牡丹花文地に、窓文内山水文を呉須染付                                       | 豊付釉剥ぎ                       | 外面に融着した別個体の破片あり          | 肥前  |         | 18世紀中葉<br>19世紀前葉 |
| 大溝2北部中層<br>102図5  | 小型鉢<br>半胴甕 | 口径(16.2)<br>高台径8.7<br>器高13.0  | 陶器<br>橙褐～暗紫灰色          | 鉄釉を外面全面掛け   |   | 胴下位から高台に砂目付着                | 内面にカルキ付着                 | 肥前  |         | 18世紀後半<br>19世紀中葉 |
| 大溝2上層<br>102図6    | 鉢<br>半胴甕   | 口径25.2<br>高台径12.5<br>器高23.7   | 陶器<br>淡灰褐色             | 内外胴下位は鉄釉ハケ掛け、内外胴下位まで鉄漿を掛け、外面胴下位から内面頸部まで白化粧土ハケ掛けし、外面胴下位は帯状掻き取り<br>最後に外面に鉄絵と緑彩と鉛釉で松絵を上絵付け |   | 豊付釉剥ぎ 高台に砂目付着 見込みに環状の砂目付着   | 白化粧土の上には透明釉を掛けていない       | 肥前  |         | 18世紀後半<br>19世紀中葉 |
| 大溝2<br>102図7      | 鉢<br>半胴甕   | 高台径13.3                       | 陶器<br>橙褐色              | 内外胴下位は鉄釉ハケ掛け、外面胴下位には白化粧土ハケ掛けし、外面下位は帯状・楕状掻き取り後、内外胴下位までオリブ色の灰釉を掛ける                        |   | 豊付釉剥ぎ 高台内面に砂目付着 見込みに環状の砂目付着 | 底部の穿孔は焼成後なので、植木鉢に再利用している | 肥前  |         | 18世紀後半<br>19世紀中葉 |
| 大溝2上層<br>102図8    | 鉢<br>半胴甕   | 口径23.0<br>高台径10.6<br>器高23.1   | 陶器<br>暗灰茶褐色            | 内外胴下位は鉄釉ハケ掛け、内外胴下位までオリブ色の灰釉を掛け、外面胴下位から内面頸部まで白化粧土ハケ掛けし、外面胴部は帯状掻き取り<br>最後に肩部に鉄釉流し掛け       |   | 豊付釉剥ぎ 高台に砂目付着 見込みに環状の砂目付着   | 白化粧土の上には透明釉を掛けていない       | 肥前  |         | 18世紀後半<br>19世紀中葉 |
| 大溝2北部<br>103図1    | 火鉢         | 口径(17.0)                      | 土師質土器<br>橙灰色 金雲母を多く含む  | —   | 外面から内面口縁部は単位がわからないほど丁寧なミガキ 外面はスリップを掛け、口縁部は炭素吸着で光沢をもつ            | 不明                          | 内面上半は使用変色あり              | 在地  |         | 不明               |
| 大溝2<br>103図2      | 火鉢         | 口径(18.0)<br>最大径(21.3)         | 瓦質土器<br>にぶい黄灰色<br>軟質   | —   | 外面は型押しによる方形窓に山水文の陽刻、内面は口縁部は回転ナデ、胴部はハケ状工具によるケズリ                  | 不明                          |                          | 在地  |         | 不明               |
| 大溝2北部中層<br>103図3  | 鉢<br>方形鉢   | 器高9.4                         | 土師質土器<br>橙色 金ウンモを多く含む  | —   | 外部と胴部の接合部内面は板状工具で放射状にオサエている 外面はスリップを掛けて丁寧なミガキ 高台側面に雲形透かし孔が対面にある | 不明                          | 変色は内底中央にのみある             | 在地  |         | 不明               |
| 大溝2<br>103図4      | 小型甕        | 口径(15.4)<br>肩部(18.4)          | 陶器<br>橙～にぶい灰色          | 内面鉄漿を塗布し、鉛釉外面から内面口縁部に掛け   | 口縁部外面の刻み目は、施されていない部分もあるので意図的な物か不明                               | 口唇部釉剥後、アルミナ塗布               |                          | 小石原 |         | 不明               |
| 大溝2北部上層<br>103図5  | 甕          | 口径(36.0)                      | 陶器<br>暗黄灰～にぶい黄灰白色      | 内面に鉄漿を掛けた後、鉛釉を全面に掛ける  | 肩部外面に薬灰釉の流し掛け後、花卉浮文貼り付け   | 口唇部中央のみ釉剥                   |                          | 小石原 |         | 不明               |
| 大溝2<br>103図6      | 瓶          | 口径7.6                         | 磁器<br>灰白色              | 外面から内面口縁部は青磁釉、内面頸部以下は透明釉  | 耳部は型押し成形で、人物の顔が陽刻されている  | —                           |                          | 肥前  |         | 不明               |
| 大溝2<br>103図7      | 仏花瓶<br>変形  | 高台径5.8                        | 陶器<br>橙灰白色             | 鉄釉を内外口縁部、胴下位はオリブ色の灰釉を掛け、外面胴中位に竹笹文を鉄絵で描いて、外面頸中位から高台まで透明釉を掛ける                             |   | 豊付釉剥ぎ                       |                          | 肥前  |         | 1710<br>1740     |
| 大溝2北部中層<br>103図8  | 灰吹き        | 底径5.8<br>最大径6.3               | 陶器<br>にぶい黄灰色<br>混入物多い  | 外面は白化粧土を塗布した上に鉄絵の竹笹文と赤紫色の不明モチーフがあり、内面胴下位は鉄漿、最後に外面と内面口縁部、見込みに透明釉 貫入あり                    |   | 底部露胎                        | 外底の胎にざらつきあり              | 京焼か |         | 17世紀後半<br>18世紀前半 |
| 大溝2北部中層<br>104図1  | 瓶          | 口径3.6<br>最大径15.5              | 磁器<br>灰白色              | 透明釉全面掛け   | 外面は蛸唐草文 呉須染付  | 不明                          |                          | 肥前  |         | 1650<br>1690     |
| 大溝2北部上層<br>104図2  | 瓶          | 口径4.1<br>高台径8.4<br>器高26.1     | 磁器<br>灰白色              | 透明釉を内面頸部から外面に掛ける  | 外面胴部に「中矢ヶ部」「大正二年秋」「長興田商店」「丑口」をコバルト染付                            | 豊付釉剥ぎ                       |                          | 肥前  |         | 大正二年             |
| 大溝2<br>104図3      | 変形瓶        | 口径9.2                         | 陶器<br>外面に黒灰色、それ以外は暗紫灰色 | 鉄釉全面掛け  | 内面に格子目タキ当て具痕あり 注口は手捏ね成形   | —                           | 底部は欠損しているが、平底の船徳利形だろう    | 肥前  |         | 1690<br>1780     |
| 大溝2上層<br>104図4    | 尿瓶         | 胴径16.8<br>底径10.1              | 陶器<br>灰色               | 銅緑釉を外面胴中位以上から注口内面に掛け 内底は灰釉掛け  | 外底は削り出して基筒底状を呈す   | 底部露胎                        | 内面カルキ付着                  | 肥前  |         | 19世紀後半           |
| 大溝2北部中層<br>104図5  | 土瓶         | 口径8.1                         | 陶器<br>灰色 混入物あり 粗放      | 黒釉を外面胴下位から口縁部に、内面はオリブ色の灰釉を胴中位以下に掛ける   | 外面胴下半はケズリ、胴上半は型押し成型らしくオサエ痕がある 把手は型押し成型 胴中位内面には接合痕跡が未調整で残る       | 口唇部釉剥ぎ                      | 内外使用変色なし                 | 小石原 |         | 不明               |
| 大溝2北部中層<br>104図6  | 焼塩壺        | 口径5.5<br>高台径4.4<br>器高6.3      | 土師質土器<br>灰黄橙色          | —   | 外底系切り 内外面ナデ   | —                           | 断面の赤変なし                  | 在地  |         | 不明               |
| 大溝2北部中層<br>104図7  | 焼塩壺        | 口径(6.0)<br>底径4.1<br>器高6.0     | 土師質土器<br>にぶい黄灰白色<br>精良 | —   | 外底系切り 内外面ナデ 内底中央部は工具痕の窪みがある                                     | —                           | 断面赤変し、底部と口縁部が外面まで赤変する    | 蒲池焼 |         | 不明               |
| 大溝2北部中層<br>104図8  | 焼塩壺        | 底径4.7                         | 土師質土器<br>黄灰白色 精良       | —   | 外底系切り 内外面ナデ   | —                           | 断面中央部赤変、外底も赤変している        | 蒲池焼 |         | 不明               |



第104図 1次調査2号大溝出土土器・陶磁器実測図3 (1/3)



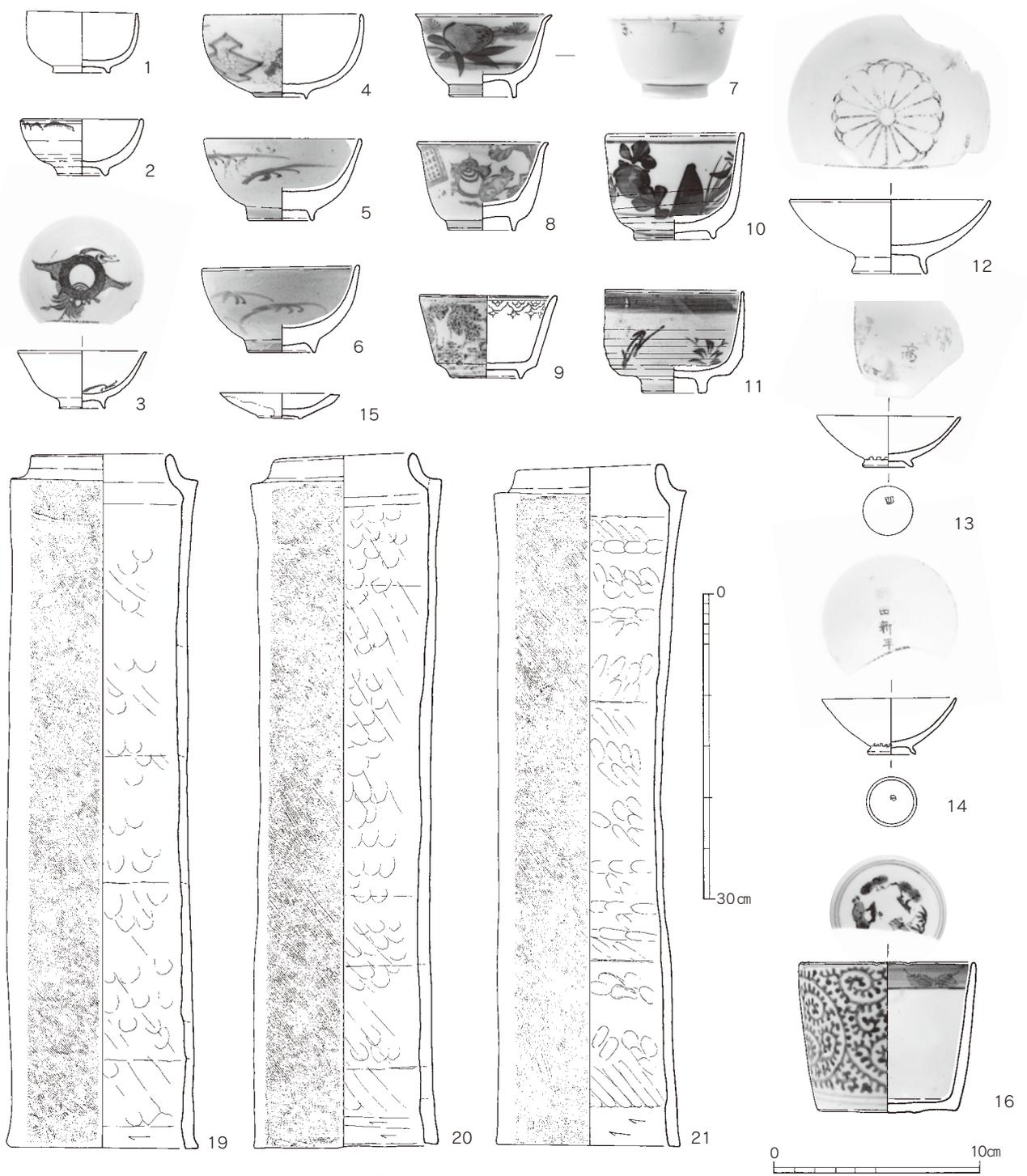
第105図 1次調査2号大溝出土土器実測図(3は1/4、他は1/3)



第106図 1次調査2号大溝出土土器・陶磁器実測図4(2は1/4、他は1/3)

表47 1次調査出土土器・陶磁器観察表20

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号      | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値           | 胎の種類                           | 釉薬  | 調整・整形・装飾技法  | 窯詰め技法                   | 所見                         |      |                       |
|--------------------------|-----------------|-----------------------------|--------------------------------|---|---|-------------------------|----------------------------|------|-----------------------|
|                          |                 |                             |                                |   |   |                         | 特記事項                       | 推定産地 | 推定年代                  |
| 大溝2北部中層<br>104図9         | 焼塩壺             | 底径4.5                       | 土師質土器<br>にぶい黄灰<br>白色 精良        | —   | 外底糸切り<br>内外面ナデ  | —                       | 断面赤変は見られないが、外底が黒変している      | 蒲池焼  | 不明                    |
| 大溝2北部上層<br>104図10        | 瓶<br>乗燭         | 高台径5.6<br>最大径8.0            | 陶器<br>淡紫灰色                     | 黒釉全面掛け  | 把手は手捏ね成型  | 畳付にアルミナ附着               |                            | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部中層<br>104図11        | 灯明受皿            | 口径6.4<br>最大径9.6<br>底径4.3    | 陶器<br>橙褐色～灰<br>黒色              | 鉄釉を内面から<br>外面裾中位まで                              | 高台内は削り出し  | 裾下半露胎                   | 裾部外面中位まで露胎                 | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部中層<br>104図12        | 灯明受皿            | 口径6.3<br>最大径8.5<br>底径4.3    | 陶器<br>橙褐色                      | 発色の悪い鉄釉<br>を内面胴部から<br>外面裾中位まで                   | 外底は糸切り  | 裾下半露胎<br>口縁部アルミナ塗布      |                            | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部中層<br>104図13        | 灯明受皿            | 口径6.1<br>最大径7.4<br>底径4.2    | 陶器<br>橙褐色                      | 発色の悪い鉄釉<br>を内面から外面<br>裾中位まで                     | 外底は糸切り  | 裾下半露胎                   |                            | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部上層<br>105図1         | 七輪              | 口径18.4<br>裾径9.3<br>器高16.8   | 土師質土器<br>黄橙色                   | —   | 型押し成型で、外面はナデ、内面は下位がケズリ、上位はハケ、内面の突起部の接合部は櫛歯状のハケが入り、内面上面の突起部と側面の獅子面は別造りの型押し成型したものを貼り付けている 最後に全面スリップ掛け 外面の文様はスタンプと沈線 | 不明                      |                            | 博多   | 19世紀後半<br>～<br>20世紀前半 |
| 大溝2北部上層<br>105図2         | 七輪サナ            | 径(18.0)<br>厚さ1.2            | 土師質土器<br>暗黄橙色                  | —   | 穿孔径1.8  | 不明                      | 下面のみが火を強く受ける               | 在地   | 19世紀後半<br>～<br>20世紀前半 |
| 大溝2北部上層<br>105図3         | 七輪              | 口径22.2<br>高台径21.0<br>器高21.6 | 土師質土器<br>黄橙色                   | —   | 型押し成型で、内面の突起部の接合部は櫛歯状のハケが入り、内面上面の突起部は別造りの型押し成型したものを貼り付けている 外面の文様はスタンプと沈線  | 不明                      | 内面使用変色<br>ほぼ完形             | 在地   | 19世紀後半<br>～<br>20世紀前半 |
| 大溝2<br>106図1             | 火鉢              | 口径(16.0)                    | 土師質土器<br>暗黄灰～橙<br>灰色 金雲<br>母入る | 口縁部に黒色炭素を吸着させ、内面口縁部から外面はミガキ痕が残らないミガキ 内面はケズリ     | —   | —                       | 胎は灰白色でないので蒲池焼でないかもしれない     | 蒲池焼か | 不明                    |
| 大溝2北部<br>106図2           | 中型甕             | 底径(21.4)                    | 陶器<br>暗紫灰色                     | 鉄釉全面掛け  | 内面は格子目タタキ痕をナデ消し、外面下位は同様だがナデ消しが弱く、上位はカキ目 内底は平行タタキ痕が環状にまわる 内面は積み上げ痕が残る 外底は未調整                                       | 外底に胎土目の代わりに陶器片を使用       |                            | 二川焼か | 不明                    |
| 大溝2<br>106図3             | 蓋               | 裾径6.8<br>底径3.2<br>器高1.7     | 陶器<br>暗紫灰色                     | 黒釉を上面に掛ける                                       | 底部は回転糸切り 底部に墨書あり「ヒルー」か  | 下半釉剥ぎ                   | ほぼ完形                       | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部上層<br>106図4         | 蓋               | 裾径8.1<br>底径5.2<br>器高1.3     | 土師質土器<br>にぶい暗灰<br>褐色           | —   | 底部糸切り   | 不明                      | 器面の剥落著しい                   | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部<br>106図5<br>図版17   | 蓋               | 裾径9.0<br>つまみ径1.0<br>器高2.0   | 陶器<br>橙褐色                      | 鉄釉を上面に掛ける 釉切れあり                                 | 底部は糸切り  | 下半釉剥ぎしているが、釉の残りあり       |                            | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部上層<br>106図6         | 蓋               | 裾径13.0<br>つまみ径3.2<br>器高3.7  | 低火度の施<br>釉陶器<br>黄白色            | 柿釉を内面に掛ける                                       | 外面は鉄絵の折松葉文を対面に施す  | 不明                      |                            | 不明   | 不明                    |
| 大溝2北部上層<br>106図7<br>図版17 | 蓋               | 裾径8.8<br>つまみ径3.5<br>器高2.5   | 磁器<br>灰白色                      | 透明釉 全面<br>貫入あり                                  | 外面は草花文、内面天井部は崩れた環状松竹梅文、口縁部は雷文帯のコバルト染付、外面は金彩の上絵付け、つまみ内の裏銘は赤絵で書かれているか判読できない   | つまみ部上端釉剥ぎ               | ほぼ完形                       | 肥前   | 19世紀後半                |
| 大溝2北部上層<br>106図8         | 蓋               | 裾径9.2<br>つまみ径4.0<br>器高2.4   | 磁器<br>灰白色                      | 透明釉 全面  | 外面は桔梗文か 内面裾部は変形雷文帯で、内面天井部に環状松竹梅文をコバルト染付   | つまみ部上端釉剥ぎ               |                            | 肥前   | 19世紀後半                |
| 大溝2<br>106図9<br>図版17     | 蓋               | 裾径9.4<br>つまみ径4.0<br>器高3.2   | 磁器<br>灰白色                      | 透明釉 全面<br>貫入あり                                  | 外面は唐子に花文、天井部は花文がつながる 内面天井部は花文、内面は口縁部に崩れた斜格子文帯を呉須染付  | つまみ部上端釉剥ぎ               | ほぼ完形<br>裾部が一部打ち欠いており、そこに煤付 | 肥前   | 1700<br>～<br>1740     |
| 大溝2北部中層<br>106図10        | 水注              | 口径(8.5)<br>高台径6.5<br>器高12.3 | 陶器<br>暗黄灰色<br>精良               | 白化粧土を外面から内面口縁部まで掛けた後、外面に鉄絵と緑彩の花文を施し、最後に透明釉を全面掛け | —   | 畳付釉剥ぎアルミナ附着 口唇部透明釉のみ釉剥ぎ |                            | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部中層<br>106図11        | 水注              | 口径5.3<br>高台径6.5<br>器高11.7   | 陶器<br>橙褐色                      | 黒釉を外面全面<br>掛け                                   | 注口は欠損   | 口縁部釉剥ぎ 畳付釉剥ぎ アルミナ塗布     |                            | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部中層<br>107図1         | 杯               | 口径5.4<br>高台径2.8<br>器高3.0    | 磁器<br>灰白色                      | 透明釉全面掛け   | 無文  | 畳付釉剥ぎ                   | ほぼ完形                       | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部上層<br>107図2         | 杯               | 口径6.0<br>高台径2.4<br>器高2.8    | 磁器<br>完形のため<br>不明              | 透明釉全面掛け   | 外面は竹笹文を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ                   | 歪みがあるが、注口状に利用したか           | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部<br>107図3           | 杯               | 口径6.2<br>高台径2.2<br>器高2.8    | 磁器<br>灰白色<br>ガラス質              | 透明釉全面掛け   | 見込みに蛇ノ目高台の胴部を持つ鶴文を吹き絵によりコバルト染付  | 畳付釉剥ぎ                   | ほぼ完形                       | 肥前   | 19世紀後半                |
| 大溝2北部中層<br>107図4         | 杯               | 口径7.9<br>高台径2.5<br>器高4.0    | 磁器<br>灰白色                      | 透明釉全面掛け   | 外面は窓枠と界線は呉須染付 赤彩による梅樹文・竹笹文・窓内花文、緑・黒彩による松文の上絵付け  | 畳付釉剥ぎ                   |                            | 肥前   | 1700<br>～<br>1740     |
| 大溝2北部中層<br>107図5         | 杯               | 口径7.7<br>高台径3.3<br>器高4.1    | 磁器<br>灰白色                      | 暗い透明釉全面<br>掛け                                   | 外面は竹笹文を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ<br>砂目附着           |                            | 波佐見  | 18世紀代                 |



2号大溝

3号大溝

22

第107図 1次調査2・3号大溝出土土器・陶器実測図5 (19~21は1/6、22は1/4、他は1/3)

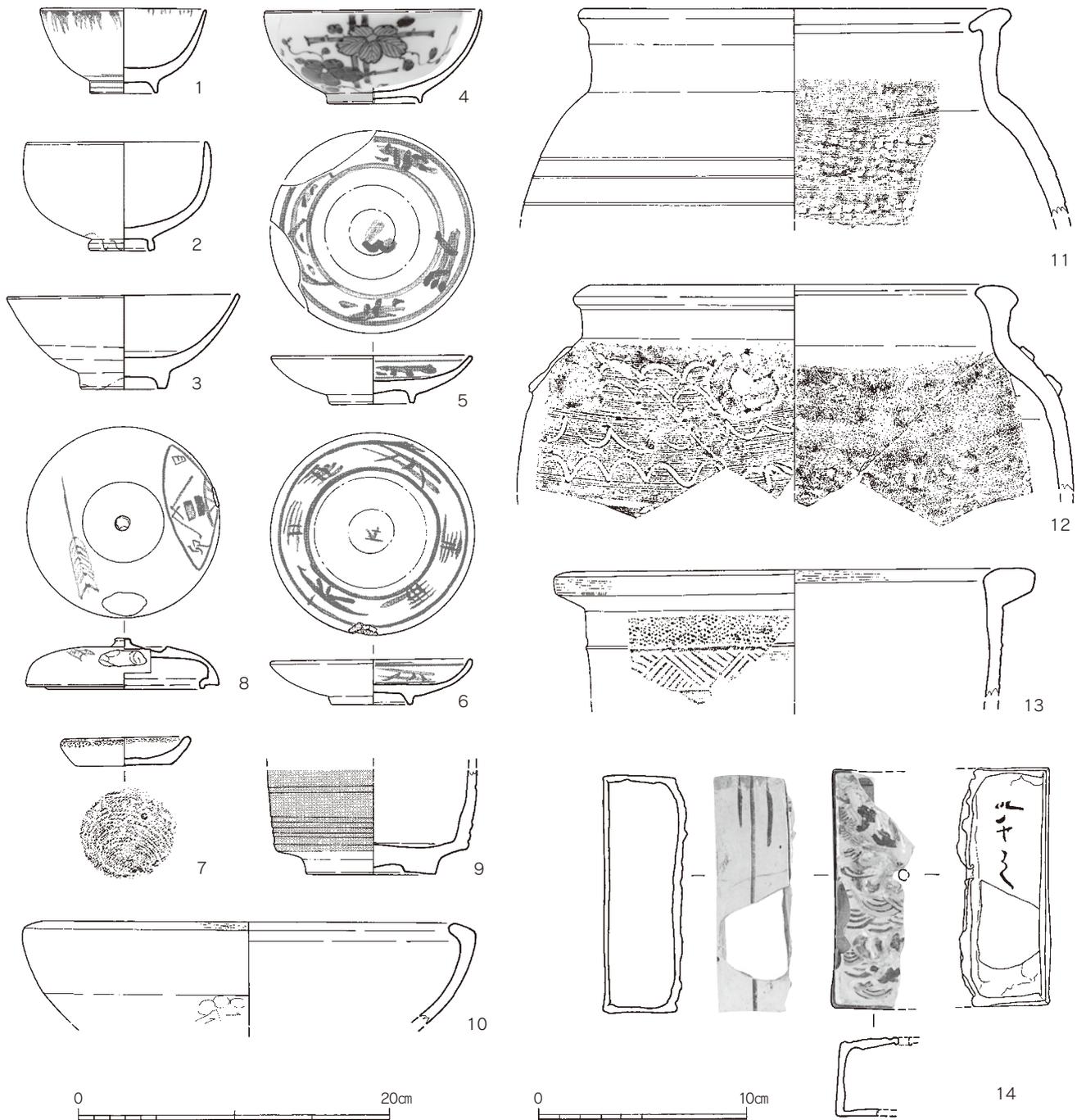
表48 1次調査出土土器・陶磁器観察表21

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号      | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値            | 胎の種類               | 釉薬  | 調整・整形・裝飾技法  | 窯詰め技法                         | 所見                      |      |                       |
|--------------------------|-----------------|------------------------------|--------------------|---|---|-------------------------------|-------------------------|------|-----------------------|
|                          |                 |                              |                    |   |   |                               | 特記事項                    | 推定産地 | 推定年代                  |
| 大溝2北部<br>107図6           | 杯               | 口径7.7<br>高台径3.3<br>器高4.2     | 磁器<br>完形のため不明      | 透明釉全面掛け<br>釉の沸騰あり                           | 外面に帯丸に直線のみでデザインされた「福」字、胴下位に変形歯文帯を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ                         |                         | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 大溝2北部上層<br>107図7<br>図版17 | 杯<br>端反形        | 口径8.6<br>高台径3.4<br>器高5.1     | 磁器<br>灰白色 ガラス質     | 透明釉全面掛け                                     | 外面の草花文の裏に「古人業」とある コバルト染付  | 畳付釉剥ぎ                         | ほぼ完形                    | 瀬戸   | 19世紀後半                |
| 大溝2北部上層<br>107図8<br>図版17 | 杯<br>端反形        | 口径6.4<br>高台径3.4<br>器高4.3     | 磁器<br>灰白色 ガラス質     | 透明釉全面掛け                                     | 外面鼠と大根と宝尽くし文が黄彩で銅版刷り また、「美濃国土岐郡泉村ノ内定林寺西二拾壹番戸後藤新八清々」とある  | 畳付釉剥ぎ                         | ほぼ完形                    | 美濃   | 19世紀後半                |
| 大溝2北部<br>107図9<br>図版17   | 杯               | 口径6.7<br>高台径3.5<br>器高4.0     | 磁器<br>完形のため不明      | 発色不良の透明釉が全面に掛かる 釉切れあり                       | 外面竹篋文を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ                         | ほぼ完形                    | 波佐見  | 1680<br>～<br>1740     |
| 大溝2北部<br>107図10<br>図版17  | 小型碗<br>湯飲み      | 口径6.7<br>高台径4.0<br>器高5.2     | 磁器<br>完形のため不明      | 透明釉全面掛け                                     | 外面蝶と菖蒲文をコバルト染付  | 畳付釉剥ぎ                         | ほぼ完形                    | 肥前   | 19世紀後半                |
| 大溝2北部<br>107図11<br>図版17  | 小型碗<br>湯飲み      | 口径6.8<br>高台径3.2<br>器高5.1     | 磁器<br>灰白色          | 透明釉全面掛け<br>発色不良                             | 外面折松葉と草文をコバルト染付   | 畳付釉剥ぎせず<br>に砂目付着              | ほぼ完形                    | 肥前   | 20世紀前半                |
| 大溝2北部上層<br>107図12        | 杯<br>従軍記念杯      | 口径9.8<br>高台径3.7<br>器高3.6     | 磁器<br>灰白色 ガラス質     | 透明釉を全面に掛ける                                  | 見込みに金彩で菊花文の上に「四連隊」と描いているので、久留米第四八歩兵連隊の略称だろう   |                               |                         | 瀬戸   | 20世紀前半                |
| 大溝2北部<br>107図13          | 杯<br>記念杯        | 口径(7.0)<br>高台径2.4<br>器高2.5   | 磁器<br>灰白色 ガラス質     | 透明釉を全面に掛ける                                  | 見込みに金彩で「下足商」、その左に稲藁、左には「柳川上町」その横にも2文字あるが判読できない これらは金彩で、中央下の福助らしい人物は灰と金彩、高台外面の凹凸文と、判読できない裏銘はコバルト染付 |                               |                         | 瀬戸か  | 20世紀前半                |
| 大溝2北部<br>107図14          | 杯<br>記念杯        | 口径6.5<br>高台径2.3<br>器高2.8     | 磁器<br>灰白色 ガラス質     | 透明釉を全面に掛ける                                  | 見込みに金彩で「野田新平」と描いている高台外面の凹凸文と、田の字らしい裏銘はコバルト染付  |                               |                         | 瀬戸か  | 20世紀前半                |
| 大溝2北部<br>107図15<br>図版17  | 紅猪口<br>紅皿       | 口径6.0<br>高台径2.1<br>器高1.2     | 磁器<br>完形のため不明      | 白磁釉 内面から外面口縁部                               | 型打ち成型で、外面不明瞭な蛸唐草文   | 底部露胎                          | 完形                      | 肥前   | 不明                    |
| 大溝2北部<br>107図16          | 猪口              | 口径(8.6)<br>底径6.7<br>器高7.3    | 磁器<br>灰白色          | 透明釉 全面掛け 釉切れあり                              | 口縁部は低い山形 外面蛸唐草文、内面口縁部ダミに不明文、見込みに環状松竹梅文を呉須染付   | 蛇ノ目釉剥ぎ                        | 高台がない                   | 肥前   | 18世紀中葉                |
| 大溝2北部上層<br>107図17        | 急須              | 底径5.3<br>最大径(8.4)            | 土師質土器<br>灰白色       |   | 底部糸切り 底部縁が3つ抉られて透かし状になる   | 不明                            | 内面に茶渋と見られる使用変色あり        | 瓦町焼  | 不明                    |
| 大溝2北部<br>107図18          | 仏飯器             | 口径6.9<br>裾径4.5<br>器高6.6      | 磁器<br>灰白色          | 透明釉を全面に掛ける                                  | 外面胴部に飛雲文地に崩れた宝散らし文、見込みに5弁花文を呉須染付  | 高台畳付釉剥ぎ                       | 9割残存                    | 肥前   | 1690<br>～<br>1780     |
| 大溝2<br>107図19            | 土管              | 端部径9.2<br>基部径14.0<br>長さ68.8  | 土師質土器<br>淡黄灰色 精良   | —   | 型作りでなく、粘土板を繋いで成型している 外面は丁寧なハケ 内面はオサエ、端部内面はケズリ、基部内面はナデ   | —                             | ほぼ完形<br>内外変色なし          | 在地   | 不明                    |
| 大溝2<br>107図20            | 土管              | 端部径18.4<br>基部径14.2<br>長さ68.8 | 土師質土器<br>淡黄灰色 精良   | —   | 型作りでなく、粘土板を繋いで成型している 外面は丁寧なハケ 内面はオサエ、端部内面はケズリ、基部内面はナデ   | —                             | ほぼ完形<br>内外変色なし          | 在地   | 不明                    |
| 大溝2<br>107図21            | 土管              | 端部径18.2<br>基部径14.6<br>長さ67.5 | 土師質土器<br>淡黄灰色 精良   | —   | 型作りでなく、粘土板を繋いで成型している 外面は丁寧なハケ 内面はオサエ、端部内面はケズリ、基部内面はナデ   | —                             | ほぼ完形<br>内外変色なし          | 在地   | 不明                    |
| 大溝3<br>107図22            | 摺鉢              | 口径39.4<br>高台径15.4<br>器高14.5  | 陶器<br>橙褐色          | 内外面鉄釉掛け                                     | 外面上半分はナデ、下半分はケズリ 摺り目は20本単位  | 見込みに蛇の目焼き重ね痕と胎土目跡5 畳付釉剥ぎ      |                         | 肥前   | 1750<br>～<br>1860     |
| 溝1南北軸<br>108図1           | 小型碗             | 口径10.0<br>高台径3.3<br>器高4.1    | 磁器<br>灰白色          | 透明釉を全面に掛ける 貫入あり                             | 外面に雨降り文を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ                         |                         | 波佐見か | 1700<br>～<br>1740     |
| 溝1<br>108図2              | 碗<br>腰張形        | 口径(8.7)<br>高台径3.2<br>器高5.2   | 陶器<br>黄灰白色<br>やや粗放 | 透明釉を外底部以外に全面掛ける 貫入あり 口縁部は半分しか残っておらず鉄釉の有無は不明 |   | 底部露胎                          | 京焼風陶器か                  | 肥前か  | 18世紀中葉<br>～<br>18世紀後葉 |
| 溝1東西軸<br>108図3           | 碗               | 口径(11.1)<br>高台径4.2<br>器高4.3  | 陶器<br>灰～橙灰白色       | オリーブ色の灰釉を高台内外全面に掛ける                         | 無文  | 畳付釉剥ぎ 見込みに蛇の目釉剥ぎ、釉剥ぎ部に重ね焼き痕あり | 外面胴中位の沈線と下位のカンナ痕は成型時のもの | 肥前   | 不明                    |
| 溝1東西軸<br>108図4           | 碗<br>半球形        | 口径10.4<br>高台径4.6<br>器高4.5    | 磁器<br>灰白色          | 透明釉を全面に掛ける                                  | 外面は葛と竹垣文を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ                         | ほぼ完形                    | 肥前   | 1710<br>～<br>1750     |
| 溝1南北軸<br>108図5           | 小皿              | 口径9.7<br>高台径4.1<br>器高2.3     | 磁器<br>灰白色          | 透明釉を全面に掛ける                                  | 内面は界線の間に山文と社文、見込みに不明文様を呉須染付   | 畳付釉剥ぎ 見込みに蛇の目釉剥ぎ後、アルミナ塗布      |                         | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 溝1南北軸<br>108図6           | 小皿              | 口径9.7<br>高台径4.0<br>器高2.2     | 磁器<br>完形のため不明      | 透明釉を全面に掛ける 釉切れあり                            | 内面は界線の間に本文と社文、見込みに不明文様をコバルト染付   | 畳付釉剥ぎ 見込みに蛇の目釉剥ぎ後、アルミナ塗布      | 口縁部一部打ち欠きで、打ち欠き部に煤付着 完形 | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 溝1東西軸<br>108図7           | 小皿              | 口径6.1<br>底径6.1<br>器高1.4      | 土師質土器<br>完形のため不明   | —   | 外底糸切り<br>内外面ナデ  | 不明                            | 内外口縁部に煤付着               | 蒲池焼か | 不明                    |

122図16は砥石で、方柱形の置き砥石を粗割りして再利用した手持ち砥石で、断面逆台形状に加工している。

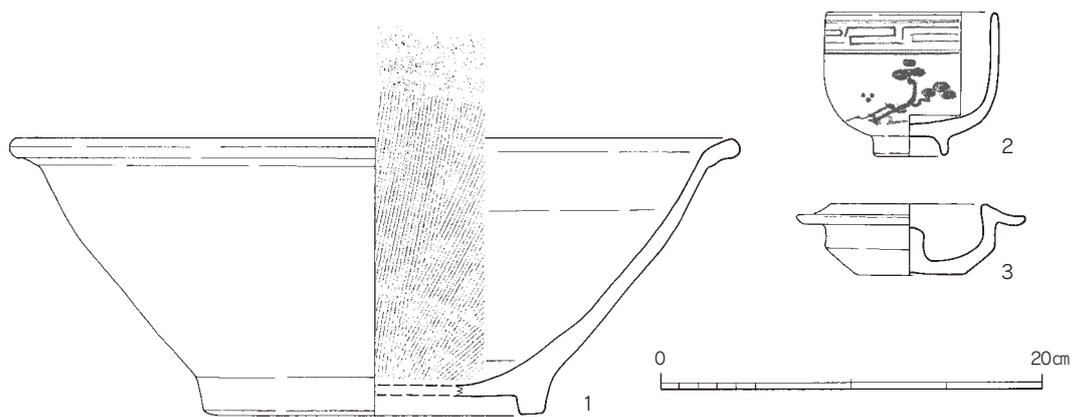
123図1は火打石で、チャート製である。火打金との擦痕が上端の尖った稜線部分にある。ほかに剥離や欠損の痕跡はなく、使用頻度は多くなかったようだ。123図2は朱墨用の硯で朱墨が残っている。朱墨は後述の蛍光X線分析から水銀朱を使用していることがわかった。

123図3は裏面に「赤間関」と彫られているので、山口県産の赤間硯である。赤間硯は赤紫色

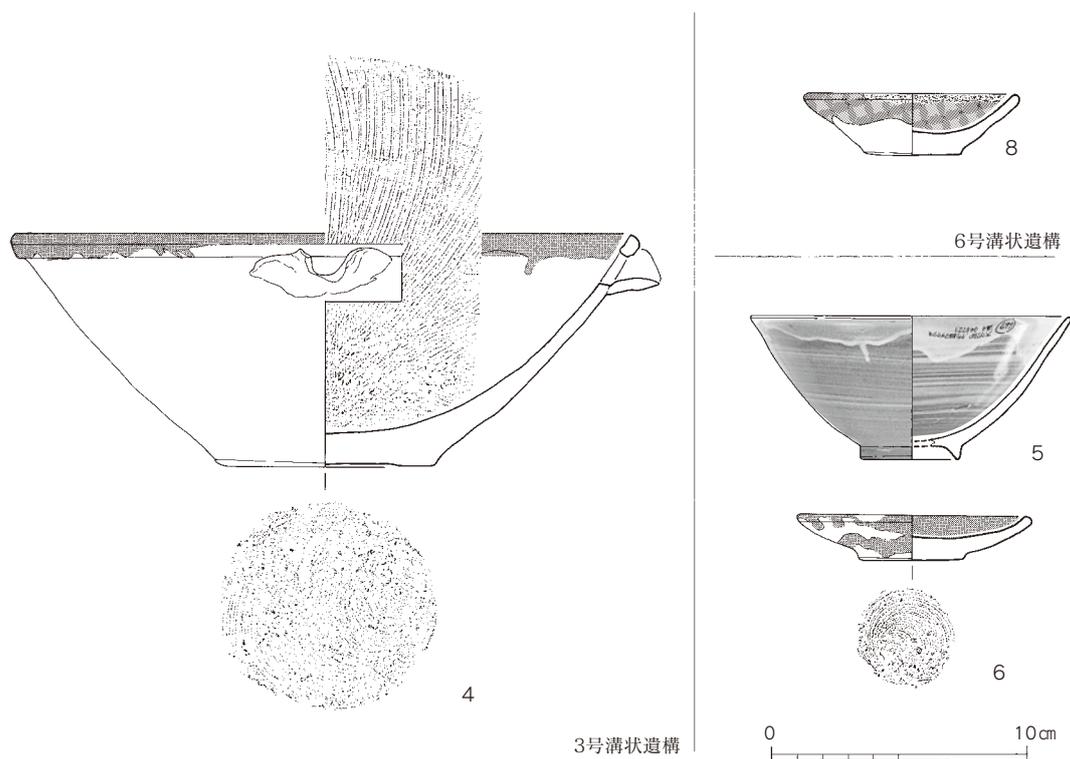


第108図 1次調査1号大溝出土土器・陶磁器実測図(10は1/4、他は1/3)

の輝緑凝灰岩製で、江戸時代前期には当時赤間関といわれた下関市で行われていたが、坑内掘り(たぬき掘り)の限界から、江戸時代後期には宇部市西万倉周辺で採石が始まると、次第に採石・一般書道用硯の製作は宇部市西万倉周辺で、販売・文様彫刻などを施した細工硯の製作は下関市で行われるようになったらしく、「赤間硯」と彫られてはいるが前者の宇部市産である可能性が高い。

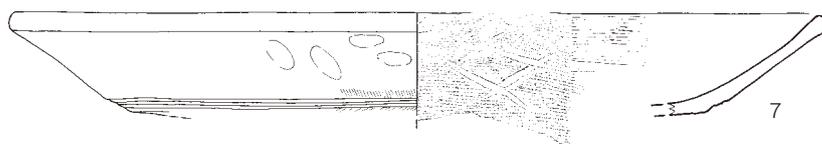


2号溝状遺構



3号溝状遺構

6号溝状遺構

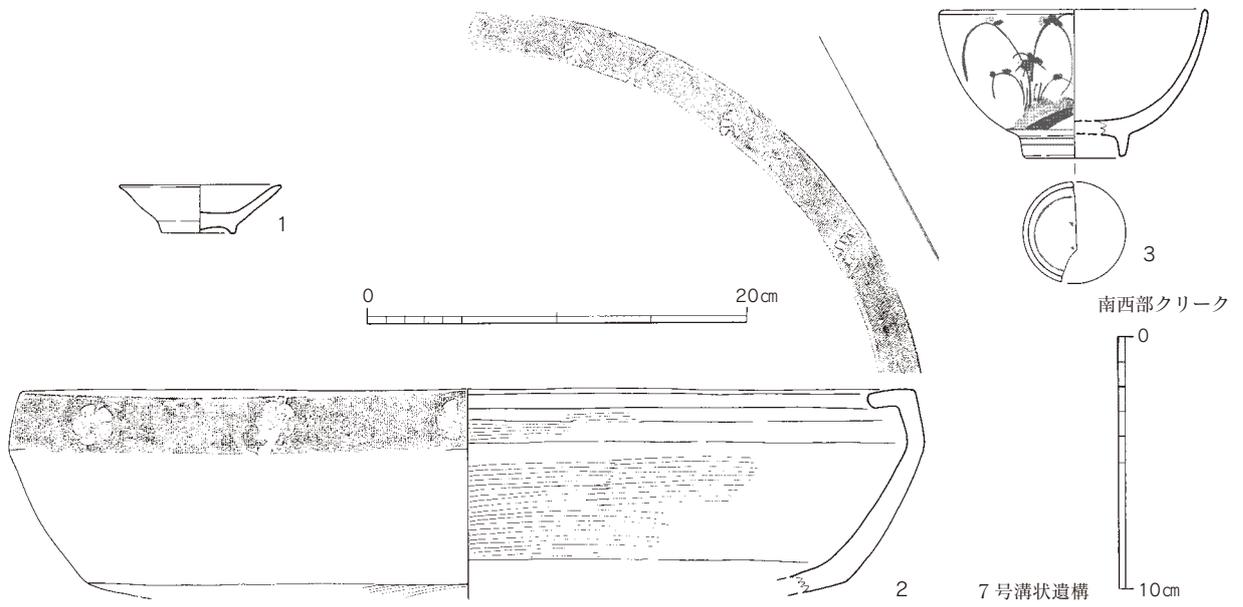


4号溝状遺構

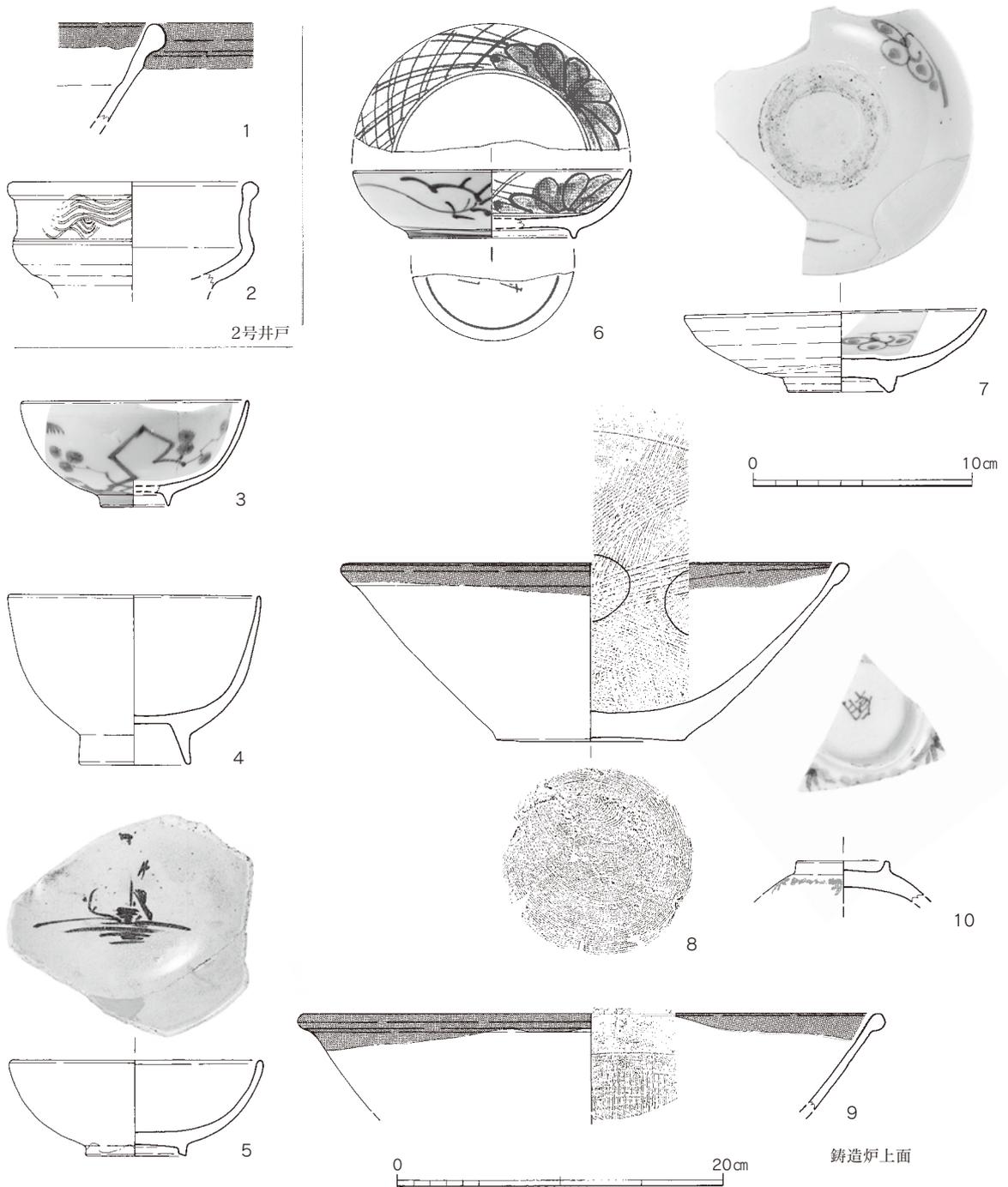
第109図 1次調査2～4・6号溝状遺構出土土器・陶磁器実測図(1・7は1/4、他は1/3)

表49 1次調査出土土器・陶磁器観察表22

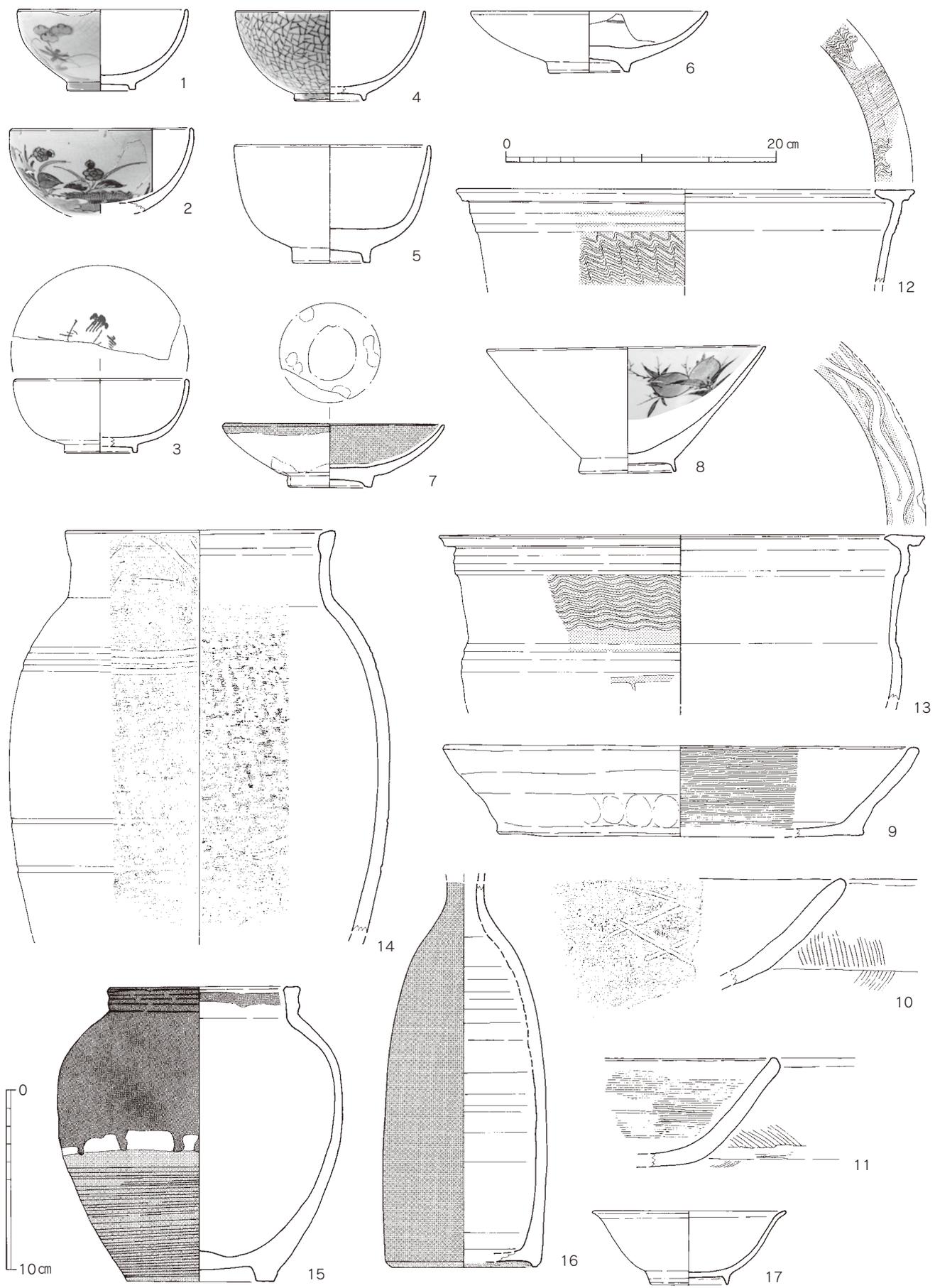
| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値              | 胎の種類                                   | 釉薬   | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法                             | 所見   |      |                       |
|---------------------|-----------------|--------------------------------|--|--|--|-----------------------------------|--|------|-----------------------|
|                     |                 |                                |  |  |  |                                   | 特記事項   | 推定産地 | 推定年代                  |
| 溝1 南北軸<br>108図8     | 蓋               | 裾径9.2<br>つまみ径0.8<br>器高2.4      | 磁器<br>完形のため不明                          | 透明釉 全面   | 外面矢文・扇文を対面に配置、<br>扇内部には「目」「印」の間に屋号<br>の記号を呉須染付                               | 受け部釉剥ぎ                            | 外面側面に胎土目<br>らしいもの付着                          | 肥前   | 18世紀後半<br>～<br>19世紀前半 |
| 溝1 東西軸<br>108図9     | 香炉              | 高台径6.3                         | 陶器<br>にぶい橙黄白色                          | オリープ色の灰釉を<br>胴下位以外の外面に<br>掛ける                  | 外面胴中位と下位に沈線  | 底部露胎 アルミナ<br>らしいものが胴下位<br>と高台内に付着 | 内面やや灰色に変<br>色                                | 肥前   | 不明                    |
| 溝1<br>108図10        | 火鉢              | 口径(35.2)                       | 瓦質土器<br>にぶい橙灰色                         | —  | 外面胴下位はケズリとオサエ、<br>その上はナデ、口唇部は丁寧な<br>ミガキ、内面はナデのみ                              | 不明                                | 胎土は土師質だ<br>が、外面は炭素を<br>吸着させているの<br>で瓦質土器     | 在地   | 不明                    |
| 溝1 東西軸<br>108図11    | 小甕              | 口径(20.8)                       | 陶器<br>外面側暗紫灰色、<br>内面側橙色                | 内外鉄釉   | 外面はナデ後肩部に沈線、内面<br>は格子目タタキ目をナデ消し  | 口唇部外面側を残し<br>て釉剥ぎ                 |  | 肥前   | 18世紀代                 |
| 溝1 東西軸<br>108図12    | 小甕              | 口径(21.2)                       | 陶器<br>にぶい紫灰白色                          | 内外鉄釉   | 外面は肩部にカキ目の後、沈線<br>による弧文、その上に環状の花<br>形浮文、内面は格子目タタキ目<br>をナデ消し                  | 口唇部外面側を残し<br>て釉剥ぎ                 |  | 肥前   | 17世紀後半                |
| 溝1 東西軸<br>108図13    | 火鉢              | 口径(18.0)<br>最大径(21.3)          | 瓦質土器<br>表面側灰色、内側<br>は灰白色、肥厚部<br>中央は黒灰色 | —  | 小型品で、外面は型押しによる<br>斜線充填の鋸歯文と珠文の陽刻、<br>内面は口縁部は回転ナデ、胴部<br>はハケ状工具によるケズリ          | 不明                                | 口縁部内面に煤付<br>着                                | 在地   | 不明                    |
| 溝1 東西軸<br>108図14    | 水滴              | 長軸11.4<br>高さ3.6                | 磁器<br>灰白色                              | 白磁釉を外面の上端<br>面以外に掛ける 内<br>面は穿孔部から流れ<br>出した部分のみ | 板造りの型押し成型で、底面は<br>表裏に布目圧痕 その他の面を<br>型押しして上面に兔を陽刻 赤・<br>青・緑・黒で上絵付け            | 図面上の上端面が露<br>胎なので、立てて焼<br>成している   | 内側面に墨書あり<br>「□千之」か                           | 肥前   | 不明                    |
| 溝2 上層<br>109図1      | 摺鉢              | 口径(38.4)<br>底径(18.0)<br>器高14.7 | 陶器<br>暗紫褐色                             | 鉄釉を底部以外に薄<br>く掛ける                              | 内外ナデ 摺り目は32本単位   | 畳付釉剥ぎ<br>見込みに環状重ね<br>焼き痕          |  | 肥前か  | 不明                    |
| 溝2 上層<br>109図2      | 小型碗<br>湯飲み      | 口径(6.7)<br>高台径3.0<br>器高5.7     | 磁器<br>灰白色                              | 透明釉全面掛け  | 外面口縁下に雷文帯・胴部に松<br>木文を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ                             |  | 肥前   | 19世紀中葉                |
| 溝2 上層<br>109図3      | 蓋               | 裾径9.0<br>つまみ径1.0<br>器高2.8      | 陶器<br>にぶい黄灰色                           | 透明釉を上面に掛け<br>る 貫入あり                            | 底部は糸切り後ヘラケズリ   | 下半釉剥ぎ                             |  | 肥前   | 不明                    |
| 溝3<br>109図4         | 摺鉢              | 口径24.6                         | 陶器<br>赤紫灰色                             | 口縁部のみ鉄釉  | 内面摺り目13本単位 外底糸<br>切り   | 底部露胎 外面胴下<br>位と見込みに胎土目<br>跡5つあり   |  | 肥前   | 1650<br>～<br>1690     |
| 溝4<br>109図5         | 碗<br>嗽茶碗        | 口径(12.6)<br>高台径(3.9)<br>器高5.7  | 陶器<br>灰色                               | 内外白化粧土をハケ<br>掛けした後、口縁部に2度掛けし、<br>前面透明釉掛け 貫入あり  |  | 畳付釉剥ぎ                             |  | 肥前か  | 不明                    |
| 溝4 上層<br>109図6      | 小皿              | 口径(9.2)<br>底径4.1<br>器高1.7      | 陶器<br>橙灰色                              | 発色の悪い鉄釉が内<br>面から外面口縁部に<br>掛かる                  | 外底糸切り<br>内外面ナデ   | 底部露胎                              | 口縁部の一部に煤<br>付着                               | 肥前   | 不明                    |
| 溝4<br>109図7         | 焙烙              | 口径(43.0)                       | 土師質土器<br>にぶい暗黄橙灰色                      | —  | 外面はオサエ、底部はハケ、内<br>面はハケの上に井桁文の沈線  | 不明                                | 内面は変色少な<br>い、外面は煤付着                          | 在地   | 不明                    |
| 溝6<br>109図8         | 小皿              | 口径8.4<br>底径3.8<br>器高2.5        | 陶器<br>橙褐色                              | 発色の悪い鉄釉が内<br>面から外面口縁部に<br>掛かる                  |  | 底部露胎                              | 内外面口縁部に煤<br>付着                               | 肥前   | 不明                    |
| 溝7<br>110図1         | 杯               | 口径(6.4)<br>高台径3.0<br>器高1.9     | 磁器<br>灰白色                              | 透明釉外底以外全面<br>掛け                                | 無文 高台削り出し  | 畳付釉剥ぎ                             |  | 肥前   | 不明                    |
| 溝7<br>110図2         | 火鉢              | 口径(46.7)                       | 瓦質土器<br>にぶい橙灰白色<br>金雲母多い               | —  | 外面・口唇部はミガキで、単位<br>がわからない 内面はハケ、口<br>縁下にオサエあり 口唇部に<br>木葉文、外面口縁部下に花文の<br>スタンプ列 | 不明                                | 外面の黒色は炭素<br>吸着によるもの                          | 在地か  | 不明                    |
| 南西部クリーク<br>110図3    | 碗               | 口径10.6<br>高台径4.0<br>器高4.9      | 陶器<br>灰白色                              | 透明釉を全面に掛け<br>る                                 | 外面には草文を呉須染付  | 畳付釉剥ぎ                             |  | 肥前   | 1700<br>～<br>1740     |
| 井戸2<br>111図1        | 摺鉢              | —                              | 陶器<br>暗橙褐色                             | 口縁部のみ鉄釉  | 内面摺り目1単位不明   | —                                 |  | 肥前   | 1650<br>～<br>1690     |
| 井戸2<br>111図2        | 小鉢              | 口径(11.4)                       | 陶器<br>橙褐色                              | 内面口縁部から外面<br>胴上半に鉄釉を掛けた後、外面上<br>半は櫛状釉剥ぎ        |  | 下半露胎                              | 鉄釉は発色不良                                      | 肥前   | 1650<br>～<br>1690     |
| 鑄造遺構上面<br>111図3     | 碗<br>半球形        | 口径(10.4)<br>高台径(3.2)<br>器高4.9  | 磁器<br>灰白色                              | 透明釉を全面に掛け<br>る                                 | 外面には松と竹文があるので松<br>竹梅文だろう 呉須染付  | 畳付釉剥ぎ                             |  | 肥前   | 1710<br>～<br>1750     |
| 鑄造炉上面<br>111図4      | 碗               | 口径(11.5)<br>高台径(5.1)<br>器高7.8  | 陶器<br>灰～橙灰色                            | 黒釉全面掛け   | 無文 外底削り出し  | 畳付釉剥ぎ                             | 見込みの釉の荒れ<br>はひつつきだが、<br>外面の白変は2次<br>的被熱によるもの | 肥前   | 不明                    |
| 鑄造炉上面<br>111図5      | 碗<br>半球形        | 口径(11.5)<br>高台径4.6<br>器高4.4    | 陶器<br>黄灰白色                             | 透明釉を外面底部以<br>外に全面掛ける                           | 見込みに鉄絵の山水文あり 外<br>底に螺旋状に円文を線刻  | 底部露胎                              | 京焼風陶器  | 肥前   | 18世紀中葉<br>～<br>18世紀後葉 |
| 鑄造遺構炉上面<br>111図6    | 小皿              | 口径(12.7)<br>高台径(7.6)<br>器高3.1  | 磁器<br>灰白色                              | 発色の悪い透明釉を<br>全面に掛ける                            | 外面唐草文、内面二重網目文と<br>半菊文、裏銘「大明年製」を呉須<br>染付                                      | 畳付釉剥ぎ                             |  | 波佐見  | 1680<br>～<br>1740     |



第110図 1次調査7号溝状遺構・南西部クリーク出土土器・磁器実測図(2は1/4、他は1/3)



第111図 1次調査2号井戸、铸造炉上面出土陶磁器実測図(8・9は1/4、他は1/3)



第112図 1次調査ピット出土土器・陶磁器実測図(12・13は1/4、他は1/3)

表50 1次調査出土土器・陶磁器観察表23

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号     | 器種<br>形状<br>通称名    | 法量(cm)<br>( )は復元値             | 胎の種類                      | 釉薬  | 調整・整形・装飾技法  | 窯詰め技法                           | 所 見                            |      |                   |
|-------------------------|--------------------|-------------------------------|---------------------------|---|---|---------------------------------|--------------------------------|------|-------------------|
|                         |                    |                               |                           |   |   |                                 | 特記事項                           | 推定産地 | 推定年代              |
| 铸造遺構炉上面<br>111図7<br>344 | 小皿                 | 口径(13.8)<br>高台径4.9<br>器高3.4   | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を外底部以外<br>に全面掛ける                                       | 内面に菊花文染付  | 底部露胎                            |                                | 波佐見  | 1680<br>～<br>1740 |
| 铸造炉上面<br>111図8<br>593   | 摺鉢                 | 口径(31.1)<br>底径11.7<br>器高11.0  | 陶器<br>暗赤紫灰～赤紫色            | 口縁部のみ鉄釉   | 内面摺り目12本単位 外底糸切り                                  | 底部露胎 外面胴<br>下位と見込みに胎<br>土目跡8つあり | 内面の色調差は<br>重ね焼きのため             | 肥前   | 1650<br>～<br>1690 |
| 铸造炉上面<br>111図9<br>591   | 摺鉢                 | 口径(36.0)                      | 陶器<br>灰色                  | 口縁部のみ鉄釉   | 内面摺り目12本単位  | 不明                              |                                | 肥前   | 1650<br>～<br>1690 |
| 铸造炉上面<br>111図10<br>318  | 碗                  | 高台径(4.3)                      | 磁器<br>暗灰白色                | 透明釉を全面に掛ける<br>貫入あり  | 外面草花文、裏銘に「朝」、呉須染付                                 | 畳付釉剥ぎ                           |                                | 朝妻焼  | 1714<br>～<br>1728 |
| ビット28<br>112図1<br>502   | 碗<br>半球形           | 口径9.4<br>高台径3.8<br>器高4.5      | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け<br>貫入あり   | 外面は花草文のみ 呉須染付                                     | 畳付釉剥ぎ                           |                                | 肥前か  | 18世紀前半            |
| ビット28<br>112図2<br>485   | 碗<br>半球形           | 口径(10.2)                      | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛ける<br>発色やや不良                                      | 外面には草花文呉須染付                                       | 畳付釉剥ぎ                           |                                | 肥前   | 1710<br>～<br>1750 |
| ビット3<br>112図3<br>718    | 碗                  | 口径(9.6)<br>高台径(4.0)<br>器高4.1  | 陶器<br>黄灰白色                | 透明釉を全面掛け<br>貫入あり  | 見込みに山水文の鉄絵  | 胴下位釉剥ぎ                          | 京焼風陶器                          | 肥前   | 1690<br>～<br>1810 |
| ビット10<br>112図4          | 碗<br>半球形           | 口径10.4<br>高台径3.9<br>器高5.0     | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け   | 外面は水裂文のみ 呉須染付                                     | 畳付釉剥ぎ                           |                                | 肥前   | 18世紀前半            |
| ビット3<br>112図5           | 碗                  | 口径(10.8)<br>高台径(4.3)<br>器高6.5 | 陶器<br>黄灰白色                | 緑灰白色の灰釉を高台<br>内面以外全面掛け                                    | 無文 外面胴下位にカンナ痕                                     | 畳付釉剥ぎ                           | 灰釉は口縁部に<br>2度掛け                | 肥前   | 1690<br>～<br>1810 |
| ビット10<br>112図6          | 小皿                 | 口径(13.0)<br>高台径(4.4)<br>器高3.4 | 磁器<br>灰白色                 | 光沢のある透明釉内面<br>から外面胴下位まで                                   | 内面に折松葉文らしいモチーフの呉<br>須染付                           | 底部露胎 見込み<br>蛇の目釉剥ぎ部             |                                | 波佐見  | 1680<br>～<br>1740 |
| ビット28<br>112図7          | 小皿                 | 口径12.2<br>高台径4.7<br>器高3.4     | 陶器<br>灰白色<br>粗放           | 緑灰色の灰釉を内面から<br>外面胴下位まで掛け、そ<br>の上に内面から外面口縁<br>部は銅緑釉を上掛け    | 外面胴下位はカンナ痕  | 底部露胎 見込み<br>蛇の目釉剥ぎ部に<br>胎土目4つあり |                                | 肥前   | 1650<br>～<br>1690 |
| ビット28<br>112図8          | 大碗<br>嗽茶碗          | 口径15.5<br>高台径5.4<br>器高7.0     | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉全面掛け   | 外面無文、内面ザクロ文か                                      | 畳付釉剥ぎ                           |                                | 肥前   | 不明                |
| ビット28<br>112図9          | 焙烙                 | 口径(26.0)<br>底径(20.0)<br>器高5.0 | 土師質土器<br>にぶい暗黄灰色          | —   | 外面口縁部は横ナデ、底部との接合<br>部はオサエ、内面は細かい横ハケ<br>外底は未調整     | 不明                              | 内面は変色なし、<br>外面は煤付着             | 在地   | 不明                |
| ビット29<br>112図10         | 焙烙                 | —                             | 土師質土器<br>にぶい暗黄灰色          | —   | 外面口縁部は縦ハケの上を口縁部だ<br>け横ナデ、屈曲部以下も縦ハケ、内<br>面はハケ状の横ナデ | 不明                              | 内面は変色なし、<br>外面は煤付着し、全体的に<br>黒変 | 在地   | 不明                |
| ビット27<br>112図11         | 焙烙                 | —                             | 土師質土器<br>にぶい暗黄灰色<br>金雲母あり | —   | 外面口縁部は縦ハケの上を横ナデ、<br>屈曲部以下は目の細かいハケ、内面<br>は細かい横ハケ   | 不明                              | 内面は黒変、外<br>面は煤付着し、<br>全体的に黒変   | 在地   | 不明                |
| ビット6<br>112図12          | 鉢<br>半胴甕           | 口径(34.0)                      | 陶器<br>赤紫灰色                | 内面に鉄釉掛け、外面と口唇部は<br>白化粧土を掛けて櫛状掻き<br>取り、その上に暗緑灰色の灰釉を<br>上掛け | 口唇部内側は釉剥<br>ぎ                                     |                                 |                                | 肥前   | 17世紀後半<br>か       |
| ビット15<br>112図13         | 鉢<br>半胴甕           | 口径(26.0)                      | 陶器<br>灰色                  | 内面に鉄釉掛け、外面と口唇部は<br>白化粧土を掛けて櫛状掻き<br>取り、その上に黄灰色の灰釉を<br>上掛け  | 口唇部上面側は緑<br>のみ、下面側は釉<br>剥ぎ                        |                                 |                                | 肥前   | 17世紀後半<br>か       |
| ビット31<br>112図14         | 小壺                 | —                             | 陶器<br>橙褐色                 | 内外面鉄釉掛け   | 内外面胴部に格子目タキ痕ナデ消<br>し                              | 口唇部は灰釉のみ<br>釉拭き取り               | 口縁部は釉剥ぎ<br>していない               | 肥前   | 18世紀<br>～<br>19世紀 |
| ビット28<br>112図15         | 小壺                 | 口径10.6<br>底径8.0<br>器高10.6     | 陶器<br>橙褐色                 | 鉄釉は外面下半にハケ掛<br>けた後、外面上半から<br>内面口縁部に厚掛け                    | 外面上半分はナデ、下半分はケズリ<br>摺り目は11本単位                     | 畳付釉剥ぎ<br>口唇部釉剥ぎ                 |                                | 肥前   | 不明                |
| ビット28<br>112図16         | 瓶                  | 高台径(8.5)                      | 磁器<br>灰白色                 | 透明釉 全面<br>貫入あり  |   | 畳付釉剥ぎ後、鉄<br>漿塗布                 |                                | 肥前   | 19世紀中葉            |
| ビット12<br>112図17         | 杯<br>端反形           | 口径(10.6)<br>高台径4.4<br>器高4.1   | 陶器<br>灰白色                 | 透明釉を全面に掛け   | 無文  | 畳付釉剥ぎ                           | 器高の低いもの                        | 肥前   | 19世紀前半            |
| 北端整地層<br>113図1          | 杯                  | 口径(10.8)<br>高台径4.8<br>器高4.8   | 陶器<br>完形のため不明             | 外面胴下位は鉄釉、透明<br>釉を内面から外面胴中位<br>まで掛け 貫入あり                   | 内面に山水文の鉄絵   | 胴下位釉剥ぎ                          | 京焼風陶器                          | 肥前   | 不明                |
| 北西部整地層<br>113図2         | 小皿                 | 口径8.1<br>底径5.4<br>器高2.0       | 土師質土器<br>黄灰白色<br>混入物なし    |   | 外底糸切り   | 不明                              | 外底か黒く変色                        | 蒲池焼  | 不明                |
| 西端整地層<br>113図3          | 小皿<br>変形小皿<br>長八角形 | 長軸8.0<br>短軸5.7<br>器高1.8       | 磁器<br>完形のため不明             | 透明釉 全面<br>貫入あり  | 糸切り細工の型押し成型で、楓葉形、<br>内底は葉脈を陽刻 高台おにぎり形<br>に手捏ね     | 畳付釉剥ぎ                           | 完形                             | 肥前   | 不明                |
| 北西部整地層<br>113図4         | 皿                  | 口径(20.0)                      | 陶器<br>黄灰白色                | 透明釉を全面掛け  | 内面に草文状の片切彫り                                       | —                               |                                | 肥前   | 1780<br>～<br>1810 |

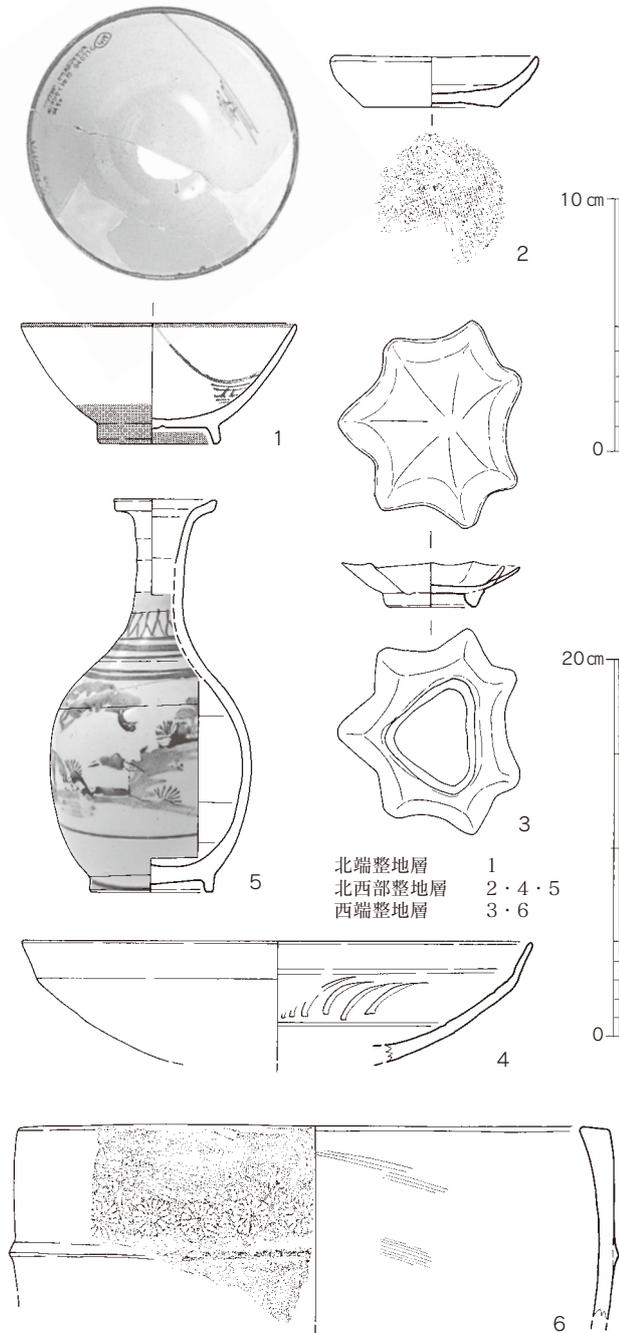
124図1・2は方柱状の石材で、1には梵字が文字の外郭線を線刻する字体で書かれている。上下端面を除き、欠損した1面以外の3面に1文字ずつあるので、本来は4面にあったものだろう。

図の左から「𑖀キリーク」「𑖀タラク」「𑖀ウーン」なので、四方梵字と見られる。したがって、欠損部に彫られていたのは「𑖀アク」である。この四方梵字が彫られることが多い石製品といえば宝篋印塔なので、これは宝篋印塔の塔身部と考えられる。ウーンは阿閃如来、タラクは宝生如来、キリークは阿弥陀如来、アクは釈迦如来かあるいは不空成就如来を顕しており、金剛界五仏あるいは塔自身を大日如来として金剛界五仏となる(引用文献3)。

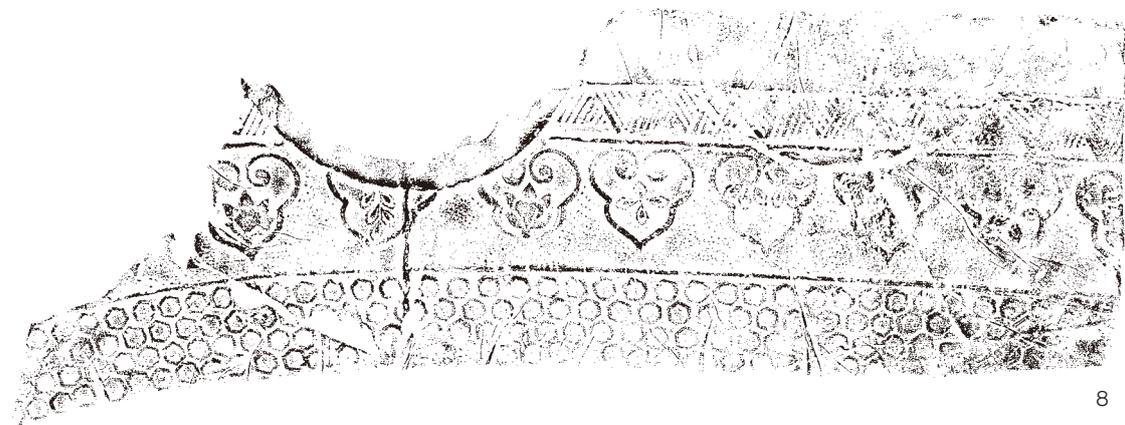
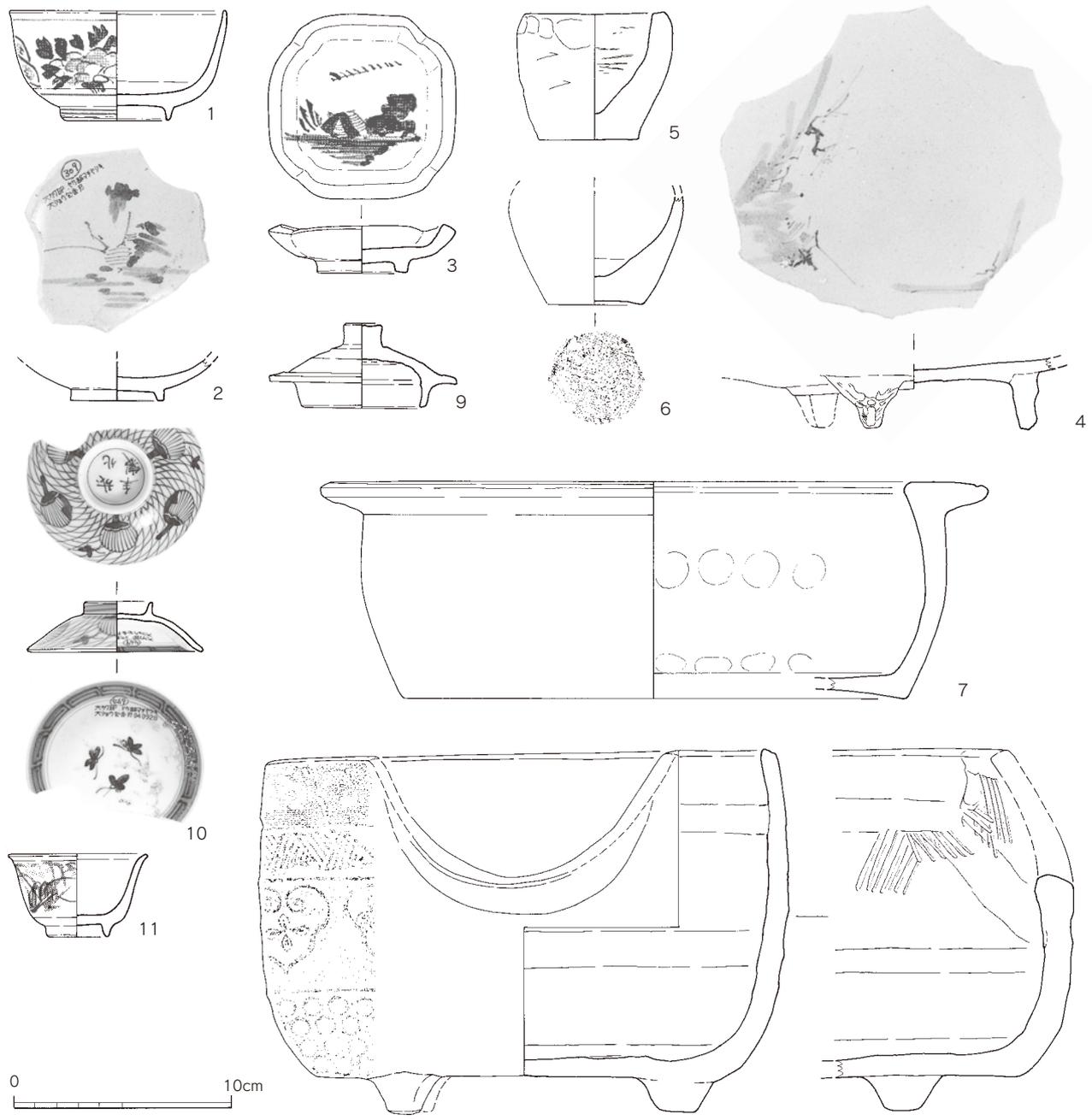
124図2には明らかに梵字はないが、規格がほぼ同じなので、この石材も宝篋印塔の塔身部ではあろう。戦国時代の集落遺跡である柳川市矢加部南屋敷遺跡(引用文献4)で出土した宝篋印塔は同じサイズの塔身部であり、ちょうどこの石材のサイズに適合する。また、柳川高校に置かれている天文19(1550)年銘の「蒲池鑑盛造立覚童御篋印塔」の宝篋印塔も規格的には一致する。

宝篋印塔の存在からこの集落内に屋敷墓が置かれた可能性も考えられるが、本遺跡は近世の町屋なので、裏庭にあったとしても屋敷墓とは考えにくいし、実際墓らしい遺構は発見されていない。むしろ、戦国時代から江戸時代初頭に存在していた墓が久留米柳川街道の敷設か、町屋敷集落の造成に伴ってそれ以前にあった墓が掘り崩されたか、あるいは礎石などの石材として転用するために持ち込まれた可能性が高い。

125図7はポマードのガラス瓶で、「IUZUTSUBAKI」の陽刻がある。椿油の商品名であろうが詳細はわからない。8の牛乳瓶は蓋が締まった状態で出土している。蓋の天井部には「え」と線刻されており、同じ形態の牛乳瓶の蓋である9には「永」と線刻されているので、同じ「え」のつく名称の牧場の製品である可能性が高い。



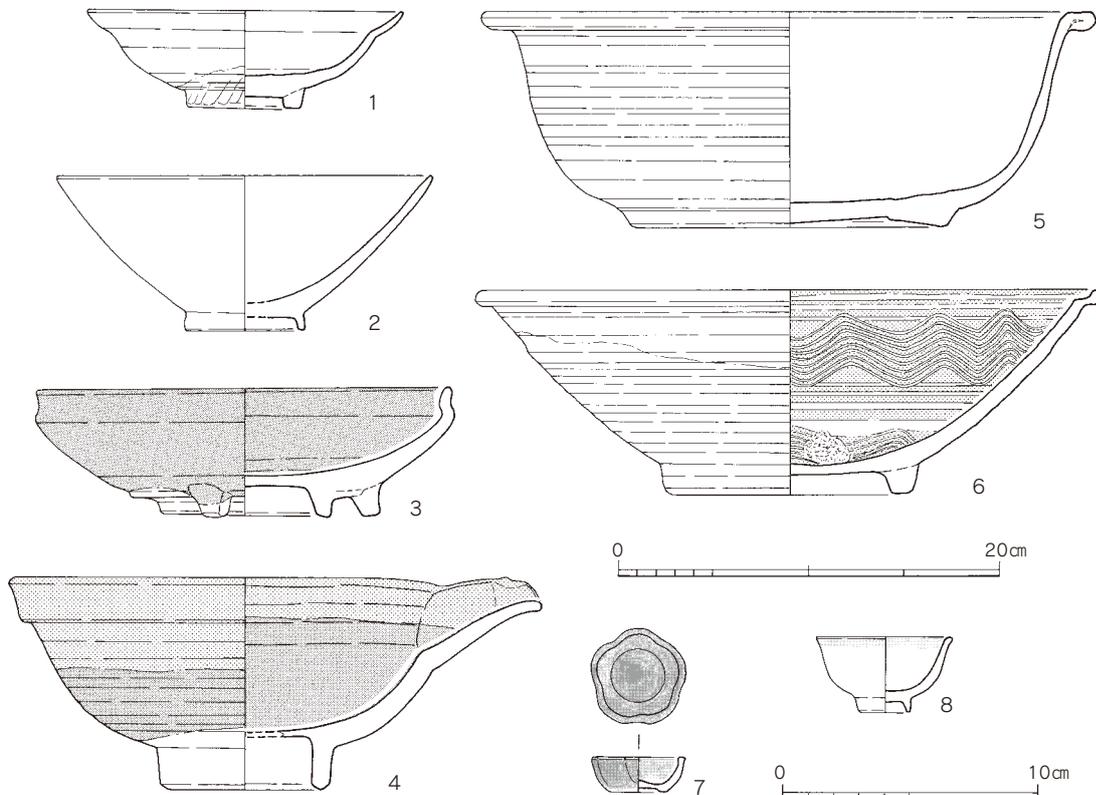
第113図 1次調査整地層出土土器・陶磁器実測図  
(6は1/4、他は1/3)



第114図 1次調査大正包含層出土土器・陶磁器実測図(1/3)

表51 1次調査出土土器・陶磁器観察表24

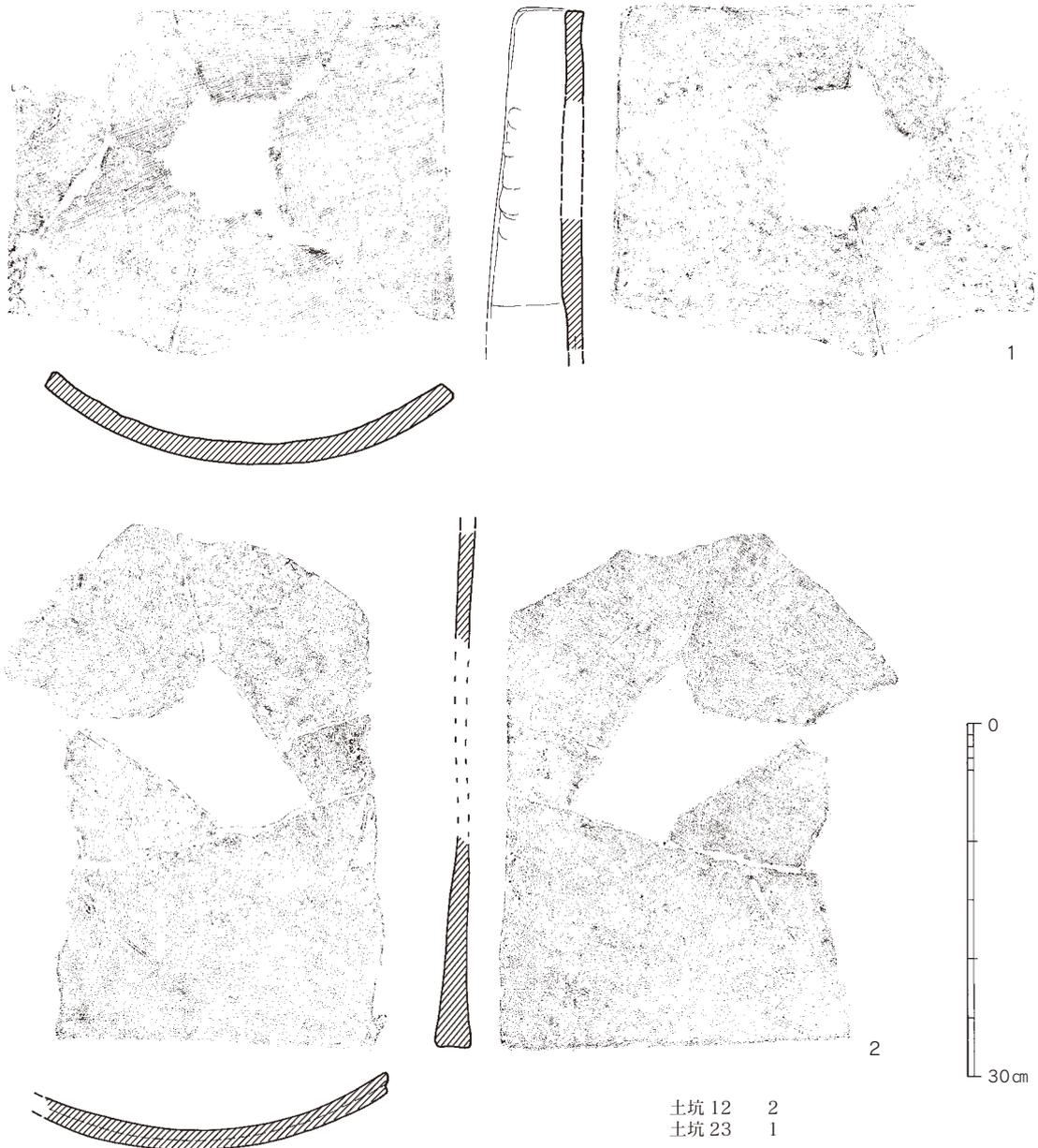
| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名  | 法量(cm)<br>( )は復元値          | 胎の種類                                       | 釉薬                                    | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法            | 所見           |      |                       |
|---------------------|------------------|----------------------------|--|---------------------------------------|--|------------------|--------------|------|-----------------------|
|                     |                  |                            |  |                                       |  |                  | 特記事項         | 推定産地 | 推定年代                  |
| 北西部整地層<br>113図5     | 瓶                | 口径4.0<br>最大径8.0<br>高台径4.8  | 磁器<br>灰白色                                  | 外面から内面口縁部まで透明釉を掛け、その上に赤・緑・青彩で山水文の上絵付け |  | 曇付釉剥ぎ            |              | 肥前   | 1650<br>~<br>1690     |
| 西部整地層<br>113図6      | 火鉢               | 口径(31.0)                   | 瓦質土器<br>灰色                                 | —                                     | 内外とも器面の剥落著しい 外面はミガキの上に菊花文のスタンプ 内面はナデ                                       | 不明               | 内面口縁部に煤付着    | 在地か  | 不明                    |
| 大正包含層<br>114図1      | 鉢<br>蓋物          | 口径10.0<br>高台径4.8<br>器高5.2  | 磁器<br>灰白色                                  | 発色不良の透明釉を全面に掛ける                       | 外面葉よろけ縞文と牡丹花文のコバルト染付   | 曇付釉剥ぎ<br>口唇部釉剥ぎ  | 焼成時のひびが入る完形  | 肥前か  | 20世紀前半                |
| 大正包含層<br>114図2      | 碗<br>半球形         | 高台径4.2                     | 陶器<br>黄灰白色                                 | 透明釉を外底部以外に全面掛ける                       | 見込みに鉄絵の山水文あり 外底に「清水」の刻印  | 底部露胎             | 京焼風陶器        | 肥前   | 18世紀中葉<br>~<br>18世紀後葉 |
| 大正包含層<br>114図3      | 小皿<br>変形小皿<br>方形 | 一辺8.6<br>高台径4.2<br>器高2.1   | 磁器<br>完形のため不明                              | 透明釉 全面                                | 型押し成型で、見込みに海底の貝文コバルト手描き染付  | 曇付釉剥ぎ            | 完形           | 肥前   | 不明                    |
| 茶褐色土包含層<br>114図4    | 皿<br>脚付          | 底部径9.9                     | 陶器<br>黄灰白色                                 | 透明釉を全面に掛け貫入あり                         | 見込みに鉄絵の山水文 脚は3つで、龍面の型押し成型  | 外底は蛇ノ目高台状で、台部は露胎 | 京焼風陶器        | 肥前   | 18世紀中葉                |
| 大正包含層<br>114図5      | 焼塩壺              | 口径6.5<br>底径4.6<br>器高5.9    | 土師質土器<br>にぶい黄灰色<br>精良                      | —                                     | 外底糸切り 口縁部に一部ケズリあり 内外面ナデ  | —                | ほぼ完形 器面摩滅    | 在地   | 不明                    |
| 大正包含層<br>114図6      | 焼塩壺              | 底径4.4                      | 土師質土器<br>外面にぶい黄灰色<br>内面淡橙色<br>中央は灰黒色<br>精良 | —                                     | 外底へら削り<br>内外面ナデ  | —                | 断面赤変         | 在地   | 不明                    |
| 大正包含層<br>114図7      | 火鉢               | 口径30.6<br>底径23.0<br>器高10.0 | 瓦質土器<br>にぶい灰褐色<br>白色粒子入る                   | —                                     | 外底切り離し後未調整 器面は外面ナデ、内面オサエ後ナデ  | —                | ほぼ完形 器面摩滅    | 在地   | 不明                    |
| 大正包含層<br>114図8      | 火鉢               | 口径23.1<br>底径19.2<br>器高16.6 | 瓦質土器<br>灰白色が黒灰色を挟む                         | —                                     | 外面胴下位は型押しによる鋸歯文帯、亀甲文帯などの陽刻、脚は円柱状で2つ残る 外底はハケ状ノナデ、内面はケズリ、突出部の接合部の沈線がある 窓はミガキ | —                | 外面のミガキ部は光沢あり | 在地   | 不明                    |



第115図 1次調査攪乱土坑出土陶磁器実測図(5・6は1/4、その他は1/3)

表52 1次調査出土土器・陶磁器観察表25

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号    | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値             | 胎の種類              | 釉薬                      | 調整・整形・装飾技法   | 窯詰め技法              | 所見   |      |                   |
|------------------------|-----------------|-------------------------------|-------------------|-------------------------|--|--------------------|------|------|-------------------|
|                        |                 |                               |                   |                         |  |                    | 特記事項 | 推定産地 | 推定年代              |
| 大正包含層<br>114図9<br>図版17 | 蓋               | 裾径5.6<br>つまみ径8.6<br>器高4.0     | 陶器<br>橙褐色         | 鉄釉を上面に掛ける 釉切れあり         | 底部は糸切り   | 下半釉剥ぎしているが、釉の残りあり  |      | 肥前   | 不明                |
| 大正包含層<br>114図10        | 蓋               | 裾径8.0<br>つまみ径3.1<br>器高2.3     | 磁器<br>灰白色         | 透明釉 全面 貫入あり             | 外面に格子文の上に団扇文と蝶文、内面は口縁部に雷文、天井部に蝶文<br>外面裏銘は「成化年製」を呉須染付 | つまみ部上端釉剥ぎ          |      | 肥前   | 1700<br>S<br>1740 |
| 大正包含層<br>114図11        | 杯<br>端反形        | 口径6.5<br>高台径2.9<br>器高3.8      | 磁器<br>灰白色<br>ガラス質 | 透明釉全面掛け                 | 外面に茶と緑の草文の上絵付け                                       | 畳付釉剥ぎ              | 完形   | 肥前   | 19世紀後半            |
| 土坑20<br>115図1          | 小皿              | 口径12.4<br>底径4.4<br>器高3.8      | 陶器<br>暗灰白色        | 内面から外面胴中位まで<br>緑灰色の灰釉掛け | 外底削り出し 胴下位に<br>カンナ痕                                  | 底部露胎<br>見込みに蛇の目釉剥ぎ |      | 肥前   | 1690<br>S<br>1780 |
| 土坑20<br>115図2          | 大碗<br>嗽茶碗       | 口径(14.7)<br>高台径(4.7)<br>器高6.2 | 磁器<br>灰白色         | 透明釉全面掛け                 | 無文   | 畳付釉剥ぎ              |      | 肥前   | 不明                |



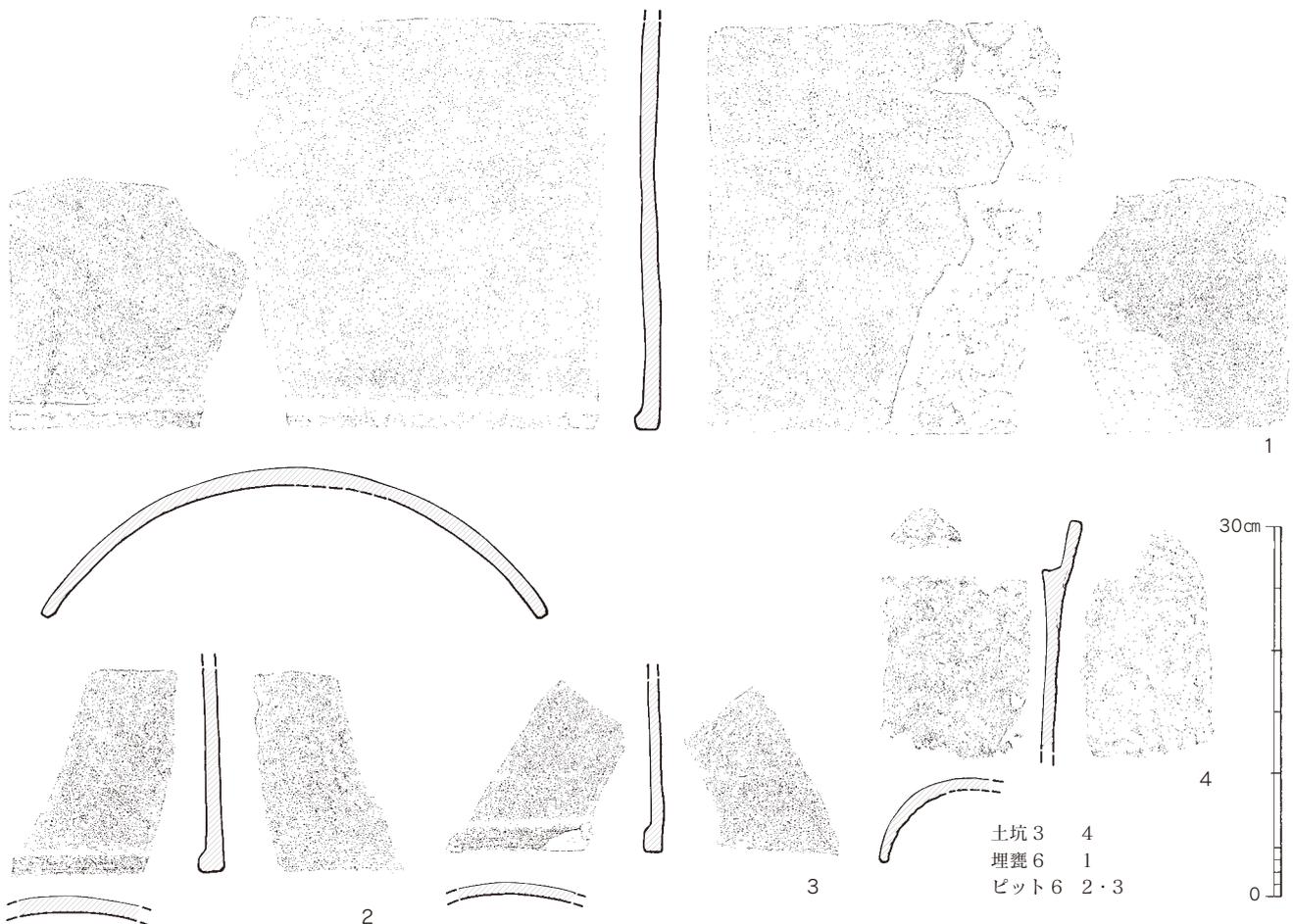
第116図 1次調査出土土師質瓦実測図1(1/6)

13はガラス製おはじきで、じゃんけんのグーが陽刻されており、2次調査1号溝出土のチョコキとパー(『矢加部町屋敷遺跡I』41図37・38)とセットになる。

128図4~7は膳の脚で、6・7は木釘で固定されておらず、膠のようなものが付着しているので、接着材で固定したと考えられる。脚の低い膳は板部と脚部を木釘で固定しなかったのではないだろうか。128図8・9は箱の側板でセットになるものだろう。

128図11・12の箸はいずれも出土時には直線であったが、水漬けしていたにも関わらず報告時までに変形してしまった。129図16は全面は透明漆塗りの方形板で、1面に透明漆塗りされていない長方形の接合痕があり、そこに木釘孔が2つずつある。箱の身側の板材にしては、木釘孔が足りないことから、受部が2つ付いて蓋になると考えられる。

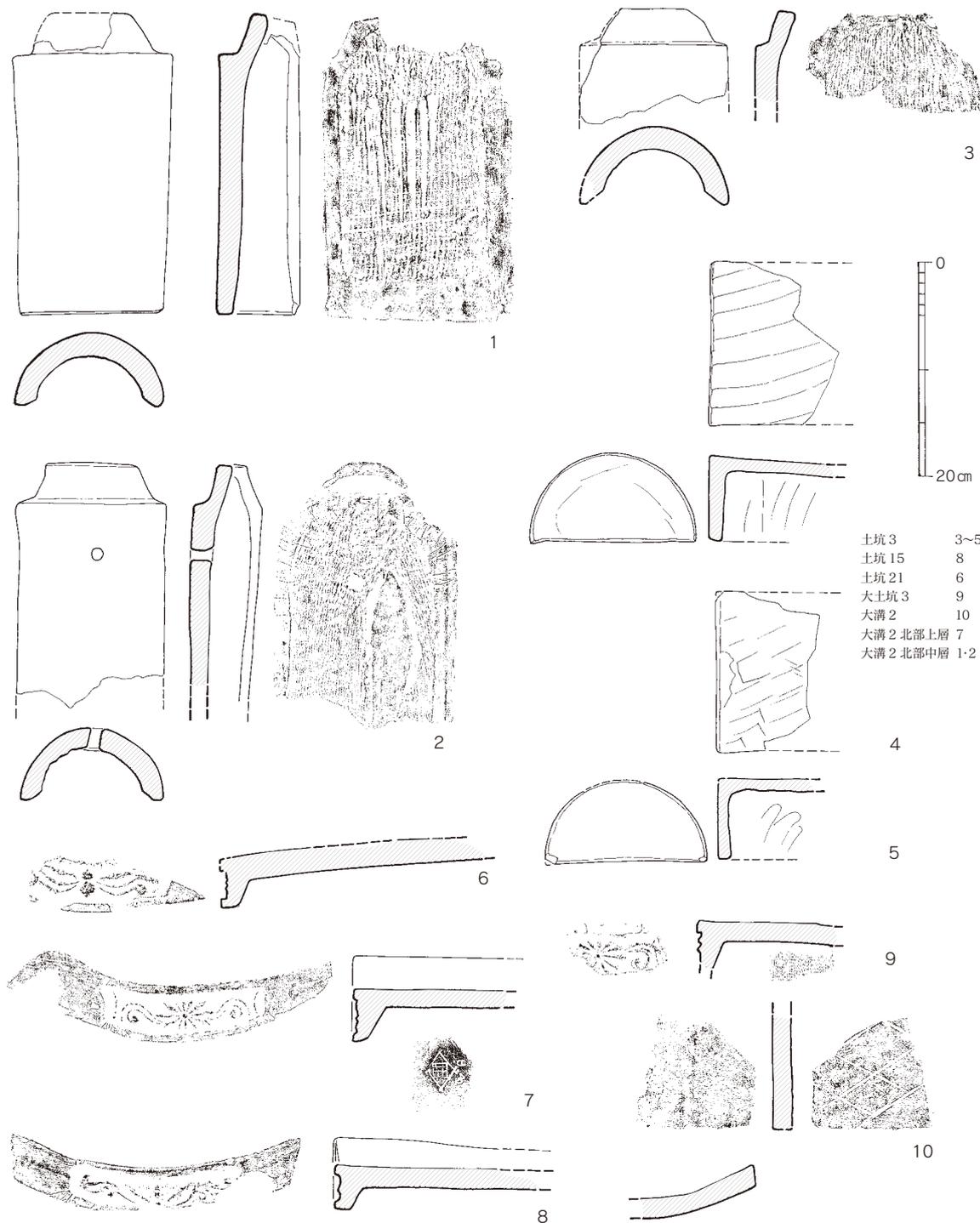
129図2は全面に顔料が塗布されているので、貼り付けるものでもない 赤漆にしては色調がピンクであることと、厚みがないことから、顔料と考えた。129図6は薄い台形の板材で、セットになる。逆台形の上の角を取ったもので、木釘孔が左右の下角から上がったところと、上辺の中央の3箇所ある。木釘孔は側板との固定を目的としたものにしては数が少なく、位置がおかしい。また、5とセットになることから考えても、別の部分を介して接合したことが推測される。129図9は板材の側縁が劣化しておらず、孔は大きく、鉄孔ではない。孔には擦れた痕跡がないので、紐を通すものでもないの、棒を差し込んだのだろう。本来の形態は想定できない。



第117図 1次調査出土土師質瓦実測図2(1/6)

表53 1次調査出土土器・陶磁器観察表26

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値             | 胎の種類            | 釉薬  | 調整・整形・装飾技法  | 窯詰め技法                             | 所見                         |      |        |
|---------------------|-----------------|-------------------------------|-----------------|---|-------------|-----------------------------------|----------------------------|------|--------|
|                     |                 |                               |                 |   |             |                                   | 特記事項                       | 推定産地 | 推定年代   |
| 土坑20<br>115図3       | 小皿<br>脚付皿       | 口径(16.4)<br>底径8.6<br>器高5.1    | 陶器<br>暗灰色       | 暗いオリーブ色の灰釉<br>底部以外全面  | 脚は手捏ねの低い方柱形 | 底部露胎 見込み蛇ノ目<br>釉剥ぎで、重ね焼きの痕<br>跡あり | 陶胎染付の胎<br>だが、残存部に<br>染付はない | 肥前   | 不明     |
| 土坑20<br>115図4       | 片口鉢             | 口径18.4<br>高台径6.6<br>器高8.4     | 陶器<br>灰～黄橙色 精良  | 内外面胴中位までオリーブ色の灰釉掛け、口縁部<br>内外は白化粧土掛けし、その上に内外胴中位まで<br>透明釉を掛ける 高台は削り出し |             | 底部露胎                              |                            | 肥前   | 不明     |
| 土坑20<br>115図5       | 鉢               | 口径(32.4)<br>高台径16.6<br>器高11.3 | 陶器<br>黄灰色<br>精良 | 柿釉を全面掛け   |             | 高台釉剥ぎ<br>見込みにハリ目跡が5つ              |                            | 肥前   | 20世紀前半 |



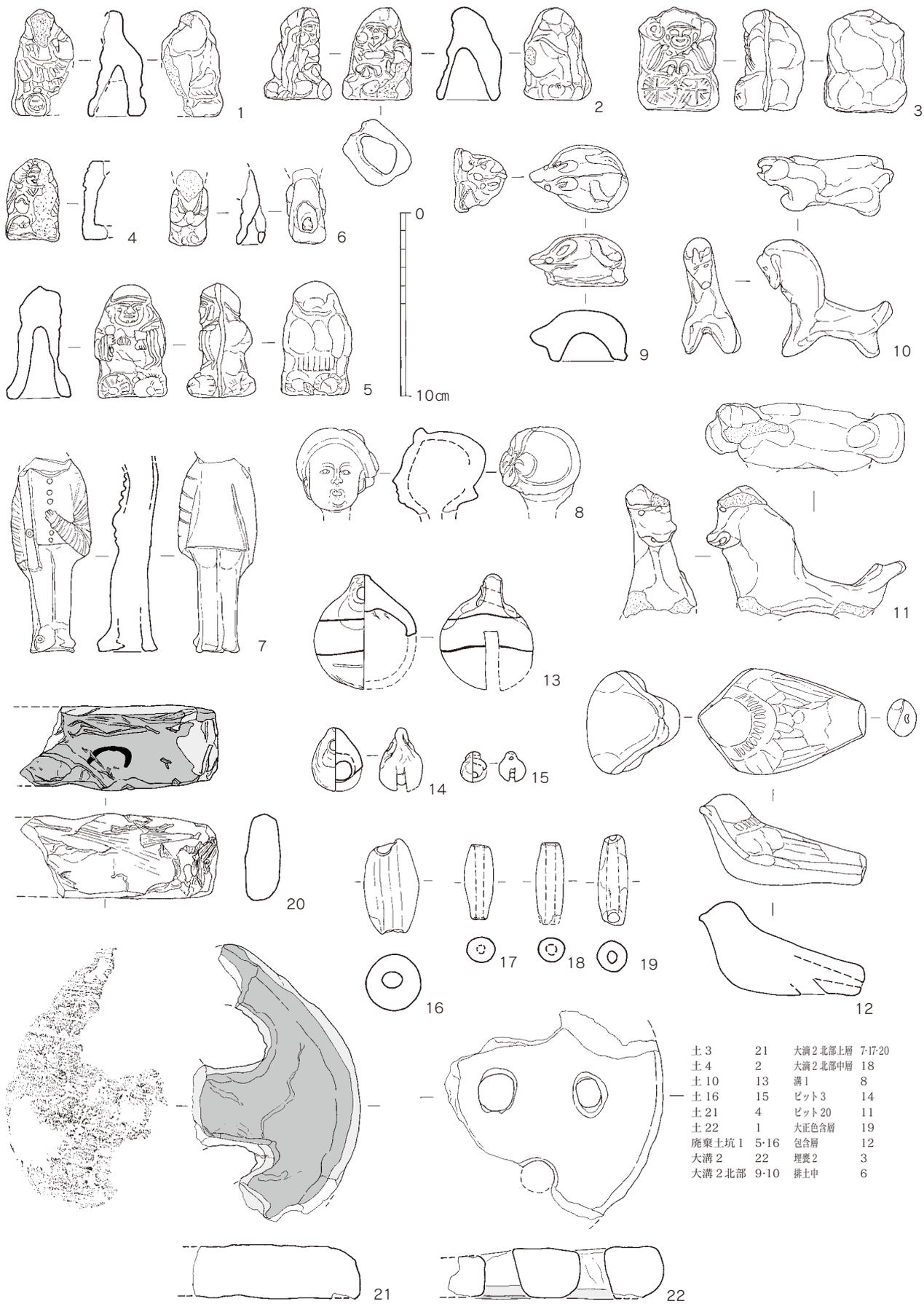
第118図 1次調査出土瓦実測図(1/6)

表54 1次調査出土土器・陶磁器観察表27

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値           | 胎の種類              | 釉薬                                    | 調整・整形・<br>装飾技法 | 窯詰め技法      | 所見    |                             |           | 所見   |                   |                    |    |    |
|---------------------|-----------------|-----------------------------|-------------------|---------------------------------------|----------------|------------|-------|-----------------------------|-----------|------|-------------------|--------------------|----|----|
|                     |                 |                             |                   |                                       |                |            | 特記事項  | 推定産地                        | 推定年代      | 特記事項 | 推定産地              | 推定年代               |    |    |
| 土坑20<br>115図6       | 鉢               | 口径33.0<br>高台径12.4<br>器高10.8 | 陶器<br>暗橙灰色        | 内面白化粧土を櫛状掻き取りし、内面から外面口縁部に暗オリブ色の灰釉を掛ける |                | 調整・整形・装飾技法 | 窯詰め技法 | 見込みに楕円形砂目跡が7つあり、畳付部は7つ痕跡がある | 灰釉は透明釉に近い | 肥前   | 1690<br>~<br>1750 | 凹面だけが摩滅しているので甔瓦と推定 | 在地 | 不明 |
| 土坑20<br>115図7       | ミニチュア杯<br>花卉形   | 口径3.7<br>高台径2.1<br>器高1.4    | 磁器<br>完形のため不明     | 透明釉全面掛け                               | コバルト全面染付       |            |       | 畳付釉剥ぎ                       | 完形        | 不明   | 20世紀前半            |                    | 在地 | 不明 |
| 土坑20<br>115図8       | 杯               | 口径5.3<br>高台径2.1<br>器高3.0    | 磁器<br>灰白色<br>ガラス質 | 透明釉全面掛け                               | 口縁部に口錆状のコバルト染付 |            |       | 畳付釉剥ぎ                       | ほぼ完形      | 瀬戸   | 20世紀前半            |                    | 在地 | 不明 |

表55 1次調査出土瓦観察表

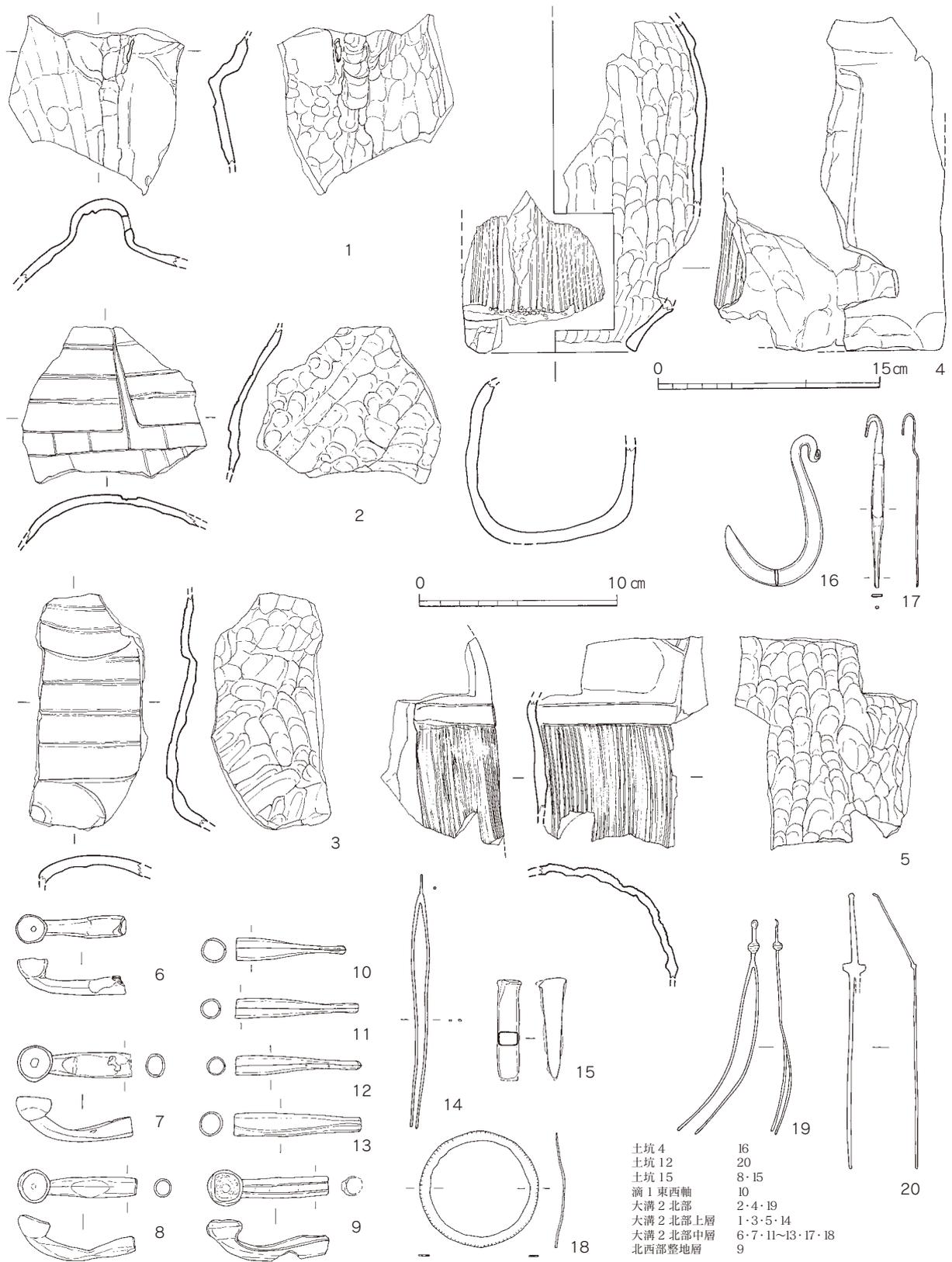
| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号      | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値        | 胎の種類<br>胎の特徴                    | 色調                      | 調整・整形・装飾技法    |                       |                      |                           | 製作技法       | 所見   |                     |      |    |
|--------------------------|-----------------|--------------------------|---------------------------------|-------------------------|---------------|-----------------------|----------------------|---------------------------|------------|------|---------------------|------|----|
|                          |                 |                          |                                 |                         | 凹面            | 凸面                    | 上下端面・瓦当              | 側端面                       |            | 特記事項 | 推定産地                | 推定年代 |    |
| 土坑23<br>116図1<br>図版18    | 平瓦<br>甔瓦        | 長さ29.3<br>幅35.4<br>厚さ1.8 | 土師質土器<br>黄灰白色                   | 暗灰白~灰<br>黒色             | ハケで、やや<br>摩滅  | ハケ                    | ハケ                   | ハケ                        | 切り離し後丁寧なナデ | 1枚作り | 凹面だけが摩滅しているので甔瓦と推定  | 在地   | 不明 |
| 土坑12<br>116図2<br>図版18    | 平瓦<br>甔瓦        | 長さ43.5<br>幅28.6<br>厚さ1.1 | 土師質土器<br>黄灰白色 カクセン石を含む          | 凹凸面に<br>ぶい暗黄灰色          | ナデ後ハケ         | ハケ                    | 基部端面ナデ               | 凸面から切り込みを入れ、凹側を少し残して外している | 1枚作り       |      |                     | 在地   | 不明 |
| 埋蔵6<br>117図1<br>図版18     | 平瓦<br>雁振瓦       | 長さ33.6<br>幅41.2<br>厚さ1.4 | 土師質土器<br>橙黄色が黄灰白色を挟む            | 凹凸面橙黄<br>色              | ナデ            | ハケ                    | ナデ                   | ケズリと面取り                   | 1枚作り       |      |                     | 在地   | 不明 |
| ビット6<br>117図2            | 平瓦<br>雁振瓦       | 長さ13.7<br>幅11.5<br>厚さ1.8 | 土師質土器<br>中心が黒灰色、その外が黄灰白色、外縁が橙黄色 | 凹凸面黄橙<br>色              | ナデ            | ナデ                    | ナデ                   | ケズリと面取り                   | 1枚作り       |      | 突帯に削りが見られるので右端付近の破片 | 在地   | 不明 |
| ビット6<br>117図3            | 平瓦<br>雁振瓦       | 長さ11.1<br>幅10.9<br>厚さ2.2 | 土師質土器<br>橙黄灰白色が灰色を挟む            | 凸面暗灰褐色、凹面暗黄灰色           | ハケ            | ハケ                    | ナデ                   | ケズリと面取り                   | 1枚作り       |      | 外面のみ変色              | 在地   | 不明 |
| 土坑3<br>117図4             | 丸瓦              | 長さ14.9<br>幅8.9<br>厚さ0.9  | 土師質土器<br>にぶい暗黄灰色                | にぶい暗灰<br>橙~にぶい<br>暗黄灰色  | オサエ後ナデ        | ナデ                    | ナデ                   | ケズリと面取り                   | 不明         |      | 水田の赤瓦が変色したものの       | 在地   | 不明 |
| 大溝2北部中層<br>118図1<br>図版18 | 丸瓦              | 長さ28.2<br>幅14.0<br>厚さ2.4 | 瓦質<br>灰色                        | 表面側は灰<br>黒色で、内<br>部は灰白色 | 藪と模骨痕の上をなでている | ナデ                    | ナデ                   | ケズリと面取り                   | 不明         |      | 一部銀化                | 在地   | 不明 |
| 大溝2北部中層<br>118図2<br>図版18 | 丸瓦              | 長さ23.3<br>幅13.2<br>厚さ1.8 | 瓦質<br>にぶい灰白色                    | にぶい灰白<br>~黒灰色           | 摸骨と布目痕あり      | ナデ                    | ナデ                   | ケズリ後ナデ                    |            |      | 銀化していない 釘孔あり        | 在地   | 不明 |
| 土坑3<br>118図3             | 丸瓦              | 長さ10.0<br>幅13.0<br>厚さ2.0 | 瓦質<br>灰色                        | 灰白~灰黒<br>色              | 不明            | ハケ状のナデ                | ナデ                   | ケズリと面取り                   | 不明         |      | 銀化していない             | 在地   | 不明 |
| 土坑3<br>118図4<br>図版18     | 堤瓦              | 長さ9.8<br>幅14.9<br>厚さ1.4  | 瓦質<br>灰白色が黒灰色を挟む                | 外面灰色、<br>内面灰黒色          | 指ナデ           | ハケ状のナデ                | ナデ                   | ケズリ                       | 1枚作り       |      |                     | 在地   | 不明 |
| 土坑3<br>118図5<br>図版18     | 堤瓦              | 長さ13.3<br>幅15.5<br>厚さ1.2 | 瓦質<br>灰白色が黒灰色を挟む                | 外面灰色、<br>内面灰黒色          | 指ナデ           | ハケ状のナデ                | ナデ                   | ケズリ                       | 1枚作り       |      |                     | 在地   | 不明 |
| 土坑21<br>118図6            | 平瓦              | 長さ24.6<br>幅17.0<br>厚さ2.2 | 瓦質<br>灰白色が黒灰色を挟む                | 内外灰黒色                   | ナデ            | ナデ                    | 瓦当は主文を宝珠文とする唐草文が描かれる | —                         | 1枚作り       |      | 銀化していない             | 在地   | 不明 |
| 大溝2北部上層<br>118図7<br>図版18 | 平瓦              | 長さ18.6<br>幅30.0<br>厚さ1.5 | 瓦質<br>灰白色が黒灰色を挟む                | 内外灰黒色                   | ナデ            | ナデ<br>平行沈線と<br>スタンプあり | 瓦当は主文菊花文で、唐草文が描かれる   | —                         | 1枚作り       |      | 銀化                  | 在地   | 近代 |
| 土坑15<br>118図8<br>図版18    | 平瓦              | 長さ19.9<br>幅26.4<br>厚さ2.0 | 瓦質<br>青灰色                       | 内外灰黒色                   | ナデ            | ナデ                    | 瓦当は主文3弁花文で、唐草文が描かれる  | —                         | 1枚作り       |      | 銀化していない             | 在地   | 不明 |
| 大土坑3<br>118図9            | 平瓦              | 長さ13.5<br>幅9.7<br>厚さ1.8  | 瓦質<br>灰白色                       | 橙灰色                     | ナデ            | ナデ<br>スタンプあり          | 瓦当は主文菊花文で、唐草文が描かれる   | —                         | 1枚作り       |      | 銀化していない             | 在地   | 近代 |
| 大溝2<br>118図10            | 平瓦              | 長さ15.8<br>幅10.7<br>厚さ2.0 | 瓦質<br>灰白色                       | 端部が黒灰<br>色 他は灰<br>白色    | 摩滅            | 摩滅<br>格子の線刻           | ナデ                   | ケズリ                       | 桶巻き        |      | 器面摩滅で調整不明           | 在地   | 不明 |



第119図 1次調査出土土製品実測図(1/3)

表56 1次調査出土土製品観察表1

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号      | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値        | 胎の種類<br>胎の特徴               | 調整・整形・装飾技法  | 製作技法                   | 所見                         |      |      |
|--------------------------|-----------------|--------------------------|----------------------------|---|------------------------|----------------------------|------|------|
|                          |                 |                          |                            |   |                        | 特記事項                       | 推定産地 | 推定年代 |
| 土坑22<br>119図1<br>図版19    | 土人形<br>大黒天像     | 長さ3.1<br>幅3.2<br>高さ5.7   | 土師質土器<br>金雲母なし<br>黄橙色      | 後頭部から袋にかけて強くナデている 底面から押し上げあり  | 型合わせ成型                 |                            | 在地   | 不明   |
| 土坑4<br>119図2<br>図版19     | 土人形<br>布袋像      | 長さ3.0<br>幅3.4<br>高さ4.9   | 土師質土器<br>黄橙色               | 表裏型合わせた後に下面を押し上げが高く、ほぼ中空になっている  | 型合わせ成型<br>表裏の型は真横でなく斜め | ほぼ完形                       | 在地   | 不明   |
| 埋甕2<br>119図3<br>図版19     | 土人形<br>大黒天像     | 長さ4.4<br>幅3.3<br>高さ5.6   | 土師質土器<br>金雲母なし<br>黄橙色      | 型合わせ成型の接合痕が隆起している   | 型合わせ成型                 | 後面はヒビ多い完形                  | 不明   | 不明   |
| 土坑21<br>119図4<br>図版19    | 土人形<br>大黒天像     | 長さ2.5<br>幅1.2<br>高さ4.5   | 土師質土器<br>金雲母なし<br>黄橙色      | 型合わせ成型の合わせ部で割れたもの   | 型合わせ成型                 |                            | 不明   | 不明   |
| 廃棄土坑1<br>119図5<br>図版19   | 土人形<br>大黒天像     | 長さ3.8<br>幅3.6<br>高さ6.2   | 土師質土器<br>金雲母なし<br>暗灰色      | 型合わせ成型の接合痕が隆起している 下面から押し上げあり  | 型合わせ成型                 | 後面はヒビ多い完形                  | 在地   | 不明   |
| 排土中<br>119図6<br>図版19     | 芯押さえ<br>唐人人形    | 長さ2.1<br>幅1.4<br>高さ4.2   | 磁器                         | 型押し成型で、背面はナデ後穿孔している 腕は貼り付け 透明軸全面掛け                                    |                        | 頭部欠損                       | 肥前   | 不明   |
| 大溝2北部上層<br>119図7<br>図版19 | 土人形<br>兵隊人形     | 長さ4.4<br>幅2.9<br>高さ10.5  | 土師質土器<br>金雲母あり<br>暗灰白色     | 型合わせ成型の接合部を削っている 中空で、下面を塞いでいない  | 型合わせ成型                 | 後面は着色なし                    | 在地   | 不明   |
| 大溝2北部上層<br>119図8<br>図版19 | 土人形<br>モダンガール人形 | 長さ4.6<br>厚さ4.7<br>高さ4.6  | 土師質土器<br>暗灰白色              | 型合わせ成型と思われるが、接合痕が見られない 着色していたらしく、帽子に白かピンクが付着している                      | 型合わせ成型                 |                            | 在地   | 不明   |
| 大溝2北部<br>119図9<br>図版19   | 土人形<br>鼠        | 長さ3.8<br>幅5.3<br>高さ3.0   | 土師質土器<br>暗黄橙灰色             | 表裏型合わせた後に下面を押し上げる   | 型合わせ成型                 | 完形                         | 在地   | 不明   |
| 大溝2北部<br>119図10<br>図版19  | 土人形<br>土馬       | 長さ2.8<br>幅5.4<br>高さ6.4   | 土師質土器<br>黄灰白色              | 耳は沈線を入れることで表現   | 手捏ね                    | 完形                         | 在地   | 不明   |
| ビット20<br>119図11<br>図版19  | 土人形<br>土馬       | 長さ3.6<br>幅8.0<br>高さ6.8   | 土師質土器<br>暗黄灰白色             | 耳がなく頭は平坦で、尻尾を扇形にしている  | 手捏ね                    |                            | 在地   | 不明   |
| ビット26<br>119図12<br>図版19  | 鳩笛              | 長さ5.6<br>幅9.0<br>高さ3.1   | 土師質土器<br>にぶい黄灰白色           | 型から外してナデているので、凹凸が不鮮明  | 型合わせ成型                 | 胎から赤坂焼か                    | 在地   | 不明   |
| 土坑10<br>119図13<br>図版19   | 土鈴              | 長さ6.5<br>幅5.0<br>高さ6.4   | 土師質土器<br>黄灰色               | 天井部内面にしぼりあり 下に方形の穿孔があり、側面に2本の墨線あり                                     | 型合わせ成型                 | 橙灰色は焼成による色調                | 在地   | 不明   |
| ビット3<br>119図14<br>図版19   | 土鈴              | 長さ2.8<br>幅2.3<br>高さ3.5   | 土師質土器<br>黄灰色               | 天井部内面にしぼりあり 下に方形の穿孔があり、内部に球が入っている                                     | 型合わせ成型                 | 完形                         | 在地   | 不明   |
| 土坑16<br>119図15<br>図版19   | 土鈴              | 長さ1.4<br>幅1.3<br>高さ1.6   | 土師質土器<br>黄灰色               | 天井部内面観察不能 下に方形の穿孔があり、内部に球が入っている                                       | 型合わせ成型                 | 完形                         | 在地   | 不明   |
| 廃棄土坑1北部下層<br>119図16      | 土錘              | 長さ5.2<br>最大径3.0<br>重量32  | 土師質土器<br>にぶい黄灰色            | 手捏ね ナデ 穿孔径1.0cm   | 手捏ね成型                  | ほぼ完形                       | 在地   | 不明   |
| 大溝2<br>119図17            | 土錘<br>管型        | 長さ3.8<br>最大径1.4<br>重量8   | にぶい暗黄灰色                    | 手捏ね ナデ 穿孔径0.5cm   | —                      | 完形                         | 在地   | 不明   |
| 大溝2北部中層<br>119図18        | 土錘<br>管型        | 長さ4.0<br>最大径1.6<br>重量7   | にぶい暗黄灰色                    | 手捏ね ナデ 穿孔径0.5cm   | —                      | ほぼ完形                       | 在地   | 不明   |
| 大正包含層<br>119図19          | 土錘<br>管型        | 長さ4.9<br>最大径1.7<br>重量12  | 土師質土器<br>暗黄橙色              | 手捏ね ナデ 穿孔径0.7cm   | 手捏ね成型                  | ほぼ完形                       | 在地   | 不明   |
| 大溝2北部上層<br>119図20        | 窯道具             | 長さ10.6<br>幅5.6<br>厚さ1.8  | 土師質土器                      | 上面の側縁が火を強く受け、中央部に半円に黒く変色した痕跡がある 下面は焼けが弱くハケ 薬痕あり                       | 手捏ね                    |                            | 在地   | 不明   |
| 土坑4<br>119図21            | サナ状土製品          | 長さ14.8<br>幅10.0<br>厚さ2.9 | 土師質土器                      | 下面は平坦で、板状圧痕が残り、焼けが弱い 上面は丸みを持ち、良く焼けている 孔の表面も赤化している 径6cm程度で、孔は楕円形に復元できる | 手捏ね                    |                            | 在地   | 不明   |
| 大溝2<br>119図22            | サナ状土製品          | 長さ11.8<br>幅11.0<br>厚さ2.8 | 土師質土器                      | 下面が凸面、上面が凹面を成すのは、焼成時か使用時の歪みだろう 上面はナデ 下面は焼けていないか器面摩滅 径9cmほどに復元できる      | 手捏ね                    | 調整がなく、側面が丸みをもつので、七輪のサナではない | 在地   | 不明   |
| 大溝2北部上層<br>120図1<br>図版19 | 大型土人形<br>手・腰部   | 長さ10.4<br>幅5.7<br>高さ11.8 | 土師質土器<br>暗黄橙灰色<br>褐色パミスを含む | 型押し成型で、鏝部分の下位だろう  | 型合わせ成型                 |                            | 在地   | 不明   |
| 大溝2北部上層<br>120図2<br>図版19 | 大型土人形<br>鏝武者人形  | 長さ12.1<br>幅3.3<br>高さ10.1 | 土師質土器<br>暗黄橙灰色<br>褐色パミスを含む | 型押し成型で、鏝部分以外の部分は何の部位か不明   | 型合わせ成型                 |                            | 在地   | 不明   |



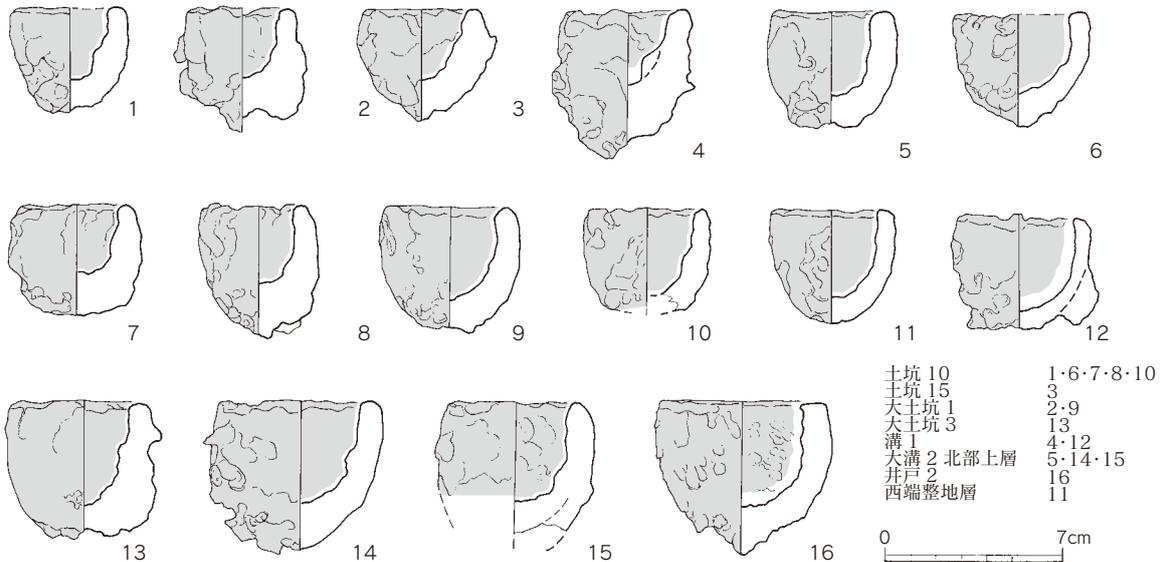
第120図 1次調査出土土・金属製品実測図(1~5は1/4、他は1/3)

表57 1次調査出土土製品観察表2

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号      | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値         | 胎の種類<br>胎の特徴               | 調整・整形・装飾技法                               | 製作技法   | 所見   |      |      |
|--------------------------|-----------------|---------------------------|----------------------------|--|--------|------|------|------|
|                          |                 |                           |                            |  |        | 特記事項 | 推定産地 | 推定年代 |
| 大溝2北部<br>120図3<br>図版19   | 大型土人形<br>鎧武者人形  | 長さ7.5<br>幅1.8<br>高さ16.2   | 土師質土器<br>暗黄橙灰色<br>褐色パミスを含む | 型押し成型で、鎧部分の下位だろう                         | 型合わせ成型 |      | 在地   | 不明   |
| 大溝2北部<br>120図4<br>図版19   | 大型土人形           | 長さ16.1<br>幅13.8<br>高さ22.8 | 土師質土器<br>暗黄橙灰色<br>褐色パミスを含む | 型押し成型で、外面の沈線から袴の裾だろう 5と同一<br>個体だろうか接合しない | 型合わせ成型 |      | 在地   | 不明   |
| 大溝2北部上層<br>120図5<br>図版19 | 大型土人形           | 長さ12.3<br>幅8.3<br>高さ15.5  | 土師質土器<br>暗黄橙灰色<br>褐色パミスを含む | 型押し成型で、外面の沈線から袴だろう 4と同一個<br>体だろうか接合しない   | 型合わせ成型 |      | 在地   | 不明   |

表58 1次調査出土金属製品観察表

| 遺構名<br>挿120図番号<br>120図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm・g)<br>( )は復元値       | 特 徴                        | 遺構名<br>挿120図番号<br>120図版番号 | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm・g)<br>( )は復元値      | 特 徴                              |
|---------------------------|-----------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|-----------------|--------------------------|----------------------------------|
|                           |                 |                           |                            |                           |                 |                          |                                  |
| 大溝2北部中層<br>120図7<br>図版19  | 煙管雁首            | 長さ5.6<br>火皿径2.2<br>首部径1.1 | 真鍮製 金メッキ一部残る 鉢内部に炭<br>化物残る | 土坑15<br>120図15<br>図版19    | 鏝               | 長さ5.2<br>最大幅1.2<br>厚さ0.8 | 鉄製で、頭部は折り曲げて叩いて広くし<br>ている        |
| 土坑15<br>120図8<br>図版19     | 煙管雁首            | 長さ6.0<br>火皿径1.7<br>首部径0.8 | 真鍮製 中央部が折れ曲がっている           | 大溝2北部中層<br>120図16<br>図版19 | 自在鉤             | 長さ4.8<br>高さ7.6<br>厚さ0.2  | 銅製 無文                            |
| 北西部整地層<br>120図9<br>図版19   | 煙管雁首            | 長さ6.2<br>火皿径1.7<br>首部径0.8 | 真鍮製 接合部に補強材を被せて肥厚し<br>ている  | 土坑4<br>120図17<br>図版19     | 金具              | 長さ8.7<br>幅0.8<br>厚さ0.1   | 鉄製 無文 先端は欠損しているか                 |
| 溝1東西軸<br>120図10<br>図版19   | 煙管吸口            | 長さ5.9<br>最大径1.2           | 真鍮製 金メッキなしか 短いもの           | 大溝2北部中層<br>120図18<br>図版19 | 金輪              | 径7.0<br>厚さ0.02           | 銅製 周縁に刻み目があり、組み合わせ<br>の金具だろう     |
| 大溝2北部中層<br>120図11<br>図版19 | 煙管吸口            | 長さ5.9<br>最大径1.2           | 真鍮製                        | 大溝2北部<br>120図19           | 簪               | 長さ11.3<br>幅1.1<br>厚さ0.5  | 銅製 頂部に耳かきがあり、玉は材質が<br>不明だが劣化している |
| 大溝2北部中層<br>120図12<br>図版19 | 煙管吸口            | 長さ6.3<br>最大径1.1           | 真鍮製 金メッキ部分的に残る             | 大溝2北部<br>120図20<br>図版19   | 簪               | 長さ15.3<br>幅0.8<br>厚さ0.3  | 銅製 頂部に耳かきがあり、玉は失われ<br>ている        |
| 大溝2北部中層<br>120図13<br>図版19 | 煙管吸口            | 長さ6.3<br>最大径1.3           | 真鍮製 金メッキ全面                 |                           |                 |                          |                                  |



第121図 1次調査出土のつば実測図(1/3)

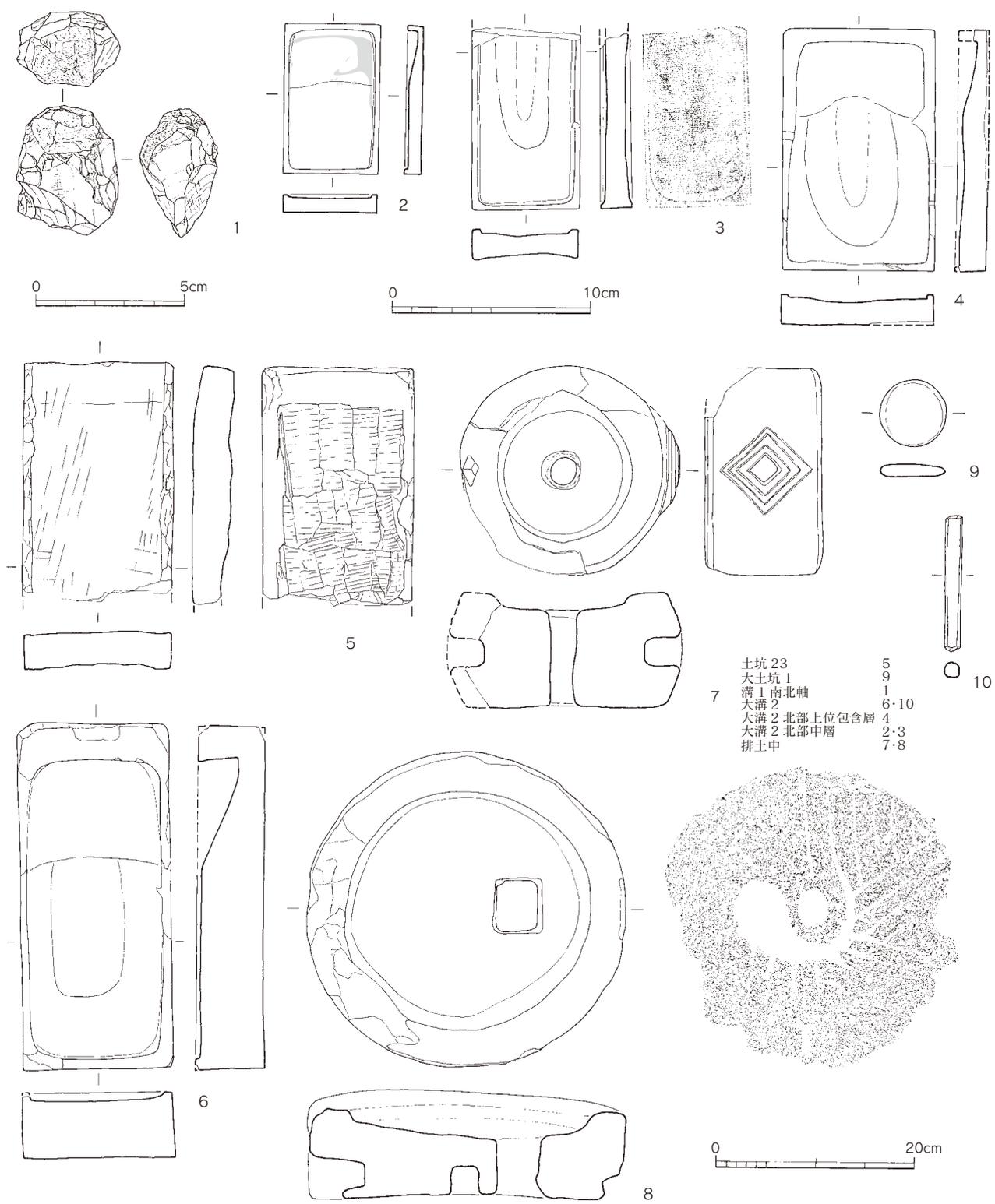
130図1は刀の鞘の半身で、型合わせではなく、刀身を挿し込む部分を繰り込んだものである。表面を繊維質で覆った痕跡や、紐で巻いた緊縛痕はなく木質のみである。刀身を固定する目釘孔はないので、挿し込むだけで固定することになる。上端部と中央部に方形の繰り込みがあるが通常は刀装具の口金物と櫛金物が付く位置だが、付設した痕跡もない。道具刀か白鞘刀であれば、刀装具は必要ないので、未製品なのかもしれない。内面に鉄錆が付着していないことから、刀身を抜いた状態で廃棄したものか、あるいは刀身を抜きとるために半裁した可能性もあるが、外面の加工から未製品とするべきだろう。130図2は矢羽形木製品で、表裏ともに間を空けて黒塗りすることで、鷹羽形にしている。『大川の民俗』調査報告によると、上棟式では家の前に破魔矢と弓を飾り、式終了後は棟梁が持ち帰るとされている(引用文献5)。

表59 1次調査出土土製品観察表3

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号        | 器種<br>形状<br>通称名 | 法量(cm)<br>( )は復元値  | 胎の種類<br>胎の特徴              | 調整・整形・装飾技法                     | 製作技法 | 所見               |      |      |
|----------------------------|-----------------|--------------------|---------------------------|--------------------------------|------|------------------|------|------|
|                            |                 |                    |                           |                                |      | 特記事項             | 推定産地 | 推定年代 |
| 土坑10<br>121図1<br>図版19      | るつぼ             | 口径4.8<br>器高4.5     | 土師質土器<br>完形のため胎土<br>不明    | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 内面に銅の付着物<br>あり   | 在地   | 不明   |
| 大土坑1<br>121図2<br>図版19      | るつぼ             | 口径5.0              | 土師質土器<br>完形のため胎土<br>不明    | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 完形 内面の一部<br>に銅付着 | 在地   | 不明   |
| 土坑15<br>121図3<br>図版19      | るつぼ             | 口径4.6<br>器高4.4     | 土師質土器<br>完形のため胎土<br>不明    | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 完形 内外面全面<br>に銅付着 | 在地   | 不明   |
| 溝1横<br>121図4<br>図版19       | るつぼ             | 口径5.1<br>器高5.2     | 土師質土器<br>完形のため胎土<br>不明    | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 完形 内面の一部<br>に銅付着 | 在地   | 不明   |
| 大溝2北部上層<br>121図5<br>図版19   | るつぼ             | 口径4.6<br>器高4.6     | 土師質土器<br>完形のため胎土<br>不明    | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 完形 内面の一部<br>に銅付着 | 在地   | 不明   |
| 土坑10<br>121図6<br>図版19      | るつぼ             | 口径4.2<br>器高5.4     | 土師質土器<br>にぶい灰色 混<br>入物多い  | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 内面に鉄らしい付<br>着物あり | 在地   | 不明   |
| 土坑10<br>121図7<br>図版19      | るつぼ             | 口径4.6<br>器高4.4     | 土師質土器<br>にぶい灰色 混<br>入物多い  | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 内面一部に銅付着         | 在地   | 不明   |
| 土坑10<br>121図8<br>図版19      | るつぼ             | 口径4.2<br>器高5.4     | 土師質土器<br>完形のため胎土<br>不明    | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 完形 外面一部に<br>銅付着  | 在地   | 不明   |
| 大土坑1<br>121図9<br>図版19      | るつぼ             | 口径5.1<br>器高5.0     | 土師質土器<br>完形のため胎土<br>不明    | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 完形 内面の一部<br>に銅付着 | 在地   | 不明   |
| 土坑10<br>121図10<br>図版19     | るつぼ             | 口径4.6              | 土師質土器<br>にぶい灰色 混<br>入物多い  | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 内面に白い付着物<br>あり   | 在地   | 不明   |
| 土坑10<br>121図11<br>図版19     | るつぼ             | 口径5.1<br>器高4.5     | 土師質土器<br>にぶい灰色 混<br>入物少ない | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 内面一部に銅付着         | 在地   | 不明   |
| 溝1横<br>121図12<br>図版19      | るつぼ             | 口径5.3<br>器高4.5     | 土師質土器<br>完形のため胎土<br>不明    | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 完形 内面の一部<br>に銅付着 | 在地   | 不明   |
| 大土坑3<br>121図13<br>図版19     | るつぼ             | 口径5.0              | 土師質土器<br>完形のため胎土<br>不明    | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 完形 内面に白色<br>の付着物 | 在地   | 不明   |
| 大溝2北部上層<br>121図14<br>図版19  | るつぼ             | 口径6.4<br>器高6.0     | 土師質土器<br>完形のため胎土<br>不明    | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 完形 内面の一部<br>に銅付着 | 在地   | 不明   |
| 大溝2北部上層<br>1 21図15<br>図版19 | るつぼ             | 口径5.0              | 土師質土器<br>完形のため胎土<br>不明    | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか<br>底部欠損 | 手捏ね  | 完形 内面の一部<br>に銅付着 | 在地   | 不明   |
| 井戸2<br>121図16<br>図版19      | るつぼ             | 口径(6.4)<br>器高(6.0) | 土師質土器<br>完形のため胎土<br>不明    | 全面ガラス化のため器面観察できないが手捏ねか         | 手捏ね  | 完形               | 在地   | 不明   |



第122図 1次調査出土砥石実測図(1/3)



土坑 23  
 大土坑 1  
 溝 1 南北軸  
 大溝 2  
 大溝 2 北部上位包含層  
 大溝 2 北部中層  
 排土中

5  
9  
1

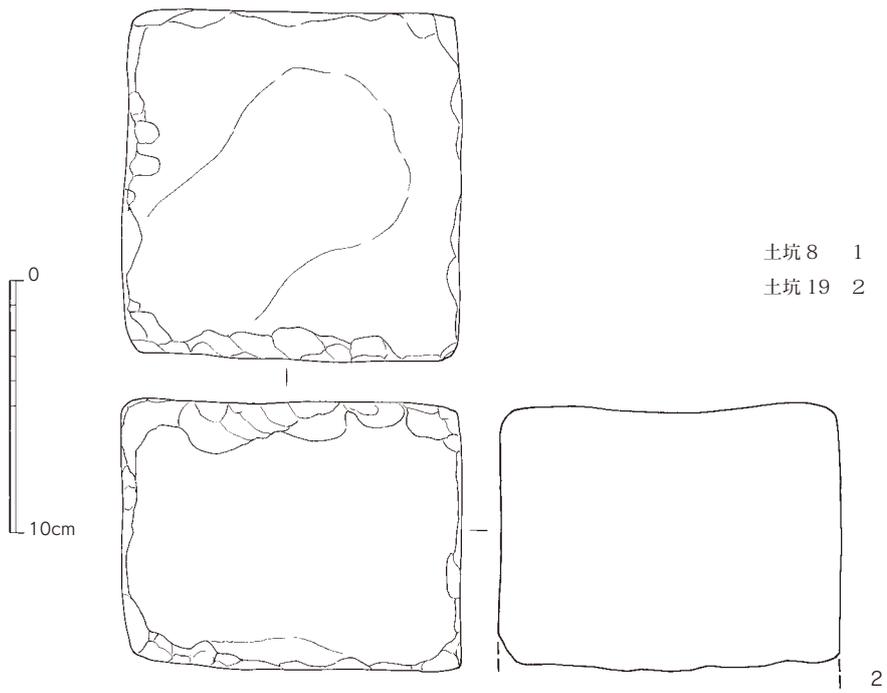
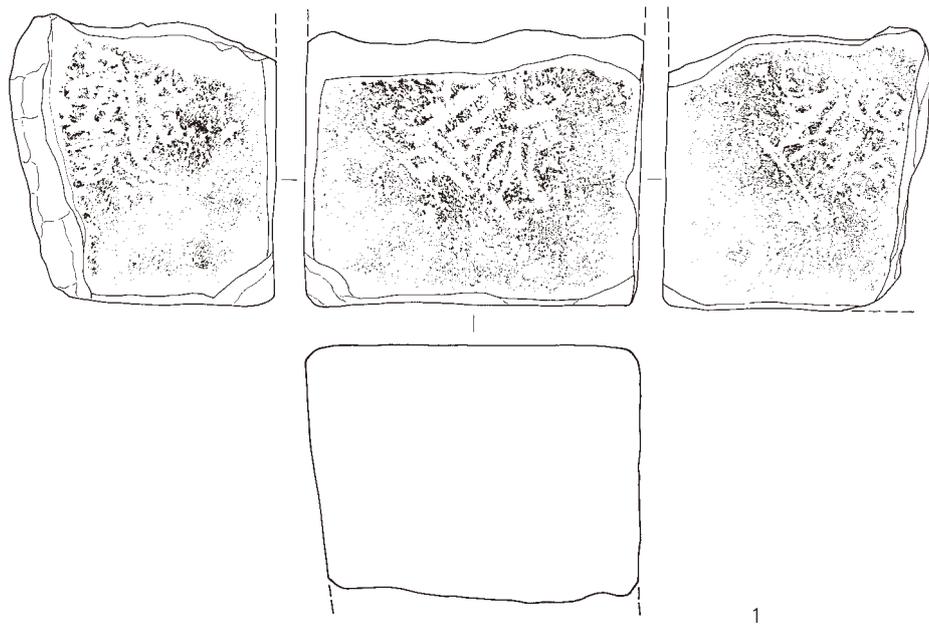
6・10

4  
2・3  
7・8

第123図 1次調査出土石製品実測図(1・9・10は1/2、7・8は1/6、他は1/3)

表60 1次調査出土石製品観察表

| 遺構名                     | 器種                  | 法量(cm・g)                     | 特 徴   | 遺構名                        | 器種                  | 法量(cm・g)                        | 特 徴   |
|-------------------------|---------------------|------------------------------|---|----------------------------|---------------------|---------------------------------|---|
| 挿図番号                    | 形状                  | ( )は復元値                      |   | 挿図番号                       | 形状                  | ( )は復元値                         |   |
| 図版番号                    | 通称名                 |                              |   | 図版番号                       | 通称名                 |                                 |   |
| 北西部整地層<br>122図1<br>図版20 | 砥石<br>中砥<br>手持ち砥石   | 長さ5.0<br>幅4.8<br>厚さ4.2重さ134  | 砂石製<br>使用面は上面のみで他は整形面と思わ<br>れるが、器面摩滅が著しく詳細不明  | 土坑12<br>122図16<br>図版20     | 砥石<br>仕上げ砥<br>置き砥石  | 長さ9.3<br>幅4.3<br>厚さ7.8重さ437     | 天草石製 方柱形の置き砥石を粗割り<br>して再利用している  |
| 北西部整地層<br>122図2<br>図版20 | 砥石<br>仕上げ砥<br>手持ち砥石 | 長さ7.9<br>幅5.6<br>厚さ1.8重さ140  | 天草石製 表面にやや窪みと使用痕跡<br>あり 裏面は使用しており、両側面は<br>整形面 上下端面は欠損後整形  | 大土坑1<br>122図17<br>図版20     | 砥石<br>仕上げ砥<br>置き砥石  | 長さ9.0<br>幅7.8<br>厚さ3.0重さ229     | 天草石製<br>裏面は欠損後整形面で新たに底面を作り、<br>左側面は一部に整形面が残る                            |
| 土坑4<br>122図3<br>図版20    | 砥石<br>仕上げ砥<br>置き砥石  | 長さ7.5<br>幅5.9<br>厚さ0.6重さ53   | 頁石製 表裏が使用面で、裏面に剥離<br>痕があるように、薄く剥がれた破片を<br>利用している 側面と上端面は整形面   | 西端整地層<br>122図18<br>図版20    | 砥石<br>仕上げ砥<br>手持ち砥石 | 長さ14.2<br>幅6.4<br>厚さ3.9重さ427    | 天草石製 上下端面が使用面に対して<br>斜めに整形面があり、両側・裏面は欠<br>損後整形面                         |
| 井戸2<br>122図4<br>図版20    | 砥石<br>仕上げ砥<br>手持ち砥石 | 長さ7.3<br>幅5.0<br>厚さ5.2重さ133  | 天草石製 欠損部を整形しているのみ<br>で、平坦面はいずれも使用している<br>面に凸面はない  | 溝1南北軸<br>123図1<br>図版20     | 火打石                 | 高さ4.3<br>幅3.5<br>厚さ23重さ37       | チャート製 素面に上部に残し、表裏<br>を剥離し下端を刃部のように尖らせて<br>使用部を形成している                    |
| ビット7<br>122図5<br>図版20   | 砥石<br>仕上げ砥<br>置き砥石  | 長さ8.1<br>幅4.3<br>厚さ2.6重さ124  | 天草石製 使用面はやや窪む 裏面と<br>下端面は欠損後の整形面 右側面の土<br>端は集中的に使用されている   | 大溝2北部位包含層<br>123図2<br>図版20 | 硯                   | 長さ7.6<br>幅4.7<br>厚さ0.8重さ67      | 水銀朱が残るので、朱用<br>粘板岩製 黒 完形  |
| 土坑12<br>122図6<br>図版20   | 砥石<br>仕上げ砥<br>手持ち砥石 | 長さ4.5<br>幅3.2<br>厚さ2.5重さ41   | 天草石製<br>上端面のみ整形面、他は使用面だろ<br>う 左側面の凸面は曲面用か   | 大溝2北部中層<br>123図3<br>図版20   | 硯                   | 長さ9.1<br>幅5.6<br>厚さ1.6重さ159     | 裏面に線刻で「赤間関」とあるので赤間<br>石<br>輝緑凝灰岩製                                       |
| 北西部整地層<br>122図7<br>図版20 | 砥石<br>仕上げ砥<br>置き砥石  | 長さ5.6<br>幅4.7<br>厚さ1.7重さ51   | 天草石製<br>両側面は整形面、裏面・上端面は欠損<br>後の整形面  | 大溝2北部位包含層<br>123図4<br>図版20 | 硯                   | 長さ12.3<br>幅7.8<br>厚さ1.6重さ267    | 裏面は剥離しているが、線刻文字はな<br>い<br>粘板岩製 黒  |
| 土坑24<br>122図8<br>図版20   | 砥石<br>仕上げ砥<br>手持ち砥石 | 長さ6.0<br>幅2.0<br>厚さ1.5重さ32   | 天草石製<br>上端の欠損面以外すべて使用面  | 土23<br>123図5<br>図版20       | 硯                   | 長さ12.1<br>幅7.5<br>厚さ1.8重さ315    | 天草石製だが茶色の筋が入っていない<br>上下端と側面の高い部分を打ち欠いて<br>平坦にし、裏を彫って再利用しようと<br>して廃棄している |
| 廃棄土坑1<br>122図9<br>図版20  | 砥石<br>仕上げ砥<br>置き砥石  | 長さ9.1<br>幅4.0<br>厚さ2.4重さ163  | 天草石製<br>左側面は整形面だが、右側面は段がづ<br>くので使用面 上端面は整形面   | 大溝2<br>123図6<br>図版20       | 硯                   | 長さ14.2<br>幅7.6<br>厚さ3.5重さ773    | 天草石製製だが茶色の筋が入ってい<br>ない<br>ほぼ完形 墨が著しく付着                                  |
| 土坑37<br>122図10<br>図版20  | 砥石<br>仕上げ砥<br>置き砥石  | 長さ10.1<br>幅4.8<br>厚さ3.8重さ298 | 天草石製<br>上面は欠損後整形面 下端面は剥落し<br>ているが、整形面   | 排出土中<br>123図7              | 茶白上白                | 径21.4<br>高さ12.0<br>重さ8.6kg      | 凝灰岩製<br>摺目は摩滅<br>多孔質  |
| 土坑3<br>122図11<br>図版20   | 砥石<br>仕上げ砥<br>手持ち砥石 | 長さ7.8<br>幅3.6<br>厚さ3.3重さ162  | 上端面と裏面は欠損後整形面   | 排出土中<br>123図8              | 上白                  | 径32.2<br>高さ11.2<br>重さ13.9kg     | 凝灰岩製<br>多孔質   |
| 大土坑1<br>122図12<br>図版10  | 砥石<br>仕上げ砥<br>手持ち砥石 | 長さ8.6<br>幅6.8<br>厚さ3.2重さ236  | 天草石製 使用面は本来直方体の砥石<br>の端面であったが、欠損後上面に転用<br>したものであり、整形面の中央部だけ<br>を使用している 裏面・下端面は欠損<br>後整形面、上端面は本来の整形面 | 大土坑1<br>123図9<br>図版20      | 碁石                  | 径2.2<br>厚さ0.4<br>重さ3            | 粘板岩製 黒<br>よく研磨されている   |
| 大溝2<br>122図13<br>図版20   | 砥石<br>仕上げ砥<br>手持ち砥石 | 長さ7.4<br>幅5.5<br>厚さ4.5重さ223  | 天草石製 置き砥石の欠損品を粗割り<br>して再利用したもので、断面逆台形に<br>して持ちやすくしている   | 大溝2<br>123図10              | 石筆                  | 長さ4.6<br>径0.6<br>重さ4            | 滑石製<br>側面は6面に平坦面を持ち、上下端面<br>は両方使用している                                   |
| 廃棄土坑2<br>122図14<br>図版20 | 砥石<br>仕上げ砥<br>手持ち砥石 | 長さ8.0<br>幅5.9<br>厚さ5.8重さ333  | 天草石製 下端面は欠損後整形面で、<br>裏面は整形面が欠損したもので、部分<br>的に使用している  | 土坑8<br>124図1<br>図版20       | 石塔部材                | 長さ10.8<br>幅13.2<br>厚さ10.1重さ2850 | 凝灰岩製<br>多孔質<br>梵字が線刻される   |
| 廃棄土坑2<br>122図15<br>図版20 | 砥石<br>仕上げ砥<br>置き砥石  | 長さ10.6<br>幅9.3<br>厚さ3.5重さ558 | 天草石製<br>裏面は平坦な整形面で中央に敲打痕が<br>残る 左側面も整形面で、その他は使<br>用面  | 土坑19<br>124図2<br>図版20      | 石塔部材か               | 長さ10.6<br>幅13.5<br>厚さ13.4重さ4150 | 凝灰岩製<br>線刻や加工加工痕はない   |



第124図 1次調査出土石塔部材実測図(1/3)

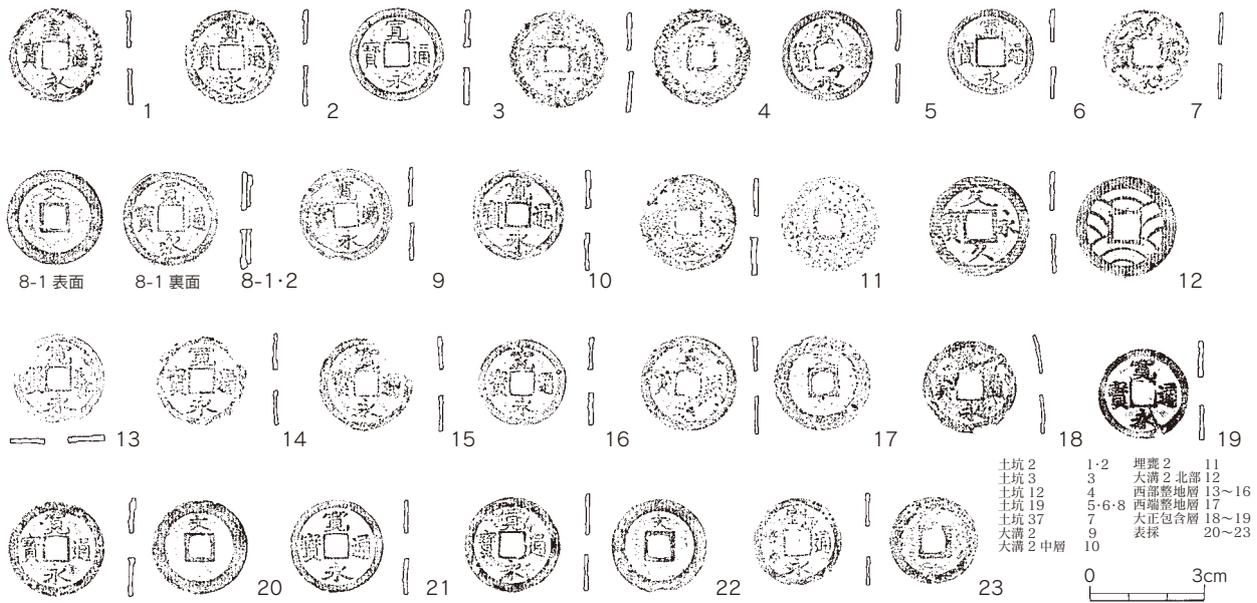


131図1は大きさから子供用のものだろう。前歯は大きさからこの下駄の歯と想定したが厚さが合っておらず確証にかける。131図2の「善」の焼印は製作者の名前ではないかと思われるので、この記号は屋号かもしれない。131図5の前歯は欠損したものであって、摩滅したものではない。131図7は前歯に裏から釘が打ち込まれているが、欠けた面から打ち込んでいるので補修痕ではない。『久留米市史』によると、「家出人が出たら、その人の履物に釘を打つ」という記述があるので、下駄を焼くこと自体が禁忌行為だった可能性がある。これは×の上に横線があるので、単に×のモチーフではないようだ。132図6のぼっくりの台の裏には3つの山形の抉りが入っているが、加工痕跡ではなく、意図的な形態である。132図10は歯の厚さがわずか1cmしかない。129図15の下部に焼印があるが、残りが悪く判読できないものの、おそらく131図2の丸に「善」と同じ焼印であろう。そういった俗信の類かもしれない(引用文献6)。131図11の中央の孔は穿孔したのではなく、節穴である。131図16は横緒穴がないので未製品だろうか。釘穴らしいものが横穴の位置にあるので、ぼっくりと草履下駄の折衷のような製品の可能性もある。

図版24-1～5は紐で、材質は分析にかけていないが、棕櫚製のものがほとんどだろう。1は縶紐で結び目は馬車馬のこぶと呼ばれるものである。2は幅5から7ミリの樹皮のようなものを縶ったもので、弾力性がない。3本はあるが本来1本のものだろう。3の結び目は止め結びであろう。4は2本の撚り紐2本で、漁師結びで結び目を2つ作っている。5は2本で縶った紐3本の組紐で、2本の紐を漁師結びで、結び目を2つ作っている。

表61 1次調査出土ガラス・鹿角・貝製品観察表

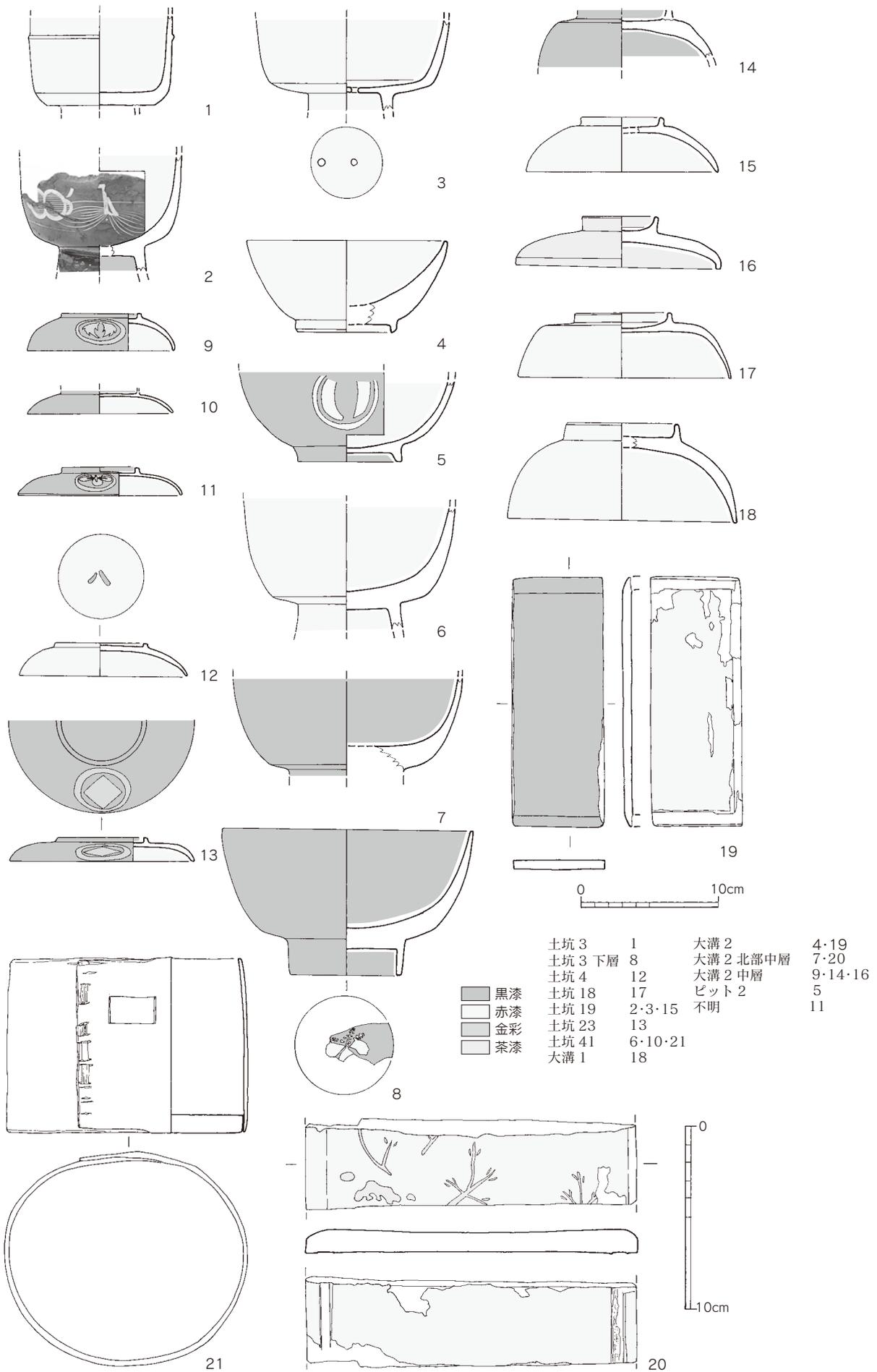
| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号        | 器種<br>材質<br>通称名     | 法量(cm)<br>( )は復元値           | 特 徴  | 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号        | 器種<br>形状<br>通称名    | 法量(cm)<br>( )は復元値         | 特 徴   |
|----------------------------|---------------------|-----------------------------|--|----------------------------|--------------------|---------------------------|---|
| 大溝2北部上層<br>125図1<br>図版21   | 瓶<br>緑ガラス<br>目薬瓶    | 底長軸2.8<br>底短軸2.1            | 型合わせ 「肥前田代今町西依愛生堂製」と「目業」「生眼水」の陽刻あり 両側面の5本の凸線は目盛りの意味があるのだろうか    | 大溝2北部上層<br>125図8-2<br>図版21 | 瓶蓋<br>緑ガラス<br>牛乳瓶蓋 | 口径3.2<br>ネジ部径1.8<br>器高3.1 | ネジ式 型合わせ 接合痕わずか 上面の環状珠文は接合後のスタンプで「え」とも読める     |
| 大溝2北部上層<br>125図2<br>図版21   | 瓶<br>青ガラス<br>目薬瓶    | 底面長軸2.9<br>底面短軸2.0<br>器高6.6 | 型合わせ 「久留米市局四」「伴公明堂」、「目業」「大正水」、目盛りの陽刻あり 口縁部が玉縁状で、バリが残る          | 大溝2北部上層<br>125図9<br>図版21   | 瓶<br>緑ガラス<br>牛乳瓶蓋  | 口径3.2<br>ネジ部径1.8<br>器高3.0 | ネジ式 型合わせ 接合痕わずか 上面の円形窪みは接合後のスタンプで、「永」と書かれている  |
| 大溝2北部上層<br>125図3<br>図版21   | 瓶<br>青ガラス<br>目薬瓶    | 底面長軸2.9<br>底面短軸2.0<br>器高6.6 | 型合わせ 「久留米市局四」「伴公明堂」、「目業」「大正水」、目盛りの陽刻あり                         | 大溝2北部上層<br>125図10<br>図版21  | 瓶<br>緑ガラス<br>ニッキ瓶  | 口径0.8<br>底径2.1<br>器高13.6  | 口縁部は打ち欠き外し 完形 型合わせ 口縁部が曲がっているのは口縁部の処理の失敗 気泡あり |
| 大溝2北部上層<br>125図4<br>図版21   | 瓶<br>青ガラス<br>目薬瓶    | 底面長軸2.9<br>底面短軸2.0<br>器高6.6 | 型合わせ 「古賀薬局」「奇妙水」「めぐすり」の陽刻あり コルク栓が残っていた                         | 大溝2北部上層<br>125図11<br>図版21  | 瓶<br>緑ガラス          | 口径2.5<br>底径5.4<br>器高8.5   | 型合わせの接合痕なく、全体がややいびつなので、吹きガラスか 完形 無文           |
| 大溝2北部上層<br>125図5<br>図版21   | 瓶<br>青ガラス<br>目薬瓶    | 底面長軸2.9<br>底面短軸2.0<br>器高6.6 | 型合わせ 「古賀薬局」「奇妙水」「めぐすり」の陽刻あり 頸部が曲がっている                          | 大溝2北部上層<br>125図12<br>図版21  | 瓶 ワインか<br>黒緑ガラス    | 口径2.2<br>底径7.4<br>器高29.8  | 底部を上げ底にしている 型合わせの接合痕わずかにあり                    |
| 大溝2北部上層<br>125図6<br>図版21   | 瓶<br>青ガラス<br>目薬瓶    | 底面長軸2.9<br>底面短軸2.0<br>器高6.6 | 型合わせ 「古賀薬局」「奇妙水」「めぐすり」の陽刻あり                                    | 大溝2<br>125図13              | おはじき<br>青ガラス       | 長軸2.1<br>短軸2.0<br>器高0.4   | 完形 扁平な楕円形で、片面にじゃんけんの「グー」の陽刻がある                |
| 大溝2北部上層<br>125図7<br>図版21   | 瓶<br>透明ガラス<br>ポマード瓶 | 口径5.1<br>底径5.7<br>器高4.7     | 円柱状 側面は点描格子で、窓が対面にあり、裏銘に「意匠登録No30148・」と上下逆に「IUZUTSUBAKI」の陽刻がある | 大溝2<br>125図14<br>図版19      | 箸                  | 長さ15.7<br>径0.6            | 鹿角製 完形 細い方が先端で、先端以外は光沢がある                     |
| 大溝2北部上層<br>125図8-1<br>図版21 | 瓶<br>緑ガラス<br>牛乳瓶    | 口径2.7<br>底径4.5<br>器高12.6    | 口縁部はネジ式 型合わせ 接合痕わずか 内面に牛乳のカルシウム分が残る                            | 大溝2北部下層<br>125図15<br>図版19  | 貝杓子                | 長さ9.0<br>幅9.9<br>高さ3.0    | 板屋貝製 内面の変色は使用によるものだろう                         |



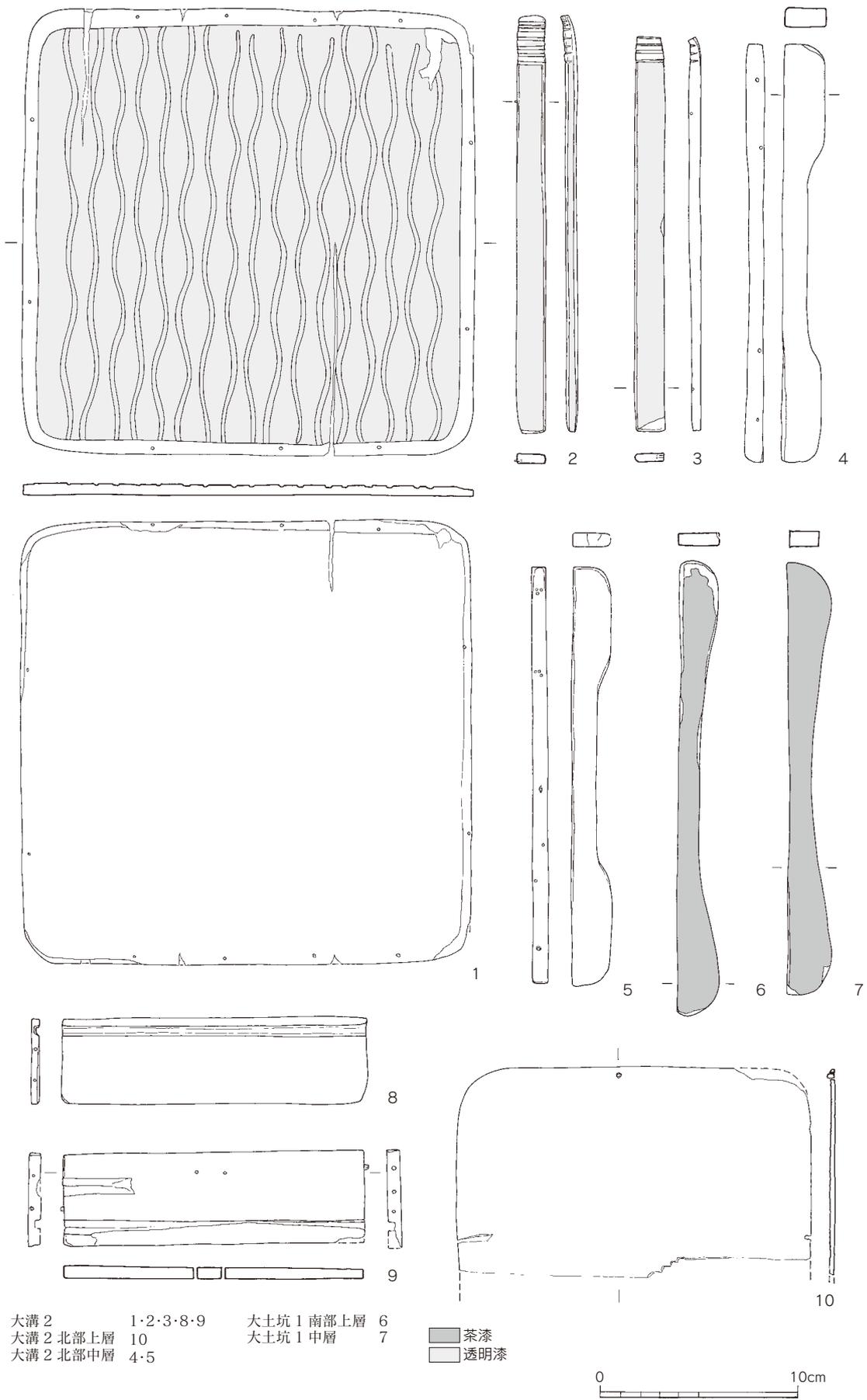
第126図 1次調査出土銭実測図(1/2)

表62 1次調査出土銭観察表

| 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号      | 銭名<br>分類名   | 法量(cm)<br>径<br>孔径 | 特徴                                | 遺構名<br>挿図番号<br>図版番号     | 銭名<br>分類名   | 法量(cm)<br>径<br>孔径 | 特徴  |
|--------------------------|-------------|-------------------|-----------------------------------|-------------------------|-------------|-------------------|---|
| 土坑2<br>126図1<br>図版19     | 寛永通宝<br>新寛永 | 2.5<br>0.6        | 銅質が良いが緑青多く付着 「宝」の字体から不旧手(1726年初鑄) | 大溝2北部<br>126図12<br>図版19 | 文久永宝        | 2.7<br>0.6        | 銅質が良く、残りも良い (1863年初鑄)                         |
| 土坑2<br>126図2<br>図版19     | 寛永通宝<br>新寛永 | 2.5<br>0.6        | 錆びが少なく、裏がやや摩滅                     | 西部整地層<br>126図13<br>図版19 | 寛永通宝<br>古寛永 | 2.4<br>0.6        | 周縁欠損 銅質が良く、残りも良い 「宝」の字体から芝網縄手銭(1716年初鑄)       |
| 土坑3<br>126図3<br>図版19     | 寛永通宝<br>新寛永 | 2.5<br>0.6        | 銅質が良く、残りも良い 「宝」の字体から石巻銭(1739年初鑄)  | 西端整地層<br>126図14<br>図版19 | 寛永通宝<br>古寛永 | 2.4<br>0.6        | 銅質が良く、残りも良いが、縁が欠損 「宝」の字体から芝網縄手銭(1716年初鑄)      |
| 土坑12<br>126図4<br>図版19    | 寛永通宝<br>文銭  | 2.5<br>0.6        | 緑青多く付着 (1668年初鑄)                  | 西部整地層<br>126図15<br>図版19 | 寛永通宝<br>古寛永 | 2.4<br>0.6        | 銅質悪く、摩滅している 欠損あり 二日市村銭(1637年初鑄)               |
| 土坑19<br>126図5<br>図版19    | 寛永通宝<br>古寛永 | 2.5<br>0.5        | 「宝」の字体が独特で分類不明                    | 西部整地層<br>126図16<br>図版19 | 寛永通宝<br>古寛永 | 2.3<br>0.6        | 裏面は摩滅して、外縁と文字の高さが同じになっている 吉田銭(1716年初鑄)        |
| 土坑19<br>126図6<br>図版19    | 寛永通宝<br>新寛永 | 2.4<br>0.7        | 錆びが少なく、残り良い 十万坪銭座(1768年初鑄)        | 西端整地層<br>126図17<br>図版19 | 寛永通宝<br>文銭  | 2.4<br>0.6        | 銅質が良く、残りも良い (1668年初鑄)                         |
| 土坑37<br>126図7<br>図版19    | 寛永通宝<br>古寛永 | 2.2<br>0.6        | 外縁が磨り減っている 文字の遺存状況が悪いので分類不明       | 大正包含層<br>126図18<br>図版19 | 寛永通宝<br>新寛永 | 2.4<br>0.6        | 表裏摩滅して、外縁と文字の高さが同じになっている 「宝」の字体から不旧手(1726年初鑄) |
| 土坑19<br>126図8-1<br>図版19  | 寛永通宝<br>文銭  | 2.5<br>0.6        | 表面で8-2と融着 (1668年初鑄)               | 大正包含層<br>126図19<br>図版19 | 寛永通宝<br>新寛永 | 2.3<br>0.6        | 歪みあり 「宝」の字体から不旧手(1726年初鑄)                     |
| 土坑19<br>126図8-2<br>図版19  | 寛永通宝<br>不明  | 2.3<br>0.6        | 表面で8-1と融着 裏に文字なし                  | 表採<br>126図20<br>図版19    | 寛永通宝<br>文銭  | 2.5<br>0.6        | 残り良い 裏面のみ茶色に変色 (1668年初鑄)                      |
| 大溝2<br>126図9<br>図版19     | 寛永通宝<br>新寛永 | 2.5<br>0.7        | 銅質が良く、残りも良い 裏に文はない                | 表採<br>126図21<br>図版19    | 寛永通宝<br>古寛永 | 2.4<br>0.7        | 銅質よく、残りよい 高田所鑄銭(1717年初鑄)                      |
| 大溝2 中層<br>126図10<br>図版19 | 寛永通宝<br>古寛永 | 2.2<br>0.6        | 錆びは少なく、やや摩滅している 二日市村銭(1637年初鑄)    | 表採<br>126図22<br>図版19    | 寛永通宝<br>文銭  | 2.4<br>0.7        | 銅質が悪く、裏面は摩滅している 1668初鑄                        |
| 埋藏2<br>126図11<br>図版19    | 寛永通宝<br>文銭  | 2.5<br>0.6        | 錆び著しい (1668年初鑄)                   | 表採<br>126図23<br>図版19    | 寛永通宝<br>文銭  | 2.5<br>0.6        | 銅質がやや悪いが、残りは良い 1668初鑄                         |



第127図 1次調査出土木製品実測図1 (19は1/4、他は1/3)

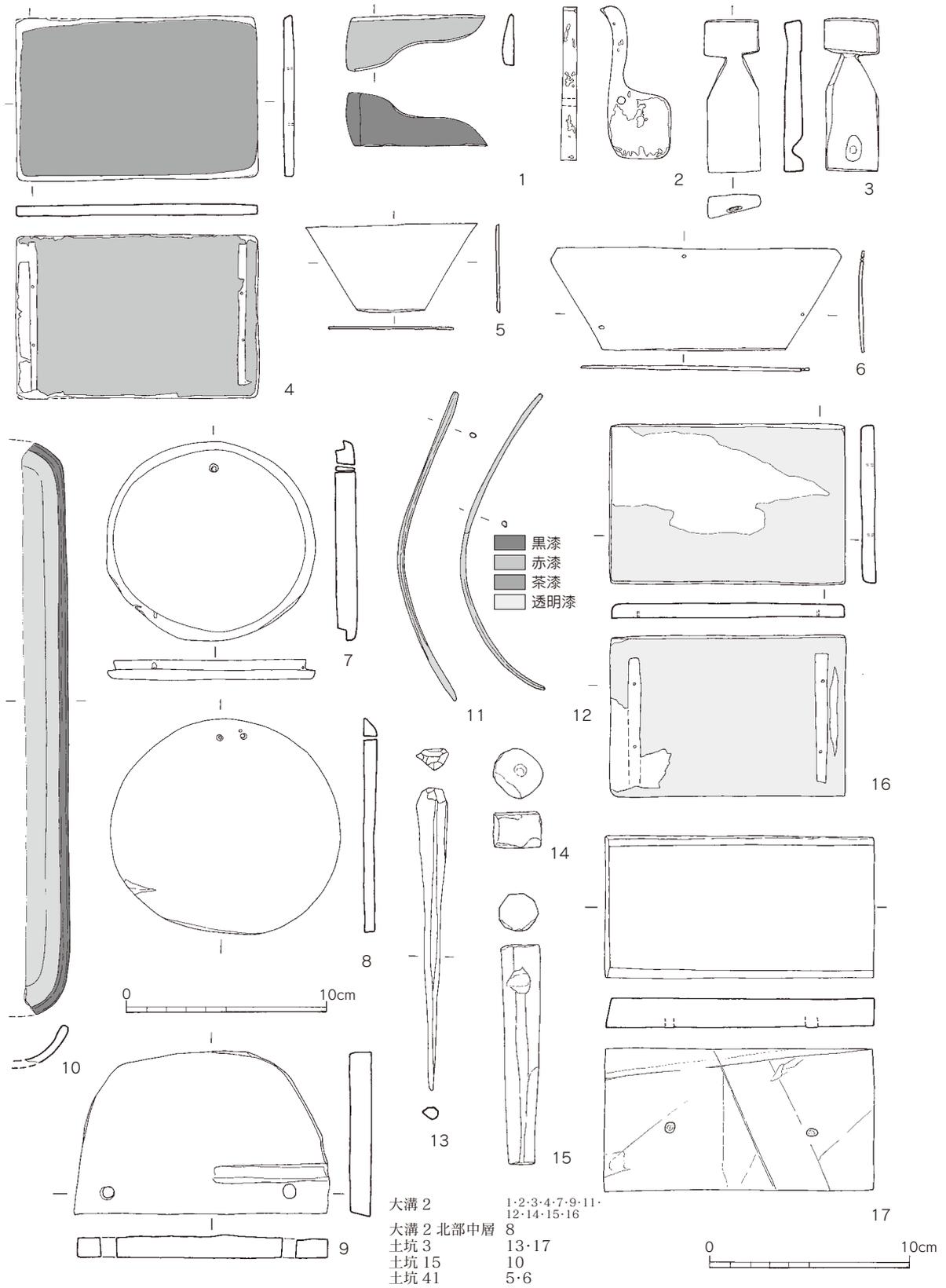


大溝 2      1・2・3・8・9      大土坑 1 南部上層 6  
 大溝 2 北部上層 10      大土坑 1 中層 7  
 大溝 2 北部中層 4・5

■ 茶漆  
 □ 透明漆

0 10cm

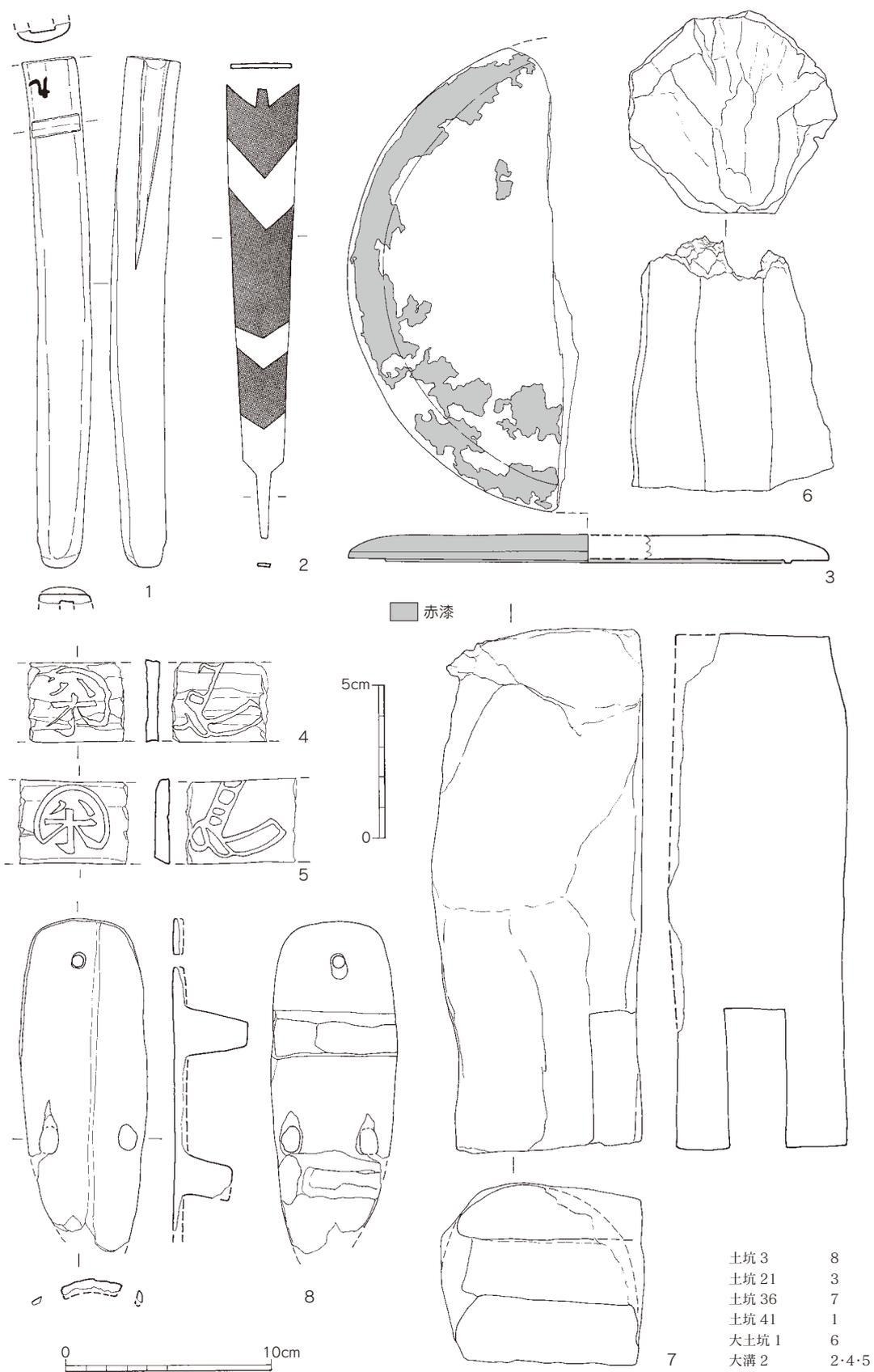
第128図 1次調査出土木製品実測図2 (1/3)



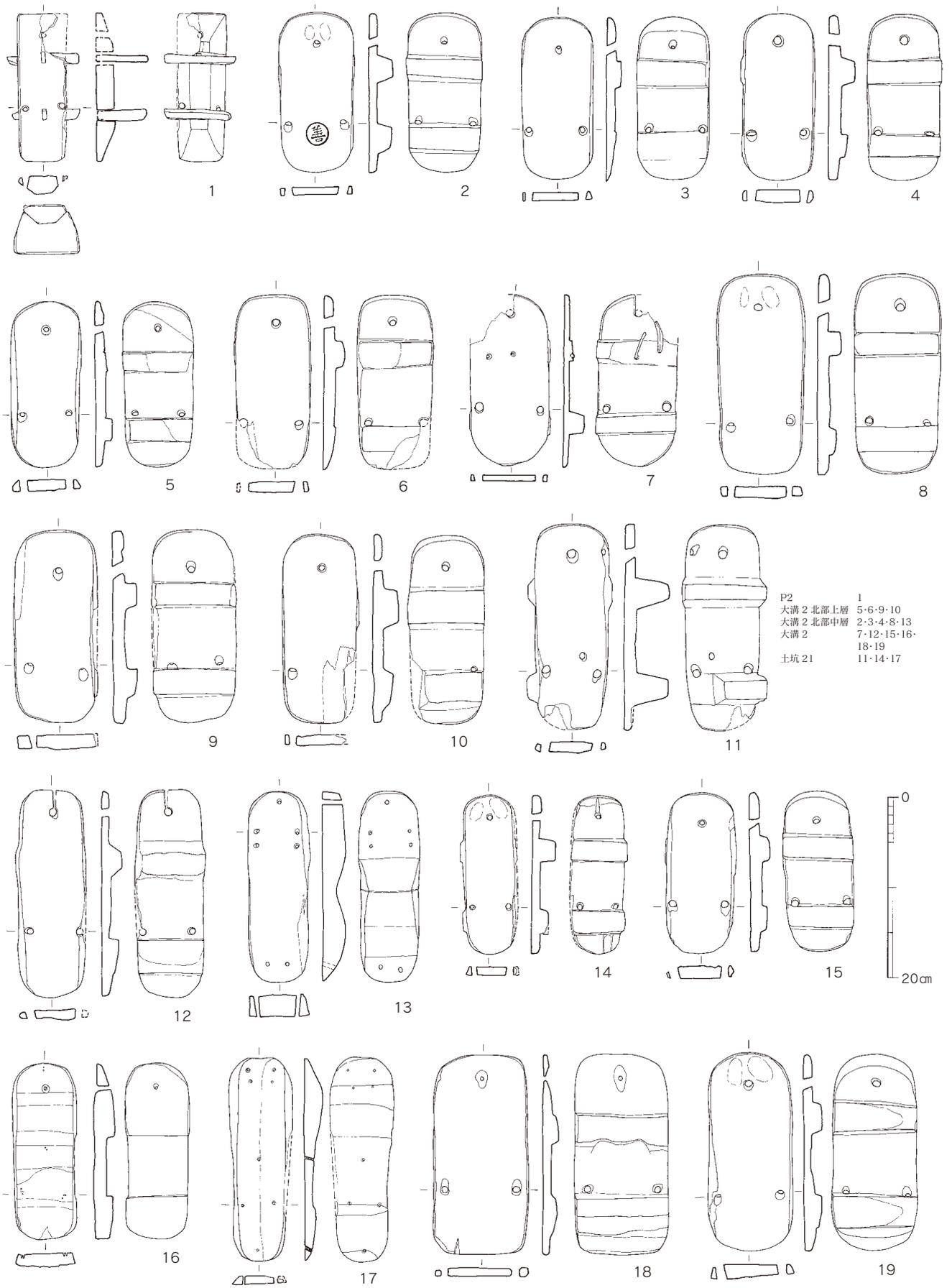
第129図 1次調査出土木製品実測図3(4・17は1/4、他は1/3)

表63 1次調査出土木製品観察表1

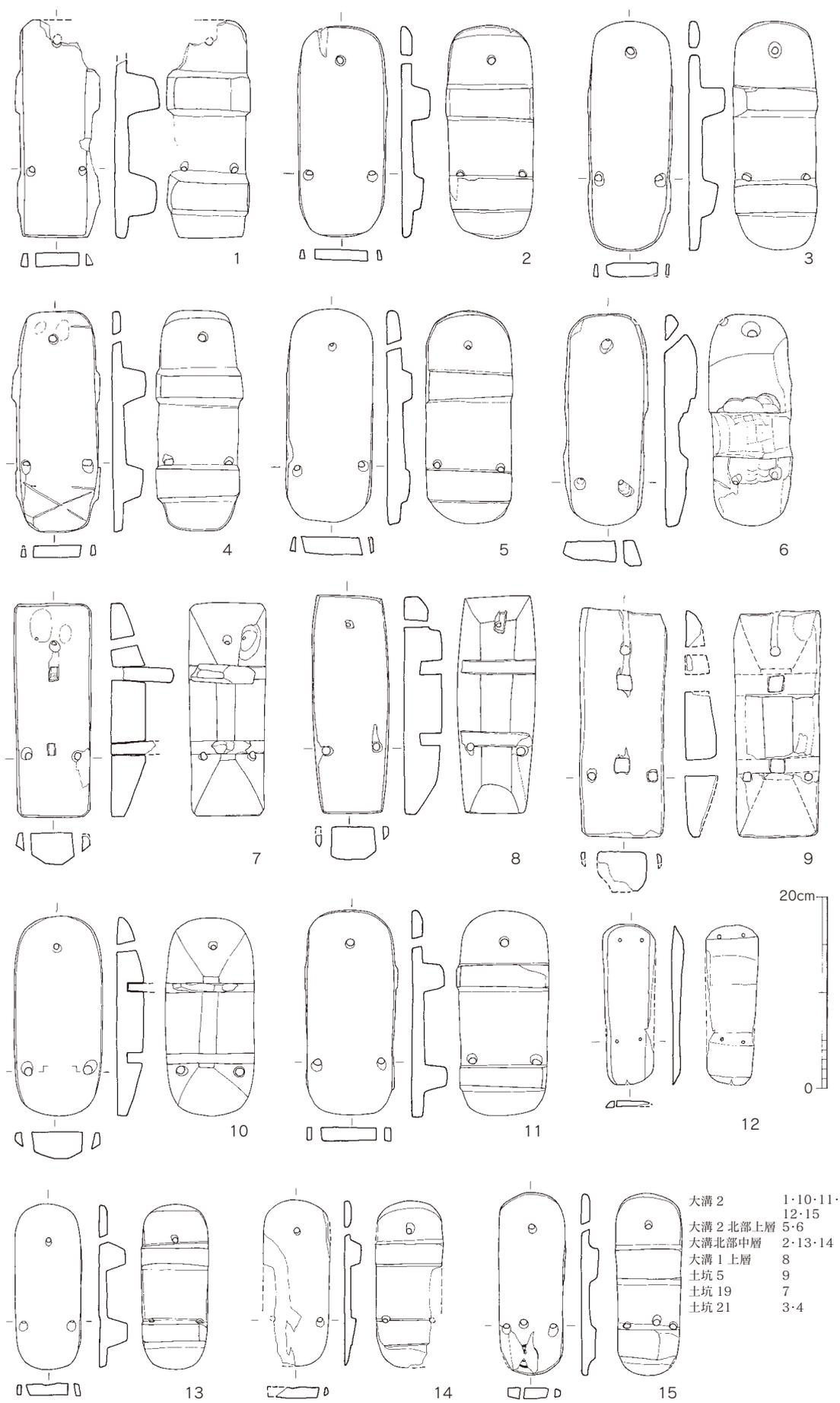
| 遺構名                        | 器種           | 法量(cm)                         | 特徴   | 遺構名                        | 器種           | 法量(cm)                    | 特徴  |
|----------------------------|--------------|--------------------------------|--|----------------------------|--------------|---------------------------|---|
| 挿図番号                       | 形状           | ( )は復元値                        |  | 挿図番号                       | 形状           | ( )は復元値                   |   |
| 図版番号                       | 通称名          |                                |  | 図版番号                       | 通称名          |                           |   |
| 土坑3<br>127図1<br>図版21       | 小型椀<br>壺形    | 最大径(7.8)                       | 内外面黒漆を下塗りした上に赤漆 高台外面の赤漆は剥落しており、裏銘が合ったのかは不明 押し潰されて歪んでいる           | 大溝2 北部中層<br>128図5          | 膳脚<br>足打折敷の脚 | 長さ20.3<br>幅2.0<br>厚さ0.7   | 2脚 上端面に目釘孔あり  |
| 土坑15<br>127図2<br>図版21      | 蓋<br>腰丸形     | 最大径(8.8)                       | 内外面黒漆 口縁部が欠損している 外面に金彩の文様あり モチーフ不明 1/4残存                         | 大土坑1 南部上層<br>128図6<br>図版21 | 膳脚<br>足打折敷の脚 | 長さ2.0<br>幅23.3<br>厚さ0.7   | 茶漆塗りで2脚 上端面に目釘孔がなく、膠のような接着材のようなものが付着していた                            |
| 土坑19<br>127図3<br>図版21      | 椀<br>一文字腰形   | 最大径(10.7)<br>高台径(4.6)          | 内外面黒漆を下塗りした上に赤漆だが、内面は赤茶色に変色している 歪もあり漆の残りも悪い 底面に2つの穿孔があり、何かと緊縛したか | 大土坑1 中層<br>128図7<br>図版21   | 膳脚<br>足打折敷の脚 | 長さ1.8<br>幅24.6<br>厚さ0.7   | 茶漆塗りで2脚 上端面に目釘孔がなく、膠のような接着材のようなものが付着していた                            |
| 大溝2<br>127図4               | 椀<br>一文字腰形   | 口径(11.0)<br>高台径(5.6)<br>器高5.0  | 内外面黒漆を下塗りした上に赤漆 外底部の赤漆は剥落している                                    | 土坑21<br>128図8<br>図版21      | 膳脚<br>足打折敷の脚 | 長さ2.0<br>幅23.3<br>厚さ0.7   | 側面の片側に木釘孔があるので、方形脚か上端は欠損している、もう少し長いものか つくりは粗雑                       |
| ピット2<br>127図5<br>図版21      | 椀<br>腰丸形     | 最大径(11.4)                      | 内外面黒漆で、外面に赤漆で丸に向かい合う双葉文を描く                                       | 大溝2<br>128図8<br>図版21       | 箱側板          | 長さ5.0<br>幅15.4<br>厚さ0.5   | 側端面に木釘孔が2つづつあり、内面下端に溝を彫っている、その溝に底板を押し込んだもの 上端面には目釘孔がなく、上には統かない      |
| 大溝2 中層<br>127図6            | 椀<br>一文字腰形   | 最大径(11.5)                      | 内外面黒漆を下塗りした上に赤漆 高台は失われている 5割残存                                   | 大溝2<br>128図9<br>図版21       | 箱側板          | 長さ4.9<br>幅15.1<br>厚さ0.6   | 木釘孔が1側端面に2つ、対面に3つあり、内面下端に溝を彫っている、その溝に底板を押し込んだもの 上端面には目釘孔がなく、上には統かない |
| 大溝2 北部上層<br>127図7          | 椀<br>一文字腰形   | 最大径(12.6)                      | 内外面黒漆  | 大溝2 北部上層<br>128図10<br>図版21 | 折敷           | 長さ10.5<br>幅17.8<br>厚さ0.3  | 角を丸く整形している 木釘孔が各辺中央にあるので、縁があったらう                                    |
| 土坑3 下層<br>127図8            | 椀            | 口径(13.1)<br>高台径(6.2)<br>器高8.0  | 内外面黒漆塗りで、図上接合 高台内に赤漆で桐文が描かれる                                     | 大溝2<br>129図1<br>図版22       | 折敷の脚         | 長さ2.7<br>幅6.9<br>厚さ0.6    | 上端面の欠損部に膠状のものが付着しているので、膳の脚と考えた 内外面黒漆塗りで、反っている面には赤漆を上塗り              |
| 大溝2 中層<br>127図9            | 椀蓋           | つまみ径(4.2)<br>裾径(8.0)<br>器高2.0  | 外面黒漆、内面赤漆で、外面に金彩で丸に柘葉文を向かい合わせに描いた家紋文                             | 大溝2<br>129図2<br>図版22       | 不明木製品        | 長さ7.7<br>幅3.2<br>厚さ0.7    | 全面に顔料が塗布されている部材で、装飾か 穿孔部には釘の痕跡がない 漆は褪色した赤か                          |
| 土坑41<br>127図10             | 椀蓋           | つまみ径(4.2)<br>裾径(7.8)<br>器高1.2  | 内外面黒漆塗りで、図上接合 高台内に赤漆で桐文が描かれる                                     | 大溝2<br>129図3<br>図版22       | 曲げ物固定具       | 長さ7.7<br>幅2.8<br>厚さ1.0    | 下端に木釘孔らしいものあり 底板と接合したものか  |
| 所属不明<br>127図11             | 蓋<br>平形      | つまみ径(4.2)<br>裾径(8.9)<br>器高1.5  | 外面黒漆、内面赤漆で、外面に金彩で丸に四つ葉文を描く家紋文 4割残存 歪大きい                          | 大溝2<br>129図4<br>図版22       | 側板           | 長さ10.6<br>幅17.2<br>厚さ0.7  | 外面茶漆、内面赤漆 木釘孔が左右の下角から上がったところと、上辺の中央の3箇所ある                           |
| 土坑4<br>127図12              | 椀蓋<br>平形     | つまみ径(5.1)<br>裾径9.2<br>器高1.8    | 内外面赤漆で、下地塗りなし 口縁部が欠損している 外面天井部に「八」と黒漆書き                          | 土坑41<br>129図5<br>図版22      | 側板           | 長さ4.6<br>幅8.5<br>厚さ0.2    | 逆台形の上の角を取ってないので、完形木釘孔がなく溝に挿入するものか                                   |
| 土坑23<br>127図13             | 椀蓋<br>平形     | つまみ径(4.9)<br>裾径(10.0)<br>器高1.3 | 外面黒漆、内面赤漆で、外面に金彩で丸に柘葉文を向かい合わせに描いた家紋文                             | 大溝2<br>129図6<br>図版22       | 側板           | 長さ5.2<br>幅14.5<br>厚さ0.2   | 逆台形の上の角を取ったもので、完形木釘孔が左右の下角から上がったところと、上辺の中央の3箇所ある                    |
| 大溝2 中層<br>127図14           | 椀蓋<br>一文字腰形  | 最大径(10.5)                      | 内外面黒漆  | 大溝2<br>129図7<br>図版22       | 曲げ物底板        | 長軸11.5<br>短軸10.8<br>厚さ1.1 | 柄の先端を留める部材を固定する木釘孔がある 側面には段があり、横板を固定する木釘孔がある                        |
| 土坑19<br>127図15             | 椀蓋<br>腰丸形    | つまみ径(4.4)<br>裾径(10.4)<br>器高3.1 | 内外面赤漆  | 大溝2 北部中層<br>129図8<br>図版22  | 曲げ物底板        | 長軸11.5<br>短軸10.1<br>厚さ0.7 | 柄の先端を留める部材を固定する木釘孔が2つある 側面に段がなく、横板を固定する木釘孔もない                       |
| 大溝2 中層<br>127図16<br>図版21   | 蓋<br>平形      | つまみ径4.1<br>裾径11.1<br>器高2.8     | 内外面茶漆9割残存 歪なし  | 大溝2<br>129図9<br>図版22       | 不明木製品        | 長さ8.3<br>幅12.8<br>厚さ1.1   | 板材の側縁は劣化していない 孔は大きく、釘孔ではない 下駄の作り方にも似る                               |
| 土坑18<br>127図17<br>図版21     | 椀<br>一文字腰形   | つまみ径(5.4)<br>裾径(11.4)<br>器高3.5 | 内外面黒漆を下塗りした上に赤漆 無文   | 土坑15<br>129図10<br>図版22     | 膳<br>宗和膳     | 長さ18.7                    | 全面黒漆塗りの上に口唇部以外赤漆上塗りのため、口唇部のみ黒漆が残る                                   |
| 大溝1<br>127図18              | 椀蓋<br>腰丸形    | つまみ径(6.2)<br>裾径12.5<br>器高2.8   | 内外面黒漆を下塗りした上に赤漆 外底部の赤漆は剥落している 5割残存                               | 大溝2<br>129図11<br>図版22      | 箸            | 長さ(約16.5)<br>径0.4         | 歪みが大きく正確な長さは不明 赤漆塗りで上端が太い   |
| 大溝2<br>127図19<br>図版21      | 膳            | 長さ6.7<br>幅18.3<br>厚さ0.6        | 表面黒漆で、裏面赤漆で側端部に受け部の縁がつく 膠のような接着材らしいもので付けているか                     | 大溝2<br>129図12<br>図版22      | 箸            | 長さ(約11.6)<br>径0.4         | 歪みが大きく正確な長さは不明 赤漆塗りで太さは一貫している                                       |
| 大溝2 北部中層<br>127図20<br>図版21 | 重箱蓋          | 長さ4.8<br>幅18.0<br>厚さ1.2        | 表面赤漆で、茶漆で植物文を描き、内面赤漆 側端部から7mm離れた位置に受け部の縁がつく 膠のような接着材らしいもので付けているか | 土坑3<br>129図13<br>図版22      | 筭か           | 長さ15.3<br>幅1.6<br>最大厚1.1  | 基部は断面略扁平六角形で、先端は尖らせている  |
| 土坑41<br>127図21             | 曲げ物          | 器高9.5<br>長軸13.1<br>短軸11.9      | 底板は付いており、取り上げ後留め具が崩壊した 復元して図化                                    | 大溝2<br>129図14<br>図版        | 栓            | 径2.4<br>器高1.5             | 平面円形で、板材の周囲を削って作っている  |
| 大溝2<br>128図1<br>図版21       | 膳            | 長さ22.5<br>幅22.7<br>厚さ1.6       | 表裏透明漆で、上面の端部は木釘あり、縁がつく 表面にはよろけ縞文の溝が入る。裏面に、木釘孔がなく、脚を固定する溝もない      | 大溝2<br>129図15<br>図版        | 栓            | 長さ2.0<br>幅2.0<br>器高11.0   | 平面8角形で、板材の周囲を削って作っている 下端に面取り残る                                      |
| 大溝2<br>128図2<br>図版21       | 膳            | 長さ21.2<br>幅1.5<br>厚さ0.6        | 内面のみ透明漆で、端部は 内面側に刻みが入っており、湾曲できるようにしている                           | 大溝2<br>129図16<br>図版22      | 蓋か           | 長さ8.0<br>幅11.8<br>厚さ0.8   | 全面は透明漆塗りで、1面に長方形の接合痕があり、そこに木釘孔が2つづつある                               |
| 大溝2<br>128図3<br>図版21       | 膳            | 長さ20.1<br>幅1.5<br>厚さ0.6        | 内面のみ透明漆で、端部は 内面側に刻みが入っており、湾曲できるようにしている                           | 土坑3<br>129図17<br>図版22      | 不明木製品        | 長さ9.7<br>幅17.9<br>厚さ2.0   | 側縁や端面に木釘孔がなく、裏面中央に釘が2つあることから、裏面側から固定しており、表面は平滑に整形している               |
| 大溝2 北部中層<br>128図4          | 膳脚<br>足打折敷の脚 | 長さ21.2<br>幅2.2<br>厚さ1.1        | 2脚 上端面に目釘孔あり   |                            |              |                           |   |



第130図 1次調査出土木製品実測図4 (4・5は1/2、他は1/3)



第131图 1次調査出土木製品実測図5 (1/6)



大溝 2 1・10・11・  
 12・15  
 大溝 2 北部上層 5・6  
 大溝 北部中層 2・13・14  
 大溝 1 上層 8  
 土坑 5 9  
 土坑 19 7  
 土坑 21 3・4

第132図 1次調査出土木製品実測図6 (1/6)



表64 1次調査出土木製品観察表2

| 遺構名                       | 器種         | 法量(cm)                         | 特徴   | 遺構名                       | 器種               | 法量(cm)                         | 特徴   |
|---------------------------|------------|--------------------------------|--|---------------------------|------------------|--------------------------------|--|
| 挿図番号                      | 形状         | ( )は復元値                        | 特 徴  | 挿図番号                      | 形状               | ( )は復元値                        | 特 徴  |
| 図版番号                      | 通称名        |                                |  | 挿図番号                      | 通称名              |                                |  |
| 土坑41<br>130図1<br>図版22     | 鞘          | 長さ33.3<br>幅3.5<br>厚さ1.2        | 板を合わせたものでなく、上から穿孔したもので、上端に墨書があり、「九」に見えるが、偏側が消えているだろう。止め釘はない。方形の削り込みは金具を装着するためか。            | 大溝2<br>132図1<br>図版23      | 下駄<br>連歯下駄       | 長さ22.8<br>幅8.7<br>厚さ4.4        | 歯は摩滅が少なく、焼けて表面は炭化している。   |
| 大溝2<br>130図2<br>図版22      | 破魔矢の矢羽     | 長さ29.8<br>幅4.7<br>厚さ0.4        | 板材を加工したもので、表裏鷹羽文様に墨塗りされている。先端は矢柄に挿し込む形状。   | 大溝2北部中層<br>132図2<br>図版23  | 下駄<br>連歯下駄       | 長さ22.0<br>幅11.1<br>厚さ2.9       | 後歯は左側が摩滅するので、右足用。完形。後歯が摩滅で極端に低くなっている。                            |
| 土坑21<br>130図3<br>図版22     | 箱蓋         | 径(11.2)<br>器高1.5               | 表裏黒漆で下塗りしたうえに赤漆。菓子箱やお櫃の蓋か。   | 土坑21<br>132図3<br>図版23     | 下駄<br>連歯下駄       | 長さ23.6<br>幅8.8<br>厚さ3.8        | 前歯の一部が欠けており、そのために廃棄したものか。前歯は右が摩滅しているので左足用。ほぼ完形。後歯が摩滅で極端に低くなっている。 |
| 大溝2<br>130図4<br>図版22      | 不明板材       | 長さ2.6<br>幅3.1<br>厚さ0.4         | 細長い板材の1面に丸に「八木」、裏面に柄付きの鎌らしい焼印がある。130図5と同一焼印。   | 土坑21<br>132図4<br>図版23     | 下駄<br>連歯下駄       | 長さ22.8<br>幅9.0<br>厚さ3.4        | 壺孔が左に偏って見えるが、左側縁が欠損したため。歯はほとんど摩滅していない。台上面踵部に×印の上辺がつくものがある。       |
| 大溝2<br>130図5<br>図版22      | 不明板材       | 長さ2.7<br>幅3.5<br>厚さ0.5         | 細長い板材の1面に丸に「八木」、裏面に柄付きの鎌らしい焼印がある。130図4と同一焼印。   | 大溝2北部上層<br>132図5<br>図版23  | 下駄<br>連歯下駄       | 長さ22.2<br>幅9.0<br>厚さ2.6        | 前歯は右が摩滅しているので左足用。ほぼ完形。後歯が摩滅で極端に低くなっている。                          |
| 大土坑1<br>130図6<br>図版24     | 柱材         | 最大径13.0<br>器高17.6              | 柱の根元だけで、上端は欠損しているため、切断なのか折れたのかわからない。面取りで、断面六角形になる。   | 大溝2北部上層<br>132図6<br>図版23  | 下駄<br>ぼっくり       | 長さ22.1<br>幅8.7<br>厚さ3.4        | 前歯の後方中央に挟りを入れ、後歯の前方中央から横緒穴にかけて方形に削り込んでいる。前歯は左側の摩滅が大きいので右足用。      |
| 土坑36<br>130図7<br>図版24     | 柱材         | 最大径13.0<br>器高17.6              | 柱材で、上端は切断だろうが、工具痕はわからない。2面に木材表面の丸みを残し、残り2面は平坦に加工している。                                      | 土坑19<br>132図7<br>図版23     | 下駄<br>差歯<br>露卯下駄 | 長さ22.3<br>幅8.0<br>厚さ6.4        | 前壺横緒穴以外は木の節が脱落したものは摩滅していない。                                      |
| 土坑3<br>130図8              | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ23.8<br>台板最大幅9.4<br>台板最大厚0.8 | 欠損が大きく、左右どちら用かの判別はできない。中央部が割れたことが廃棄原因だろう。  | 大溝1上層<br>132図8<br>図版23    | 下駄<br>差歯         | 長さ22.7<br>幅8.0<br>厚さ3.9        | 前壺上面は方形、裏面は長方形に繰り込んでいる。臍がなく、固定用の窪みが横にある。変わったつくり。                 |
| ピット2<br>131図1             | 下駄<br>露卯下駄 | 長さ16.3<br>幅8.0<br>厚さ5.4        | 子供用。歯の臍孔は整った長方形。   | 土坑5<br>132図9<br>図版23      | 下駄<br>差歯         | 長さ23.9<br>幅9.0<br>厚さ3.3        | 台の劣化著しい。前壺横緒穴は大きい。   |
| 大溝2北部中層<br>131図2          | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ17.6<br>幅8.2<br>厚さ2.7        | 後歯は左側が摩滅するので、右足用。完形。後歯が摩滅で低くなっている。上面に丸に「善」の焼印あり。   | 大溝2<br>132図10<br>図版23     | 下駄<br>差歯<br>露卯下駄 | 長さ20.8<br>幅9.1<br>厚さ3.4        | 歯は挿し込みだが、臍がない。台は摩滅していない。   |
| 大溝2北部中層<br>131図3          | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ17.9<br>幅7.9<br>厚さ2.6        | 後歯は左側がやや摩滅し、台側面も右が張り出しているのに、左は直なので右足用。完形。後歯が摩滅してなくなっている。                                   | 大溝2<br>132図11             | 下駄<br>連歯下駄       | 長さ22.4<br>幅9.4<br>厚さ3.7        | 台の摩滅はほとんどなく、歯のわずかに摩滅し、前歯の一部欠けているのみ。なぜ廃棄したのかわからない。完形。             |
| 大溝2北部中層<br>131図4          | 下駄<br>連歯下駄 | 径(54.0)<br>厚さ1.0               | 前壺の周囲が窪んでおり、孔の右の窪みが大きく、後歯は右側が大きく摩滅するので左足用。完形。後歯が前歯よりやや摩滅している。                              | 大溝2<br>132図12<br>図版24     | 下駄<br>草履底        | 長さ16.6<br>幅5.3<br>厚さ1.2        | 裏は右側が摩滅するので、左足用。ほぼ完形。孔のほとんどに木釘が残る。                               |
| 大溝2北部上層<br>131図5          | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ18.2<br>幅7.8<br>厚さ1.9        | 後歯は左側が摩滅するので、右足用。ほぼ完形。歯の摩滅はほとんどないの、前歯が欠損したことで廃棄したのだろう。                                     | 大溝2北部中層<br>132図13<br>図版24 | 下駄<br>連歯下駄       | 長さ17.2<br>幅7.0<br>厚さ2.8        | 後歯は左側が摩滅するので、右足用。ほぼ完形。歯の摩滅はほとんどない。子供用。                           |
| 大溝2北部上層<br>131図6          | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ19.2<br>幅8.4<br>厚さ2.3        | 後歯は左側が摩滅するので、右足用。後歯が摩滅でほとんどなくなっている。  | 大溝2北部中層<br>132図14<br>図版24 | 下駄<br>連歯下駄       | 長さ16.3<br>幅6.9<br>厚さ1.7        | 前壺の周囲が窪んでおり、孔の左の窪みが大きく、後歯は左側が摩滅するので、右足用。後歯が摩滅で極端に低くなっている。        |
| 大溝2<br>131図7              | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ19.0<br>幅9.0<br>厚さ2.2        | 歯は摩滅が少なく、前歯は欠損箇所には鉄釘を錠状に打ち込んでいる。欠損後に再利用しようとしたものだが、台の表にも鉄釘が頭を出しているの、履くための再利用ではないのかもしれない。    | 大溝2<br>132図15<br>図版24     | 下駄<br>連歯下駄       | 長さ20.0<br>幅6.9<br>厚さ1.8        | 後歯は左側が摩滅するので、右足用。後歯が摩滅で低くなっている。踵部に焼印が残っており、○に善だろう。               |
| 大溝2北部中層<br>131図8          | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ22.0<br>幅8.6<br>厚さ2.5        | 前壺の周囲が窪んでいるが、左右の窪みの大きさに差がなく、歯の摩滅も左右で差がないので、左右どちらにも使ったものか。完形。歯の接地部に砂が噛んでいる。後歯が前歯よりやや摩滅している。 | 大溝2北部上層<br>133図1          | 柄杓の柄             | 長さ61.8<br>幅2.9<br>厚さ1.8        | 小型の柄杓。   |
| 大溝2北部上層<br>131図9<br>図版    | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ21.2<br>幅8.3<br>厚さ2.7        | 横緒穴は右が下がっている。後歯は左側が摩滅するので、右足用。後歯が前歯よりやや摩滅している。   | 大溝2<br>133図2<br>図版24      | 柄杓の柄             | 長さ66.2<br>幅2.6<br>厚さ1.7        | 基部に紐通し孔がある。  |
| 大溝2北部上層<br>131図10<br>図版23 | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ20.9<br>幅8.7<br>厚さ2.9        | 前壺横緒穴以外は木の節が脱落したもので、後歯は右側が摩滅するので、左足用。ほぼ完形。歯の摩滅はほとんどないの、後歯が欠損したことで廃棄したのだろう。                 | 大溝2北部<br>133図3            | 部材               | 長さ62.4<br>幅7.1<br>厚さ4.0        | 1面は丁寧に平坦にされ、他の面は材の丸みを残す。両端の臍は中央ではなく平坦面側と同一面にある。                  |
| 土坑21<br>131図11<br>図版23    | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ22.4<br>幅9.3<br>厚さ5.0        | 前壺横緒穴以外は木の節が脱落したもので、後歯は左側が摩滅するので、右足用。完形。歯の接地部に砂が噛んでいる。                                     | 大溝2<br>133図4<br>図版24      | 部材               | 長さ90.5<br>幅7.0<br>厚さ6.4        | 欠損側の端部も削り込みが見られるので、臍部分であったことがわかる。                                |
| 大溝2<br>131図12<br>図版23     | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ22.9<br>幅7.7<br>厚さ2.2        | 前壺の周囲が窪んでおり、孔の右の窪みが大きく、後歯は右側が摩滅するので、左足用。ほぼ完形。後歯が摩滅で低くなっている。台が薄い。                           | 大溝2北部<br>133図5<br>図版24    | 部材               | 長さ114.3<br>幅8.7<br>厚さ7.6       | 全面に臍孔がある。貫通しない窪みが見られるが対面側が欠損しているため意図的なものか不明。                     |
| 大溝2北部中層<br>131図13<br>図版23 | 草履下駄<br>無歯 | 長さ21.1<br>幅6.4<br>厚さ1.6        | 歯の磨り減りはほとんどない。完形。孔が大きいのが特徴的。   | 大溝2<br>133図6<br>図版24      | 柄杓               | 長さ88.5<br>曲げ物部長軸14.4<br>柄厚さ1.8 | 曲げ物部は平面楕円形だが、乾燥によるものだけではないだろう。                                   |
| 土坑21<br>131図14<br>図版23    | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ19.0<br>幅8.8<br>厚さ2.3        | 前壺の周囲が窪んでおり、孔の右の窪みが大きく、後歯は右側が摩滅するので、左足用。ほぼ完形。後歯が摩滅で極端に低くなっている。                             | 土坑21<br>図版24-1            | 紐                | 長さ約8.0<br>太さ0.5                | 2本の繕り紐で玉留めして輪を作る紐を構成する織維は繕りがない。棕櫚製か。                             |
| 大溝2<br>131図15<br>図版23     | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ17.7<br>幅7.8<br>厚さ2.1        | 前後ともに歯は右が摩滅しているの、左足用。ほぼ完形。後歯が摩滅で極端に低くなっている。  | 大溝2北部中層<br>図版24-2         | 紐                | 長さ約23.0<br>太さ0.65              | 材質は不明だが、織維でなく、幅約5mmの帯状の紐を繕った物で弾力性がない。樹皮製か。                       |
| 大溝2<br>131図16<br>図版23     | 下駄<br>ぼっくり | 長さ18.5<br>幅7.1<br>厚さ2.4        | 丁寧に削り込みが波打っている。横緒穴がなく、未製品なのか。ほぼ完形。   | 大溝2北部<br>図版24-3           | 紐                | 長さ約30.0<br>太さ0.7               | 2本の繕り紐で漁師結びで輪を作る紐を構成する織維は繕りがない。棕櫚製か。                             |
| 土坑21<br>131図17<br>図版23    | 草履下駄<br>無歯 | 長さ22.4<br>幅7.0<br>厚さ2.0        | 削ったばかりのような痕跡で、未使用か。完形。   | 大溝2北部中層<br>図版24-4         | 紐                | 長さ約45<br>太さ0.9                 | 2本の繕り紐で漁師結びの結び目から別の紐が延びる。棕櫚製か。                                   |
| 大溝2<br>131図18<br>図版23     | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ22.2<br>幅10.3<br>厚さ1.8       | 後歯は左側が摩滅するので、右足用。完形。後歯が摩滅で極端に低くなっている。前歯の中央後部がM字形に挟られている。台は薄い。                              | 大溝2北部中層<br>紐<br>図版24-5    | 紐                | 長さ約50.5<br>太さ1.2               | 3本の組み紐で、結び目を作る紐を構成する織維は繕りがない。棕櫚製か。                               |
| 大溝2<br>131図19<br>図版23     | 下駄<br>連歯下駄 | 長さ20.8<br>幅9.0<br>厚さ2.1        | 前壺の周囲が窪んでおり、孔の左の窪みが大きく、後歯は左側が摩滅するので、右足用。完形。後歯が摩滅で極端に低くなっている。                               | 大溝2<br>図版24-6             | 紐                | 長さ約75<br>太さ1.2                 | 3本の組み紐で、結び目を作る紐を構成する織維は繕りがない。棕櫚製か。                               |

## 1 次調査のまとめ

1 次調査は矢加部町屋敷遺跡の最初の調査であり、試行錯誤した段階の調査分を最後に報告することになったため、調査担当者が同じでありながら遺構面や埋甕遺構の調査手法が一環していないような印象を与えたのは否めない。

本書が矢加部町屋敷遺跡での最終報告になるため、ここでの記述は最低限に留め、次の 1 から 5 次調査全体のまとめの中で調査区内の全体像を把握したい。

1 次調査で報告した遺構は、土坑 37 基、廃棄土坑 2 基、大土坑 3 基、溝 7 条、大溝 4 条、埋甕 8 基、井戸 1 基であったが、埋甕など時期を特定しにくいものについては近代のものも含んでいる。

大正時代包含層である黒色土層の下に明治後半代から大正時代の整地面があり、その下にさらに黄灰褐色粘土層の整地層と黄緑灰色粘土の整地層の 2 枚の整地層があり、そこまでが近代の遺構面と考えた。

江戸時代の遺構面はその下から検出され、薄い数枚の整地面があったものと思われるが、明瞭に捉えることのできたのは 2 面のみであった。上面の整地面は基盤層と同じ粘土を使用しているため、整地面と基盤層の判別が難しく、上層の遺構の壁面に別の遺構が見えて初めて検出できることが多かった。県道側では近世の整地層の下に大溝が掘り込まれており、遺物はほとんど出土しないことと、堆積層から人為的に埋められた可能性が高い。これは久留米柳川往還道の東側溝と考えられ、調査範囲内に確認された側溝は直線的に走る部分のみであることがわかった。

1 次調査範囲内ではこのほか近代のものだが、土製鋳型が出土しており、近世に属するつばもこの鋳物師と関連があると思われる。